
uCosminexus Message Service Server
Light for ebXML
サーバ構築・運用ガイド

解説・手引・文法・操作書

3020-3-N34-30

マニュアルの購入方法

このマニュアル，および関連するマニュアルをご購入の際は，
巻末の「ソフトウェアマニュアルのサービス ご案内」をご参
照ください。

対象製品

P-2441-8N14 uCosminexus Message Service Server Light for ebXML 01-03 (適用 OS : Windows 2000 Server , Windows Server 2003)

P-9W41-8N14 uCosminexus Message Service Server Light for ebXML 01-03 (適用 OS : Red Hat Enterprise Linux AS 4 (AMD64 & Intel EM64T), Red Hat Enterprise Linux ES 4 (AMD64 & Intel EM64T))

輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替および外国貿易法ならびに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、ご不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

商標類

Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標または商標です。

Java 及びすべての Java 関連の商標及びロゴは、米国及びその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。

JDK は、米国 Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

JEDICOS は、(財)流通システム開発センターの登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。

Microsoft は、米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の登録商標です。

Red Hat は、米国およびその他の国で Red Hat, Inc. の登録商標若しくは商標です。

SOAP (Simple Object Access Protocol) は、分散ネットワーク環境において XML ベースの情報を交換するための通信プロトコルの名称です。

UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Windows は、米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の登録商標です。

Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標です。

発行

2006年7月(第1版) 3020-3-N34

2008年11月(第4版) 3020-3-N34-30

著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2006, 2008, Hitachi, Ltd.

変更内容

変更内容 (3020-3-N34-30) uCosminexus Message Service Server Light for ebXML 01-03

| 追加・変更内容 | 変更箇所 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 次の適用 OS を追加しました。 <ul style="list-style-type: none"> • Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise Edition • Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard Edition | - |
| JP1/AJS2 を使って CMS Light サーバのコマンド実行を自動化する場合の説明を追加しました。 | 2.1.2 , 4.4 |
| Windows の場合に使用できるドキュメント形式に , SecondGenEDI を追加しました。 | 3.2.4(1) , 7.3 , 9.3 |
| ドキュメント形式 SecondGenEDI に対応する次のドキュメント種別を追加しました。 <ul style="list-style-type: none"> • Price Tag • Fresh Order • Fresh Shipment Notification • Fresh Receiving Notification • Fresh Return Notification • Picking List | 3.2.4(1) |
| Windows の場合に , データベース接続をするときに使用するドライバとして HiRDB Type4 JDBC Driver を追加しました。 | 4.3.1 , 4.3.2 , 4.4 , 4.5.3(2) , 4.5.4 , 4.5.5(1) , 4.5.8 , 4.5.8(1) , 4.5.8(2) , 4.5.9(2) , 4.5.10 , 8.2.9(1) , 8.2.9(2) |
| ドキュメント形式 , ドキュメント種別を指定した送信処理をサポートしました。 これに伴い , 次のメッセージを変更しました。 KDSR10006-E , KDSR10010-E | 10.3 |

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

変更内容 (3020-3-N34-20) uCosminexus Message Service Server Light for ebXML 01-01

| 追加・変更内容 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 適用 OS として Linux を追加しました。 |
| UNIX の場合に使用できるドキュメント形式に , SecondGenEDI を追加しました。 |
| UNIX の場合のサーバ共通定義ファイルのコマンド定義に , データベース接続に使用する JDBC ドライバのクラス名を指定するキー (ebxml.mssl.cmd.db.jdbc.driver) を追加しました。 |
| 環境変数の設定方法を追加しました。 |
| DB Connector のプロパティ定義に , エンコード文字形態を追加しました。 |
| 次のメッセージの , UNIX の場合の対処方法についての説明を追加しました。 KDSR30006-E |

変更内容 (3020-3-N34-10)uCosminexus Message Service Server Light for ebXML 01-01

追加・変更内容

関連ソフトウェアを追加しました。

JP1 イベント連携機能を追加しました。

HSRSRemoveMessage コマンドに、-force オプションを追加しました。

メッセージを追加しました。

KDSR00011-E, KDSR00012-E, KDSR00014-E, KDSR00015-E, KDSR00016-E, KDSR01002-W,
KDSR10023-E, KDSR30048-E

メッセージを変更しました。

KDSR30038-E, KDSR32028-I

はじめに

このマニュアルは、プログラムプロダクト P-2441-8N14 uCosminexus Message Service Server Light for ebXML、P-9W41-8N14 uCosminexus Message Service Server Light for ebXML の概要、および uCosminexus Message Service Server Light for ebXML を使用するシステムの構築・運用方法を説明したものです。

対象読者

uCosminexus Message Service Server Light for ebXML を使用するシステムを構築・運用するシステム管理者を対象としています。

なお、次に示す知識をお持ちであることを前提とします。

- Windows、または UNIX でのシステム管理に関する知識
- J2EE および uCosminexus Application Server に関する知識
- HiRDB を使用したデータベースの構築・運用に関する知識
- JEDICOS-XML が定める XML-EDI メッセージおよびメッセージ交換手順に関する知識
- XML に関する基本的な知識

JP1 と連携させる場合は、次の知識もお持ちであることを前提とします。

- JP1 を使用したシステムの運用・管理に関する知識

マニュアルの構成

このマニュアルは、次に示す章と付録から構成されています。

第 1 章 概要

C-S 型メッセージ交換手順に準拠した電子商取引の概要、および uCosminexus Message Service Server Light for ebXML の概要について説明しています。

第 2 章 システム構成

uCosminexus Message Service Server Light for ebXML の前提ソフトウェア、システムに必要なサーバ、およびシステム構成例について説明しています。

第 3 章 システム導入の準備

uCosminexus Message Service Server Light for ebXML のシステムを導入する前に検討、準備しておくことについて説明しています。

第 4 章 システムの構築

uCosminexus Message Service Server Light for ebXML のシステムを構築する手順について説明しています。

第 5 章 システムの運用

ビジネスメッセージを送信するために必要なユーザーの操作、データベースに格納されたビジネスメッセージの保守、および取引先であるクライアント企業の情報の管理方法について説明しています。

はじめに

第 6 章 障害対策

障害が発生したときのユーザーの手順や対処方法，およびログファイルの詳細について説明しています。

第 7 章 状況照会 GUI

状況照会 GUI の使用方法について，リファレンス形式で説明しています。

第 8 章 定義ファイル

uCosminexus Message Service Server Light for ebXML で使用する定義ファイルについて，リファレンス形式で説明しています。

第 9 章 コマンド

uCosminexus Message Service Server Light for ebXML で使用するコマンドについて，リファレンス形式で説明しています。

第 10 章 メッセージ

uCosminexus Message Service Server Light for ebXML が出力するメッセージについて説明しています。

付録 A ビジネスメッセージのファイル出力形式

ビジネスメッセージ受信時に uCosminexus Message Service Server Light for ebXML が出力する，ドキュメントファイルの出力形式について説明しています。

付録 B CSV ファイルのダウンロード形式

状況照会 GUI で出力する CSV ファイルのダウンロード形式について説明しています。

付録 C JP1 イベント連携

JP1 と uCosminexus Message Service Server Light for ebXML のシステムを連携させる場合に，uCosminexus Message Service Server Light for ebXML が発行する JP1 イベントについて説明しています。

付録 D 用語解説

このマニュアルで使用している用語の意味について説明しています。

関連マニュアル

関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

Cosminexus Version 6 を使用する場合にお読みください。

- Hitachi Web Server (3000-3-350)
- TPBroker ユーザーズガイド (3000-3-775)
- Cosminexus Version 6 システム構築ガイド (UNIX(R) 用)(3000-3-985)
- Cosminexus Version 6 システム運用ガイド (UNIX(R) 用)(3000-3-986)
- Cosminexus Version 6 リファレンス (UNIX(R) 用)(3000-3-987)
- Cosminexus Version 6 解説 (3020-3-E51)
- Cosminexus Version 6 システム設計ガイド (3020-3-E52)
- Cosminexus Version 6 システム構築ガイド (Windows(R) 用)(3020-3-E53)

- Cosminexus Version 6 システム運用ガイド (Windows(R) 用) (3020-3-E54)
- Cosminexus Version 6 アプリケーション開発ガイド (3020-3-E55)
- Cosminexus Version 6 リファレンス (Windows(R) 用) (3020-3-E56)
- Cosminexus Version 6 メッセージ (3020-3-E57)
- Cosminexus Version 6 運用管理操作ガイド (3020-3-E58)
- Cosminexus Version 6 アプリケーション設定操作ガイド (3020-3-E59)
- Cosminexus SOAP アプリケーション開発ガイド (3020-3-E32)
- Cosminexus Version 6 簡易構築・運用ガイド (3020-3-J31)

Cosminexus Version 7 を使用する場合にお読みください。

- Cosminexus 概説 (3020-3-M01)
- Cosminexus 機能解説 (3020-3-M03)
- Cosminexus システム設計ガイド (3020-3-M04)
- Cosminexus 簡易構築・運用ガイド (3020-3-M05)
- Cosminexus システム構築ガイド (3020-3-M06)
- Cosminexus システム運用ガイド (3020-3-M07)
- Cosminexus アプリケーション設定操作ガイド (3020-3-M08)
- Cosminexus 運用管理操作ガイド (3020-3-M09)
- Cosminexus リファレンス コマンド編 (3020-3-M10)
- Cosminexus リファレンス 定義編 (3020-3-M11)
- Cosminexus メッセージ 1 KDJE 編 (3020-3-M12)
- Cosminexus メッセージ 2 KDSS / KEOS / KFCB 編 (3020-3-M13)
- Cosminexus メッセージ 3 KFCT / KFDB / KFDJ 編 (3020-3-M14)
- Hitachi Web Server (3020-3-M15)
- TPBroker ユーザーズガイド (3020-3-M16)
- Cosminexus メッセージ 1 KAWS / KDAL / KDJE 編 (3020-3-M20)
- Cosminexus メッセージ 2 KEOS / KEUC / KFCB 編 (3020-3-M21)
- Cosminexus メッセージ 3 KFCT / KFDB / KFDJ 編 (3020-3-M22)
- Cosminexus アプリケーション開発ガイド (3020-3-M41)
- Cosminexus リファレンス API 編 (3020-3-M42)
- Cosminexus SOAP アプリケーション開発ガイド (3020-3-M47)

スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 7 を使用する場合にお読みください。

- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 7 解説 (UNIX(R) 用) (3000-6-271)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 7 システム導入・設計ガイド (UNIX(R) 用) (3000-6-272)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 7 システム定義 (UNIX(R) 用) (3000-6-273)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 7 システム運用ガイド (UNIX(R) 用)

はじめに

(3000-6-274)

- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 7 コマンドリファレンス (UNIX(R) 用)
(3000-6-275)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 7 UAP 開発ガイド (UNIX(R)/Windows(R) 用) (3000-6-276)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 7 SQL リファレンス (UNIX(R)/Windows(R) 用) (3000-6-277)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 7 メッセージ (UNIX(R)/Windows(R) 用)
(3000-6-278)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 7 解説 (Windows(R) 用) (3020-6-271)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 7 システム導入・設計ガイド (Windows(R) 用) (3020-6-272)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 7 システム定義 (Windows(R) 用)
(3020-6-273)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 7 システム運用ガイド (Windows(R) 用)
(3020-6-274)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 7 コマンドリファレンス (Windows(R) 用)
(3020-6-275)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 7 UAP 開発ガイド (Windows(R) 用)
(3020-6-276)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 7 SQL リファレンス (Windows(R) 用)
(3020-6-277)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 7 メッセージ (Windows(R) 用)
(3020-6-278)

スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 を使用する場合にお読みください。

- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 解説 (UNIX(R) 用) (3000-6-351)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 システム導入・設計ガイド (UNIX(R) 用) (3000-6-352)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 システム定義 (UNIX(R) 用)
(3000-6-353)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 システム運用ガイド (UNIX(R) 用)
(3000-6-354)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 コマンドリファレンス (UNIX(R) 用)
(3000-6-355)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 解説 (Windows(R) 用) (3020-6-351)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 システム導入・設計ガイド (Windows(R) 用) (3020-6-352)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 システム定義 (Windows(R) 用)

- (3020-6-353)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 システム運用ガイド (Windows(R) 用)
(3020-6-354)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 コマンドリファレンス (Windows(R) 用)
(3020-6-355)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 UAP 開発ガイド (3020-6-356)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 SQL リファレンス (3020-6-357)
- スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 メッセージ (3020-6-358)

運用管理ソフトウェア JP1 を使用する場合にお読みください。

- JP1 Version 7i JP1/Base (3020-3-F04)
- JP1 Version 7i JP1/Automatic Job Management System 2 解説 (3020-3-F06)
- JP1 Version 7i JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド (3020-3-F07)
- JP1 Version 7i JP1/Automatic Job Management System 2 セットアップガイド (3020-3-F08)
- JP1 Version 7i JP1/Automatic Job Management System 2 操作ガイド (3020-3-F09)
- JP1 Version 7i JP1/Automatic Job Management System 2 コマンドリファレンス
(3020-3-F10)
- JP1 Version 7i JP1/Automatic Job Management System 2 関数 (3020-3-F11)
- JP1 Version 7i JP1/Automatic Job Management System 2 連携ガイド (3020-3-F12)
- JP1 Version 7i JP1/Automatic Job Management System 2 メッセージ (3020-3-F13)
- JP1 Version 8 JP1/Base 運用ガイド (3020-3-K06)
- JP1 Version 8 JP1/Base メッセージ (3020-3-K07)
- JP1 Version 8 JP1/Base 機能拡張 (3020-3-K08)
- JP1 Version 8 JP1/Automatic Job Management System 2 解説 (3020-3-K21)
- JP1 Version 8 JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド (3020-3-K22)
- JP1 Version 8 JP1/Automatic Job Management System 2 セットアップガイド (3020-3-K23)
- JP1 Version 8 JP1/Automatic Job Management System 2 操作ガイド (3020-3-K24)
- JP1 Version 8 JP1/Automatic Job Management System 2 コマンドリファレンス
(3020-3-K25)
- JP1 Version 8 JP1/Automatic Job Management System 2 連携ガイド (3020-3-K27)
- JP1 Version 8 JP1/Automatic Job Management System 2 メッセージ (3020-3-K28)

なお、このマニュアルでは、次のマニュアルについて、対象 OS およびバージョン番号を省略して表記しています。マニュアルの正式名称とこのマニュアルでの表記を次の表に示します。

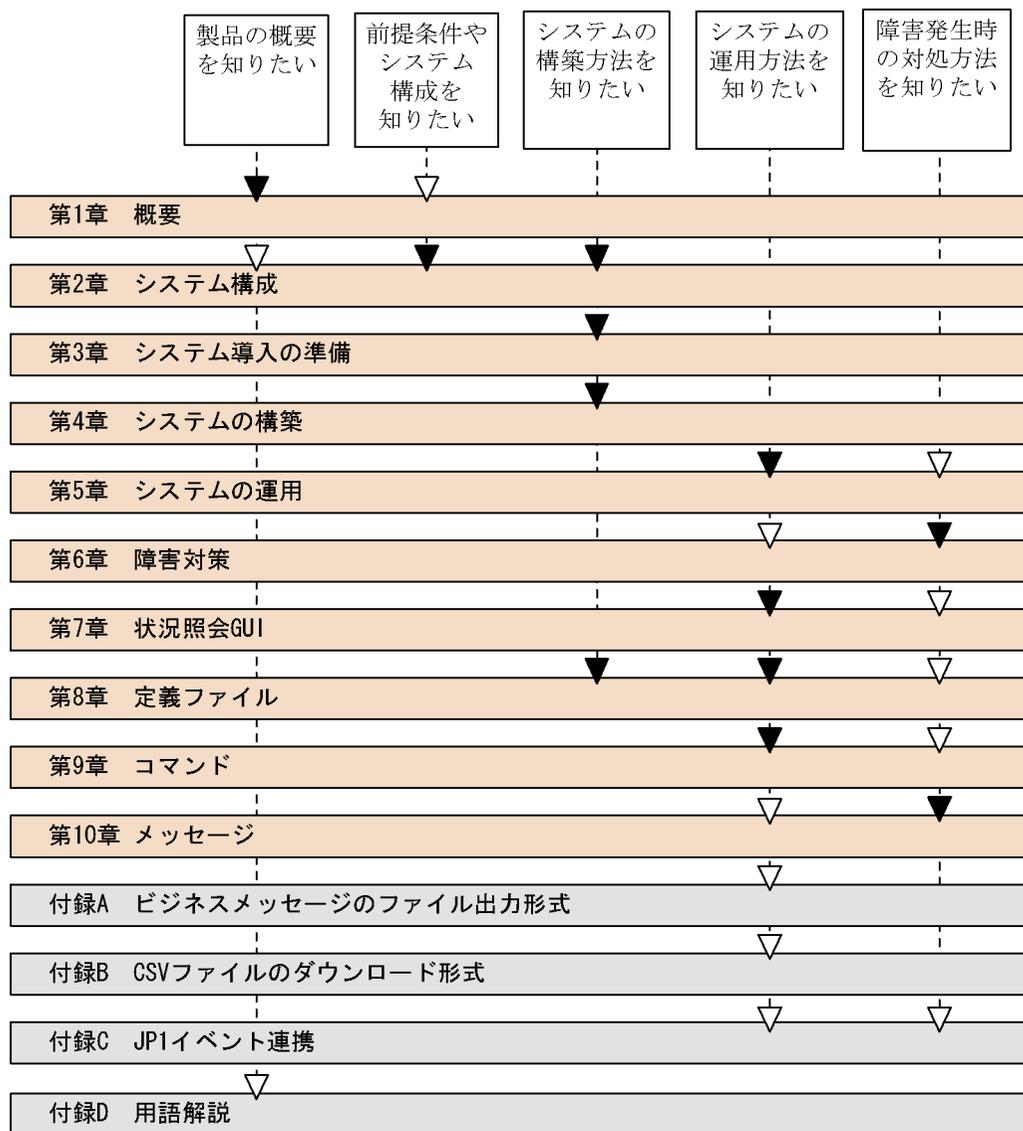
| このマニュアルでの表記 | 正式名称 |
|----------------------------|--------------------------------------|
| Cosminexus アプリケーション設定操作ガイド | Cosminexus アプリケーション設定操作ガイド |
| | Cosminexus Version 6 アプリケーション設定操作ガイド |
| Cosminexus システム運用ガイド | Cosminexus システム運用ガイド |

| このマニュアルでの表記 | 正式名称 |
|-------------------------|-----------------------------------------------------------------|
| | Cosminexus Version 6 システム運用ガイド (UNIX(R)用) |
| | Cosminexus Version 6 システム運用ガイド (Windows(R)用) |
| Cosminexus システム構築ガイド | Cosminexus システム構築ガイド |
| | Cosminexus Version 6 システム構築ガイド (UNIX(R)用) |
| | Cosminexus Version 6 システム構築ガイド (Windows(R)用) |
| Cosminexus システム設計ガイド | Cosminexus システム設計ガイド |
| | Cosminexus Version 6 システム設計ガイド |
| Cosminexus メッセージ | Cosminexus メッセージ 1 KAWS / KDAL / KDJE 編 |
| | Cosminexus メッセージ 1 KDJE 編 |
| | Cosminexus メッセージ 2 KDSS / KEOS / KFCB 編 |
| | Cosminexus メッセージ 2 KEOS / KEUC / KFCB 編 |
| | Cosminexus メッセージ 3 KFCT / KFDB / KFDJ 編 |
| | Cosminexus Version 6 メッセージ |
| Cosminexus リファレンス コマンド編 | Cosminexus リファレンス コマンド編 |
| | Cosminexus Version 6 リファレンス (UNIX(R)用) |
| | Cosminexus Version 6 リファレンス (Windows(R)用) |
| Cosminexus リファレンス 定義編 | Cosminexus リファレンス 定義編 |
| | Cosminexus Version 6 リファレンス (UNIX(R)用) |
| | Cosminexus Version 6 リファレンス (Windows(R)用) |
| HiRDB UAP 開発ガイド | スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 UAP 開発ガイド |
| | スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 7 UAP 開発ガイド (UNIX(R)/Windows(R)用) |
| | スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 7 UAP 開発ガイド (Windows(R)用) |
| HiRDB コマンドリファレンス | スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 コマンドリファレンス (UNIX(R)用) |
| | スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 コマンドリファレンス (Windows(R)用) |
| | スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 7 コマンドリファレンス (UNIX(R)用) |
| | スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 7 コマンドリファレンス (Windows(R)用) |
| HiRDB システム運用ガイド | スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 システム運用ガイド (UNIX(R)用) |

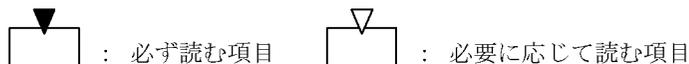
| このマニュアルでの表記 | 正式名称 |
|--------------------|--------------------------------------------------------------|
| | スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 システム運用ガイド (Windows(R) 用) |
| | スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 7 システム運用ガイド (UNIX(R) 用) |
| | スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 7 システム運用ガイド (Windows(R) 用) |
| HiRDB システム導入・設計ガイド | スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 システム導入・設計ガイド (UNIX(R) 用) |
| | スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 システム導入・設計ガイド (Windows(R) 用) |
| | スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 7 システム導入・設計ガイド (UNIX(R) 用) |
| | スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 7 システム導入・設計ガイド (Windows(R) 用) |
| HiRDB メッセージ | スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 8 メッセージ |
| | スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 7 メッセージ (UNIX(R)/Windows(R) 用) |
| | スケーラブルデータベースサーバ HiRDB Version 7 メッセージ (Windows(R) 用) |

読書手順

このマニュアルは、利用目的に合わせて章を選択して読めます。使用目的別に、次の流れに従ってお読みいただくことをお勧めします。



(凡例)



このマニュアルでの表記

このマニュアルでは、製品名称を省略して表記しています。製品の正式名称と、このマニュアルでの表記を次に示します。

| このマニュアルでの表記 | | 製品の正式名称 |
|--------------------------------|-----------------------|---------------------------------------------------------------|
| CMS Light サーバ | | uCosminexus Message Service Server Light for ebXML |
| HiRDB | HiRDB/Single Server | HiRDB/Single Server Version 7 |
| | | HiRDB/Single Server Version 8 |
| | HiRDB/Parallel Server | HiRDB/Parallel Server Version 7 |
| | | HiRDB/Parallel Server Version 8 |
| | HiRDB/Run Time | HiRDB/Run Time Version 7 |
| | | HiRDB/Run Time Version 8 |
| Internet Explorer | | Microsoft(R) Internet Explorer(R) |
| JP1/AJS2 | | JP1/Automatic Job Management System 2 - Manager |
| | | JP1/Automatic Job Management System 2 - Agent |
| | | JP1/Automatic Job Management System 2 - View |
| | | JP1/Automatic Job Management System 2 - Advanced Manager |
| | | JP1/Automatic Job Management System 2 - Light Edition |
| | | JP1/Automatic Job Management System 2 - Client Toolkit |
| uCosminexus Application Server | | uCosminexus Application Server Enterprise |
| | | uCosminexus Application Server Standard |
| | | uCosminexus Service Platform |
| UNIX | Linux | Red Hat Enterprise Linux AS 4 (AMD64 & Intel EM64T) |
| | | Red Hat Enterprise Linux ES 4 (AMD64 & Intel EM64T) |
| Windows | Windows 2000 Server | Microsoft(R) Windows(R) 2000 Advanced Server Operating System |
| | | Microsoft(R) Windows(R) 2000 Server Operating System |
| | Windows Server 2003 | Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition |
| | | Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition |
| | | Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard Edition |
| | | Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition |
| | | Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise Edition |
| | | |

はじめに

| このマニュアルでの表記 | 製品の正式名称 |
|-------------|-------------------------------------------------------------|
| | Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard Edition |

このマニュアルでは、Java 関連用語を省略して表記しています。Java 関連用語の正式名称と、このマニュアルでの表記を次に示します。

| このマニュアルでの表記 | Java 関連用語の正式名称 |
|-------------|--------------------------------------|
| EAR | Enterprise ARchive |
| J2EE | Java™ 2 Platform, Enterprise Edition |
| J2SE | Java™ 2 Platform, Standard Edition |
| JAR | Java™ Archive |
| Java | Java™ |
| JDBC | JDBC™ Java™ Database Connectivity |
| JDK | Java™ Development Kit |
| JSP | JavaServer Pages™ |
| WAR | Web ARchive |

このマニュアルで使用する英略語を次に示します。

| 英略語 | 英字での表記 |
|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| BLOB | <u>B</u> inary <u>L</u> arge <u>O</u> bject |
| CSV | <u>C</u> omma <u>S</u> eparated <u>V</u> alue |
| DB | <u>D</u> atabase |
| ebXML | <u>E</u> lectronic <u>B</u> usiness using <u>e</u> Xtensible <u>M</u> arkup <u>L</u> anguage |
| EDI | <u>E</u> lectronic <u>D</u> ata <u>I</u> nterchange |
| HTTP | <u>H</u> yper <u>T</u> ext <u>T</u> ransfer <u>P</u> rotocol |
| HTTPS | <u>H</u> yper <u>T</u> ext <u>T</u> ransfer <u>P</u> rotocol <u>S</u> ecurity |
| IANA | <u>I</u> nternet <u>A</u> ssigned <u>N</u> umbers <u>A</u> uthority |
| JEDICOS | <u>J</u> apan <u>E</u> DI for <u>C</u> ommerce <u>S</u> ystems |
| MIME | <u>M</u> ultipurpose <u>I</u> nternet <u>M</u> ail <u>E</u> xtension |
| OS | <u>O</u> perating <u>S</u> ystem |
| RD | <u>R</u> elational <u>D</u> atabase |
| SOAP | <u>S</u> imple <u>O</u> bject <u>A</u> ccess <u>P</u> rotocol |
| SQL | <u>S</u> tructured <u>Q</u> uery <u>L</u> anguage |

| 英略語 | 英字での表記 |
|--------|-----------------------------------------------------------|
| SSL | <u>Secure Sockets Layer</u> |
| URI | <u>Uniform Resource Identifier</u> |
| URL | <u>Uniform Resource Locator</u> |
| UTF | <u>UCS Transformation Format</u> |
| WSDL4J | <u>Web Services Description Language for Java Toolkit</u> |
| XML | <u>eXtensible Markup Language</u> |

このマニュアルの図中で使用している記号

このマニュアルの図中で使用する記号を、次のように定義します。

●サーバ



●ビジネスメッセージ



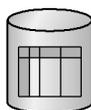
●ドキュメント



●状況照会GUI



●データベース



●プログラム



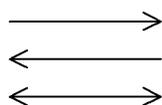
●入出力の動作



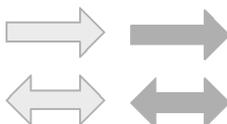
●画面の表示



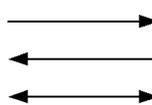
●制御の流れ



●データの流れ



●その他の流れ



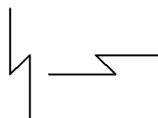
●作業の流れ



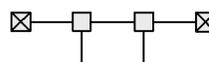
●ネットワーク



●通信回線



●バス型のLAN



このマニュアルで使用している記号

! 注意事項

uCosminexus Message Service Server Light for ebXML のシステムを構築、運用するときに注意する必要がある事項、および考慮してほしい事項について説明しています。

このマニュアルの GUI の説明で使用している記号

このマニュアルでは、次に示す記号を使用して GUI を説明しています。

| 記号 | 意味 |
|-----|----------------------------|
| [] | 画面の名称および画面に表示されている項目を表します。 |

このマニュアルのコマンドの説明で使用している記号

このマニュアルでは、次に示す記号を使用してコマンドの文法を説明しています。

| 記号 | 意味 |
|---------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ストローク | 横に並べられた複数の項目に対する項目間の区切りを示し、"または"を意味します。 (例) A B A または B を指定することを示します。 |
| { } 波括弧 | この記号で囲まれている複数の項目のうちから一つを選択することを示します。項目が横に並べて記号 で区切られている場合は、どれか一つを選択します。 (例) { A B C } A, B または C のどれかを指定することを示します。 |
| [] 角括弧 | この記号で囲まれている項目は省略してもよいことを示します。複数の項目が横に並べて記述されている場合には、すべてを省略するか、記号 { } と同じくどれか一つを選択します。 (例 1) [A] "何も指定しない"か "A を指定する" ことを示します。 (例 2) [B C] "何も指定しない"か "B または C を指定する" ことを示します。 |
| <u> </u> 下線 | 括弧で囲まれている複数条件のうち 1 項目に対して使用され、括弧内をすべて省略したときシステムがとる標準値を示します。 (例) [-s { A B C }] "-s オプションに A, B, C のどれも指定しなかった場合、システムは C が指定されたときと同じ処理をする" ことを示します。 |

常用漢字以外の漢字の使用について

このマニュアルでは、常用漢字を使用することを基本としていますが、次に示す用語については、常用漢字以外の漢字を使用しています。

鍵(かぎ) 個所(かしょ) 桁(けた) 同梱(どうこん) 汎用(はんよう) 必須(ひつす)

KB (キロバイト) などの単位表記について

1KB (キロバイト), 1MB (メガバイト), 1GB (ギガバイト), 1TB (テラバイト) はそれぞれ $1,024$ バイト, $1,024^2$ バイト, $1,024^3$ バイト, $1,024^4$ バイトです。

目次

| | | |
|----------|-----------------------------|-----------|
| 1 | 概要 | 1 |
| 1.1 | C-S 型メッセージ交換手順に準拠した電子商取引の概要 | 2 |
| 1.1.1 | C-S 型メッセージ交換手順とは | 2 |
| 1.1.2 | C-S 型メッセージ交換手順の特長 | 3 |
| 1.2 | CMS Light サーバの目的 | 4 |
| 1.3 | CMS Light サーバの機能 | 5 |
| 1.3.1 | ビジネスメッセージの受信 | 5 |
| 1.3.2 | ビジネスメッセージの送信 | 6 |
| 1.3.3 | ビジネスメッセージの管理 | 7 |
| 1.3.4 | クライアント企業の情報の保存 | 8 |
| 1.3.5 | セキュリティ通信 | 8 |
| 2 | システム構成 | 9 |
| 2.1 | ソフトウェア条件 | 10 |
| 2.1.1 | 前提ソフトウェア | 10 |
| 2.1.2 | 関連ソフトウェア | 10 |
| 2.2 | システムに必要なサーバ | 11 |
| 2.3 | システム構成例 | 12 |
| 3 | システム導入の準備 | 13 |
| 3.1 | データベースサーバの容量の見積もり | 14 |
| 3.2 | クライアント企業に通知する項目 | 15 |
| 3.2.1 | システムの識別子・URI | 15 |
| 3.2.2 | CMS Light サーバのエンドポイント | 16 |
| 3.2.3 | ビジネスメッセージ保持期間 | 16 |
| 3.2.4 | ビジネスメッセージに添付するドキュメントの交換形式 | 16 |
| 3.2.5 | ドキュメントの最大ファイルサイズ | 19 |
| 3.2.6 | セキュリティ通信の設定 | 19 |
| 4 | システムの構築 | 21 |
| 4.1 | 構築の概要 | 22 |

| | | |
|----------|-------------------------------------------|-----------|
| 4.2 | HiRDB の環境設定 | 23 |
| 4.2.1 | データベース接続数の計算 | 23 |
| 4.2.2 | レコード件数の計算 | 23 |
| 4.2.3 | ユーザー用 RD エリアの生成 | 23 |
| 4.2.4 | テーブルの作成 | 25 |
| 4.3 | CMS Light サーバの環境設定 | 26 |
| 4.3.1 | ディレクトリ構成 | 26 |
| 4.3.2 | サーバ共通定義ファイルの作成 | 29 |
| 4.4 | 環境変数の設定 | 33 |
| 4.5 | uCosminexus Application Server の環境設定 | 35 |
| 4.5.1 | Hitachi Web Server の環境設定 | 36 |
| 4.5.2 | J2EE サーバのセットアップ | 38 |
| 4.5.3 | uCosminexus Application Server の定義ファイルの編集 | 38 |
| 4.5.4 | Cosminexus DABroker Library の環境設定 | 42 |
| 4.5.5 | HiRDB のクライアント環境変数の設定 | 42 |
| 4.5.6 | SOAP 通信基盤の動作モード設定 | 45 |
| 4.5.7 | J2EE サーバの起動 | 45 |
| 4.5.8 | DB Connector の環境設定 | 46 |
| 4.5.9 | J2EE アプリケーションのデプロイ | 58 |
| 4.5.10 | J2EE サーバの停止 | 62 |
| 5 | システムの運用 | 65 |
| 5.1 | 運用の流れ | 66 |
| 5.2 | 起動と終了 | 68 |
| 5.2.1 | システムの起動 | 68 |
| 5.2.2 | システムの終了 | 68 |
| 5.3 | 送信するビジネスメッセージの登録 | 70 |
| 5.4 | データベースに格納されたビジネスメッセージの保守 | 71 |
| 5.4.1 | 送受信処理が完了したビジネスメッセージを削除する | 72 |
| 5.4.2 | 登録したビジネスメッセージの送信結果を確認する | 73 |
| 5.4.3 | ビジネスメッセージの受信結果を確認する | 74 |
| 5.5 | クライアント企業の情報の管理 | 75 |
| 5.5.1 | クライアント企業の情報を登録する | 76 |
| 5.5.2 | クライアント企業の情報を削除する | 77 |
| 5.5.3 | クライアント企業の取引先状態を変更する | 77 |
| 5.5.4 | マスターファイルを作成，更新する | 78 |

| | | |
|----------|-----------------------------|------------|
| 6 | 障害対策 | 81 |
| 6.1 | 障害が発生したときの手順 | 82 |
| 6.2 | ログファイルの採取 | 83 |
| 6.2.1 | ログファイルの種類 | 83 |
| 6.2.2 | ログの出力形式 | 84 |
| 6.3 | 主な障害と対処 | 87 |
| 6.3.1 | クライアント企業から送受信に関する障害連絡があった場合 | 89 |
| 6.3.2 | ビジネスメッセージの受信処理に失敗した場合 | 90 |
| 7 | 状況照会 GUI | 93 |
| 7.1 | 状況照会 GUI でできること | 94 |
| 7.2 | ログインとログアウト | 96 |
| 7.2.1 | ログイン | 96 |
| 7.2.2 | ログアウト | 96 |
| 7.3 | ビジネスメッセージ検索画面 | 98 |
| 7.4 | ビジネスメッセージ一覧画面 | 102 |
| 7.5 | ビジネスメッセージ詳細画面 | 105 |
| 8 | 定義ファイル | 107 |
| 8.1 | 定義ファイル一覧 | 108 |
| 8.2 | サーバ共通定義ファイル | 109 |
| 8.2.1 | サーバ共通定義ファイルの概要 | 109 |
| 8.2.2 | サーバ定義 | 111 |
| 8.2.3 | ドキュメントファイル出力定義 | 111 |
| 8.2.4 | 通信ログ出力定義 | 112 |
| 8.2.5 | トレースログ出力定義 | 114 |
| 8.2.6 | エラーログ出力定義 | 115 |
| 8.2.7 | サイズ定義 | 115 |
| 8.2.8 | 状況照会 GUI 定義 | 116 |
| 8.2.9 | コマンド定義 | 118 |
| 8.2.10 | JP1 イベント連携定義 | 120 |
| 8.3 | 取引先識別子ファイル | 124 |
| 8.4 | 取引先 URI ファイル | 125 |

| | | |
|----------|-----------------|------------|
| 9 | コマンド | 127 |
| 9.1 | コマンド一覧 | 128 |
| 9.2 | コマンドを使用する前に | 129 |
| 9.2.1 | コマンドの説明で使用する見出し | 129 |
| 9.2.2 | 入力形式 | 130 |
| 9.2.3 | コマンド実行時の注意事項 | 132 |
| 9.3 | コマンドの詳細 | 134 |

| | | |
|-----------|-------------------------------------|------------|
| 10 | メッセージ | 151 |
| 10.1 | メッセージの概要 | 152 |
| 10.1.1 | メッセージの出力先 | 152 |
| 10.1.2 | メッセージの説明で使用する見出し | 152 |
| 10.1.3 | データベースのエラーコードと HIRDB のメッセージ ID との関係 | 153 |
| 10.2 | KDSR00001 ~ KDSR09999 のメッセージ | 155 |
| 10.3 | KDSR10001 ~ KDSR19999 のメッセージ | 162 |
| 10.4 | KDSR20001 ~ KDSR22999 のメッセージ | 176 |
| 10.5 | KDSR30001 ~ KDSR32999 のメッセージ | 186 |

| | | |
|-----------|-----------------------|-----|
| 付録 | 213 | |
| 付録 A | ビジネスメッセージのファイル出力形式 | 214 |
| 付録 A.1 | ドキュメントファイルの出力先 | 214 |
| 付録 A.2 | ドキュメントファイルの名称 | 214 |
| 付録 B | CSV ファイルのダウンロード形式 | 216 |
| 付録 B.1 | CSV ファイルの出力先 | 216 |
| 付録 B.2 | CSV ファイルに出力される項目 | 216 |
| 付録 B.3 | CSV ファイルの出力例 | 217 |
| 付録 C | JP1 イベント連携 | 219 |
| 付録 C.1 | イベントの発行契機 | 219 |
| 付録 C.2 | ビジネスメッセージ受信イベントの詳細 | 220 |
| 付録 C.3 | ドキュメントファイル出力イベントの詳細 | 221 |
| 付録 C.4 | ドキュメントファイル出力失敗イベントの詳細 | 223 |
| 付録 C.5 | ビジネスメッセージ送信要求イベントの詳細 | 224 |
| 付録 C.6 | ビジネスメッセージ送信通知イベントの詳細 | 226 |

| | | |
|---------|---------------------------|-----|
| 付録 C.7 | ビジネスメッセージ登録イベントの詳細 | 227 |
| 付録 C.8 | ビジネスメッセージ取得イベントの詳細 | 229 |
| 付録 C.9 | ドキュメント状態変更（強制完了）イベントの詳細 | 230 |
| 付録 C.10 | ドキュメント状態変更（強制引き戻し）イベントの詳細 | 231 |
| 付録 D | 用語解説 | 233 |

索引

237

目次

| | | |
|-------|----------------------------------------|-----|
| 図 1-1 | C-S 型メッセージ交換手順に準拠した電子商取引の概要 | 2 |
| 図 1-2 | CMS Light サーバの機能 | 5 |
| 図 1-3 | ビジネスメッセージ受信の流れ | 6 |
| 図 1-4 | ビジネスメッセージ送信の流れ | 7 |
| 図 2-1 | CMS Light サーバのシステムに必要なサーバ | 11 |
| 図 2-2 | システム構成例 | 12 |
| 図 4-1 | uCosminexus Application Server の環境設定手順 | 35 |
| 図 5-1 | システム運用の流れ | 66 |
| 図 5-2 | ビジネスメッセージの登録手順 | 70 |
| 図 5-3 | ビジネスメッセージの保守作業の概要 | 71 |
| 図 5-4 | クライアント企業の情報管理の概要 | 75 |
| 図 5-5 | ユーザーがデータベースとマスターファイルの内容を一致させる操作のイメージ | 79 |
| 図 6-1 | CMS Light サーバが出力するログの出力形式 | 85 |
| 図 6-2 | ビジネスメッセージ送受信に関する障害の要因を特定する手順 | 90 |
| 図 7-1 | ユーザーの操作と状況照会 GUI の画面遷移 | 94 |
| 図 7-2 | ビジネスメッセージ検索画面 | 98 |
| 図 7-3 | ビジネスメッセージ一覧画面 | 102 |
| 図 7-4 | ビジネスメッセージ詳細画面 | 105 |

表目次

| | | |
|--------|-----------------------------------------------------------------|-----|
| 表 3-1 | C-S 型メッセージ交換手順で定めるドキュメント形式 | 17 |
| 表 3-2 | ドキュメント形式とドキュメント種別の組み合わせ | 17 |
| 表 4-1 | レコード件数の見積もり式 | 23 |
| 表 4-2 | CMS Light サーバが使用するユーザー用 RD エリアの種類 | 24 |
| 表 4-3 | ユーザー用 RD エリアのセグメント数の見積もり (テーブル情報) | 24 |
| 表 4-4 | ユーザー用 RD エリアのセグメント数の見積もり (インデクス情報) | 24 |
| 表 4-5 | ディレクトリ構成 (Windows の場合) | 26 |
| 表 4-6 | ディレクトリ構成 (UNIX の場合) | 28 |
| 表 4-7 | HiRDB 製品ごとの HiRDB Type4 JDBC Driver の JAR ファイルのパス (Windows の場合) | 40 |
| 表 4-8 | HiRDB 製品ごとの HiRDB Type4 JDBC Driver の JAR ファイルのパス (UNIX の場合) | 40 |
| 表 4-9 | 使用する DB Connector と参照先 | 46 |
| 表 4-10 | DB Connector のプロパティの定義内容 (Cosminexus DABroker Library を使用する場合) | 49 |
| 表 4-11 | DB Connector のプロパティの定義内容 (HiRDB Type4 JDBC Driver を使用する場合) | 55 |
| 表 6-1 | CMS Light サーバが出力するログのファイル名の形式 | 83 |
| 表 6-2 | ログの出力項目 | 85 |
| 表 6-3 | 主な障害とユーザーの対処 | 87 |
| 表 7-1 | ビジネスメッセージの送受信状況とドキュメント状態の関係 | 99 |
| 表 7-2 | デフォルトでのビジネスメッセージ検索画面の入力値 | 101 |
| 表 8-1 | 定義ファイル一覧 | 108 |
| 表 8-2 | サーバ定義に指定するプロパティ | 111 |
| 表 8-3 | ドキュメントファイル出力定義に指定するプロパティ | 112 |
| 表 8-4 | 通信ログ出力定義に指定するプロパティ | 113 |
| 表 8-5 | トレースログ出力定義に指定するプロパティ | 114 |
| 表 8-6 | エラーログ出力定義に指定するプロパティ | 115 |
| 表 8-7 | サイズ定義に指定するプロパティ | 116 |
| 表 8-8 | 状況照会 GUI 定義に指定するプロパティ | 116 |
| 表 8-9 | コマンド定義に指定するプロパティ | 118 |
| 表 8-10 | JP1 イベント連携定義に指定するプロパティ | 121 |
| 表 9-1 | CMS Light サーバのコマンド一覧 | 128 |
| 表 9-2 | コマンドの戻り値 | 129 |

| | | |
|--------|-------------------------------------|-----|
| 表 9-3 | 同時に実行できないコマンドの組み合わせ | 132 |
| 表 10-1 | データベースのエラーコードと HiRDB のメッセージ ID との関係 | 153 |
| 表 10-2 | メッセージに出力される要素名 (KDSR10006-E) | 163 |
| 表 10-3 | メッセージに出力される要素名 (KDSR10010-E) | 166 |
| 表 B-1 | CSV ファイルに出力される項目と出力形式 | 216 |
| 表 C-1 | イベントの発行契機 | 219 |
| 表 C-2 | ビジネスメッセージ受信イベントの詳細 | 220 |
| 表 C-3 | ドキュメントファイル出力イベントの詳細 | 221 |
| 表 C-4 | ドキュメントファイル出力失敗イベントの詳細 | 223 |
| 表 C-5 | ビジネスメッセージ送信要求イベントの詳細 | 224 |
| 表 C-6 | ビジネスメッセージ送信通知イベントの詳細 | 226 |
| 表 C-7 | ビジネスメッセージ登録イベントの詳細 | 228 |
| 表 C-8 | ビジネスメッセージ取得イベントの詳細 | 229 |
| 表 C-9 | ドキュメント状態変更 (強制完了) イベントの詳細 | 230 |
| 表 C-10 | ドキュメント状態変更 (強制引き戻し) イベントの詳細 | 232 |

1

概要

CMS Light サーバは、JEDICOS-XML で定める C-S 型メッセージ交換手順に準拠して、サーバ企業がクライアント企業とデータ通信するための製品です。

この章では、C-S 型メッセージ交換手順に準拠した電子商取引の概要、および CMS Light サーバの概要について説明します。

1.1 C-S 型メッセージ交換手順に準拠した電子商取引の概要

1.2 CMS Light サーバの目的

1.3 CMS Light サーバの機能

1.1 C-S 型メッセージ交換手順に準拠した電子商取引の概要

uCosminexus Message Service Server Light for ebXML (以降、CMS Light サーバと呼びます) は、C-S 型メッセージ交換手順に準拠した製品です。C-S 型メッセージ交換手順とは、財団法人流通システム開発センターが開発するメッセージ交換手順の一つです。メッセージ交換手順にはほかに S-S 型、C-S-S 型、C-S-C 型があり、C-S 型と合わせて流通業界での EDI の標準規格である JEDICOS-XML V2.1 で定義されています。

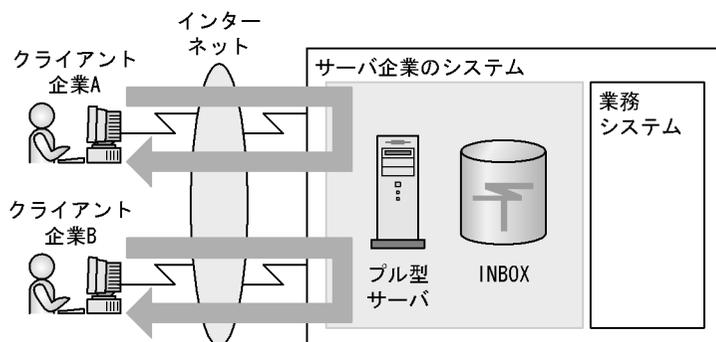
ここでは、C-S 型メッセージ交換手順に準拠した電子商取引の概要を説明します。

1.1.1 C-S 型メッセージ交換手順とは

C-S 型メッセージ交換手順とは、大手小売企業 (以降、サーバ企業と呼びます) のシステムに、取引先の企業 (以降、クライアント企業と呼びます) がインターネット経由でアクセスしてデータをアップロード、ダウンロードするための通信規格です。

C-S 型メッセージ交換手順に準拠した電子商取引の概要を、次に示します。

図 1-1 C-S 型メッセージ交換手順に準拠した電子商取引の概要



サーバ企業のシステムのうち、プル型サーバおよび INBOX の部分が C-S 型メッセージ交換手順に準拠した電子商取引をするための仕組みです。プル型サーバがデータ通信を制御し、INBOX はクライアント企業との取引データを保管します。

CMS Light サーバのシステムでは、図のプル型サーバに当たるのが CMS Light サーバ、図の INBOX に当たるのがデータベースサーバになります。また C-S 型メッセージ交換手順に準拠した製品として、日立では CMS Light サーバのほか、クライアント企業のシステムに適用する uCosminexus Message Service Client Light for ebXML を提供しています。

1.1.2 C-S 型メッセージ交換手順の特長

流通業界では、インターネットと XML 技術を駆使した次世代 EDI によって、取引の効率化、取引のグローバル化、多様な業務形態への対応などを実現してきました。

しかし、中小規模の取引には大規模なシステムを新規に導入しにくい、という問題がありました。この問題を解決するために、従来のシステムよりも簡単に導入できて、かつ柔軟な構築・運用ができるシステムが必要でした。C-S 型メッセージ交換手順は、こうしたシステムを実現するための通信規格です。

C-S 型メッセージ交換手順は、次のような特長があります。

- 企業間の常時接続が不要です。
- クライアント企業のシステムに INBOX が不要です。
- C-S 間でダイレクトにデータ通信をします。

したがって、クライアント企業にとっては低コストかつ容易にシステムを導入できるというメリットがあり、サーバ企業にとってはこれまで次世代 EDI のシステムを導入しづらかった中小規模の取引の効率を上げられるというメリットがあります。

1.2 CMS Light サーバの目的

CMS Light サーバは、C-S 型メッセージ交換手順に準拠した電子商取引をするために、サーバ企業が導入する製品です。

CMS Light サーバの目的を次に示します。

容易なシステム構築

ユーザーは C-S 型メッセージ交換手順の仕様を意識しないでシステムを構築できます。また、データ通信のためのアプリケーション開発が不要です。

汎用的なシステム運用

C-S 型メッセージ交換手順に準拠するシステムを持つ、すべてのクライアント企業とデータ通信ができます。

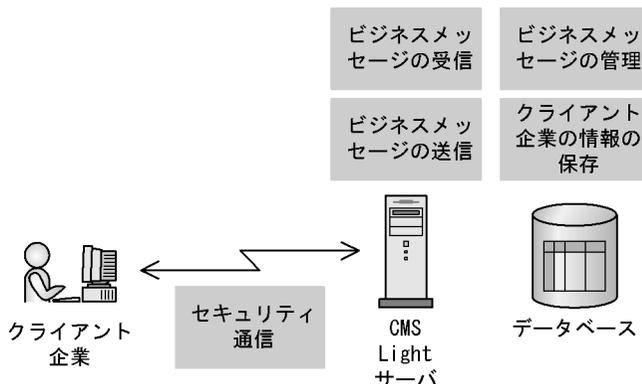
安定したシステム基盤

uCosminexus Application Server をシステム基盤として稼働するため、CMS Light サーバが提供する J2EE アプリケーションを安定した環境で実行できます。

1.3 CMS Light サーバの機能

CMS Light サーバの機能を次に示します。

図 1-2 CMS Light サーバの機能



ビジネスメッセージとは

CMS Light サーバがクライアント企業のシステムと送受信する SOAP 形式のメッセージのことです。C-S 型メッセージ交換手順では、業務に必要なドキュメントをビジネスメッセージの添付ファイルとして送受信します。

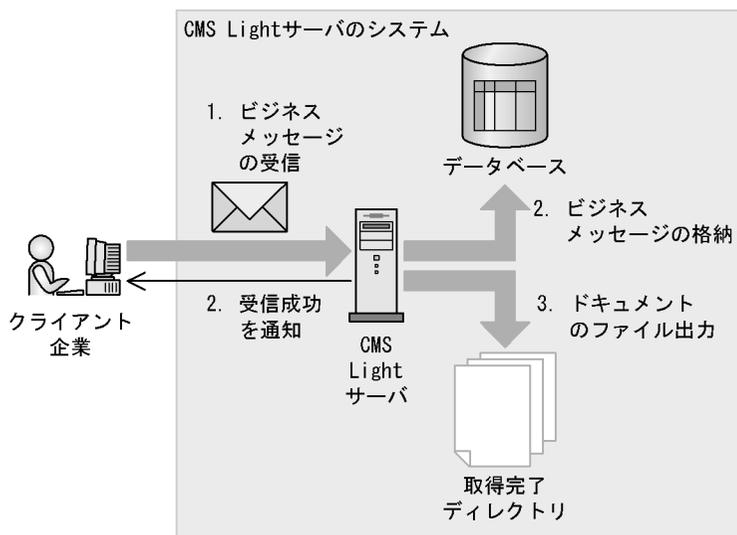
ここでは、図で示した CMS Light サーバの機能について説明します。

1.3.1 ビジネスメッセージの受信

クライアント企業のシステムからビジネスメッセージが配信されたら、CMS Light サーバは受信したビジネスメッセージを自動で処理します。ビジネスメッセージ受信時、CMS Light サーバは次の流れで処理します。

1. 概要

図 1-3 ビジネスメッセージ受信の流れ



1. ビジネスメッセージの受信

クライアント企業のシステムから配信されたビジネスメッセージを受け付けます。

2. ビジネスメッセージの格納，受信成功を通知

受信したビジネスメッセージをデータベースに格納します。同時に，クライアント企業のシステムに受信成功を通知します。

3. ドキュメントのファイル出力

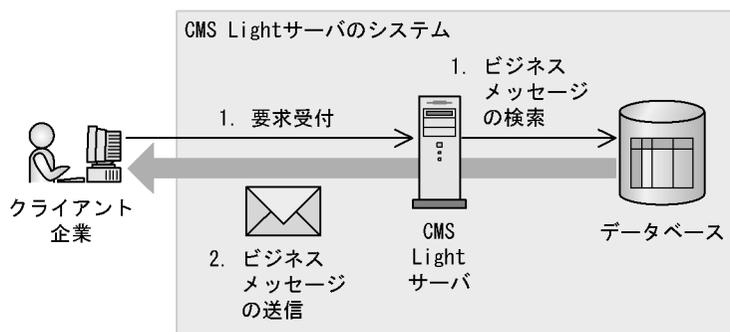
ビジネスメッセージに添付されているドキュメントを，取得完了ディレクトリにファイル出力します。

取得完了ディレクトリは，業務システムと連携させるなど運用に合わせて利用してください。取得完了ディレクトリに出力されたドキュメントのファイル形式については，「付録 A ビジネスメッセージのファイル出力形式」を参照してください。

1.3.2 ビジネスメッセージの送信

CMS Light サーバはプル型サーバであるため，クライアント企業のシステムから要求があった場合だけ，ビジネスメッセージを送信します。ビジネスメッセージ送信時，CMS Light サーバは次の流れで処理します。

図 1-4 ビジネスメッセージ送信の流れ



1. クライアント企業からの送信要求受付，ビジネスメッセージの検索
 クライアント企業のシステムからビジネスメッセージの送信要求を受け付けます。
 CMS Light サーバはデータベース内に送信できるビジネスメッセージがないかを検索します。送信できるビジネスメッセージがない場合，ビジネスメッセージがないことをクライアント企業のシステムに通知します。
2. ビジネスメッセージの送信
 クライアント企業のシステムにビジネスメッセージを送信します。

CMS Light サーバがクライアント企業のシステムに送信するビジネスメッセージは，あらかじめユーザーが用意しておきます。ビジネスメッセージを送信するためのユーザーの操作については，「5.3 送信するビジネスメッセージの登録」を参照してください。

1.3.3 ビジネスメッセージの管理

CMS Light サーバは，送受信したビジネスメッセージをデータベースで管理します。データベースで管理している目的を，次に示します。

- ビジネスメッセージ受信時，重複受信を防止します。
- クライアント企業からの送信要求を受け付けたとき，未送信のビジネスメッセージがないかを検索します。
- 送受信したビジネスメッセージを，履歴として保存します。

ユーザーは状況照会 GUI やコマンドを使用することで，CMS Light サーバがデータベースで管理しているビジネスメッセージを，次のような場合に活用できます。

- データベースの保守作業をする場合
 「5.4 データベースに格納されたビジネスメッセージの保守」を参照してください。
- 障害対策をする場合
 「6. 障害対策」を参照してください。
- 業務で活用する場合
 状況照会 GUI でのビジネスメッセージの検索結果を，CSV ファイルとしてダウンロードできます。CSV ファイルの詳細については，「付録 B CSV ファイルのダウンロード形式」を参照してください。

1. 概要

1.3.4 クライアント企業の情報の保存

CMS Light サーバは、取引先であるクライアント企業の情報をデータベースに保存します。保存した情報は、通信相手のクライアント企業が正しく登録されているかを確認するときに使用します。

クライアント企業の情報は、ユーザーが管理します。データベースに保存されたクライアント企業の情報の管理については、「5.5 クライアント企業の情報の管理」を参照してください。

1.3.5 セキュリティ通信

CMS Light サーバが対応しているセキュリティ通信の種類を、次に示します。

- HTTP ベーシック認証
ユーザー ID およびパスワードを使用してクライアント企業のアクセスを制御します。
- 暗号化通信 (SSL サーバ認証)
通信プロトコルに SSL を使用し、証明書と公開鍵暗号技術に基づいて通信を暗号化します。

セキュリティ通信は、Hitachi Web Server で設定します。セキュリティ通信を適用する場合の設定方法は、マニュアル「Hitachi Web Server」を参照してください。

2

システム構成

この章では、CMS Light サーバの前提ソフトウェア、システムに必要なサーバ、およびシステム構成例について説明します。

2.1 ソフトウェア条件

2.2 システムに必要なサーバ

2.3 システム構成例

2.1 ソフトウェア条件

CMS Light サーバのシステムに必要なソフトウェアを次に示します。

2.1.1 前提ソフトウェア

次のソフトウェアは必須です。

OS

次のどれかの OS が前提です。

- Windows 2000 Server
- Windows Server 2003
- Red Hat Enterprise Linux AS 4 (AMD64 & Intel EM64T)
- Red Hat Enterprise Linux ES 4 (AMD64 & Intel EM64T)

uCosminexus Application Server

CMS Light サーバが提供する J2EE アプリケーションの実行基盤となるソフトウェアです。

HiRDB

CMS Light サーバのデータベースとなるソフトウェアです。

Internet Explorer

システム運用や障害対策で使用する状況照会 GUI を起動するためのソフトウェアです。

2.1.2 関連ソフトウェア

次のソフトウェアは、運用に応じて使用してください。

JP1 イベント連携を適用する場合

- JP1/Base

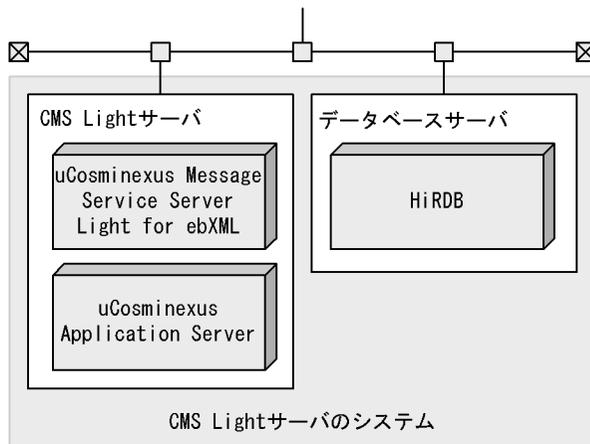
CMS Light サーバのコマンド実行を自動化する場合

- JP1/AJS2

2.2 システムに必要なサーバ

CMS Light サーバのシステムには、次のサーバが必要です。

図 2-1 CMS Light サーバのシステムに必要なサーバ



CMS Light サーバ

uCosminexus Application Server 上で uCosminexus Message Service Server Light for ebXML が動作します。

データベースサーバ

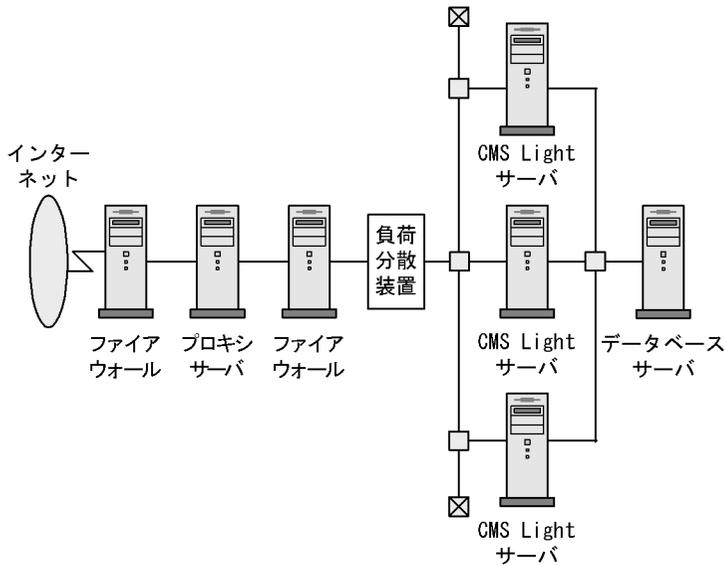
CMS Light サーバのシステムで INBOX の役割を果たすサーバです。HiRDB をインストールします。

二つのサーバは、同一マシン構成にすることも別マシン構成にすることもできます。データベースサーバの容量に対してトランザクション量が多く、マシンの負荷が高くなる場合、別マシン構成を推奨します。データベースサーバの容量の見積もりについては、「3.1 データベースサーバの容量の見積もり」を参照してください。

2.3 システム構成例

複数のクライアント企業と取引するサーバ企業が、CMS Light サーバのマシンを 3 台、データベースサーバのマシンを 1 台でシステムを構築した場合のシステム構成例を、次に示します。

図 2-2 システム構成例



3

システム導入の準備

システムを導入してクライアント企業と取引を始める前に、システムの処理能力や取引の頻度を基にデータベースサーバの容量を見積もったり運用ルールを決定したりする必要があります。

この章では、CMS Light サーバのシステムを導入する前に検討、準備しておくことについて説明します。

3.1 データベースサーバの容量の見積もり

3.2 クライアント企業に通知する項目

3.1 データベースサーバの容量の見積もり

CMS Light サーバのシステムに使用するデータベースサーバの容量を見積もります。

ここで説明する見積もりの目的は、システム導入後に行われる取引の規模や頻度を明確にすることです。ここで見積もった内容は、システムの運用ルールを決定するときや、実際にデータベースサーバを構築するときに使用できます。

ここで説明する見積もりを基に決定するシステムの運用ルールについては、「3.2.3 ビジネスメッセージ保持期間」を参照してください。また、ここで説明する見積もりを使用するデータベースサーバの構築については、「4.2 HiRDB の環境設定」を参照してください。

(1) 同時に送受信するビジネスメッセージの最大数

CMS Light サーバが一度に送信処理または受信処理をするビジネスメッセージの最大数です。幾つのクライアント企業がどのくらいの頻度で、同時に CMS Light サーバのシステムにアクセスするかを考慮して決定してください。

(2) 取引するクライアント企業の数

CMS Light サーバのシステムを使用してビジネスメッセージを送受信するクライアント企業の数です。

(3) データベースに蓄積されるビジネスメッセージの最大数

データベースに蓄積される、ビジネスメッセージの最大数です。このとき、データベースに蓄積されたビジネスメッセージは、ユーザーが意図的に削除しないかぎり蓄積されることを考慮して決定してください。

(4) 交換するドキュメントの最大長

クライアント企業と交換するドキュメントの最大長です。ドキュメントの最大長は、「3.2.5 ドキュメントの最大ファイルサイズ」で決定するドキュメントの最大ファイルサイズを 1.4 倍して小数点以下を切り上げた値です。1 ~ 46,976,205 (バイト) の整数値を指定できます。

3.2 クライアント企業に通知する項目

システム導入前にユーザーがあらかじめ決定し、決定事項を書面にまとめて送付するなどしてクライアント企業に通知する必要がある項目について説明します。クライアント企業がシステムを構築するときに必要な情報であるため、必ず通知してください。

なお、ここで説明する項目の一部は、CMS Light サーバのシステム構築時にも使用します。

3.2.1 システムの識別子・URI

自システムの識別子・URI だけでなく、クライアント企業のシステムの識別子・URI もサーバ企業側で決定します。

(1) CMS Light サーバのシステムの識別子・URI

取引先のクライアント企業に自システムを識別していただくために、次の項目を決定します。

- サーバ識別子
サーバ企業に一つ割り当てる識別子です。63 バイト以内の文字列にしてください。
- サーバ URI
CMS Light サーバのシステムに一つ割り当てる URI です。サーバ企業が CMS Light サーバのシステムを複数構築する場合、各システムを異なる URI で区別する運用もできます。255 バイト以内の文字列にしてください。

決定したサーバ識別子およびサーバ URI は、CMS Light サーバの定義ファイルに定義します。サーバ識別子およびサーバ URI を定義する定義ファイルについては、「8.2 サーバ共通定義ファイル」を参照してください。

(2) クライアント企業のシステムの識別子・URI

CMS Light サーバが取引先のクライアント企業を識別するために、各クライアント企業のシステムに対して次の項目を割り当てます。

- 取引先識別子
各クライアント企業に一つずつ割り当てる識別子です。63 バイト以内の文字列にしてください。
- 取引先 URI
クライアント企業が持つ、CMS Light サーバとデータ通信するシステムに一つ割り当てる URI です。クライアント企業が、CMS Light サーバとデータ通信するシステムを複数持つ場合、各システムを異なる URI で区別する運用もできます。255 バイト以内の文字列にしてください。

決定した取引先識別子および取引先 URI は、CMS Light サーバの定義ファイルに定義します。取引先識別子を定義する定義ファイルについては、「8.3 取引先識別子ファイル」

3. システム導入の準備

を参照してください。取引先 URI を定義する定義ファイルについては、「8.4 取引先 URI ファイル」を参照してください。

3.2.2 CMS Light サーバのエンドポイント

クライアント企業にとってビジネスメッセージの送受信先となる、エンドポイントです。CMS Light サーバのエンドポイントを次に示します。

```
http(s)://<ホスト名>:<ポート番号>/mssl/app/services/JXMSTransferSoap
```

ホスト名

Hitachi Web Server が動作するマシンのホスト名または IP アドレスを指定します。

ポート番号

Hitachi Web Server が動作するマシンのポート番号を指定します。デフォルトのポート番号を使用する場合は省略できます。

3.2.3 ビジネスメッセージ保持期間

C-S 型メッセージ交換手順に準拠したシステムでは、データの重複受信を防止するために、サーバ企業が受信データを一定期間保持しておくことが義務づけられています。CMS Light サーバのシステムでは、この期間をビジネスメッセージ保持期間と呼びます。受信したビジネスメッセージは、ビジネスメッセージ保持期間中はデータベースで管理されます。

ビジネスメッセージ保持期間はデータベースサーバの容量、取引の頻度、およびクライアント企業のシステム環境に合わせて、できる限り長い期間を設定します。86,400 ~ 31,536,000 (秒) の整数値で、次に示す式の結果よりも長い期間を設定してください。

$(\text{クライアント企業のシステムでの送信リトライ回数}) \times (\text{クライアント企業のシステムでの送信リトライ間隔 (秒)})$

決定したビジネスメッセージ保持期間は、CMS Light サーバの定義ファイルに定義します。ビジネスメッセージ保持期間を定義する定義ファイルについては、「8.2 サーバ共通定義ファイル」を参照してください。

3.2.4 ビジネスメッセージに添付するドキュメントの交換形式

ビジネスメッセージに添付するドキュメントの交換形式は、C-S 型メッセージ交換手順に従って決定します。

ここで決定した項目は、ユーザーがビジネスメッセージをデータベースに登録するときに使用します。ビジネスメッセージをデータベースに登録するときのユーザーの操作については、「5.3 送信するビジネスメッセージの登録」を参照してください。

(1) ドキュメント形式とドキュメント種別

C-S 型メッセージ交換手順では、次に示すドキュメント形式を定めています。

表 3-1 C-S 型メッセージ交換手順で定めるドキュメント形式

| 項番 | ドキュメント形式 | 説明 |
|----|-------------------|-----------------------------------|
| 1 | SecondGenEDI | ドキュメント種別との対応が定義されているドキュメント形式 |
| 2 | JEDICOS-XML | |
| 3 | JEDICOS | |
| 4 | J Protocol | |
| 5 | Mutuality defined | ドキュメント種別との対応を企業間で任意に定義できるドキュメント形式 |

(a) ドキュメント種別との対応が定義されているドキュメント形式

SecondGenEDI, JEDICOS-XML, JEDICOS, および J Protocol は、C-S 型メッセージ交換手順でドキュメント種別と対応が定義されています。これらのドキュメント形式でビジネスメッセージを送受信する場合は、どのドキュメント形式およびドキュメント種別を選択するかを決定してください。

CMS Light サーバのシステムで使用できるドキュメント形式とドキュメント種別の組み合わせを、次に示します。

表 3-2 ドキュメント形式とドキュメント種別の組み合わせ

| 項番 | ドキュメント種別 | ドキュメント形式 | | | |
|----|----------------------------------------------|--------------|-------------|---------|------------|
| | | SecondGenEDI | JEDICOS-XML | JEDICOS | J Protocol |
| 1 | Order | | × | × | × |
| 2 | Shipment Notification | | × | × | × |
| 3 | Package Shipment Notification | | × | × | × |
| 4 | Non-associated Package Shipment Notification | | × | × | × |
| 5 | Receiving Notification | | × | × | × |
| 6 | Payment | | × | × | × |
| 7 | Return Notification | | × | × | × |
| 8 | Price/Sales Catalogue | × | | | × |
| 9 | Purchase Order | × | | | |
| 10 | Purchase Order Response | × | × | | × |
| 11 | Inventory Report | × | | | × |

3. システム導入の準備

| 項番 | ドキュメント種別 | ドキュメント形式 | | | |
|----|------------------------------|------------------|-------------|---------|------------|
| | | SecondGenE DI | JEDICOS-XML | JEDICOS | J Protocol |
| 12 | Shelf Allocation Report | × | × | | × |
| 13 | POS Report | × | | | × |
| 14 | Order Recommendation | × | × | | × |
| 15 | Despatch Advice Slip | × | | | × |
| 16 | Despatch Advice Carton | × | | | × |
| 17 | Arrival Notice | × | | | × |
| 18 | Confirmation of Delivery | × | × | | × |
| 19 | Purchasing Advice | × | | | × |
| 20 | Invoice | | | | |
| 21 | Remittance Advice | × | | | |
| 22 | Remittance Detail | × | × | | × |
| 23 | Announcement for Returns | × | | | × |
| 24 | Sales Promotion Plan | × | | × | × |
| 25 | Payment Order | × | × | | × |
| 26 | Financial Statement | × | × | | × |
| 27 | Price Tag | | × | × | × |
| 28 | Fresh Order | | × | × | × |
| 29 | Fresh Shipment Notification | | × | × | × |
| 30 | Fresh Receiving Notification | | × | × | × |
| 31 | Fresh Return Notification | | × | × | × |
| 32 | Picking List | | × | × | × |

(凡例)

○ : 使用できます。

×

(b) ドキュメント種別との対応を企業間で任意に定義できるドキュメント形式

Mutuality defined は、企業間で策定できる任意のドキュメント形式です。この形式でビジネスメッセージを送受信する場合は、あらかじめ任意のドキュメント種別を企業間で合意しておいてください。

(2) ドキュメント圧縮形式

IANA で定めている MIME メディアタイプの中から、どの形式を使用するかを決定しま

す。ビジネスメッセージに添付するドキュメントを圧縮しない場合は取り決め不要です。

なお、ドキュメントの圧縮、解凍は、CMS Light サーバのシステムのバックエンドにある業務アプリケーションで実施するよう設定してください。

3.2.5 ドキュメントの最大ファイルサイズ

ビジネスメッセージに添付するドキュメントの最大ファイルサイズです。ドキュメントの最大ファイルサイズは、ドキュメントの交換形式やシステムの規模を考慮して決定してください。

なお、ドキュメントの最大ファイルサイズを基に、ドキュメントの最大長を決定します。したがって最大ファイルサイズを決定するときは、ドキュメント最大長の設定値も考慮してください。ドキュメント最大長については、「3.1 データベースサーバの容量の見積もり」を参照してください。

3.2.6 セキュリティ通信の設定

CMS Light サーバのシステムにセキュリティ通信を適用する場合、クライアント企業に通知する必要があることを次に示します。

HTTP ベーシック認証を適用する場合

認証に必要なユーザー ID およびパスワードを通知します。

暗号化通信 (SSL サーバ認証) を適用する場合

認証に必要な証明書の取得方法を通知します。

CMS Light サーバのシステムにセキュリティ通信を適用する場合は、Web サーバである Hitachi Web Server で設定します。設定方法については、マニュアル「Hitachi Web Server」を参照してください。

4

システムの構築

CMS Light サーバのシステムを構築するには、前提ソフトウェアのインストールと環境設定、および CMS Light サーバのインストールと環境設定が必要です。

この章では、CMS Light サーバのシステムを構築する手順について説明します。

4.1 構築の概要

4.2 HiRDB の環境設定

4.3 CMS Light サーバの環境設定

4.4 環境変数の設定

4.5 uCosminexus Application Server の環境設定

4.1 構築の概要

CMS Light サーバのシステム構築手順について説明します。構築する前に前提ソフトウェア、および CMS Light サーバをインストールしておいてください。前提ソフトウェアのインストール手順については、各前提ソフトウェアのマニュアルを参照してください。

前提ソフトウェアおよび CMS Light サーバをインストール後、動作確認ができるようになるまでの CMS Light サーバのシステム構築手順を、次に示します。

1. HiRDB の環境設定

データベースを構築します。「4.2 HiRDB の環境設定」を参照してください。

2. CMS Light サーバの環境設定

CMS Light サーバの定義ファイルを作成します。「4.3 CMS Light サーバの環境設定」を参照してください。

3. 環境変数の設定

環境変数の設定をします。「4.4 環境変数の設定」を参照してください。

4. uCosminexus Application Server の環境設定

Java 基盤となるアプリケーションサーバを構築します。「4.5 uCosminexus Application Server の環境設定」を参照してください。

5. CMS Light サーバの起動と終了

CMS Light サーバのシステム構築が完了したら、CMS Light サーバのシステムの起動と終了ができるか確認します。「5.2 起動と終了」を参照してください。

なお、各前提ソフトウェアについては、CMS Light サーバのシステムを構築するときに追加・変更が必要な項目だけを説明しています。各前提ソフトウェアの構築方法についての詳細は、各前提ソフトウェアのマニュアルを参照してください。

4.2 HiRDB の環境設定

CMS Light サーバで送受信したビジネスメッセージや取引先の情報を格納するデータベースを構築します。ここでは、データベースとなる HiRDB のテーブルの容量を見積もる方法、およびテーブルの作成方法について説明します。HiRDB の環境設定の詳細については、マニュアル「HiRDB システム導入・設計ガイド」を参照してください。

「3.1 データベースサーバの容量の見積もり」で見積もった次の内容を基に、HiRDB の容量を見積もり、テーブルを作成します。

- 同時に送受信するビジネスメッセージの最大数
- 取引するクライアント企業の数
- データベースに蓄積されるビジネスメッセージの最大数
- 交換するドキュメントの最大長

4.2.1 データベース接続数の計算

HiRDB のシステム定義 (pd_max_users オペランド) に設定する、データベースへの最大同時接続数を見積もります。最大同時接続数は、実際の同時接続数よりも余裕を持たせる必要があるため、次の式のとおりに見積もってください。

(CMS Lightサーバで同時に送受信するビジネスメッセージの最大数) + 5

4.2.2 レコード件数の計算

作成する各テーブルの最大レコード件数を見積もります。各テーブルの最大レコード件数の求め方を、次に示します。

表 4-1 レコード件数の見積もり式

| 項番 | テーブル名 | 用途 | テーブルの最大レコード件数 |
|----|---------------------|--------------|-------------------------------------------------------|
| 1 | HSRSPartnerInfo | 取引先情報を格納 | 取引するクライアント企業の数 |
| 2 | HSRSPartnerUri | 取引先 URI を格納 | 取引するクライアント企業の数 |
| 3 | HSRSMMessageArchive | ビジネスメッセージを格納 | (データベースに蓄積される送信メッセージの最大数) + (データベースに蓄積される受信メッセージの最大数) |

4.2.3 ユーザー用 RD エリアの生成

CMS Light サーバが使用する、ユーザー用 RD エリアを生成します。

ここでは、生成するユーザー用 RD エリアの種類と、ユーザー用 RD エリアのセグメント数の見積もりについて説明します。

4. システムの構築

(1) 生成する HiRDB のユーザー用 RD エリアの種類

CMS Light サーバが使用するユーザー用 RD エリアの種類を次に示します。

表 4-2 CMS Light サーバが使用するユーザー用 RD エリアの種類

| 項番 | ユーザー用 RD エリア名 | 用途 |
|----|---------------|----------------------------------------|
| 1 | RDHSRSPI | HSRSPartnerInfo テーブルの RD エリア |
| 2 | RDHSRSPU | HSRSPartnerUri テーブルの RD エリア |
| 3 | RDHSRSMA | HSRSMessageArchive テーブルの RD エリア |
| 4 | RDHSRSMALOB | HSRSMessageArchive テーブルの BLOB 用 RD エリア |
| 5 | RDHSRSPIUI | HSRSPartnerInfo テーブルのインデクス用 RD エリア |
| 6 | RDHSRSPUII | HSRSPartnerUri テーブルのインデクス用 RD エリア |
| 7 | RDHSRSMAUI | HSRSMessageArchive テーブルのインデクス用 RD エリア |

(2) ユーザー用 RD エリアのセグメント数の見積もり

実際にユーザー用 RD エリアを生成する前に、各ユーザー用 RD エリアのセグメント数を見積もる必要があります。セグメント数の見積もりに必要な情報を、次に示します。

テーブルに関する情報

ユーザー用 RD エリアのセグメント数の見積もりに必要な、テーブルに関する情報を次に示します。

表 4-3 ユーザー用 RD エリアのセグメント数の見積もり (テーブル情報)

| 項番 | ユーザー用 RD エリア名 | 対応するテーブル名 | 列数 | レコード長 (バイト) |
|----|---------------|--------------------|----|-------------|
| 1 | RDHSRSPI | HSRSPartnerInfo | 2 | 68 |
| 2 | RDHSRSPU | HSRSPartnerUri | 1 | 256 |
| 3 | RDHSRSMA | HSRSMessageArchive | 10 | 987 |

インデクスに関する情報

ユーザー用 RD エリアのセグメント数の見積もりに必要な、インデクスに関する情報を次に示します。なお、インデクス名は重複しません。

表 4-4 ユーザー用 RD エリアのセグメント数の見積もり (インデクス情報)

| 項番 | ユーザー用 RD エリア名 | 対応するインデクス名 | 列数 | キー長 (バイト) |
|----|---------------|----------------------------|----|-----------|
| 1 | RDHSRSPIUI | HSRSPartnerInfoUniqueIndex | 1 | 64 |

| 項番 | ユーザー用 RD エリア名 | 対応するインデクス名 | 列数 | キー長 (バイト) |
|----|---------------|-------------------------------|----|-----------|
| 2 | RDHSRSPUUI | HSRSPartnerUriUniqueIndex | 1 | 256 |
| 3 | RDHSRSMAUI | HSRSMessageArchiveUniqueIndex | 3 | 384 |

4.2.4 テーブルの作成

CMS Light サーバは、HiRDB のテーブルを作成するための SQL サンプルを提供しています。テーブル作成時、次の SQL サンプルのテーブルを編集して使用します。

テーブル名

HSRSMessageArchive

格納場所

- Windows の場合
<CMS Light サーバのインストールディレクトリ>%sample%sql
- UNIX の場合
/opt/ebxml/mssl/sample/sql

編集箇所

DocumentData BLOB()

括弧内に、交換するドキュメントの最大長を指定します。交換するドキュメントの最大長は、ドキュメントの最大ファイルサイズを 1.4 倍して小数点以下を切り上げた値です。

指定値の単位はバイト、KB、MB、または GB です。KB、MB、GB の場合、単位記号をそれぞれ "K"、"M"、"G" と表記します。ドキュメントの最大ファイルサイズが 1,048,576 バイト、ドキュメントの最大長が 1,468,007 バイトの場合の指定例を、次に示します。

```
CREATE TABLE HSRSMessageArchive (
  SenderId MVARCCHAR(63) NOT NULL,
  ReceiverId MVARCCHAR(63) NOT NULL,
  MessageId MVARCCHAR(255) NOT NULL,
  DocumentData BLOB(1468007) IN RDHSRSMALOB NOT NULL,
  FormatType MVARCCHAR(255) NOT NULL,
  DocumentType MVARCCHAR(255) NOT NULL,
  CompressType MVARCCHAR(63) NOT NULL,
  DocumentState INTEGER NOT NULL WITH DEFAULT,
  ReceiveDate TIMESTAMP NOT NULL,
  ReceiveCompleteDate TIMESTAMP
) IN RDHSRSMA;
```

4.3 CMS Light サーバの環境設定

CMS Light サーバの環境設定について説明します。

4.3.1 ディレクトリ構成

ここでは、CMS Light サーバが動作するディレクトリ構成について説明します。CMS Light サーバのインストールディレクトリを次に示します。

Windows の場合

ユーザーは、CMS Light サーバのインストールディレクトリを任意で設定できます。Windows の場合の、デフォルトのインストールディレクトリを次に示します。
C:\Program Files\Hitachi\ebxml\mssl

UNIX の場合

UNIX の場合のインストールディレクトリを次に示します。
/opt/ebxml/mssl

CMS Light サーバのディレクトリ構成を、次に示します。

表 4-5 ディレクトリ構成 (Windows の場合)

| ディレクトリ名 | ファイル名 | 説明 |
|----------------------------------|----------------------------|------------------------------------------|
| <CMS Light サーバのインストールディレクトリ>\bin | - | コマンド格納ディレクトリ |
| | HSRSRegisterPartner.bat | HSRSRegisterPartner コマンド (取引先識別子登録) |
| | HSRSRemovePartner.bat | HSRSRemovePartner コマンド (取引先識別子削除) |
| | HSRSStartBusiness.bat | HSRSStartBusiness コマンド (取引先状態変更 (取引開始)) |
| | HSRSStopBusiness.bat | HSRSStopBusiness コマンド (取引先状態変更 (取引停止)) |
| | HSRSRegisterPartnerUri.bat | HSRSRegisterPartnerUri コマンド (取引先 URI 登録) |
| | HSRSRemovePartnerUri.bat | HSRSRemovePartnerUri コマンド (取引先 URI 削除) |
| | HSRSPutMessage.bat | HSRSPutMessage コマンド (ビジネスメッセージ登録) |
| | HSRSGetMessage.bat | HSRSGetMessage コマンド (ビジネスメッセージ取得) |
| | HSRSRemoveMessage.bat | HSRSRemoveMessage コマンド (ビジネスメッセージ削除) |

| ディレクトリ名 | ファイル名 | 説明 |
|------------------------------------------------|---------------------------|--------------------------------------------------|
| | HSRSCompleteMessage.bat | HSRSCompleteMessage コマンド (ドキュメント状態変更 (強制完了)) |
| | HSRSUncompleteMessage.bat | HSRSUncompleteMessage コマンド (ドキュメント状態変更 (強制引き戻し)) |
| | HSRSSetEnv.bat | コマンド環境設定ファイル |
| <CMS Light サーバのインストールディレクトリ >¥conf | - | 定義ファイル格納ディレクトリ |
| <CMS Light サーバのインストールディレクトリ >¥lib | - | ライブラリ格納ディレクトリ |
| | HSRSapp.ear | EAR ファイル (ビジネスメッセージ送受信アプリケーション) |
| | HSRSgui.ear | EAR ファイル (状況照会アプリケーション) |
| | HSRScmd.jar | JAR ファイル (コマンド) |
| <CMS Light サーバのインストールディレクトリ >¥sample | - | サンプル格納ディレクトリ |
| <CMS Light サーバのインストールディレクトリ >¥sample¥conf | - | 定義ファイルのサンプル格納ディレクトリ |
| | HSRSconf.properties | サーバ共通定義ファイルのサンプル |
| | HiRDB.ini | HiRDB.ini ファイルのサンプル |
| <CMS Light サーバのインストールディレクトリ >¥sample¥sql | - | SQL サンプル格納ディレクトリ |
| | HSRSPartnerInfo.sql | HiRDB のテーブル (HSRSPartnerInfo) 作成用 SQL |
| | HSRSPartnerUri.sql | HiRDB のテーブル (HSRSPartnerUri) 作成用 SQL |
| | HSRSMessageArchive.sql | HiRDB のテーブル (HSRSMessageArchive) 作成用 SQL |
| <CMS Light サーバのインストールディレクトリ >¥patch_backup_dir | - | 修正パッチ適用時のバックアップディレクトリ |

(凡例)

- : ファイルが格納されているディレクトリです。

4. システムの構築

表 4-6 ディレクトリ構成 (UNIX の場合)

| ディレクトリ名 | ファイル名 | 説明 |
|-----------------------------|------------------------|---------------------------------------------------------|
| /opt/ebxml/mssl/bin | - | コマンド格納ディレクトリ |
| | HSRSRegisterPartner | HSRSRegisterPartner コマンド (取引先識別子登録) |
| | HSRSRemovePartner | HSRSRemovePartner コマンド (取引先識別子削除) |
| | HSRSStartBusiness | HSRSStartBusiness コマンド (取引先状態変更 (取引開始)) |
| | HSRSStopBusiness | HSRSStopBusiness コマンド (取引先状態変更 (取引停止)) |
| | HSRSRegisterPartnerUri | HSRSRegisterPartnerUri コマ ンド (取引先 URI 登録) |
| | HSRSRemovePartnerUri | HSRSRemovePartnerUri コマ ンド (取引先 URI 削除) |
| | HSRSPutMessage | HSRSPutMessage コマンド (ビ ジネスメッセージ登録) |
| | HSRSGetMessage | HSRSGetMessage コマンド (ビ ジネスメッセージ取得) |
| | HSRSRemoveMessage | HSRSRemoveMessage コマンド (ビジネスメッセージ削除) |
| | HSRSCompleteMessage | HSRSCompleteMessage コマン ド (ドキュメント状態変更 (強 制完了)) |
| | HSRSUncompleteMessage | HSRSUncompleteMessage コマ ンド (ドキュメント状態変更 (強制引き戻し)) |
| HSRSSetEnv | コマンド環境設定ファイル | |
| /opt/ebxml/mssl/conf | - | 定義ファイル格納ディレクトリ |
| /opt/ebxml/mssl/lib | - | ライブラリ格納ディレクトリ |
| | HSRSapp.ear | EAR ファイル (ビジネスメッ セージ送受信アプリケーション) |
| | HSRSgui.ear | EAR ファイル (状況照会アプリ ケーション) |
| | HSRSemd.jar | JAR ファイル (コマンド) |
| /opt/ebxml/mssl/sample | - | サンプル格納ディレクトリ |
| /opt/ebxml/mssl/sample/conf | - | 定義ファイルのサンプル格納 ディレクトリ |
| | HSRSconf.properties | サーバ共通定義ファイルのサン プル |
| | HiRDB.ini | HiRDB.ini ファイルのサンプル |

| ディレクトリ名 | ファイル名 | 説明 |
|----------------------------|-------------------------|----------------------------------------------------|
| /opt/ebxml/mssl/sample/sql | - | SQL サンプル格納ディレクトリ |
| | HSRSPartnerInfo.sql | HiRDB のテーブル (HSRSPartnerInfo) 作成用 SQL |
| | HSRSPartnerUri.sql | HiRDB のテーブル (HSRSPartnerUri) 作成用 SQL |
| | HSRSMMessageArchive.sql | HiRDB のテーブル (HSRSMMessageArchive) 作成 用 SQL |

(凡例)

- : ファイルが格納されているディレクトリです。

4.3.2 サーバ共通定義ファイルの作成

サーバ共通定義ファイルを作成して、CMS Light サーバの実行環境を定義します。作成したサーバ共通定義ファイルは次のファイル名で保存してください。

Windows の場合

<CMS Light サーバのインストールディレクトリ >¥conf¥HSRScnf.properties

UNIX の場合

/opt/ebxml/mssl/conf/HSRScnf.properties

サーバ共通定義ファイルでは、CMS Light サーバのシステムの情報、ログの出力情報、ドキュメントファイルの出力情報、状況照会 GUI の設定情報などを定義します。サーバ共通定義ファイルの詳細については、「8.2 サーバ共通定義ファイル」を参照してください。

【例】

サーバ共通定義ファイルの設定例を次に示します。

• Windows の場合

```
ebxml.mssl.server.id = S0000000000000000
ebxml.mssl.server.uri = S0000000000000000.com
ebxml.mssl.server.persist.duration = 86400

ebxml.mssl.receive.output.success.path = C:/Program Files/Hitachi/ebxml/mssl/
receive/success
ebxml.mssl.receive.output.failure.path = C:/Program Files/Hitachi/ebxml/mssl/
receive/failure

ebxml.mssl.app.message.log.level = 10
ebxml.mssl.app.message.log.size = 1048576
ebxml.mssl.app.message.log.count = 10
ebxml.mssl.app.message.log.path = C:/Program Files/Hitachi/ebxml/mssl/log
```

4. システムの構築

```
ebxml.mssl.app.trace.log.level = 10
ebxml.mssl.app.trace.log.size = 1048576
ebxml.mssl.app.trace.log.count = 10
ebxml.mssl.app.trace.log.path = C:/Program Files/Hitachi/ebxml/mssl/log

ebxml.mssl.app.error.log.size = 1048576
ebxml.mssl.app.error.log.count = 10
ebxml.mssl.app.error.log.path = C:/Program Files/Hitachi/ebxml/mssl/log

ebxml.mssl.size.document.data = 1468007

ebxml.mssl.gui.admin.loginid = admin
ebxml.mssl.gui.admin.password = pwadmin
ebxml.mssl.gui.view.linenum = 10,20,30,40,50

ebxml.mssl.gui.trace.log.level = 10
ebxml.mssl.gui.trace.log.size = 1048576
ebxml.mssl.gui.trace.log.count = 10
ebxml.mssl.gui.trace.log.path = C:/Program Files/Hitachi/ebxml/mssl/log

ebxml.mssl.gui.error.log.size = 1048576
ebxml.mssl.gui.error.log.count = 10
ebxml.mssl.gui.error.log.path = C:/Program Files/Hitachi/ebxml/mssl/log

ebxml.mssl.cmd.db.user = hrsrdb
ebxml.mssl.cmd.db.password = pwhrsrdb
ebxml.mssl.cmd.db.url = jdbc:hitachi:dbplib://
DB=HIRDB,DBID=@DABENVGRP=HSRSDB,ENCODELANG=MS932
ebxml.mssl.cmd.db.jdbc.driver =
JP.co.Hitachi.soft.DBPSV_Driver.JdbcDbpsvDriver

ebxml.mssl.cmd.trace.log.level = 10
ebxml.mssl.cmd.trace.log.size = 1048576
ebxml.mssl.cmd.trace.log.count = 10
ebxml.mssl.cmd.trace.log.path = C:/Program Files/Hitachi/ebxml/mssl/log

ebxml.mssl.cmd.error.log.size = 1048576
ebxml.mssl.cmd.error.log.count = 10
ebxml.mssl.cmd.error.log.path = C:/Program Files/Hitachi/ebxml/mssl/log

ebxml.mssl.jplevent.app.PUTDOCUMENT = false
ebxml.mssl.jplevent.app.RECEIVEOUTPUT = false
ebxml.mssl.jplevent.app.RECEIVEOUTPUT-ERROR = false
ebxml.mssl.jplevent.app.GETDOCUMENT = false
ebxml.mssl.jplevent.app.CONFIRMDOCUMENT = false

ebxml.mssl.jplevent.gui.COMPLETEMESSAGE = false
ebxml.mssl.jplevent.gui.UNCOMPLETEMESSAGE = false

ebxml.mssl.jplevent.cmd.PUTMESSAGE = false
ebxml.mssl.jplevent.cmd.GETMESSAGE = false
ebxml.mssl.jplevent.cmd.COMPLETEMESSAGE = false
ebxml.mssl.jplevent.cmd.UNCOMPLETEMESSAGE = false
```

```

ebxml.mssl.jplevent.PUTDOCUMENT.id = 3825
ebxml.mssl.jplevent.RECEIVEOUTPUT.id = 3826
ebxml.mssl.jplevent.RECEIVEOUTPUT-ERROR.id = 3827
ebxml.mssl.jplevent.GETDOCUMENT.id = 3828
ebxml.mssl.jplevent.CONFIRMDOCUMENT.id = 3829
ebxml.mssl.jplevent.PUTMESSAGE.id = 3830
ebxml.mssl.jplevent.GETMESSAGE.id = 3831
ebxml.mssl.jplevent.COMPLETMESSAGE.id = 3832
ebxml.mssl.jplevent.UNCOMPLETMESSAGE.id = 3833

```

- UNIX の場合

```

ebxml.mssl.server.id = S0000000000000000
ebxml.mssl.server.uri = S0000000000000000.com
ebxml.mssl.server.persist.duration = 86400

ebxml.mssl.receive.output.success.path = /opt/ebxml/mssl/receive/success
ebxml.mssl.receive.output.failure.path = /opt/ebxml/mssl/receive/failure

ebxml.mssl.app.message.log.level = 10
ebxml.mssl.app.message.log.size = 1048576
ebxml.mssl.app.message.log.count = 10
ebxml.mssl.app.message.log.path = /opt/ebxml/mssl/log

ebxml.mssl.app.trace.log.level = 10
ebxml.mssl.app.trace.log.size = 1048576
ebxml.mssl.app.trace.log.count = 10
ebxml.mssl.app.trace.log.path = /opt/ebxml/mssl/log

ebxml.mssl.app.error.log.size = 1048576
ebxml.mssl.app.error.log.count = 10
ebxml.mssl.app.error.log.path = /opt/ebxml/mssl/log

ebxml.mssl.size.document.data = 1468007

ebxml.mssl.gui.admin.loginid = admin
ebxml.mssl.gui.admin.password = pwadmin
ebxml.mssl.gui.view.linenum = 10,20,30,40,50

ebxml.mssl.gui.trace.log.level = 10
ebxml.mssl.gui.trace.log.size = 1048576
ebxml.mssl.gui.trace.log.count = 10
ebxml.mssl.gui.trace.log.path = /opt/ebxml/mssl/log

ebxml.mssl.gui.error.log.size = 1048576
ebxml.mssl.gui.error.log.count = 10
ebxml.mssl.gui.error.log.path = /opt/ebxml/mssl/log

ebxml.mssl.cmd.db.user = hrsrdb
ebxml.mssl.cmd.db.password = pwhrsrdb
ebxml.mssl.cmd.db.url = jdbc:hitachi:hirdb://DBID=@HIRDBENVGRP=/opt/ebxml/
mssl/conf/HirDB.ini,ENCODELANG=MS932
ebxml.mssl.cmd.db.jdbc.driver = JP.co.Hitachi.soft.HirDB.JDBC.HiRDBDriver

ebxml.mssl.cmd.trace.log.level = 10
ebxml.mssl.cmd.trace.log.size = 1048576
ebxml.mssl.cmd.trace.log.count = 10
ebxml.mssl.cmd.trace.log.path = /opt/ebxml/mssl/log

```

4. システムの構築

```
ebxml.mssl.cmd.error.log.size = 1048576
ebxml.mssl.cmd.error.log.count = 10
ebxml.mssl.cmd.error.log.path = /opt/ebxml/mssl/log

ebxml.mssl.jpivent.app.PUTDOCUMENT = false
ebxml.mssl.jpivent.app.RECEIVEOUTPUT = false
ebxml.mssl.jpivent.app.RECEIVEOUTPUT-ERROR = false
ebxml.mssl.jpivent.app.GETDOCUMENT = false
ebxml.mssl.jpivent.app.CONFIRMDOCUMENT = false

ebxml.mssl.jpivent.gui.COMPLETEMESSAGE = false
ebxml.mssl.jpivent.gui.UNCOMPLETEMESSAGE = false

ebxml.mssl.jpivent.cmd.PUTMESSAGE = false
ebxml.mssl.jpivent.cmd.GETMESSAGE = false
ebxml.mssl.jpivent.cmd.COMPLETEMESSAGE = false
ebxml.mssl.jpivent.cmd.UNCOMPLETEMESSAGE = false

ebxml.mssl.jpivent.PUTDOCUMENT.id = 3825
ebxml.mssl.jpivent.RECEIVEOUTPUT.id = 3826
ebxml.mssl.jpivent.RECEIVEOUTPUT-ERROR.id = 3827
ebxml.mssl.jpivent.GETDOCUMENT.id = 3828
ebxml.mssl.jpivent.CONFIRMDOCUMENT.id = 3829
ebxml.mssl.jpivent.PUTMESSAGE.id = 3830
ebxml.mssl.jpivent.GETMESSAGE.id = 3831
ebxml.mssl.jpivent.COMPLETEMESSAGE.id = 3832
ebxml.mssl.jpivent.UNCOMPLETEMESSAGE.id = 3833
```

4.4 環境変数の設定

マニュアル「Cosminexus システム構築ガイド」を参照して、環境変数を設定してください。ここでは、マニュアル「Cosminexus システム構築ガイド」で説明している以外に必要な環境変数について説明します。

Windows の場合

Windows の場合に設定が必要な環境変数を次に示します。

PATH

"<Cosminexus のインストールディレクトリ>%DAB%lib" を指定します。

この環境変数は、データベース接続に Cosminexus DABroker Library を使用する場合だけ指定してください。

【例】

設定例を次に示します。

```
C:%Program Files%Hitachi%Cosminexus%DAB%lib
```

CLASSPATH

アプリケーションサーバで使用する HiRDB 製品ごとに異なります。

HiRDB/Single Server または HiRDB/Parallel Server の場合

"<HiRDB のインストールディレクトリ>%client%utl%pdjdbc2.jar" を指定します。

HiRDB/Run Time の場合

"<HiRDB のインストールディレクトリ>%utl%pdjdbc2.jar" を指定します。

この環境変数は、データベース接続に HiRDB Type4 JDBC Driver を使用する場合だけ指定してください。

【例】

設定例を次に示します。

```
C:%Program Files%Hitachi%HiRDB%utl%pdjdbc2.jar
```

EBXML_MSSL_CMD_ENV

"-Xrs" を指定します。

この環境変数は、JP1/AJS2 を使って CMS Light サーバのコマンド実行を自動化する場合だけ指定してください。

UNIX の場合

UNIX の場合に設定が必要な環境変数を次に示します。

PATH

"/opt/jp1base/bin" を指定します。

4. システムの構築

この環境変数は、JP1 イベント連携を適用する場合だけ指定してください。

LD_LIBRARY_PATH

アプリケーションサーバで使用する HiRDB 製品ごとに異なります。

HiRDB/Single Server の場合

"/opt/HiRDB_S/client/lib" を指定します。

HiRDB/Parallel Server の場合

"/opt/HiRDB_P/client/lib" を指定します。

HiRDB/Run Time の場合

"/opt/HiRDB/client/lib" を指定します。

LANG

"ja_JP.UTF-8" を指定します。

umask

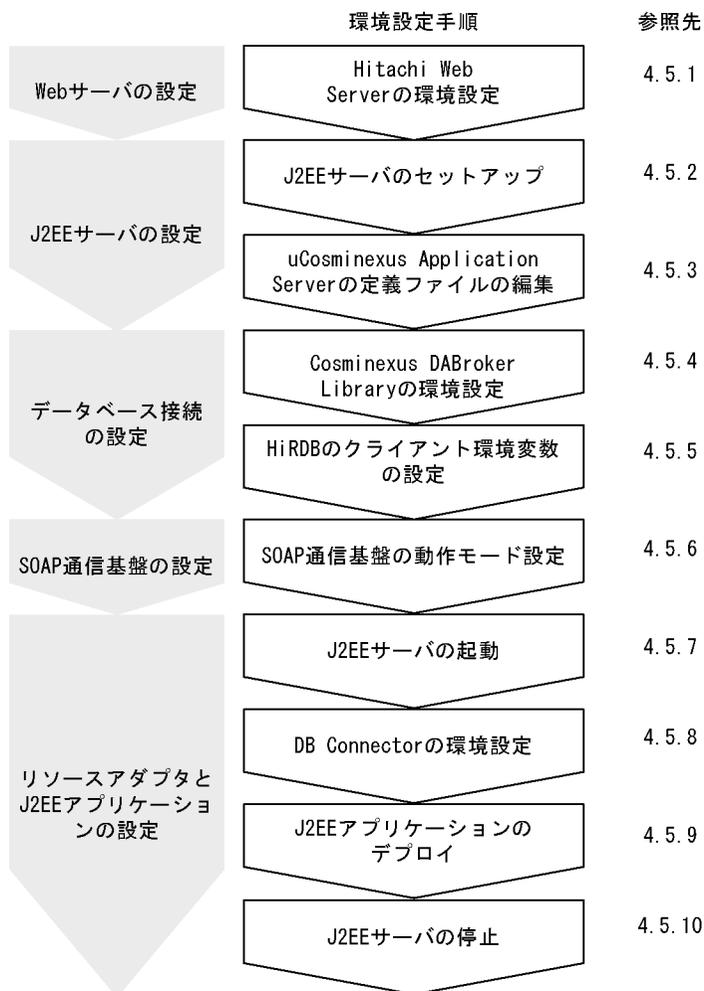
"000" を指定します。

4.5 uCosminexus Application Server の環境設定

ここでは、CMS Light サーバが使用する J2EE サーバを新しくセットアップし、必要な環境設定をする方法について説明します。uCosminexus Application Server の環境設定の詳細については、マニュアル「Cosminexus システム構築ガイド」を参照してください。

uCosminexus Application Server の環境設定手順を次に示します。

図 4-1 uCosminexus Application Server の環境設定手順



! 注意事項

- この節での説明は、J2EE サーバに指定したサーバ名称が "mssl" であることを前提にしています。
- この節での説明は、Cosminexus の Management Server を利用しないことを前提にしています。
- この節で使用する Windows の場合の例では、Cosminexus および CMS Light サーバのインストールディレクトリが次のとおりであることを前提にしています。
Cosminexus のインストールディレクトリ (Windows の場合)
C:\Program Files\Hitachi\Cosminexus
CMS Light サーバのインストールディレクトリ (Windows の場合)
C:\Program Files\Hitachi\ebxml\mssl

4.5.1 Hitachi Web Server の環境設定

CMS Light サーバのシステムの Web サーバである、Hitachi Web Server の環境設定をします。Hitachi Web Server の環境設定の詳細については、マニュアル「Cosminexus システム構築ガイド」を参照してください。また、HTTP ベーシック認証、および暗号化通信 (SSL サーバ認証) については、マニュアル「Hitachi Web Server」を参照してください。

定義ファイルのうち、編集する必要があるものを次に示します。

(1) Hitachi Web Server 用定義ファイル

ファイル名

httpsd.conf

格納場所

- Windows の場合
<Cosminexus のインストールディレクトリ>\httpsd\conf
- UNIX の場合
/opt/hitachi/httpsd/conf

ここでは、リダイレクタの設定、およびリクエストボディサイズの設定について説明します。Hitachi Web Server 用定義ファイルの詳細については、マニュアル「Hitachi Web Server」を参照してください。

(a) リダイレクタの設定

ファイルのいちばん下に、次の行を追加してください。

- Windows の場合

```
Include "<Cosminexusのインストールディレクトリ>\%CC%\web\redirector\mod_jk.conf"
```

- UNIX の場合

```
Include /opt/Cosminexus/CC/web/redirector/mod_jk.conf
```

【例】

設定例を次に示します。

- Windows の場合

```
Include "C:\Program Files\Hitachi\Cosminexus\CC\web\redirector\mod_jk.conf"
```

- UNIX の場合

```
Include /opt/Cosminexus/CC/web/redirector/mod_jk.conf
```

(b) リクエストボディサイズの設定

受信データのサイズの上限を設定します。CMS Light サーバでは、交換するドキュメントの最大長をサーバ共通定義ファイルで設定しています。CMS Light サーバでの不要な受信処理を減らすために、サーバ共通定義ファイルでの設定に加え、Hitachi Web Server 側でもリクエストボディサイズの制限を設定することを強く推奨します。

ファイルの任意の場所に、次のとおりに設定してください。

対象ディレクティブ

LimitRequestBody

編集内容

"LimitRequestBody" のあとに、サーバ共通定義ファイルのサイズ定義 (ebxml.mssl.size.document.data プロパティ) で設定したドキュメントの最大長に 4,096 を足した値を指定します。0 ~ 2,147,483,647 (バイト) の値を指定してください。サーバ共通定義ファイルの詳細については、「8.2 サーバ共通定義ファイル」を参照してください。

デフォルト値の 0 から値を変更しない場合、リクエストボディサイズの制限は設定されません。

【例】

リクエストボディサイズの制限値が 1,472,103 の場合の設定例を次に示します。

```
LimitRequestBody 1472103
```

(2) Hitachi Web Server 用リダイレクタ動作定義ファイル

ファイル名

mod_jk.conf

格納場所

- Windows の場合

4. システムの構築

<Cosminexus のインストールディレクトリ >¥CC¥web¥redirector

- UNIX の場合

/opt/Cosminexus/CC/web/redirector

編集内容

ファイルのいちばん下に、次の行を追加してください。

```
JkMount /mssl/app/* <ワーカ名>  
JkMount /mssl/gui/* <ワーカ名>
```

【例】

ワーカ名が "worker1" の場合の設定例を次に示します。

```
JkMount /mssl/app/* worker1  
JkMount /mssl/gui/* worker1
```

Hitachi Web Server 用リダイレクタ動作定義ファイルの詳細については、マニュアル「Cosminexus リファレンス 定義編」を参照してください。

4.5.2 J2EE サーバのセットアップ

uCosminexus Application Server の J2EE サーバのセットアップコマンド (cjsetup) を実行して、J2EE サーバをセットアップします。引数に指定するサーバ名称には、"mssl" を指定します。J2EE サーバのセットアップの詳細については、マニュアル「Cosminexus システム構築ガイド」を参照してください。セットアップコマンドの詳細については、マニュアル「Cosminexus リファレンス コマンド編」を参照してください。

【例】

実行例を次に示します。

- Windows の場合

```
C:¥>cd C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥server¥bin  
C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥server¥bin>cjsetup mssl
```

- UNIX の場合

```
# cd /opt/Cosminexus/CC/server/bin  
# ./cjsetup mssl
```

4.5.3 uCosminexus Application Server の定義ファイルの編集

uCosminexus Application Server の定義ファイルのうち、編集する必要があるものについて説明します。Cosminexus の定義ファイルの詳細については、マニュアル「Cosminexus リファレンス 定義編」を参照してください。

(1) J2EE サーバ用ユーザープロパティファイル

ファイル名

usrconf.properties

格納場所

- Windows の場合
<Cosminexus のインストールディレクトリ >¥CC¥server¥usrconf¥ejb¥mssl
- UNIX の場合
/opt/Cosminexus/CC/server/usrconf/ejb/mssl

編集内容

ファイルのいちばん下に、次の行を追加してください。値に "¥" が含まれている場合は "¥¥" のように重ねて記述する必要があります。

```
ebxml.mssl.home=<CMS Lightサーバのインストールディレクトリ>
```

! 注意事項

値に全角文字が含まれている場合は、JDK 付属の native2ascii コマンドを使用してネイティブコード (Latin-1 および Unicode コード以外) を Unicode コードに変換してください。

【例】

編集例を次に示します。

- Windows の場合

```
ebxml.mssl.home=C:¥¥Program Files¥¥Hitachi¥¥ebxml¥¥mssl
```

- UNIX の場合

```
ebxml.mssl.home=/opt/ebxml/mssl
```

(2) J2EE サーバ用オプション定義ファイル

ファイル名

usrconf.cfg

格納場所

- Windows の場合
<Cosminexus のインストールディレクトリ >¥CC¥server¥usrconf¥ejb¥mssl
- UNIX の場合
/opt/Cosminexus/CC/server/usrconf/ejb/mssl

編集内容

ファイルのいちばん下に、次の行を追加してください。

4. システムの構築

- Windows の場合

```
add.class.path=<Program Filesディレクトリ  
>¥Hitachi¥HNTRLib2¥classes¥hntrlibMj.jar  
add.class.path=<HiRDB Type4 JDBC DriverのJARファイル (pdjdbc2.jar) のパス>
```

2行目は、データベース接続に HiRDB Type4 JDBC Driver を使用する場合だけ、追加してください。なお、HiRDB Type4 JDBC Driver の JAR ファイルのパスは、アプリケーションサーバで使用する HiRDB 製品によって異なります。HiRDB 製品ごとの HiRDB Type4 JDBC Driver の JAR ファイルのパスを次に示します。

表 4-7 HiRDB 製品ごとの HiRDB Type4 JDBC Driver の JAR ファイルのパス (Windows の場合)

| HiRDB 製品 | HiRDB Type4 JDBC Driver の JAR ファイルのパス |
|-----------------------|-----------------------------------------------|
| HiRDB/Single Server | <HiRDB のインストールディレクトリ >¥client¥utl¥pdjdbc2.jar |
| HiRDB/Parallel Server | |
| HiRDB/Run Time | <HiRDB のインストールディレクトリ >¥utl¥pdjdbc2.jar |

- UNIX の場合

```
add.class.path=/opt/hitachi/HNTRLib2/classes/hntrlibMj64.jar  
add.class.path=<HiRDB Type4 JDBC DriverのJARファイル (pdjdbc2.jar) のパス>
```

HiRDB Type4 JDBC Driver の JAR ファイルのパスは、アプリケーションサーバで使用する HiRDB 製品によって異なります。HiRDB 製品ごとの HiRDB Type4 JDBC Driver の JAR ファイルのパスを次に示します。

表 4-8 HiRDB 製品ごとの HiRDB Type4 JDBC Driver の JAR ファイルのパス (UNIX の場合)

| HiRDB 製品 | HiRDB Type4 JDBC Driver の JAR ファイルのパス |
|-----------------------|---------------------------------------|
| HiRDB/Single Server | /opt/HiRDB_S/client/lib/pdjdbc2.jar |
| HiRDB/Parallel Server | /opt/HiRDB_P/client/lib/pdjdbc2.jar |
| HiRDB/Run Time | /opt/HiRDB/client/lib/pdjdbc2.jar |

【例】

編集例を次に示します。

- Windows の場合

ここでは、Program Files ディレクトリを "C:¥Program Files" としています。

```
add.class.path=C:¥Program Files¥Hitachi¥HNTRLib2¥classes¥hntrlibMj.jar  
add.class.path=C:¥Program Files¥Hitachi¥HiRDB¥utl¥pdjdbc2.jar
```

- UNIX の場合

```
add.class.path=/opt/hitachi/HNTRLib2/classes/hntrlibMj64.jar
add.class.path=/opt/HiRDB/client/lib/pdjdbc2.jar
```

(3) J2EE サーバ用セキュリティポリシーファイル

ファイル名

server.policy

格納場所

- Windows の場合
 <Cosminexus のインストールディレクトリ>\¥CC¥server¥usrconf¥ejb¥mssl
- UNIX の場合
 /opt/Cosminexus/CC/server/usrconf/ejb/mssl

編集内容

ファイルに grant エントリを追加し、内容を設定します。次に示すとおりを設定してください。

```
grant codeBase "file:${ejbserver.http.root}/web/${ejbserver.serverName}/
mssl$2fapp/-" {
    permission java.net.SocketPermission "*", "connect, resolve";
    permission java.io.FilePermission "<<ALL FILES>>", "read, write, delete,
execute";
    permission java.util.PropertyPermission "*", "read";
};

grant codeBase "file:${ejbserver.http.root}/web/${ejbserver.serverName}/
mssl$2fgui/-" {
    permission java.net.SocketPermission "*", "connect, resolve";
    permission java.io.FilePermission "<<ALL FILES>>", "read, execute";
    permission java.util.PropertyPermission "*", "read";
};
```

(4) 保護区リストファイル

ファイル名

criticalList.cfg

格納場所

- Windows の場合
 <Cosminexus のインストールディレクトリ>\¥CC¥server¥usrconf
- UNIX の場合
 /opt/Cosminexus/CC/server/usrconf

編集内容

ファイルのいちばん下に、次の行を追加してください。

```
jp.co.hitachi.soft.ebxml.mssl.app.AppEntityResolver  
jp.co.hitachi.soft.ebxml.mssl.app.uoc.ReceiveFileOutput  
jp.co.hitachi.soft.ebxml.mssl.common.Const  
jp.co.hitachi.soft.ebxml.mssl.common.ErrorLogManager  
jp.co.hitachi.soft.ebxml.mssl.common.GUID  
jp.co.hitachi.soft.ebxml.mssl.common.LogManager  
jp.co.hitachi.soft.ebxml.mssl.common.MessageLogManager  
jp.co.hitachi.soft.ebxml.mssl.common.MessageResource  
jp.co.hitachi.soft.ebxml.mssl.common.PropertyLoader  
jp.co.hitachi.soft.ebxml.mssl.common.TraceLogManager  
jp.co.hitachi.soft.ebxml.mssl.common.JP1Event
```

4.5.4 Cosminexus DABroker Library の環境設定

CMS Light サーバと HiRDB とを連携させるために使用する Cosminexus DABroker Library に必要な動作環境設定について説明します。データベース接続に Cosminexus DABroker Library を使用する場合だけ設定してください。Cosminexus DABroker Library の動作環境設定の詳細については、マニュアル「Cosminexus システム構築ガイド」を参照してください。

！ 注意事項

UNIX を使用する場合、データベース接続に HiRDB Type4 JDBC Driver を使用するため、この設定は不要です。

[DABroker 動作環境設定] ダイアログを表示させて、次の設定をしてください。

1. [リモートアクセス設定] タブを選択します。
2. HiRDB の BLOB 型データ受取バッファサイズ (バイト) を指定します。
サーバ共通定義ファイルのサイズ定義 (ebxml.mssl.size.document.data プロパティ) に指定するサイズと同じ値を指定します。サーバ共通定義ファイルの詳細については、「8.2 サーバ共通定義ファイル」を参照してください。
3. [DABroker 動作環境設定] ダイアログでの必要事項の設定が終わったら、[OK] ボタンをクリックしてダイアログを閉じます。

4.5.5 HiRDB のクライアント環境変数の設定

HiRDB のクライアント環境変数の設定をします。HiRDB のクライアント環境変数の設定方法は、使用する OS ごとに異なります。HiRDB の環境変数の詳細については、マニュアル「HiRDB UAP 開発ガイド」を参照してください。

(1) Windows の場合

データベース接続に使用するドライバの種類によって、設定方法が異なります。それぞれの設定方法について説明します。

(a) データベース接続に Cosminexus DABroker Library を使用する場合

HiRDB クライアント環境変数登録ツールを起動して、次に示す項目を設定してください。

! 注意事項

HiRDB クライアント環境変数登録ツールでシステムグループを選択してから設定してください。

グループ名称

HSRSDB を指定します。

PDHOST

HiRDB がインストールされているマシンのホスト名を指定します。

PDUSER 設定

- ユーザ ID
データベースに接続するユーザーのユーザー ID を指定します。
- パスワード
データベースに接続するユーザーのパスワードを指定します。

PDNAMEPORT

HiRDB のポート番号を指定します。

PDSWAITTIME

J2EE サーバのトランザクションタイムアウトの値よりも大きな値を指定します。
トランザクションタイムアウトの設定については、マニュアル「Cosminexus システム設計ガイド」を参照してください。

PDCWAITTIME

J2EE サーバのトランザクションタイムアウトの値よりも大きな値を指定します。
トランザクションタイムアウトの設定については、マニュアル「Cosminexus システム設計ガイド」を参照してください。

PDSWATCHTIME

0 を指定します。

(b) データベース接続に HiRDB Type4 JDBC Driver を使用する場合

HiRDB.ini ファイルを編集して、HiRDB のクライアント環境変数を設定します。CMS Light サーバは、HiRDB.ini ファイルのサンプルを提供しています。次のサンプルを任意のディレクトリにコピーして編集してください。

格納場所

<CMS Light サーバのインストールディレクトリ>¥sample¥conf

4. システムの構築

設定項目

PDHOST

HiRDB がインストールされているマシンのホスト名を指定します。

PDUSER

データベースに接続するユーザーのユーザー ID , パスワードを指定します。

PDNAMEPORT

HiRDB のポート番号を指定します。

PDSWAITTIME

J2EE サーバのトランザクションタイムアウトの値よりも大きな値を指定します。

トランザクションタイムアウトの設定については、マニュアル「Cosminexus システム設計ガイド」を参照してください。

PDCWAITTIME

J2EE サーバのトランザクションタイムアウトの値よりも大きな値を指定します。

トランザクションタイムアウトの設定については、マニュアル「Cosminexus システム設計ガイド」を参照してください。

PDSWATCHTIME

0 を指定します。

(2) UNIX の場合

HiRDB.ini ファイルを編集して、HiRDB のクライアント環境変数を設定します。CMS Light サーバは、HiRDB.ini ファイルのサンプルを提供しています。次のサンプルを任意のディレクトリにコピーして編集してください。推奨する HiRDB.ini ファイルのディレクトリは、`/opt/ebxml/mssl/conf` です。

格納場所

`/opt/ebxml/mssl/sample/conf`

設定項目

PDHOST

HiRDB がインストールされているマシンのホスト名を指定します。

PDUSER

データベースに接続するユーザーのユーザー ID , パスワードを指定します。

PDNAMEPORT

HiRDB のポート番号を指定します。

PDSWAITTIME

J2EE サーバのトランザクションタイムアウトの値よりも大きな値を指定します。

トランザクションタイムアウトの設定については、マニュアル「Cosminexus システム設計ガイド」を参照してください。

PDCWAITTIME

J2EE サーバのトランザクションタイムアウトの値よりも大きな値を指定します。

トランザクションタイムアウトの設定については、マニュアル「Cosminexus システム設計ガイド」を参照してください。

PDSWATCHTIME

0 を指定します。

4.5.6 SOAP 通信基盤の動作モード設定

CMS Light サーバが使用する SOAP 通信基盤の動作モードを設定します。SOAP 通信基盤の動作モードには、"std" を指定します。SOAP 通信基盤の動作モード設定の詳細については、マニュアル「Cosminexus SOAP アプリケーション開発ガイド」を参照してください。SOAP 通信基盤の動作モードを設定する前に、SOAP 通信基盤の前提ソフトウェアである WSDL4J がインストールされていることを確認してください。

【例】

実行例を次に示します。

- Windows の場合

```
C:¥>cd C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥c4web¥bin
C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥c4web¥bin>setup_mode.bat std
```

- UNIX の場合

```
# cd /opt/Cosminexus/c4web/bin
# ./setup_mode.sh std
```

4.5.7 J2EE サーバの起動

J2EE サーバを起動します。Cosminexus の J2EE サーバ起動コマンド (cjstartsv) を実行し、J2EE サーバが正しく起動できるか確認してください。引数に指定するサーバ名称には、"mssl" を指定してください。

コマンドの詳細については、マニュアル「Cosminexus リファレンス コマンド編」を参照してください。

【例】

実行例を次に示します。

- Windows の場合

```
C:¥>cd C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥server¥bin
C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥server¥bin>cjstartsv mssl
```

4. システムの構築

- UNIX の場合

```
# cd /opt/Cosminexus/CC/server/bin
# ./cjstartsv mssl
```

4.5.8 DB Connector の環境設定

リソースアダプタである DB Connector の環境設定について説明します。DB Connector の環境設定には、Cosminexus のサーバ管理コマンドを使用します。サーバ管理コマンドの操作方法については、マニュアル「Cosminexus アプリケーション設定操作ガイド」を参照してください。コマンドおよび属性ファイルの詳細については、マニュアル「Cosminexus リファレンス コマンド編」、およびマニュアル「Cosminexus リファレンス 定義編」を参照してください。

なお、使用する DB Connector は、データベース接続に使用するドライバの種類によって異なります。使用する DB Connector とそれぞれの参照先を次の表に示します。

表 4-9 使用する DB Connector と参照先

| OS | データベース接続に使用するドライバ | 使用する DB Connector | 参照先 |
|---------|-----------------------------|--------------------------------|----------|
| Windows | Cosminexus DABroker Library | DBConnector_DABJ_CP.rar | 4.5.8(1) |
| | HiRDB Type4 JDBC Driver | DBConnector_HiRDB_Type4_C Prar | 4.5.8(2) |
| UNIX | HiRDB Type4 JDBC Driver | DBConnector_HiRDB_Type4_C Prar | 4.5.8(2) |

(1) データベース接続に Cosminexus DABroker Library を使用する場合

データベース接続に Cosminexus DABroker Library を使用する場合の、DB Connector の環境設定の方法について説明します。

(a) DB Connector の環境設定の手順

DB Connector の環境設定の手順を次に示します。

1. DB Connector をインポートします。

リソースのインポートコマンド (cjimportres) を実行し、次のファイルをインポートしてください。

```
<Cosminexus のインストールディレクトリ
>¥CC¥DBConnector¥DBConnector_DABJ_CP.rar
```

【例】

J2EE サーバ "mssl" に、DB Connector をインポートする場合の実行例を次に示します。

```
C:\>cd C:\Program Files\Hitachi\Cosminexus\CC\admin\bin
C:\Program Files\Hitachi\Cosminexus\CC\admin\bin>cjimportres mssl -type rar -f
"C:\Program Files\Hitachi\Cosminexus\CC\DBConnector\DBConnector_DABJ_CP.rar"
```

2. インポートした DB Connector の表示名を確認します。

DB Connector をインポートすると、DB Connector の表示名 (resname) が自動的に設定されます。DB Connector のプロパティを定義したり、DB Connector を開始・停止したりする場合には、この表示名を使用して DB Connector を指定する必要があります。このため、リソースの一覧表示コマンド (cjlistres) を実行し、DB Connector の表示名を確認してください。

【例】

J2EE サーバ "mssl" にインポートした DB Connector の表示名を確認する場合の実行例を次に示します。

```
C:\>cd C:\Program Files\Hitachi\Cosminexus\CC\admin\bin
C:\Program Files\Hitachi\Cosminexus\CC\admin\bin>cjlistres mssl -type rar
KDJE37400-I Connecting to mssl...
DB_Connector_for_Cosminexus_Driver
KDJE37508-I All rars have been listed successfully. (number = [1])
```

実行例中の "DB_Connector_for_Cosminexus_Driver" が DB Connector の表示名です。

3. DB Connector の属性ファイル (Connector 属性ファイル) を取得します。

DB Connector のプロパティを定義するために、リソースの属性取得コマンド (cjgetresprop) を実行し、DB Connector の Connector 属性ファイルを取得してください。

【例】

J2EE サーバ "mssl" の DB Connector である "DB_Connector_for_Cosminexus_Driver" の Connector 属性ファイルを取得する場合の実行例を次に示します。なお、この例では、属性ファイルのパスに "C:\prop\DBConnector_Prop.xml" を指定しています。

```
C:\>cd C:\Program Files\Hitachi\Cosminexus\CC\admin\bin
C:\Program Files\Hitachi\Cosminexus\CC\admin\bin>cjgetresprop mssl -type rar
-resname DB_Connector_for_Cosminexus_Driver -c C:\prop\DBConnector_Prop.xml
```

4. Connector 属性ファイルを編集し、DB Connector のプロパティを定義します。

取得した Connector 属性ファイルをテキストエディタで編集し、プロパティを定義してください。プロパティの定義内容については、「4.5.8(1)(b) DB Connector のプロパティ定義」を参照してください。

5. Connector 属性ファイルに定義したプロパティを、DB Connector に設定します。

リソースの属性設定コマンド (cjsetresprop) を実行し、Connector 属性ファイルに定義したプロパティを DB Connector に反映させてください。

【例】

4. システムの構築

J2EE サーバ "mssl" の DB Connector である

"DB_Connector_for_Cosminexus_Driver" にプロパティを反映させる場合の実行例を次に示します。

```
C:¥>cd C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥admin¥bin
C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥admin¥bin>cjsetresprop mssl -type rar
-resname DB_Connector_for_Cosminexus_Driver -c C:¥prop¥DBConnector_Prop.xml
```

6. プロパティを定義した DB Connector を J2EE サーバにデプロイします。

リソースアダプタのデプロイコマンド (cjdeployrar) を実行し、DB Connector を J2EE サーバにデプロイしてください。

【例】

J2EE サーバ "mssl" に DB Connector である

"DB_Connector_for_Cosminexus_Driver" をデプロイする場合の実行例を次に示します。

```
C:¥>cd C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥admin¥bin
C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥admin¥bin>cjdeployrar mssl -resname
DB_Connector_for_Cosminexus_Driver
```

7. 接続テストを実施して、DB Connector に設定した内容が正しいかどうかを検証します。

リソースの接続テストコマンド (cjtestres) を実行し、接続テストを実施してください。

【例】

J2EE サーバ "mssl" の DB Connector である

"DB_Connector_for_Cosminexus_Driver" の接続テストを実施する場合の実行例を次に示します。

```
C:¥>cd C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥admin¥bin
C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥admin¥bin>cjtestres mssl -type rar
-resname DB_Connector_for_Cosminexus_Driver
```

8. DB Connector を開始します。

リソースアダプタの開始コマンド (cjstartrar) を実行し、DB Connector を正しく開始できるか確認してください。

【例】

J2EE サーバ "mssl" の DB Connector である

"DB_Connector_for_Cosminexus_Driver" を開始する場合の実行例を次に示します。

```
C:¥>cd C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥admin¥bin
C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥admin¥bin>cjstartrar mssl -resname
DB_Connector_for_Cosminexus_Driver
```

(b) DB Connector のプロパティ定義

取得した Connector 属性ファイルをテキストエディタで編集し、プロパティを定義します。

CMS Light サーバを使用する場合に設定する項目を次の表に示します。ほかの項目については、設定不要です。

表 4-10 DB Connector のプロパティの定義内容 (Cosminexus DABroker Library を使用する場合)

| 項番 | 項目 | 対応する Connector 属性ファイルのタグ | 設定内容 |
|----|------------------------------------|--------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | Cosminexus DABroker Library との接続種別 | <config-property> タグの networkProtocol | プロパティの値として, "lib" を指定します。 |
| 2 | 接続するデータベースの種別 | <config-property> タグの databaseName | プロパティの値として, "HIRDB" を指定します。 |
| 3 | 接続するデータベースに必要な接続付加情報 | <config-property> タグの description | プロパティの値として, "@DABENVGRP=HSRSDB" を指定します。 |
| 4 | エンコード文字形態 | <config-property> タグの encodLang | プロパティの値として, エンコード文字形態を指定します。 |
| 5 | LONGVARBINARY のデータベースアクセス方法 | <config-property> タグの LONGVARBINARY_Access | プロパティの値として, "LOCATOR" を指定します。 |
| 6 | コネクションプールにプールするコネクションの最大値 | <property> タグの MaxPoolSize | プロパティの値として, 「4.2.1 データベース接続数の計算」で見積もった, データベースへの最大接続数を指定します。 |
| 7 | コネクションプールにプールするコネクションの最小値 | <property> タグの MinPoolSize | プロパティの値として, 「4.2.1 データベース接続数の計算」で見積もった, データベースへの最大接続数から 5 を引いた数を指定します。 |
| 8 | データベースに接続するユーザーのユーザー ID | <property> タグの User | プロパティの値として, 「4.5.5(1)(a) データベース接続に Cosminexus DABroker Library を使用する場合」の PDUSER 設定で指定したユーザー ID を指定します。 |
| 9 | データベースに接続するユーザーのパスワード | <property> タグの Password | プロパティの値として, 「4.5.5(1)(a) データベース接続に Cosminexus DABroker Library を使用する場合」の PDUSER 設定で指定したパスワードを指定します。 |

Connector 属性ファイルの各タグでの定義方法を次に示します。

4. システムの構築

<config-property> タグの場合

- <config-property> タグ下の <config-property-name> で、プロパティ名を指定します。
- <config-property> タグ下の <config-property-type> で、プロパティのデータ型（CMS Light サーバを使用する場合に設定するプロパティではすべて "java.lang.String"）を指定します。
- <config-property> タグ下の <config-property-value> で、プロパティの値を指定します。

<property> タグの場合

- <property> タグ下の <property-name> で、プロパティ名を指定します。
- <property> タグ下の <property-type> で、プロパティのデータ型を指定します。
- <property> タグ下の <property-value> で、プロパティの値を指定します。

【例】

CMS Light サーバを使用する場合の Connector 属性ファイルの定義例を次に示します。

```

:
<config-property>
  <description></description>
  <config-property-name>networkProtocol</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
  <config-property-value>lib</config-property-value>
</config-property>
:
<config-property>
  <description></description>
  <config-property-name>databaseName</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
  <config-property-value>HIRDB</config-property-value>
</config-property>
<config-property>
  <description></description>
  <config-property-name>description</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
  <config-property-value>@DABENVGRP=HSRSDB</config-property-value>
</config-property>
:
<config-property>
  <description></description>
  <config-property-name>encodLang</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
  <config-property-value>MS932</config-property-value>
</config-property>
:
<property>
  <property-name>MaxPoolSize</property-name>
  <property-type>int</property-type>
  <property-value>10</property-value>
</property>
<property>
  <property-name>MinPoolSize</property-name>
  <property-type>int</property-type>
  <property-value>5</property-value>
</property>
:
<property>
  <property-name>User</property-name>
  <property-type>String</property-type>
  <property-value>hsrsdb</property-value>
</property>
<property>
  <property-name>Password</property-name>
  <property-type>String</property-type>
  <property-value>pwhsrsdb</property-value>
</property>
:

```

(2) データベース接続に HiRDB Type4 JDBC Driver を使用する場合

データベース接続に HiRDB Type4 JDBC Driver を使用する場合の、DB Connector の環境設定の方法について説明します。

(a) DB Connector の環境設定の手順

DB Connector の環境設定の手順を次に示します。

1. DB Connector をインポートします。

リソースのインポートコマンド (cjimportres) を実行し、次のファイルをインポートしてください。

- Windows の場合

4. システムの構築

<Cosminexus のインストールディレクトリ

>¥CC¥DBConnector¥DBConnector_HiRDB_Type4_CP.rar

- UNIX の場合

/opt/Cosminexus/CC/DBConnector/DBConnector_HiRDB_Type4_CP.rar

【例】

J2EE サーバ "mssl" に、DB Connector をインポートする場合の実行例を次に示します。

Windows の場合

```
C:¥>cd C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥admin¥bin
C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥admin¥bin>cjimportres mssl -type rar -f
"C:¥Program
Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥DBConnector¥DBConnector_HiRDB_Type4_CP.rar"
```

UNIX の場合

```
# cd /opt/Cosminexus/CC/admin/bin
# ./cjimportres mssl -type rar -f /opt/Cosminexus/CC/DBConnector/
DBConnector_HiRDB_Type4_CP.rar
```

2. インポートした DB Connector の表示名を確認します。

DB Connector をインポートすると、DB Connector の表示名 (resname) が自動的に設定されます。DB Connector のプロパティを定義したり、DB Connector を開始・停止したりする場合には、この表示名を使用して DB Connector を指定する必要があります。このため、リソースの一覧表示コマンド (cjlistres) を実行し、DB Connector の表示名を確認してください。

【例】

J2EE サーバ "mssl" にインポートした DB Connector の表示名を確認する場合の実行例を次に示します。実行例中の "DB_Connector_for_HiRDB_Type4" が DB Connector の表示名です。

Windows の場合

```
C:¥>cd C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥admin¥bin
C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥admin¥bin>cjlistres mssl -type rar
KDJE37400-I Connecting to mssl...
DB_Connector_for_HiRDB_Type4
KDJE37508-I All rars have been listed successfully. (number = [1])
```

UNIX の場合

```
# cd /opt/Cosminexus/CC/admin/bin
# ./cjlistres mssl -type rar
KDJE37400-I Connecting to mssl...
DB_Connector_for_HiRDB_Type4
KDJE37508-I All rars have been listed successfully. (number = [1])
```

3. DB Connector の属性ファイル (Connector 属性ファイル) を取得します。

DB Connector のプロパティを定義するために、リソースの属性取得コマンド (cjgetresprop) を実行し、DB Connector の Connector 属性ファイルを取得してくだ

さい。

【例】

J2EE サーバ "mssl" の DB Connector である

"DB_Connector_for_HiRDB_Type4" の Connector 属性ファイルを取得する場合の実行例を次に示します。

Windows の場合

ここでは、属性ファイルのパスに "C:\prop\DBConnector_Prop.xml" を指定しています。

```
C:\>cd C:\Program Files\Hitachi\Cosminexus\CC\admin\bin
C:\Program Files\Hitachi\Cosminexus\CC\admin\bin>cjgetresprop mssl -type rar
-resname DB_Connector_for_HiRDB_Type4 -c C:\prop\DBConnector_Prop.xml
```

UNIX の場合

ここでは、属性ファイルのパスに "/prop/DBConnector_Prop.xml" を指定しています。

```
# cd /opt/Cosminexus/CC/admin/bin
# ./cjgetresprop mssl -type rar -resname DB_Connector_for_HiRDB_Type4 -c /prop/DBConnector_Prop.xml
```

4. Connector 属性ファイルを編集し、DB Connector のプロパティを定義します。
取得した Connector 属性ファイルをテキストエディタで編集し、プロパティを定義してください。プロパティの定義内容については、「4.5.8(2)(b) DB Connector のプロパティ定義」を参照してください。
5. Connector 属性ファイルに定義したプロパティを、DB Connector に設定します。
リソースの属性設定コマンド (cjsetresprop) を実行し、Connector 属性ファイルに定義したプロパティを DB Connector に反映させてください。

【例】

J2EE サーバ "mssl" の DB Connector である

"DB_Connector_for_HiRDB_Type4" にプロパティを反映させる場合の実行例を次に示します。

Windows の場合

ここでは、属性ファイルのパスに "C:\prop\DBConnector_Prop.xml" を指定しています。

```
C:\>cd C:\Program Files\Hitachi\Cosminexus\CC\admin\bin
C:\Program Files\Hitachi\Cosminexus\CC\admin\bin>cjsetresprop mssl -type rar
-resname DB_Connector_for_HiRDB_Type4 -c C:\prop\DBConnector_Prop.xml
```

UNIX の場合

ここでは、属性ファイルのパスに "/prop/DBConnector_Prop.xml" を指定しています。

4. システムの構築

```
# cd /opt/Cosminexus/CC/admin/bin
# ./cjsetresprop mssl -type rar -resname DB_Connector_for_HiRDB_Type4 -c /prop/DBConnector_Prop.xml
```

6. プロパティを定義した DB Connector を J2EE サーバにデプロイします。
リソースアダプタのデプロイコマンド (cjdeployrar) を実行し、DB Connector を J2EE サーバにデプロイしてください。

【例】

J2EE サーバ "mssl" に DB Connector である
"DB_Connector_for_HiRDB_Type4" をデプロイする場合の実行例を次に示します。
Windows の場合

```
C:¥>cd C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥admin¥bin
C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥admin¥bin>cjdeployrar mssl -resname
DB_Connector_for_HiRDB_Type4
```

UNIX の場合

```
# cd /opt/Cosminexus/CC/admin/bin
# ./cjdeployrar mssl -resname DB_Connector_for_HiRDB_Type4
```

7. 接続テストを実施して、DB Connector に設定した内容が正しいかどうかを検証します。
リソースの接続テストコマンド (cjtestres) を実行し、接続テストを実施してください。

【例】

J2EE サーバ "mssl" の DB Connector である
"DB_Connector_for_HiRDB_Type4" の接続テストを実施する場合の実行例を次に示します。
Windows の場合

```
C:¥>cd C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥admin¥bin
C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥admin¥bin>cjtestres mssl -type rar
-resname DB_Connector_for_HiRDB_Type4
```

UNIX の場合

```
# cd /opt/Cosminexus/CC/admin/bin
# ./cjtestres mssl -type rar -resname DB_Connector_for_HiRDB_Type4
```

8. DB Connector を開始します。
リソースアダプタの開始コマンド (cjstartrar) を実行し、DB Connector を正しく開始できるか確認してください。

【例】

J2EE サーバ "mssl" の DB Connector である

"DB_Connector_for_HiRDB_Type4"を開始する場合の実行例を次に示します。

Windows の場合

```
C:\>cd C:\Program Files\Hitachi\Cosminexus\CC\admin\bin
C:\Program Files\Hitachi\Cosminexus\CC\admin\bin>cjstartrar mssl -resname
DB_Connector_for_HiRDB_Type4
```

UNIX の場合

```
# cd /opt/Cosminexus/CC/admin/bin
# ./cjstartrar mssl -resname DB_Connector_for_HiRDB_Type4
```

(b) DB Connector のプロパティ定義

取得した Connector 属性ファイルをテキストエディタで編集し、プロパティを定義します。

CMS Light サーバを使用する場合に設定する項目を次の表に示します。ほかの項目については、設定不要です。

表 4-11 DB Connector のプロパティの定義内容 (HiRDB Type4 JDBC Driver を使用する
場合)

| 項番 | 項目 | 対応する Connector 属性ファイルのタグ | 設定内容 |
|----|-----------------------------|--------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 接続するデータベースに必要な接続付加情報 | <config-property> タグの description | プロパティの値として、"@HIRDBENVGRP=<HiRDB.ini ファイルのパス >"を指定します。<HiRDB.ini ファイルのパス >には、「4.5.5 HiRDB のクライアント環境変数の設定」で作成した HiRDB.ini ファイルのパスを指定してください。半角スペースを含むパスを指定するときは、パス全体を"" (ダブルクォーテーション) で囲む必要があります。 |
| 2 | データ変換時の文字セット名称 | <config-property> タグの encodeLang | プロパティの値として、接続先の HiRDB の文字コードに対応する変換文字セットを指定します。 |
| 3 | LONGVARBINARY のデータベースアクセス方法 | <config-property> タグの LONGVARBINARY_Access | プロパティの値として、"LOCATOR" を指定します。 |
| 4 | コネクションプールにプールするコネクションの最大値 | <property> タグの MaxPoolSize | プロパティの値として、「4.2.1 データベース接続数の計算」で見積もった、データベースへの最大接続数を指定します。 |
| 5 | コネクションプールにプールするコネクションの最小値 | <property> タグの MinPoolSize | プロパティの値として、「4.2.1 データベース接続数の計算」で見積もった、データベースへの最大接続数から 5 を引いた数を指定します。 |

4. システムの構築

| 項番 | 項目 | 対応する Connector 属性ファイルのタグ | 設定内容 |
|----|------------------------|--------------------------|----------------------------------------------------------------------|
| 6 | データベースに接続するユーザーのユーザーID | <property> タグの User | プロパティの値として、「4.5.5 HiRDB のクライアント環境変数の設定」の PDUSER で指定したユーザー ID を指定します。 |
| 7 | データベースに接続するユーザーのパスワード | <property> タグの Password | プロパティの値として、「4.5.5 HiRDB のクライアント環境変数の設定」の PDUSER で指定したパスワードを指定します。 |

Connector 属性ファイルの各タグでの定義方法を次に示します。

<config-property> タグの場合

- <config-property> タグ下の <config-property-name> で、プロパティ名を指定します。
- <config-property> タグ下の <config-property-type> で、プロパティのデータ型（CMS Light サーバを使用する場合に設定するプロパティではすべて "java.lang.String"）を指定します。
- <config-property> タグ下の <config-property-value> で、プロパティの値を指定します。

<property> タグの場合

- <property> タグ下の <property-name> で、プロパティ名を指定します。
- <property> タグ下の <property-type> で、プロパティのデータ型を指定します。
- <property> タグ下の <property-value> で、プロパティの値を指定します。

【例】

CMS Light サーバを使用する場合の Connector 属性ファイルの定義例を次に示します。

- Windows の場合

```

:
<config-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <config-property-name>description</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
  <config-property-value>@HIRDBENVGRP="C:¥Program
Files¥Hitachi¥ebxml¥mssl¥conf¥HiRDB.ini"</config-property-value>
</config-property>
:
<config-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <config-property-name>encodeLang</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
  <config-property-value>MS932</config-property-value>
</config-property>
:
<config-property>
  <description xml:lang="en"></description>
  <config-property-name>LONGVARBINARY_Access</config-property-name>
  <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
  <config-property-value>LOCATOR</config-property-value>
</config-property>
:
<property>
  <property-name>MaxPoolSize</property-name>
  <property-type>int</property-type>
  <property-value>10</property-value>
  <property-default-value>10</property-default-value>
</property>
<property>
  <property-name>MinPoolSize</property-name>
  <property-type>int</property-type>
  <property-value>5</property-value>
  <property-default-value>10</property-default-value>
</property>
:
<property>
  <property-name>User</property-name>
  <property-type>String</property-type>
  <property-value>hsrsdb</property-value>
</property>
<property>
  <property-name>Password</property-name>
  <property-type>String</property-type>
  <property-value>pwhsrsdb</property-value>
</property>
:

```

- UNIX の場合

4. システムの構築

```
      :
    <config-property>
      <description xml:lang="en"></description>
      <config-property-name>description</config-property-name>
      <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
      <config-property-value>@HIRDBENVGRP=/opt/ebxml/mssl/conf/HiRDB.ini</
config-property-value>
    </config-property>
      :
    <config-property>
      <description xml:lang="en"></description>
      <config-property-name>encodeLang</config-property-name>
      <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
      <config-property-value>MS932</config-property-value>
    </config-property>
      :
    <config-property>
      <description xml:lang="en"></description>
      <config-property-name>LONGVARIABLE_ACCESS</config-property-name>
      <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
      <config-property-value>LOCATOR</config-property-value>
    </config-property>
      :
    <property>
      <property-name>MaxPoolSize</property-name>
      <property-type>int</property-type>
      <property-value>10</property-value>
      <property-default-value>10</property-default-value>
    </property>
    <property>
      <property-name>MinPoolSize</property-name>
      <property-type>int</property-type>
      <property-value>5</property-value>
      <property-default-value>10</property-default-value>
    </property>
      :
    <property>
      <property-name>User</property-name>
      <property-type>String</property-type>
      <property-value>hsrsdb</property-value>
    </property>
    <property>
      <property-name>Password</property-name>
      <property-type>String</property-type>
      <property-value>pwhsrsdb</property-value>
    </property>
      :
```

4.5.9 J2EE アプリケーションのデプロイ

CMS Light サーバが提供する J2EE アプリケーションのデプロイについて説明します。J2EE アプリケーションのデプロイには、Cosminexus のサーバ管理コマンドを使用します。サーバ管理コマンドの操作方法については、マニュアル「Cosminexus アプリケーション設定操作ガイド」を参照してください。コマンドおよび属性ファイルの詳細については、マニュアル「Cosminexus リファレンス コマンド編」、およびマニュアル「Cosminexus リファレンス 定義編」を参照してください。

(1) J2EE アプリケーションのインポート

J2EE アプリケーションのインポートコマンド (cjimportapp) を実行し、uCosminexus Application Server に CMS Light サーバの J2EE アプリケーションをインポートして

ださい。

インポートする J2EE アプリケーションは、次の場所にあります。

- Windows の場合
 <CMS Light サーバのインストールディレクトリ>%lib
- UNIX の場合
 /opt/ebxml/mssl/lib

インポートする J2EE アプリケーションを、次に示します。

HSRSapp.ear

ビジネスメッセージの送受信に関する J2EE アプリケーション（ビジネスメッセージ送受信アプリケーション）です。

HSRSgui.ear

状況照会 GUI に関する J2EE アプリケーション（状況照会アプリケーション）です。

【例】

J2EE サーバ "mssl" に J2EE アプリケーション "HSRSapp.ear" と "HSRSgui.ear" をインポートする場合の実行例を次に示します。

- Windows の場合

```
C:¥>cd C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥admin¥bin
C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥admin¥bin>cjimportapp mssl -f
"C:¥Program Files¥Hitachi¥ebxml¥mssl¥lib¥HSRSapp.ear" -f "C:¥Program
Files¥Hitachi¥ebxml¥mssl¥lib¥HSRSgui.ear"
```

- UNIX の場合

```
# cd /opt/Cosminexus/CC/admin/bin
# ./cjimportapp mssl -f "/opt/ebxml/mssl/lib/HSRSapp.ear" -f "/opt/ebxml/mssl/
lib/HSRSgui.ear"
```

(2) J2EE アプリケーションとリソースアダプタのマッピング定義

インポートした J2EE アプリケーションそれぞれとリソースアダプタのマッピングを定義します。マッピング定義の手順を次に示します。

1. J2EE アプリケーションの属性ファイル（WAR 属性ファイル）を取得します。

J2EE アプリケーションのプロパティを定義するために、アプリケーションの属性取得コマンド（cjgetappprop）を実行し、各 J2EE アプリケーションの WAR 属性ファイルを取得してください。

【例】

J2EE サーバ "mssl" の J2EE アプリケーション "HSRSapp.ear" と

"HSRSgui.ear" の WAR 属性ファイルを取得する場合の実行例を次に示します。

Windows の場合で "HSRSapp.ear" の WAR 属性ファイルを取得するとき

ここでは、属性ファイルのパスに "C:¥prop¥HSRSapp_Prop.xml" を指定してい

4. システムの構築

ます。

```
C:¥>cd C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥admin¥bin
C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥admin¥bin>cjgetappprop mssl -name
HSRSApp -type war -resname HSRSApp -c C:¥prop¥HSRSApp_Prop.xml
```

Windows の場合で "HSRSgui.ear" の WAR 属性ファイルを取得するとき
ここでは、属性ファイルのパスに "C:¥prop¥HSRSgui_Prop.xml" を指定してい
ます。

```
C:¥>cd C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥admin¥bin
C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥admin¥bin>cjgetappprop mssl -name
HSRSgui -type war -resname HSRSgui -c C:¥prop¥HSRSgui_Prop.xml
```

UNIX の場合で "HSRSApp.ear" の WAR 属性ファイルを取得するとき
ここでは、属性ファイルのパスに "/prop/HSRSApp_Prop.xml" を指定していま
す。

```
# cd /opt/Cosminexus/CC/admin/bin
# ./cjgetappprop mssl -name HSRSApp -type war -resname HSRSApp -c /prop/
HSRSApp_Prop.xml
```

UNIX の場合で "HSRSgui.ear" の WAR 属性ファイルを取得するとき
ここでは、属性ファイルのパスに "/prop/HSRSgui_Prop.xml" を指定していま
す。

```
# cd /opt/Cosminexus/CC/admin/bin
# ./cjgetappprop mssl -name HSRSgui -type war -resname HSRSgui -c /prop/
HSRSgui_Prop.xml
```

2. WAR 属性ファイルを編集し、J2EE アプリケーションのプロパティを定義します。
取得した各 J2EE アプリケーションの WAR 属性ファイルをテキストエディタで編集
し、プロパティを定義してください。
WAR 属性ファイルの <resource-ref> タグ下の <linked-to> タグで、J2EE アプリ
ケーションが使用するリソースアダプタを指定し、マッピングを定義します。なお、
CMS Light サーバでは、HSRSApp.ear と HSRSgui.ear で、同じリソースアダプタを
使用します。

【例】

編集例を次に示します。

データベース接続に Cosminexus DABroker Library を使用する場合

```
:
<resource-ref>
  <description></description>
  <res-ref-name>jdbc/HSRSDB</res-ref-name>
  <res-type>javax.sql.DataSource</res-type>
  <res-auth>Container</res-auth>
  <res-sharing-scope></res-sharing-scope>
  <linked-to>DB_Connector_for_Cosminexus_Driver</linked-to>
</resource-ref>
:
```

データベース接続に HiRDB Type4 JDBC Driver を使用する場合

```

:
<resource-ref>
  <description xml:lang="en"></description>
  <res-ref-name>jdbc/HSRSDDB</res-ref-name>
  <res-type>javax.sql.DataSource</res-type>
  <res-auth>Container</res-auth>
  <res-sharing-scope></res-sharing-scope>
  <linked-to>DB_Connector_for_HiRDB_Type4</linked-to>
</resource-ref>
:

```

3. WAR 属性ファイルに定義したプロパティを、J2EE アプリケーションに設定します。アプリケーションの属性設定コマンド (cjsetappprop) を実行し、WAR 属性ファイルに定義したプロパティを各 J2EE アプリケーションに反映させてください。

【例】

J2EE サーバ "mssl" の J2EE アプリケーション "HSRSapp.ear" と "HSRSgui.ear" にプロパティを反映させる場合の実行例を次に示します。Windows の場合で "HSRSapp.ear" にプロパティを反映させるとき

```

C:¥>cd C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥admin¥bin
C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥admin¥bin>cjsetappprop mssl -name
HSRSapp -type war -resname HSRsapp -c C:¥prop¥HSRSapp_Prop.xml

```

Windows の場合で "HSRSgui.ear" にプロパティを反映させるとき

```

C:¥>cd C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥admin¥bin
C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥admin¥bin>cjsetappprop mssl -name
HSRSgui -type war -resname HSRsgui -c C:¥prop¥HSRSgui_Prop.xml

```

UNIX の場合で "HSRSapp.ear" にプロパティを反映させるとき

```

# cd /opt/Cosminexus/CC/admin/bin
# ./cjsetappprop mssl -name HSRsapp -type war -resname HSRsapp -c /prop/
HSRSapp_Prop.xml

```

UNIX の場合で "HSRSgui.ear" にプロパティを反映させるとき

```

# cd /opt/Cosminexus/CC/admin/bin
# ./cjsetappprop mssl -name HSRsgui -type war -resname HSRsgui -c /prop/
HSRSgui_Prop.xml

```

(3) J2EE アプリケーションのデプロイと開始

J2EE アプリケーションの開始コマンド (cjstartapp) を実行し、インポートした各 J2EE アプリケーションを正しく開始できるか確認してください。

【例】

J2EE サーバ "mssl" の J2EE アプリケーション "HSRSapp.ear" と "HSRSgui.ear" を開始する場合の実行例を次に示します。

- Windows の場合で "HSRSapp.ear" を開始するとき

4. システムの構築

```
C:¥>cd C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥admin¥bin
C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥admin¥bin>cjstartapp mssl -name HRSsapp
```

- Windows の場合で "HRSsgui.ear" を開始するとき

```
C:¥>cd C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥admin¥bin
C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥admin¥bin>cjstartapp mssl -name HRSsgui
```

- UNIX の場合で "HRSsapp.ear" を開始するとき

```
# cd /opt/Cosminexus/CC/admin/bin
# ./cjstartapp mssl -name HRSsapp
```

- UNIX の場合で "HRSsgui.ear" を開始するとき

```
# cd /opt/Cosminexus/CC/admin/bin
# ./cjstartapp mssl -name HRSsgui
```

4.5.10 J2EE サーバの停止

uCosminexus Application Server の設定が完了したら、設定中に開始した DB Connector および J2EE アプリケーションを停止したあと、J2EE サーバを停止してください。J2EE サーバを停止する手順を次に示します。

1. J2EE アプリケーションを停止します。

J2EE アプリケーションの停止コマンド (cjstopapp) を実行し、各 J2EE アプリケーションを停止してください。

【例】

J2EE サーバ "mssl" の J2EE アプリケーション "HRSsapp.ear" と "HRSsgui.ear" を停止する場合の実行例を次に示します。
Windows の場合で "HRSsapp.ear" を停止するとき

```
C:¥>cd C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥admin¥bin
C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥admin¥bin>cjstopapp mssl -name HRSsapp
```

Windows の場合で "HRSsgui.ear" を停止するとき

```
C:¥>cd C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥admin¥bin
C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥admin¥bin>cjstopapp mssl -name HRSsgui
```

UNIX の場合で "HRSsapp.ear" を停止するとき

```
# cd /opt/Cosminexus/CC/admin/bin
# ./cjstopapp mssl -name HRSsapp
```

UNIX の場合で "HRSsgui.ear" を停止するとき

```
# cd /opt/Cosminexus/CC/admin/bin
# ./cjstopapp mssl -name HSRGui
```

2. DB Connector を停止します。

リソースアダプタの停止コマンド (cjstoprar) を実行し、DB Connector を停止してください。

【例】

J2EE サーバ "mssl" の DB Connector "DB_Connector_for_Cosminexus_Driver" または "DB_Connector_for_HiRDB_Type4" を停止する場合の実行例を次に示します。

Windows の場合でデータベース接続に Cosminexus DABroker Library を使用するとき

```
C:¥>cd C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥admin¥bin
C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥admin¥bin>cjstoprar mssl -resname
DB_Connector_for_Cosminexus_Driver
```

Windows の場合でデータベース接続に HiRDB Type4 JDBC Driver を使用するとき

```
C:¥>cd C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥admin¥bin
C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥admin¥bin>cjstoprar mssl -resname
DB_Connector_for_HiRDB_Type4
```

UNIX の場合

```
# cd /opt/Cosminexus/CC/admin/bin
# ./cjstoprar mssl -resname DB_Connector_for_HiRDB_Type4
```

3. J2EE サーバを停止します。

J2EE サーバの停止コマンド (cjstopsv) を実行し、J2EE サーバを停止します。引数に指定するサーバ名称には、"mssl" を指定してください。

コマンドの詳細については、マニュアル「Cosminexus リファレンス コマンド編」を参照してください。

【例】

実行例を次に示します。

Windows の場合

```
C:¥>cd C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥server¥bin
C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥server¥bin>cjstopsv mssl
```

UNIX の場合

```
# cd /opt/Cosminexus/CC/server/bin
# ./cjstopsv mssl
```


5

システムの運用

CMS Light サーバの主な機能は、ビジネスメッセージの送受信です。

この章では、ビジネスメッセージを送信するために必要なユーザーの操作、データベースに格納されたビジネスメッセージの保守、およびクライアント企業の情報の管理方法について説明します。

5.1 運用の流れ

5.2 起動と終了

5.3 送信するビジネスメッセージの登録

5.4 データベースに格納されたビジネスメッセージの保守

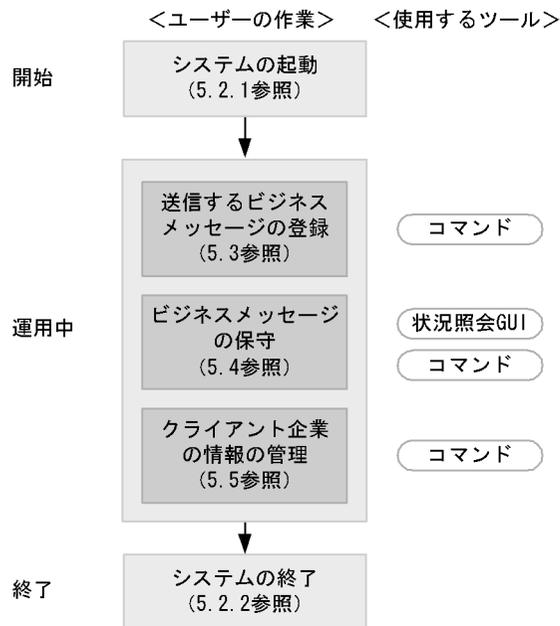
5.5 クライアント企業の情報の管理

5.1 運用の流れ

CMS Light サーバは、データベースに格納されているデータを基にビジネスメッセージを送受信します。したがって、システム運用中にユーザーが実施する作業は、データベースに格納されているデータの管理が主となります。

システム運用の流れを、次に示します。

図 5-1 システム運用の流れ



CMS Light サーバは、ユーザーがシステムを運用するためのツールとして、次のインターフェースを提供しています。

状況照会 GUI

データベースに格納されたビジネスメッセージの状況を照会する Web 画面です。主にビジネスメッセージの保守をする場合に使用します。また、障害発生の予防や障害発生時の対処にも使用します。

状況照会 GUI の画面操作については、「7. 状況照会 GUI」を参照してください。

コマンド

送信するビジネスメッセージのデータベースへの登録、データベースに格納されたビジネスメッセージの保守、および取引先のクライアント企業の管理に使用します。システム運用では、コマンドの操作による作業が主となります。

コマンドについては、「9. コマンド」を参照してください。

なお、初めてシステム運用を開始するユーザーは、最初に取引先のクライアント企業の

情報をデータベースに登録しておく必要があります。クライアント企業の情報登録については、「5.5.1 クライアント企業の情報を登録する」を参照してください。

5.2 起動と終了

CMS Light サーバのシステムを起動する方法、および終了する方法について説明します。

J2EE サーバ、DB Connector、J2EE アプリケーションを起動・終了する方法については、「4.5 uCosminexus Application Server の環境設定」を参照してください。なお、前提ソフトウェアを起動・終了する方法についての詳細は、各ソフトウェアのマニュアルを参照してください。

5.2.1 システムの起動

CMS Light サーバのシステムは、次の手順で起動します。

1. HiRDB の開始

HiRDB の `pdstart` コマンドを実行して、HiRDB を開始してください。
データベースサーバが稼働します。

2. J2EE サーバの起動

Cosminexus の `cjstartsv` コマンドを実行して、J2EE サーバを起動してください。

3. DB Connector の開始

Cosminexus の `cjstartrar` コマンドを実行して、J2EE サーバ上にデプロイしている CMS Light サーバの DB Connector を開始してください。

4. J2EE アプリケーションの開始

Cosminexus の `cjstartapp` コマンドを実行して、J2EE サーバ上にデプロイしている CMS Light サーバの J2EE アプリケーションを開始してください。

5. Hitachi Web Server の起動

Windows の場合

Windows のサービスから、"Hitachi Web Server" を開始してください。

UNIX の場合

Hitachi Web Server の `httpsdctl` コマンドを実行して、Hitachi Web Server を起動してください。

5.2.2 システムの終了

CMS Light サーバのシステムは、次の手順で終了します。

1. Hitachi Web Server の停止

Windows の場合

Windows のサービスから、"Hitachi Web Server" を停止してください。

UNIX の場合

Hitachi Web Server の `httpsdctl` コマンドを実行して、Hitachi Web Server を停止してください。

2. J2EE アプリケーションの停止

Cosminexus の `cjstopapp` コマンドを実行して、J2EE サーバ上にデプロイしている CMS Light サーバの J2EE アプリケーションを停止してください。

3. DB Connector の停止

Cosminexus の `cjstoprar` コマンドを実行して、J2EE サーバ上にデプロイしている CMS Light サーバの DB Connector を停止してください。

4. J2EE サーバの停止

Cosminexus の `cjstopsv` コマンドを実行して、J2EE サーバを停止してください。

5. HiRDB の終了

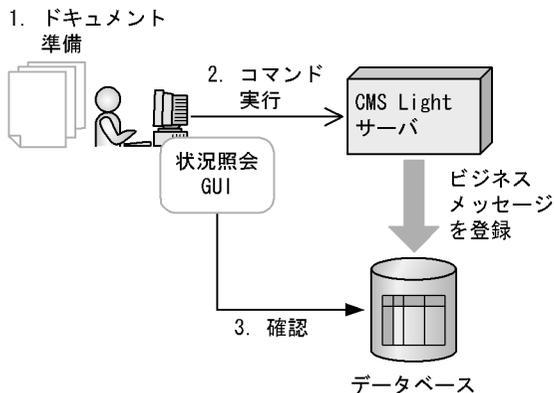
HiRDB の `pdstop` コマンドを実行して、HiRDB を終了してください。
データベースサーバが停止します。

5.3 送信するビジネスメッセージの登録

CMS Light サーバはクライアント企業からの送信要求に応答してビジネスメッセージを送信します。クライアント企業に対して送信したいビジネスメッセージがあるときは、あらかじめユーザーがデータベースに登録しておく必要があります。

ビジネスメッセージを登録する手順を次に示します。

図 5-2 ビジネスメッセージの登録手順



1. ドキュメントの準備

ビジネスメッセージに添付するドキュメントを準備します。

2. HSRSPutMessage コマンドの実行

HSRSPutMessage コマンドは、ビジネスメッセージを生成しデータベースに登録するコマンドです。添付するドキュメントの名称や送信先の取引先識別子をオプションに指定して実行します。

HSRSPutMessage コマンドの詳細については、「9.3 コマンドの詳細」の HSRSPutMessage (ビジネスメッセージ登録) を参照してください。

3. 状況照会 GUI での結果確認

ビジネスメッセージ検索画面で登録日時を条件に指定し、ビジネスメッセージが正しく登録されていることを確認してください。

状況照会 GUI の画面操作については、「7. 状況照会 GUI」を参照してください。

CMS Light サーバはプル型サーバであるため、ユーザーがデータベースに登録した時点では、ビジネスメッセージはクライアント企業に送信されません。したがって、クライアント企業が CMS Light サーバのシステムに対してビジネスメッセージの送信要求をしているかどうかを、定期的に確認することを推奨します。確認方法については、「5.4.2 登録したビジネスメッセージの送信結果を確認する」を参照してください。

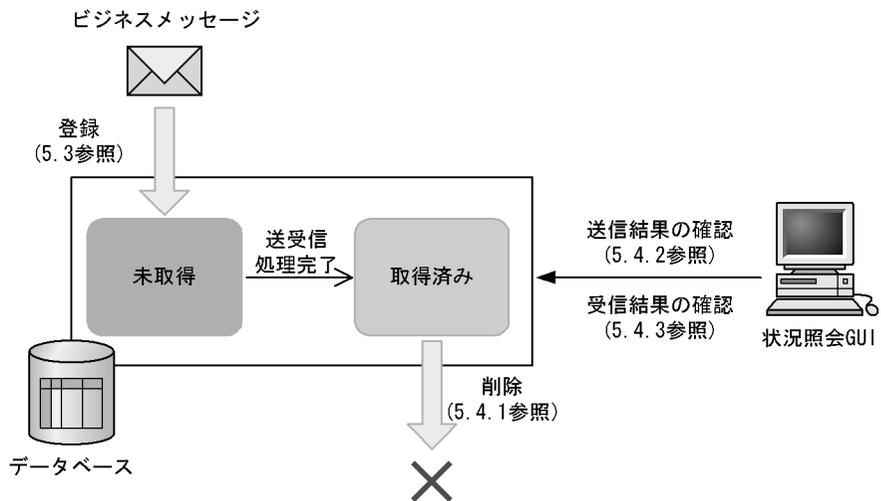
5.4 データベースに格納されたビジネスメッセージの保守

ビジネスメッセージの送受信や重複受信の防止など、ビジネスメッセージの処理や管理は、CMS Light サーバがしています。通常の運用では、ユーザーはシステムが正常に稼働していることを監視するだけです。ただし、次の場合はユーザーが手動で保守作業を実施してください。

- 送受信処理が完了したビジネスメッセージをデータベースから削除したい場合
- 登録したビジネスメッセージの送信結果を確認したい場合
- ビジネスメッセージの受信結果を確認したい場合

ビジネスメッセージの保守作業の概要を次に示します。それぞれの説明は、図中に示す節・項番号を参照してください。

図 5-3 ビジネスメッセージの保守作業の概要



<データベースに格納されたビジネスメッセージの状態の説明>

未取得 : ビジネスメッセージの送受信処理が完了していないことを示します。

取得済み : ビジネスメッセージの送受信処理が完了したことを示します。

図中で説明しているデータベースに格納されたビジネスメッセージの状態を、ドキュメント状態といいます。ビジネスメッセージ送信時、およびビジネスメッセージ受信時のドキュメント状態の遷移を次に示します。

ビジネスメッセージ送信時

ビジネスメッセージは最初、"未取得"状態でデータベースに登録されます。クライアント

5. システムの運用

ント企業のシステムからビジネスメッセージを取得したという通知を受けたとき、"取得済み"状態に遷移します。ドキュメント状態が"取得済み"となった時点で、CMS Light サーバによる送信処理は完了します。

ビジネスメッセージ受信時

ビジネスメッセージは最初、"未取得"状態でデータベースに登録されます。ビジネスメッセージに添付されたドキュメントは取得完了ディレクトリにファイル出力されません。このとき、ビジネスメッセージは"取得済み"状態に遷移します。ドキュメント状態が"取得済み"となり、かつ取得完了ディレクトリにファイル出力された時点で、CMS Light サーバによる受信処理は完了します。

通常、ユーザーがドキュメント状態を意識する必要はありません。ただし、ビジネスメッセージの保守や障害対策で、必要に応じてドキュメント状態を変更することがあります。ドキュメント状態を変更するタイミングについては、各保守作業および障害対策の説明をお読みください。

5.4.1 送受信処理が完了したビジネスメッセージを削除する

クライアント企業との送受信処理が完了したビジネスメッセージのうち、ビジネスメッセージ保持期間を過ぎたものはユーザーが手動で削除します。送受信処理が完了したビジネスメッセージを削除することで、データベースの容量が許容範囲を超えて動作に支障を来すことを防止できます。

削除する頻度やタイミングは、お使いのシステムに合わせて決定してください。

(1) 削除対象となるビジネスメッセージ

削除対象となるのは、次の条件を満たしたビジネスメッセージです。

- ドキュメント状態が"取得済み"であること
クライアント企業との送受信処理が完了した次のビジネスメッセージが該当します。
- 受信後、データベースへの格納および取得完了ディレクトリへのファイル出力に成功したビジネスメッセージ
- クライアント企業からの送信要求に回答し、送信に成功したビジネスメッセージ
- ビジネスメッセージ保持期間を過ぎていること

この条件を満たしていない場合でも、ドキュメント状態が"未取得"のビジネスメッセージは、ビジネスメッセージ保持期間を過ぎていれば運用に応じて削除できます。削除する方法については、「5.4.1(3) 削除対象でないビジネスメッセージの削除方法」を参照してください。

(2) ビジネスメッセージの削除方法

ビジネスメッセージを削除するには、HSRSRemoveMessage コマンドを実行します。オプションを指定しないで実行すると、削除対象のビジネスメッセージをすべて削除できます。削除対象となるビジネスメッセージに条件を追加したい場合は、オプションに条

件を指定して実行します。

HSRSRemoveMessage コマンドの詳細については、「9.3 コマンドの詳細」の HSRSRemoveMessage (ビジネスメッセージ削除) を参照してください。

(3) 削除対象でないビジネスメッセージの削除方法

データベース登録後に送信不要となったビジネスメッセージや、誤って登録したビジネスメッセージは、ドキュメント状態が "未取得" のままであるため通常どおりの方法では削除できません。この場合、ドキュメント状態を手動で "取得済み" に変更してから削除します。ユーザーは、次のツールのどちらかでドキュメント状態を変更できます。

状況照会 GUI

該当するビジネスメッセージの詳細画面で状態変更を実施します。状況照会 GUI の画面操作については、「7. 状況照会 GUI」を参照してください。

コマンド

HSRSCompleteMessage コマンドを実行して状態変更を実施します。

HSRSCompleteMessage コマンドの詳細については、「9.3 コマンドの詳細」の HSRSCompleteMessage (ドキュメント状態変更 (強制完了)) を参照してください。

! 注意事項

システムの運用開始後はビジネスメッセージ保持期間を変更できません。一度データベースに登録したビジネスメッセージは、保持期間が過ぎるのを待って削除してください。

5.4.2 登録したビジネスメッセージの送信結果を確認する

「5.3 送信するビジネスメッセージの登録」でデータベースに登録したビジネスメッセージが、あらかじめ企業間で取り決めた送信タイミングどおりにクライアント企業のシステムへ送信されているかを確認します。

状況照会 GUI のビジネスメッセージ検索画面で次の条件を指定して、"未取得" 状態のままのビジネスメッセージがないかを確認してください。

- ドキュメント送信者識別子
サーバ識別子を指定します。
- ドキュメント状態
"未取得" だけを選択します。

状況照会 GUI の画面操作については、「7. 状況照会 GUI」を参照してください。

状況照会 GUI で "未取得" 状態のビジネスメッセージが検索された場合は、該当するクライアント企業のシステムの運用状況を確認してください。

5.4.3 ビジネスメッセージの受信結果を確認する

CMS Light サーバは、クライアント企業のシステムから送信されたビジネスメッセージを自動で受信し、ビジネスメッセージに添付されたドキュメントを取得完了ディレクトリにファイル出力します。ユーザーは定期的に、CMS Light サーバが受信に失敗したビジネスメッセージがないかを確認します。

状況照会 GUI のビジネスメッセージ検索画面で次の条件を指定して、「未取得」状態のままのビジネスメッセージがないかを確認してください。

- ドキュメント受信者識別子
サーバ識別子を指定します。
- ドキュメント状態
「未取得」だけを選択します。

状況照会 GUI の画面操作については、「7. 状況照会 GUI」を参照してください。

状況照会 GUI で「未取得」状態のビジネスメッセージが検索された場合、該当するビジネスメッセージが、取得成功ディレクトリではなく取得失敗ディレクトリに出力されています。このときの対処については、「6.3.2 ビジネスメッセージの受信処理に失敗した場合」を参照してください。

5.5 クライアント企業の情報の管理

ビジネスメッセージをクライアント企業との間で適切に送受信するために、ユーザーはクライアント企業の情報を管理する必要があります。初めてシステム運用を開始する場合は、必ず取引するクライアント企業の情報をデータベースに登録してください。そのほかの場合は、必要に応じて情報を追加登録したり、削除したりします。

ユーザーが管理する情報の種類を次に示します。

取引先識別子

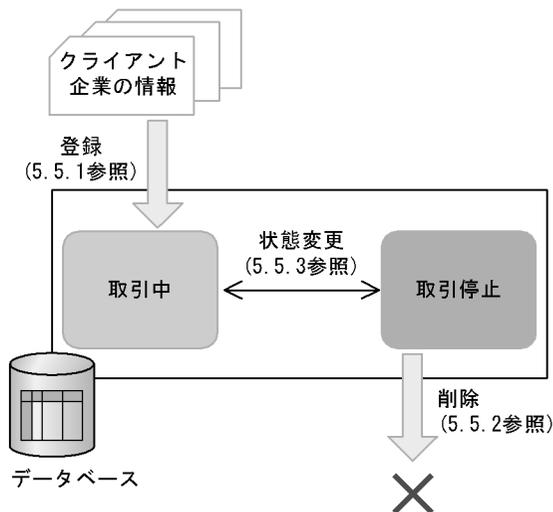
取引先 URI

取引先状態

クライアント企業の情報の管理は、業務終了後、Hitachi Web Server を停止してクライアント企業との通信を中断した状態で実施することを推奨します。

クライアント企業の情報を管理する作業の概要を次に示します。それぞれの説明は、図中に示す項番号を参照してください。

図 5-4 クライアント企業の情報管理の概要



<データベースに格納された情報の状態の説明>

取引中 : クライアント企業と取引できる状態であることを示します。

取引停止 : クライアント企業と取引できない状態であることを示します。

図中で説明しているデータベースに格納されたクライアント企業の状態を、取引先状態といいます。取引先状態は最初、"取引中"状態に登録されます。情報を削除するときや、一時的に取引をやめたいときは、ユーザーが"取引停止"状態に変更します。"取引

停止"状態だったクライアント企業と取引を再開するときは,"取引中"状態に変更します。

クライアント企業の情報を管理するために使用する CMS Light サーバの定義ファイルを次に示します。

取引先識別子ファイル

取引先識別子および取引先状態を管理するためのファイルです。取引先識別子ファイルの記述内容については、「8.3 取引先識別子ファイル」を参照してください。

取引先 URI ファイル

取引先 URI を管理するためのファイルです。取引先 URI ファイルの記述内容については、「8.4 取引先 URI ファイル」を参照してください。

! 注意事項

取引先識別子ファイルおよび取引先 URI ファイルは、データベースの情報を追記型で更新するためのファイルです。したがって、すべてのクライアント企業の情報を管理するためのマスターファイルを別途用意してください。マスターファイルの詳細については、「5.5.4 マスターファイルを作成、更新する」を参照してください。

5.5.1 クライアント企業の情報を登録する

クライアント企業の情報をデータベースに登録するときは、クライアント企業の取引先識別子、および取引先 URI を、それぞれコマンドを使用して登録します。このとき、クライアント企業の情報は、すべて"取引中"状態で登録されます。

登録手順を次に示します。

取引先識別子

1. 登録したいすべての取引先識別子を記述した取引先識別子ファイルを用意します。
2. HRSRRegisterPartner コマンドを実行してファイルをデータベースに登録します。HRSRRegisterPartner コマンドの詳細については、「9.3 コマンドの詳細」の HRSRRegisterPartner (取引先識別子登録) を参照してください。

取引先 URI

1. 登録したいすべての取引先 URI を記述した取引先 URI ファイルを用意します。
2. HRSRRegisterPartnerUri コマンドを実行してファイルをデータベースに登録します。HRSRRegisterPartnerUri コマンドの詳細については、「9.3 コマンドの詳細」の HRSRRegisterPartnerUri (取引先 URI 登録) を参照してください。

クライアント企業の情報を追加登録した場合、マスターファイルも編集してください。マスターファイルの詳細については、「5.5.4 マスターファイルを作成、更新する」を参照してください。

5.5.2 クライアント企業の情報を削除する

クライアント企業の情報をデータベースから削除するときは、クライアント企業の取引先識別子、および取引先 URI を、それぞれコマンドを使用して削除します。削除したいクライアント企業の情報が、すべて " 取引停止 " 状態であることを確認してから削除してください。" 取引中 " 状態のクライアント企業の情報は削除できません。

削除手順を次に示します。

取引先識別子

1. 削除したいすべての取引先識別子を記述した取引先識別子ファイルを用意します。
2. HSRSRemovePartner コマンドを実行してファイルをデータベースに登録します。
HSRSRemovePartner コマンドの詳細については、「9.3 コマンドの詳細」の HSRSRemovePartner (取引先識別子削除) を参照してください。

取引先 URI

1. 削除したいすべての取引先 URI を記述した取引先 URI ファイルを用意します。
2. HSRSRemovePartnerUri コマンドを実行してファイルをデータベースに登録します。
HSRSRemovePartnerUri コマンドの詳細については、「9.3 コマンドの詳細」の HSRSRemovePartnerUri (取引先 URI 削除) を参照してください。

クライアント企業の情報を削除した場合、マスターファイルも編集しておいてください。マスターファイルの詳細については、「5.5.4 マスターファイルを作成、更新する」を参照してください。

5.5.3 クライアント企業の取引先状態を変更する

ここでは、クライアント企業の取引先状態を変更する方法について説明します。

クライアント企業の状態を変更した場合、マスターファイルも編集しておいてください。マスターファイルの詳細については、「5.5.4 マスターファイルを作成、更新する」を参照してください。

(1) 取引の開始

" 取引停止 " 状態のクライアント企業を、" 取引中 " 状態に変更します。変更手順を次に示します。

1. 取引を開始したいクライアント企業の取引先識別子を記述した取引先識別子ファイルを用意します。
2. HSRSSStartBusiness コマンドを実行してファイルをデータベースに登録します。
HSRSSStartBusiness コマンドの詳細については、「9.3 コマンドの詳細」の HSRSSStartBusiness (取引先状態変更 (取引開始)) を参照してください。

(2) 取引の停止

"取引中"状態のクライアント企業を,"取引停止"状態に変更します。変更手順を次に示します。

1. 取引を停止したいクライアント企業の取引先識別子を記述した取引先識別子ファイルを用意します。
2. HSRSSStopBusiness コマンドを実行してファイルをデータベースに登録します。
HSRSSStopBusiness コマンドの詳細については、「9.3 コマンドの詳細」の HSRSSStopBusiness (取引先状態変更(取引停止)) を参照してください。

5.5.4 マスターファイルを作成, 更新する

ここでは,すべてのクライアント企業の情報を一元管理するためのマスターファイルについて説明します。

取引先識別子ファイルおよび取引先 URI ファイルは,データベース内の情報を追記型で更新するファイルであるため,すべてのクライアント企業の情報を一元管理することはできません。取引先識別子ファイルおよび取引先 URI ファイルとは別にマスターファイルを使用することで,データベースに登録されている情報と,クライアント企業との契約内容とに差異が発生することを防止できます。

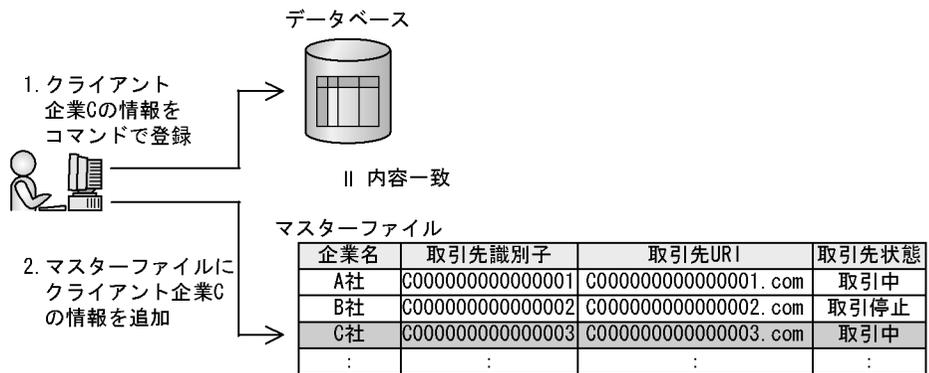
マスターファイルには次に示す各項目を対応させて記述してください。なお,マスターファイルのファイル形式やファイル名は任意です。

- クライアント企業の名称
- 取引先識別子
- 取引先 URI
- 取引先状態

マスターファイルは,クライアント企業の情報が常に最新の状態で記述されている必要があります。したがって,CMS Light サーバの定義ファイルおよびコマンドを使用してデータベース内のクライアント企業の情報を更新したときは,必ずマスターファイルの記述も更新してください。

クライアント企業の情報更新時,ユーザーがデータベースとマスターファイルの内容を一致させる操作のイメージを,次に示します。図では,クライアント企業 C の情報を追加で登録しています。

図 5-5 ユーザーがデータベースとマスターファイルの内容を一致させる操作のイメージ



操作ミスによってデータベースとマスターファイルとの間で不整合が発生した場合、次の対処をしてください。

1. マスターファイルに記載されている取引先識別子をすべて記述した取引先識別子ファイルをオプションに指定して、HSRSRegisterPartner コマンドを実行します。
2. マスターファイルに記載されている取引先 URI をすべて記述した取引先 URI ファイルをオプションに指定して、HSRSRegisterPartnerUri コマンドを実行します。
3. "取引停止" 状態のクライアント企業の取引先識別子をすべて記述した取引先識別子ファイルをオプションに指定して、HSRSStopBusiness コマンドを実行します。

6

障害対策

この章では、障害が発生したときのユーザーの手順や対処方法、および障害対策に使用するログの詳細について説明します。

6.1 障害が発生したときの手順

6.2 ログファイルの採取

6.3 主な障害と対処

6.1 障害が発生したときの手順

CMS Light サーバのシステムに障害が発生した場合、次の手順に従って対処してください。

1. 必要なログファイルを採取します。
CMS Light サーバはシステムの稼働状況をログとして出力します。採取したログファイルは、障害の要因調査に使用します。
採取するログファイルについては、「6.2 ログファイルの採取」を参照してください。
2. CMS Light サーバのログに出力されたメッセージを参照し、障害の要因を分析して対処します。
CMS Light サーバが出力するログの出力形式については、「6.2.2 ログの出力形式」を参照してください。また、メッセージ ID ごとの説明および対処については、「10. メッセージ」を参照してください。
このマニュアルでは、障害の種類とユーザーの対策について主なケースを取り上げて説明しています。主な障害の種類とユーザーの対策については、「6.3 主な障害と対処」を参照してください。
3. 対処できない場合は、保守員に連絡します。
メッセージの対処に従って作業しても障害を取り除けなかった場合、またはメッセージの対処が "保守員に連絡してください" の場合です。
"保守員に連絡する" とは、購入時の契約に基づいて、ユーザーが弊社問い合わせ窓口へ連絡することを示します。

6.2 ログファイルの採取

ここでは、CMS Light サーバで障害が発生した場合に採取が必要な資料について説明します。

6.2.1 ログファイルの種類

障害の要因調査のために、ユーザーが採取する必要があるログファイルの種類について説明します。

(1) CMS Light サーバのログ

CMS Light サーバが出力するログを次に示します。

エラーログ

エラーメッセージが出力されます。障害対策でユーザーが参照するログです。

トレースログ

エラーメッセージおよびインフォメーションメッセージが出力されます。

通信ログ

クライアント企業のシステムから受信した SOAP メッセージ、およびクライアント企業のシステムに送信する SOAP メッセージが出力されます。

障害が発生した場合には、これらのログを採取してください。ビジネスメッセージの送受信時には、エラーログ、トレースログ、および通信ログが出力されます。状況照会 GUI・コマンドの実行時には、エラーログおよびトレースログが出力されます。

各ログの出力先ディレクトリは、サーバ共通定義ファイルで設定します。サーバ共通定義ファイルの詳細については、「8.2 サーバ共通定義ファイル」を参照してください。

CMS Light サーバが出力するログのファイル名の形式を次に示します。

表 6-1 CMS Light サーバが出力するログのファイル名の形式

| 項番 | ログの種類 | ファイル名の形式 |
|----|--------|-------------------------------|
| 1 | エラーログ | HSRS< アプリケーション識別子 >Err<n>.log |
| 2 | トレースログ | HSRS< アプリケーション識別子 >Trc<n>.log |
| 3 | 通信ログ | HSRS< アプリケーション識別子 >Msg<n>.log |

注 < アプリケーション識別子 > にはログの出力元となる CMS Light サーバの内部アプリケーション識別子が表示されます。<n> にはファイル面数が表示されます。< アプリケーション識別子 > に表示される値と意味は次のとおりです。

- app: ビジネスメッセージ送受信アプリケーション
- gui: 状況照会アプリケーション
- cmd: コマンド

6. 障害対策

ビジネスメッセージ送受信アプリケーションの通信ログのファイル構成例を次に示します。この例では、表の<アプリケーション識別子>には"app"が、<n>には1～5が表示されます。

- Windows の場合
出力先を "C:/Program Files/Hitachi/ebxml/mssl/log"、通信ログの最大ファイル数を "5" に設定した場合の例を次に示します。

```
C:/Program Files/Hitachi/ebxml/mssl/log
HSRSappMsg1.log
HSRSappMsg2.log
HSRSappMsg3.log
HSRSappMsg4.log
HSRSappMsg5.log
```

- UNIX の場合
出力先を "/opt/ebxml/mssl/log"、通信ログの最大ファイル数を "5" に設定した場合の例を次に示します。

```
/opt/ebxml/mssl/log
HSRSappMsg1.log
HSRSappMsg2.log
HSRSappMsg3.log
HSRSappMsg4.log
HSRSappMsg5.log
```

(2) Windows イベントログ (Windows の場合)

イベントログの採取方法については、OSのマニュアルを参照してください。

(3) UNIX のシステムログ (UNIX の場合)

システムログの採取方法については、OSのマニュアルを参照してください。

(4) 前提ソフトウェアのログ

次に示す前提ソフトウェアのログは、必要に応じて採取してください。

(a) HiRDB のログ

ログの採取方法については、マニュアル「HiRDB システム運用ガイド」を参照してください。

(b) uCosminexus Application Server のログ

ログの採取方法については、マニュアル「Cosminexus システム運用ガイド」を参照してください。

6.2.2 ログの出力形式

CMS Light サーバが出力するログの出力形式について説明します。ここで説明するログの出力形式に対応するのは、次に示すログです。

- エラーログ
- トレースログ
- 通信ログ

図 6-1 CMS Light サーバが出力するログの出力形式

| | | | | | | | | |
|-------|-------|-------|--------|--------|--------|------------|-------|----------|
| 1. 通番 | 2. 日付 | 3. 時刻 | 4. AP名 | 5. PID | 6. TID | 7. メッセージID | 8. 種別 | 9. メッセージ |
|-------|-------|-------|--------|--------|--------|------------|-------|----------|

図中の番号は、次に示す表の項番と一致しています。ログには番号は出力されません。

表 6-2 ログの出力項目

| 項番 | 項目 | 内容 | 表示形式 |
|----|---------|-----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 通番 | ログの通番です。 | 4桁の整数値 |
| 2 | 日付 | ログの出力日付です。 | yyyy/mm/dd |
| 3 | 時刻 | ログの出力時刻です。 | hh:mm:ss.sss 日本標準時をミリ秒単位まで出力します。 |
| 4 | AP名 | ログの出力元となるアプリケーション名です。 | 英字 |
| 5 | PID | ログの出力元となるプロセスのIDです。 | 8桁の16進数値 |
| 6 | TID | ログの出力元となるスレッドのIDです。 | 8桁の16進数値 |
| 7 | メッセージID | メッセージIDです。 | KDSRnnnnn-X 表示形式の詳細については、「10.1.2 メッセージの説明で使用される見出し」を参照してください。 |
| 8 | 種別 | メッセージの種別です。 | <ul style="list-style-type: none"> • ER エラーメッセージ • WR 警告メッセージ • IF インフォメーションメッセージ |
| 9 | メッセージ | 各メソッドが出力するメッセージです。 | メッセージの詳細については、「10. メッセージ」を参照してください。 |

注 この項目にはログの出力元となる CMS Light サーバの内部アプリケーション名が表示されません。表示される値と意味は次のとおりです。

- HRSRapp : ビジネスメッセージ送受信アプリケーション
- HRSRgui : 状況照会アプリケーション
- PutMessage : HRSRPutMessage コマンド
- GetMessage : HRSRGetMessage コマンド
- RemoveMessage : HRSRRemoveMessage コマンド
- CompleteMessage : HRSRCompleteMessage コマンド
- UncompleteMessag : HRSRUncompleteMessage コマンド

6. 障害対策

- RegisterPartner : HRSRegisterPartner コマンド
- RemovePartner : HRSRemovePartner コマンド
- StartBusiness : HRSStartBusiness コマンド
- StopBusiness : HRSStopBusiness コマンド
- RegisterPartnerU : HRSRegisterPartnerUri コマンド
- RemovePartnerUri : HRSRemovePartnerUri コマンド

6.3 主な障害と対処

CMS Light サーバのシステム障害は、次のときに発生するおそれがあります。

- CMS Light サーバのシステムが起動するとき
- CMS Light サーバがビジネスメッセージを送受信するとき
- ユーザーが状況照会 GUI やコマンドを使用しているとき

CMS Light サーバのシステムに発生するおそれがある障害とユーザーの対処を、次に示します。

表 6-3 主な障害とユーザーの対処

| 項番 | 障害が発生するタイミング | 障害の内容 | ユーザーの対処 | |
|----|---------------------------------|---------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | CMS Light サーバのシステムが起動するとき | ビジネスメッセージ送受信アプリケーションの初期化に失敗した。 | 標準エラー出力または uCosminexus Application Server のログを参照し、対処します。障害の要因を取り除いたあと、J2EE サーバを再起動してください。 | |
| 2 | CMS Light サーバがビジネスメッセージを送受信するとき | 受信した SOAP メッセージに誤りがある。 | ビジネスメッセージ送受信アプリケーションのエラーログを参照し、対処します。対処方法の詳細については、「6.3.1 クライアント企業から送受信に関する障害連絡があった場合」を参照してください。 | |
| 3 | | ビジネスメッセージ送受信アプリケーションに障害が発生した。 | | |
| 4 | | SOAP 通信エラーが発生した。 | | ログファイルを採取し、保守員に連絡してください。 |
| 5 | | Java 環境でメモリ不足 (java.lang.OutOfMemoryError) が発生した。 | | マニュアル「Cosminexus リファレンス 定義編」を参照し、JavaVM のメモリチューニングをしてください。チューニングでメモリ不足が解消されない場合は、マシンに搭載するメモリを増やしてください。 |
| 6 | ユーザーが状況照会 GUI を使用しているとき | ビジネスメッセージのファイル出力に失敗した。 | ビジネスメッセージ送受信アプリケーションのエラーログを参照し、対処します。対処方法の詳細については、「6.3.2 ビジネスメッセージの受信処理に失敗した場合」を参照してください。 | |
| 7 | | JP1 イベント連携でエラーが発生した。 | ビジネスメッセージ送受信アプリケーションのエラーログを参照し、対処します。 | |
| 8 | ユーザーが状況照会 GUI を使用しているとき | 状況照会アプリケーションの初期化に失敗した。 | 標準エラー出力または uCosminexus Application Server のログを参照し、対処します。障害の要因を取り除いたあと、J2EE サーバを再起動してください。 | |

6. 障害対策

| 項番 | 障害が発生するタイミング | 障害の内容 | ユーザーの対処 |
|----|--------------------|---------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 9 | | ログイン認証に失敗した。 | ログイン ID およびパスワードを確認後、再度ログインしてください。 ログイン ID およびパスワードは、サーバ共通定義ファイルの状況照会 GUI 定義で設定した値を使用してください。 |
| 10 | | セッションがタイムアウトとなった。 | 再度ログインしてください。 |
| 11 | | ページ遷移エラーが発生した。 | |
| 12 | | エラーダイアログを表示した。 | ユーザーの入力値に誤りがあります。エラーダイアログに表示されたメッセージに従って入力値を修正してください。 |
| 13 | | ドキュメント状態の変更に失敗した。 | 該当するビジネスメッセージがすでに変更後のドキュメント状態であるか、または存在しないおそれがあります。 ビジネスメッセージ検索画面で、再度該当するビジネスメッセージを検索してください。 |
| 14 | | データベースアクセスエラーが発生した。 | 状況照会アプリケーションのエラーログおよび HiRDB のログを参照し、J2EE サーバを停止した上で対処します。 障害の要因を取り除いたあと、J2EE サーバを再起動してください。 |
| 15 | | Java 環境でメモリ不足 (java.lang.OutOfMemoryError) が発生した。 | マニュアル「Cosminexus リファレンス 定義編」を参照し、JavaVM のメモリチューニングをしてください。 チューニングでメモリ不足が解消されない場合は、マシンに搭載するメモリを増やしてください。 |
| 16 | | JP1 イベント連携でエラーが発生した。 | 状況照会アプリケーションのエラーログを参照し、対処します。 |
| 17 | ユーザーがコマンドを使用しているとき | コマンドの戻り値が 0 (正常終了) 以外で処理を終了した。 | 標準エラー出力またはコマンドのエラーログを参照し、対処してください。障害の要因を取り除いたあと、再度コマンドを実行してください。 |
| 18 | | 処理を中断した。 | ユーザーが [Ctrl] + [C] を押したことが原因です。必要に応じて、再度コマンドを実行してください。 |
| 19 | | Java 環境でメモリ不足 (java.lang.OutOfMemoryError) が発生した。 | ログファイルを採取し、保守員に連絡してください。 |
| 20 | | JP1 イベント連携でエラーが発生した。 | コマンドのエラーログを参照し、対処します。 |

注 この表で示した障害以外の予期できない障害が発生した場合は、ログファイルを採取して保守員に連絡してください。

ここでは CMS Light サーバのシステムに発生するおそれがある障害のうち、ビジネス

メッセージ送受信に関する次の障害の対処手順を説明します。

- クライアント企業から送受信に関する障害連絡があった場合
受信した SOAP メッセージに誤りがある場合、またはビジネスメッセージ送受信アプリケーションに障害が発生した場合です。
- ビジネスメッセージの受信処理に失敗した場合
ビジネスメッセージのドキュメント状態変更、またはビジネスメッセージのファイル出力に失敗した場合です。

6.3.1 クライアント企業から送受信に関する障害連絡があった場合

クライアント企業からビジネスメッセージの送受信に関する障害連絡があった場合、次の手順に従って対処してください。

1. クライアント企業のシステムに出力された SOAP Fault メッセージを確認します。
クライアント企業のシステムに出力される SOAP Fault メッセージは次のどちらかです。

KDSR10001-E

SOAP メッセージに誤りがあります。(詳細エラーコード)

KDSR10002-E

uCosminexus Message Service Server Light for ebXML で障害が発生しました。

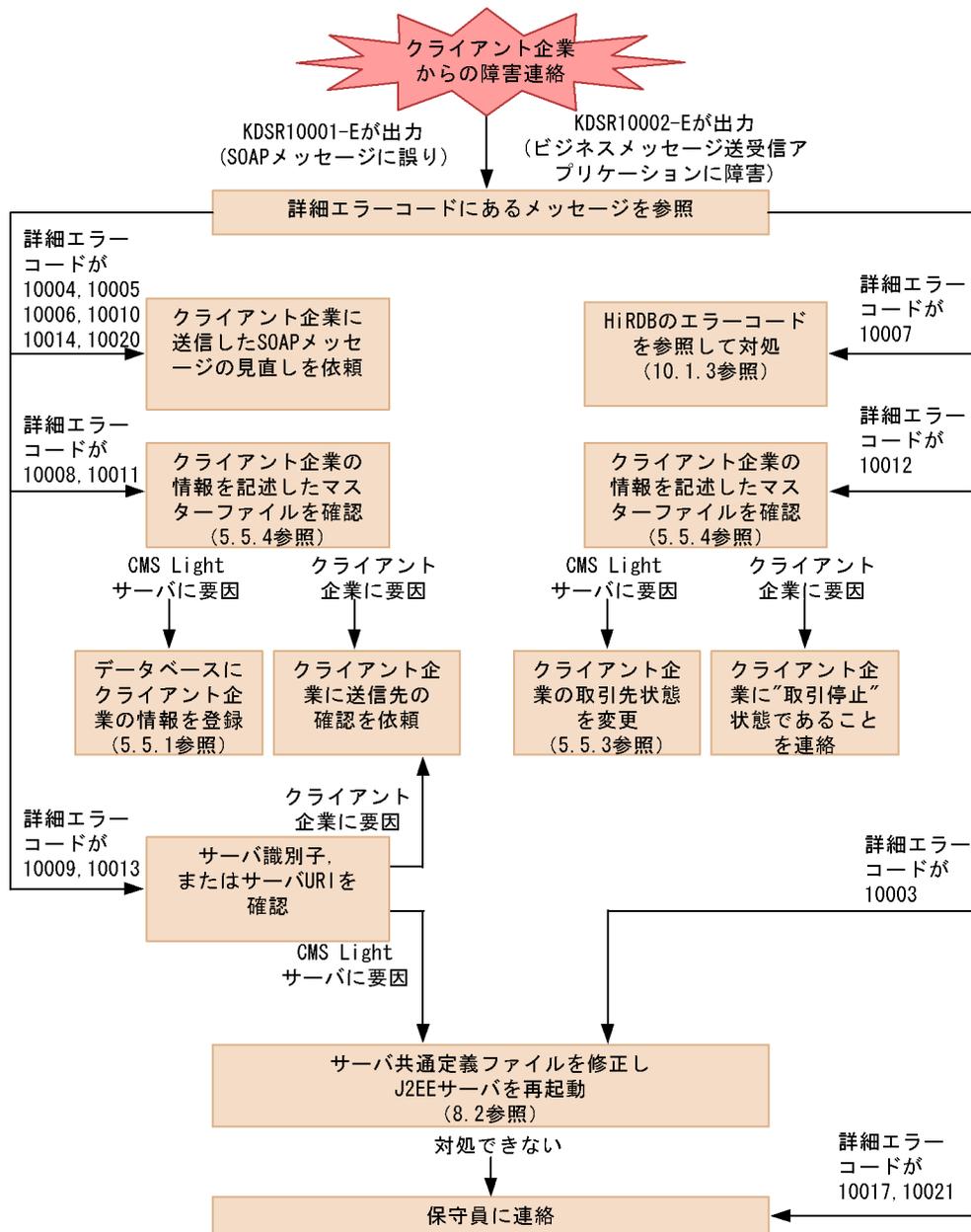
(詳細エラーコード)

注 詳細エラーコードには、CMS Light サーバのメッセージ ID (KDSRnnnnn-X) の nnnnn 部分が表示されます。

2. 障害の要因を特定します。
SOAP Fault メッセージの詳細エラーコードに表示されたメッセージ ID を基に、ビジネスメッセージ送受信アプリケーションのエラーログを参照して、障害の要因を特定してください。
3. 障害の要因を取り除きます。
クライアント企業のシステムに要因がある場合は、要因と対処方法を連絡し、クライアント企業のシステム管理者に障害の要因を取り除いていただきます。CMS Light サーバのシステムに要因がある場合は、出力されたメッセージの対処に従って障害の要因を取り除いてください。必要に応じて J2EE サーバを再起動します。
4. クライアント企業に、再度送受信の操作をするよう依頼します。

ビジネスメッセージ送受信に関する障害の要因を特定する手順を次に示します。

図 6-2 ビジネスメッセージ送受信に関する障害の要因を特定する手順



6.3.2 ビジネスメッセージの受信処理に失敗した場合

CMS Light サーバはビジネスメッセージの受信処理に失敗した場合、ドキュメントを取得失敗ディレクトリにファイル出力します。ドキュメントが取得失敗ディレクトリにファイル出力されるタイミングを次に示します。

- データベースサーバとの接続に失敗したとき
- ビジネスメッセージのドキュメント状態を " 未取得 " から " 取得済み " に変更できなかったとき
- 取得完了ディレクトリへのファイル出力に失敗したとき

ここで説明する " ビジネスメッセージの受信処理に失敗 " とは、クライアント企業から送信されたビジネスメッセージをデータベースに格納したあと、処理に失敗したことを意味します。したがって、クライアント企業に連絡をする必要はありません。

ビジネスメッセージの受信処理に失敗した場合、次の手順に従って対処してください。

1. ビジネスメッセージ送受信アプリケーションのエラーログに出力されたメッセージを参照し、障害の要因を分析して対処します。
2. HSRSGetMessage コマンドを実行します。
ビジネスメッセージの受信処理を再度実行します。HSRSGetMessage コマンドの詳細については、「9.3 コマンドの詳細」の HSRSGetMessage (ビジネスメッセージ取得) を参照してください。
3. 状況照会 GUI を参照して、該当するビジネスメッセージの受信処理が成功したことを確認します。
受信処理に失敗していた場合、ビジネスメッセージ送受信アプリケーションのエラーログを参照し、障害の要因を分析して対処してください。
4. 取得失敗ディレクトリに出力されたドキュメントファイルを削除します。
KDSR11005-W に表示されたドキュメントファイル名を確認し、該当するドキュメントファイルを削除してください。

7

状況照会 GUI

状況照会 GUI を使用すると、データベースに格納されたビジネスメッセージの状況照会ができます。また、必要に応じて、ビジネスメッセージ一覧の CSV 形式でのダウンロードや、ドキュメント状態の変更ができます。

この章では、状況照会 GUI の使用方法について説明します。

7.1 状況照会 GUI でできること

7.2 ログインとログアウト

7.3 ビジネスメッセージ検索画面

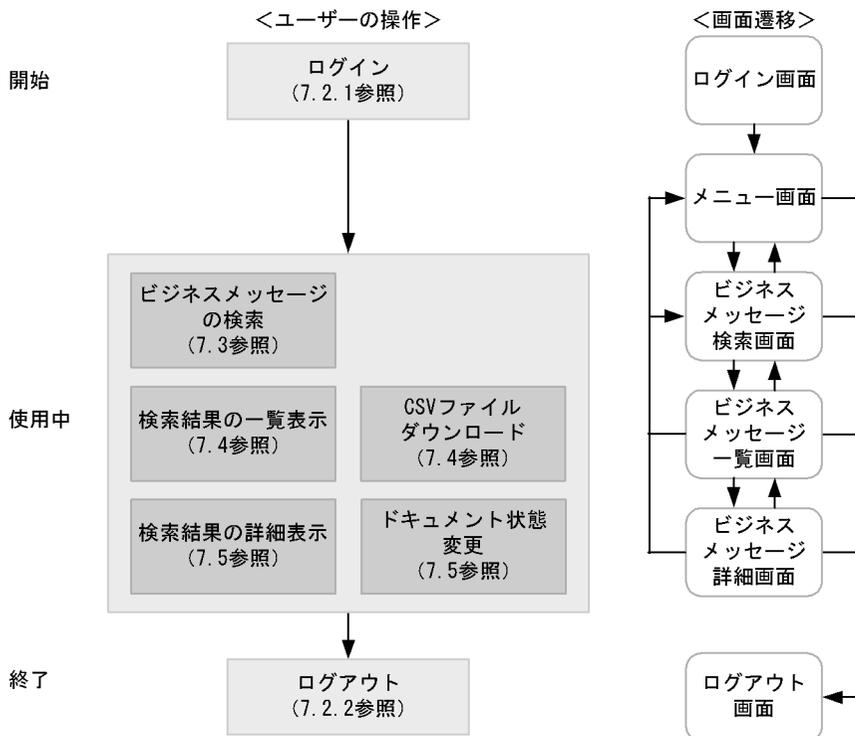
7.4 ビジネスメッセージ一覧画面

7.5 ビジネスメッセージ詳細画面

7.1 状況照会 GUI でできること

ユーザーの操作と状況照会 GUI の画面遷移を、次に示します。各画面の詳細は、図中の参照先を参照してください。

図 7-1 ユーザーの操作と状況照会 GUI の画面遷移



状況照会 GUI でユーザーができることは次のとおりです。

ビジネスメッセージの検索

ビジネスメッセージ検索画面で、指定した検索条件に合うビジネスメッセージを検索できます。検索結果は一覧で表示され、表示された各ビジネスメッセージの詳細も照会できます。

ビジネスメッセージ一覧の CSV ファイルダウンロード

ビジネスメッセージ一覧画面で、ビジネスメッセージの検索結果を CSV ファイルとしてダウンロードできます。ダウンロードできる CSV ファイルの詳細については、「付録 B CSV ファイルのダウンロード形式」を参照してください。

ビジネスメッセージのドキュメント状態変更

ビジネスメッセージ詳細画面で、検索したビジネスメッセージのドキュメント状態を変更できます。

コマンドを使用したドキュメント状態の変更と同じです。コマンドを使用したドキュメント状態の変更については、「9.3 コマンドの詳細」の `HSRSCompleteMessage` (ドキュメント状態変更 (強制完了)) または `HSRSUncompleteMessage` (ドキュメント状態変更 (強制引き戻し)) を参照してください。

! 注意事項

- セッションタイムアウトやデータベースアクセスエラーなど、状況照会 GUI の操作中にエラーが発生した場合、エラー画面に遷移します。この場合、エラー画面に表示されているメッセージ ID の対処に従ってください。メッセージの詳細については、「10. メッセージ」を参照してください。
 - 状況照会 GUI の操作中に [F5] を押したり、ブラウザの [更新] ボタンや [戻る] ボタンをクリックしたりしないでください。画面が正しく遷移しないおそれがあります。
-

7.2 ログインとログアウト

ここでは、状況照会 GUI のログイン、およびログアウトの方法について説明します。

7.2.1 ログイン

状況照会 GUI にログインするには、状況照会 GUI を起動してログイン画面を表示し、ログインをする必要があります。ここでは、ログイン画面の表示方法とログイン方法について説明します。

1. ログイン画面を表示します。

ログイン画面を表示するには、ブラウザに次の URL を入力してください。

`http://<ホスト名>:<ポート番号>/mssl/gui/`

ホスト名

Hitachi Web Server が動作するマシンのホスト名または IP アドレスを指定します。

ポート番号

Hitachi Web Server が動作するマシンのポート番号を指定します。デフォルトのポート番号を使用する場合は省略できます。

2. ログイン ID およびパスワードを、それぞれ 20 バイト以下の半角英数字で入力します。

サーバ共通定義ファイルの状況照会 GUI 定義で設定した値を入力します。サーバ共通定義ファイルについては、「8.2 サーバ共通定義ファイル」を参照してください。

3. [ログイン] ボタンをクリックします。

メニュー画面が表示されます。入力したログイン ID またはパスワードが認証されなかった場合、画面にエラーが表示されます。ログイン画面に戻って、再度ログインをしてください。

メニュー画面で [ビジネスメッセージ検索] アンカーをクリックすると、状況照会 GUI の使用を開始できます。状況照会 GUI の操作中、各画面に表示される [メニュー] アンカーをクリックすると、メニュー画面に遷移します。

7.2.2 ログアウト

ここでは、ログアウトについて説明します。

ログアウトするには、状況照会 GUI の各画面で次の操作をしてください。

1. 状況照会 GUI の各画面に表示される [ログアウト] アンカーをクリックします。

ログアウトの処理が実行され、ログアウト画面が表示されます。

2. ブラウザの画面を閉じます。

ブラウザの [戻る] ボタンなどをクリックした場合、過去の照会結果が表示されるお

それがあつため、使用後はブラウザの画面を閉じることを推奨します。

7.3 ビジネスメッセージ検索画面

ここでは、ビジネスメッセージ検索画面について説明します。

ビジネスメッセージ検索画面で条件を指定すると、データベースに格納されているビジネスメッセージが条件に合わせて検索されます。ビジネスメッセージ検索画面で条件を何も指定しなかった場合、データベースに格納されているすべてのビジネスメッセージが検索されます。

ビジネスメッセージ検索画面を次に示します。

図 7-2 ビジネスメッセージ検索画面

The screenshot shows a web browser window with the following elements:

- Browser title: uCosminexus Message Service Server Light for ebXML 状況照会 - ビジネスメッセージ検索 - Microsoft Internet Explorer
- Page title: ■ ビジネスメッセージ検索 ■
- Menu: メニュー
- Logout: ■ ログアウト
- Search fields:
 - ドキュメント送信者識別子: [Text Input]
 - ドキュメント受信者識別子: [Text Input]
 - ドキュメント識別子: [Text Input]
 - ドキュメント形式: [Text Input]
 - ドキュメント種別: [Text Input]
 - ドキュメント圧縮形式: [Text Input]
- Document Status:
 - 未取得
 - 取得済み
- Registration Date Range:
 - 開始: 2006年04月10日00時00分 ~
 - 終了: 2006年04月10日23時59分
- Retrieval Date Range:
 - 開始: 2006年04月10日00時00分 ~
 - 終了: 2006年04月10日23時59分
- Sort Condition: ソート条件 [登録日時] [昇順] [降順]
- Items per page: 一画面の表示件数 [5]
- Buttons: 検索, クリア

ドキュメント送信者識別子

ビジネスメッセージのドキュメント送信者識別子を 63 バイト以内で指定します。受信したビジネスメッセージを検索する場合は、送信元のクライアント企業の取引先識別子を指定します。

ドキュメント受信者識別子

ビジネスメッセージのドキュメント受信者識別子を 63 バイト以内で指定します。送信したビジネスメッセージを検索する場合は、送信先のクライアント企業の取引先識別子を指定します。

ドキュメント識別子

ビジネスメッセージのドキュメント識別子を 255 バイト以内で指定します。

ドキュメント形式

ビジネスメッセージのドキュメント形式を 255 バイト以内で指定します。指定できるドキュメント形式は次のとおりです。

- SecondGenEDI
- JEDICOS-XML
- JEDICOS
- J Protocol
- Mutuality defined

ドキュメント種別

ビジネスメッセージのドキュメント種別を 255 バイト以内で指定します。指定できるドキュメント種別は、ドキュメント形式に指定したドキュメント形式ごとに異なります。指定できる組み合わせについては、「3.2.4(1) ドキュメント形式とドキュメント種別」を参照してください。

ドキュメント圧縮形式

ビジネスメッセージのドキュメント圧縮形式を 63 バイト以内で指定します。

ドキュメント状態

ビジネスメッセージのドキュメント状態を "未取得", "取得済み" から選択します。

両方選択した場合は、両方のドキュメント状態が検索されます。

ビジネスメッセージの送受信状況とドキュメント状態の関係は次のとおりです。

表 7-1 ビジネスメッセージの送受信状況とドキュメント状態の関係

| 項番 | ビジネスメッセージの送受信状況 | | ドキュメント状態 |
|----|-----------------|--------------------------------------------------------------------|----------|
| 1 | 受信時 | クライアント企業から送信されたビジネスメッセージを CMS Light サーバが受け付けた。 | 未取得 |
| 2 | | ビジネスメッセージに添付されたドキュメントを取得完了ディレクトリにファイル出力し、CMS Light サーバでの受信処理が完了した。 | 取得済み |
| 3 | 送信時 | データベースに登録されたビジネスメッセージが、クライアント企業に未送信である。 | 未取得 |
| 4 | | クライアント企業からビジネスメッセージを取得したという通知を受け、CMS Light サーバでの送信処理が完了した。 | 取得済み |

登録日時：開始

CMS Light サーバが受信したビジネスメッセージをデータベースに登録した日時、またはユーザーが送信するビジネスメッセージをデータベースに登録した日時で範囲を指定したい場合に使用します。チェックボックスをチェックすると、指定した日時に降に登録されたビジネスメッセージが検索対象になります。年は、西暦で 4 桁の数字を入力してください。月日時分は、プルダウンメニューから値を選択してください。

7. 状況照会 GUI

登録日時：終了

CMS Light サーバが受信したビジネスメッセージをデータベースに登録した日時、またはユーザーが送信するビジネスメッセージをデータベースに登録した日時で範囲を指定したい場合に使用します。チェックボックスをチェックすると、指定した日時以前に登録されたビジネスメッセージが検索対象になります。年は、西暦で4桁の数字を入力してください。月日時分は、プルダウンメニューから値を選択してください。

取得日時：開始

ビジネスメッセージの送受信処理が完了した日時で範囲を指定したい場合に使用します。チェックボックスをチェックすると、指定した日時以降に送受信処理が完了となったビジネスメッセージが検索対象になります。年は、西暦で4桁の数字を入力してください。月日時分は、プルダウンメニューから値を選択してください。

取得日時：終了

ビジネスメッセージの送受信処理が完了した日時で範囲を指定したい場合に使用します。チェックボックスをチェックすると、指定した日時以前に送受信処理が完了となったビジネスメッセージが検索対象になります。年は、西暦で4桁の数字を入力してください。月日時分は、プルダウンメニューから値を選択してください。

ソート条件

一覧表示するときのソート条件を指定します。デフォルトでは登録日時が降順で表示されます。

プルダウンメニュー

ソート条件に指定する項目を選択します。

ラジオボタン

検索結果を昇順で並べるか、降順で並べるかを選択します。

一画面の表示件数

一覧画面に一度に表示するレコード件数を選択します。プルダウンメニューから選択できる表示件数は、サーバ共通定義ファイルの状況照会 GUI 定義で指定した値です。サーバ共通定義ファイルの詳細については、「8.2 サーバ共通定義ファイル」を参照してください。

ボタン

[検索] ボタン

クリックすると、入力した内容を検索条件としてビジネスメッセージが検索されます。検索結果はビジネスメッセージ一覧画面に表示されます。

[クリア] ボタン

クリックすると、画面の入力値がデフォルトに戻ります。デフォルトでの各項目の入力値を次に示します。

表 7-2 デフォルトでのビジネスメッセージ検索画面の入力値

| 項番 | 項目 | デフォルトでの入力値 |
|----|--------------|-----------------------------------------------------------|
| 1 | ドキュメント送信者識別子 | - |
| 2 | ドキュメント受信者識別子 | - |
| 3 | ドキュメント識別子 | - |
| 4 | ドキュメント形式 | - |
| 5 | ドキュメント種別 | - |
| 6 | ドキュメント圧縮形式 | - |
| 7 | ドキュメント状態 | "未取得", "取得済み"の両方のチェックボックスにチェックあり(検索条件に両方のドキュメント状態が含まれる状態) |
| 8 | 登録日時: 開始 | チェックボックスにチェックなし(検索条件に含まれない状態) 日時は当日の 00 時 00 分 |
| 9 | 登録日時: 終了 | チェックボックスにチェックなし(検索条件に含まれない状態) 日時は当日の 23 時 59 分 |
| 10 | 取得日時: 開始 | チェックボックスにチェックなし(検索条件に含まれない状態) 日時は当日の 00 時 00 分 |
| 11 | 取得日時: 終了 | チェックボックスにチェックなし(検索条件に含まれない状態) 日時は当日の 23 時 59 分 |
| 12 | ソート条件 | プルダウンメニューは "登録日時" ラジオボタンは "降順" |
| 13 | 一画面の表示件数 | サーバ共通定義ファイルの状況照会 GUI 定義で指定した値の先頭の値 |

(凡例)

- : 入力値は設定されていません。

7.4 ビジネスメッセージ一覧画面

ここでは、ビジネスメッセージ一覧画面について説明します。ビジネスメッセージ一覧画面には、ビジネスメッセージの検索結果が表示されます。

この画面にある [CSV ダウンロード] ボタンをクリックすると、ビジネスメッセージの検索結果が CSV ファイルとしてダウンロードできます。

図 7-3 ビジネスメッセージ一覧画面



ページ番号：

" ページ番号 / 総ページ数 " の形式でページ番号を表示します。

総メッセージ数：

検索の結果抽出された、ビジネスメッセージの総数が表示されます。また、現在表示されているビジネスメッセージが、総数のうち何件目から何件目に該当するかも表示されます。

ソート条件

検索結果のソート条件を変更します。[更新] ボタンをクリックすると、変更後のソート条件で検索結果が表示されます。

プルダウンメニュー

ソート条件に指定する項目を選択します。

ラジオボタン

検索結果を昇順で並べるか、降順で並べるかを選択します。

一画面の表示件数

一覧画面に一度に表示するレコード件数を選択します。[更新] ボタンをクリックすると、変更後の表示件数だけ検索結果が表示されます。

プルダウンメニューから選択できる表示件数は、サーバ共通定義ファイルの状況照会 GUI 定義で指定した値です。サーバ共通定義ファイルの詳細については、「8.2 サーバ共通定義ファイル」を参照してください。

番号

検索されたビジネスメッセージの通し番号が表示されます。

ドキュメント識別子

ビジネスメッセージのドキュメント識別子が表示されます。ドキュメント識別子をクリックすると、該当するビジネスメッセージの詳細画面に遷移します。

ドキュメント送信者識別子

ビジネスメッセージのドキュメント送信者識別子が表示されます。

ドキュメント受信者識別子

ビジネスメッセージのドキュメント受信者識別子が表示されます。

ドキュメント形式

ビジネスメッセージのドキュメント形式が表示されます。

ドキュメント種別

ビジネスメッセージのドキュメント種別が表示されます。

ドキュメント状態

ビジネスメッセージのドキュメント状態が表示されます。表示されるのは次のどちらかです。

- 未取得
- 取得済み

登録日時

ビジネスメッセージがデータベースに登録された日時が表示されます。

ボタン

[前ページ] ボタン, および [次ページ] ボタン

ビジネスメッセージ一覧が複数のページに分かれている場合に、これらのボタンをクリックすると、前後のページを表示できます。

[指定ページへ] ボタン

ビジネスメッセージ一覧が複数のページに分かれている場合に、[ページ番号] テキストボックスに表示させたいページ番号を入力して [指定ページへ] ボタンをクリックすると、任意のページを表示できます。[ページ番号] テキストボックスには、1 ~ 総ページ数の整数値を入力してください。

[更新] ボタン

クリックすると、ビジネスメッセージ一覧画面に表示されている内容が最新の

7. 状況照会 GUI

情報に更新されます。このとき、検索結果の 1 ページ目に画面が遷移します。

[CSV ダウンロード] ボタン

クリックすると、ビジネスメッセージの一覧情報が CSV ファイルとして出力されます。このとき、一画面に表示されているビジネスメッセージだけでなく、検索されたすべてのビジネスメッセージが出力されます。

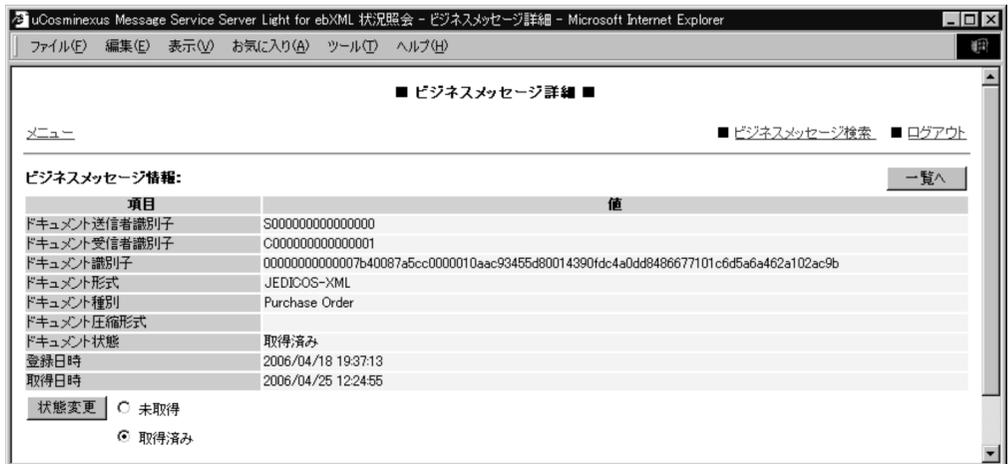
CSV ファイルの詳細については、「付録 B CSV ファイルのダウンロード形式」を参照してください。

7.5 ビジネスメッセージ詳細画面

ここでは、ビジネスメッセージ詳細画面について説明します。ビジネスメッセージ詳細画面は、ビジネスメッセージ一覧画面から、表示したいビジネスメッセージのドキュメント識別子をクリックすると表示されます。

この画面にある [状態変更] ボタンをクリックすると、該当するビジネスメッセージのドキュメント状態を変更できます。

図 7-4 ビジネスメッセージ詳細画面



ドキュメント送信者識別子

ビジネスメッセージのドキュメント送信者識別子が表示されます。

ドキュメント受信者識別子

ビジネスメッセージのドキュメント受信者識別子が表示されます。

ドキュメント識別子

ビジネスメッセージのドキュメント識別子が表示されます。

ドキュメント形式

ビジネスメッセージのドキュメント形式が表示されます。

ドキュメント種別

ビジネスメッセージのドキュメント種別が表示されます。

ドキュメント圧縮形式

ドキュメントを圧縮して送受信した場合、ビジネスメッセージのドキュメント圧縮形式が表示されます。

ドキュメント状態

ビジネスメッセージのドキュメント状態が表示されます。表示されるのは、次のど

7. 状況照会 GUI

ちらかです。

- 未取得
- 取得済み

登録日時

ビジネスメッセージがデータベースに登録された日時が表示されます。

取得日時

ビジネスメッセージの送受信処理が完了した日時が表示されます。ドキュメント状態が " 取得済み " の場合だけ表示されます。

ボタン

[一覧へ] ボタン

クリックすると、ビジネスメッセージ一覧画面に遷移します。

[状態変更] ボタン

" 未取得 " または " 取得済み " のラジオボタンのどちらかを選択してこのボタンをクリックすると、該当するビジネスメッセージのドキュメント状態が、指定した状態に変更されます。同時に、ビジネスメッセージ詳細画面に表示されている情報が最新の情報に更新されます。

ラジオボタンのデフォルトでの選択は、ドキュメント状態として表示されている値と同じです。

8

定義ファイル

この章では、CMS Light サーバのシステムで使用する定義ファイルのうち、ユーザーが作成する定義ファイルの形式、および記述方法について説明します。

8.1 定義ファイル一覧

8.2 サーバ共通定義ファイル

8.3 取引先識別子ファイル

8.4 取引先 URI ファイル

8.1 定義ファイル一覧

CMS Light サーバのシステムで使用する定義ファイルのうち、ユーザーが作成する定義ファイルの一覧を、次に示します。

表 8-1 定義ファイル一覧

| 項番 | 定義ファイル名 | 格納先 |
|----|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | サーバ共通定義ファイル | <ul style="list-style-type: none">• Windows の場合 <CMS Light サーバのインストールディレクトリ >%conf%\HSRScnf.properties• UNIX の場合 /opt/ebxml/mssl/conf/HSRScnf.properties |
| 2 | 取引先識別子ファイル | 任意 |
| 3 | 取引先 URI ファイル | 任意 |

8.2 サーバ共通定義ファイル

サーバ共通定義ファイルは、CMS Light サーバの実行環境を定義するファイルです。ここでは、サーバ共通定義ファイルの概要、および各定義項目について説明します。

8.2.1 サーバ共通定義ファイルの概要

ここでは、サーバ共通定義ファイルの形式、ファイルの格納先、および定義する項目について説明します。

(1) 形式

J2SE のプロパティファイル形式です。

次の形式で定義してください。

<プロパティ>=<値>

- 値に"¥"が含まれている場合は、"¥"を重ねて記述してください。
- 値に全角文字が含まれている場合は、JDK 付属の native2ascii コマンドを使用してネイティブコード (Latin-1 および Unicode コード以外) を Unicode コードに変換してください。
- "#" で始まる行はコメントとみなされます。
- 値の後ろには、半角スペースやコメントなどの文字列は追加しないでください。追加した場合、不正な値と解釈されます。
例: <プロパティ>=<値>#<コメント>
- 値にディレクトリ名を指定する場合、次に注意してください。
 - CMS Light サーバのシステムを稼働させるユーザーに書き込み権限がないディレクトリを指定しないでください。
 - ネットワークドライブ上のディレクトリを指定しないでください。
 - 存在しないディレクトリを指定しないでください。
 - Windows の場合、ディレクトリ名に Windows の予約デバイス名を使用しないでください。
Windows の予約デバイス名は、"AUX", "CON", "NUL", "PRN", "CLOCK\$", "COM1" ~ "COM9", および "LPT1" ~ "LPT9" です。
- 値の前後に指定した半角スペース、タブはすべて削除されます。
- ディレクトリ名の終端に指定した "/" は削除されます。

(2) ファイルの格納先

サーバ共通定義ファイルの格納先を次に示します。

- Windows の場合
<CMS Light サーバのインストールディレクトリ>¥conf¥HSRScnf.properties

8. 定義ファイル

- UNIX の場合

/opt/ebxml/mssl/conf/HSRScnf.properties

サーバ共通定義ファイルは、製品に同梱されたサンプルファイルを定義ファイルの格納先にコピーして編集してください。サンプルファイルの格納先を次に示します。

- Windows の場合

<CMS Light サーバのインストールディレクトリ

>¥sample¥conf¥HSRScnf.properties

- UNIX の場合

/opt/ebxml/mssl/sample/conf/HSRScnf.properties

(3) 定義する項目

サーバ共通定義ファイルに定義する項目を次に示します。各項目の詳細については、次の項以降を参照してください。

- サーバ定義

CMS Light サーバのシステム全体に関する情報を定義します。

- ドキュメントファイル出力定義

CMS Light サーバが受信したビジネスメッセージのファイル出力に関する情報を定義します。

- 通信ログ出力定義

ビジネスメッセージの送受信時に出力される通信ログの出力レベルや、ファイルサイズ(バイト数)などに関する情報を定義します。

- トレースログ出力定義

ビジネスメッセージの送受信時に出力されるトレースログの出力レベルや、ファイルサイズ(バイト数)などに関する情報を定義します。

- エラーログ出力定義

ビジネスメッセージの送受信時に出力されるエラーログのファイルサイズ(バイト数)や、最大ファイル数などに関する情報を定義します。

- サイズ定義

CMS Light サーバのデータベースサーバに格納するドキュメントの最大長を定義します。

- 状況照会 GUI 定義

状況照会 GUI を使用するために必要なログイン ID や、パスワードなどに関する情報を定義します。

- コマンド定義

コマンドを使用するために必要なユーザー名や、パスワードなどに関する情報を定義します。

- JP1 イベント連携定義

JP1 イベント連携機能を使用するために必要な情報を定義します。

これらの項目を定義するとき、指定必須のプロパティまたは値を省略したり、指定できない値を指定したりすると、次のタイミングでエラーが発生します。

- CMS Light サーバのシステム起動時
- 状況照会 GUI の起動時
- コマンド実行時

指定任意のプロパティまたは値を省略したり、指定できない値を指定したりすると、デフォルト値が適用されます。プロパティの情報はトレースログに出力されていますので、サーバ共通定義ファイルに設定した値どおりになっているか確認してください。

8.2.2 サーバ定義

ここでは、サーバ定義で定義できるプロパティと定義例について説明します。サーバ定義では、CMS Light サーバのシステム全体に関する情報を定義します。「3.2 クライアント企業に通知する項目」で決定した内容を値に指定してください。

(1) 定義できるプロパティ

表 8-2 サーバ定義に指定するプロパティ

| 項番 | プロパティ | 内容 | デフォルト値 | 必須 / 任意 |
|----|------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|--------|---------|
| 1 | ebxml.mssl.server.id | CMS Light サーバのサーバ識別子を指定します。63 バイト以内の文字列を指定してください。 | なし | 必須 |
| 2 | ebxml.mssl.server.uri | CMS Light サーバのサーバ URI を指定します。255 バイト以内の文字列を指定してください。 | なし | 必須 |
| 3 | ebxml.mssl.server.persist.duration | CMS Light サーバのビジネスメッセージ保持期間を指定します。86400 ~ 31536000 (秒) の整数値を指定してください。 | 86400 | 任意 |

(2) 定義例

```
ebxml.mssl.server.id = S0000000000000000
ebxml.mssl.server.uri = S0000000000000000.com
ebxml.mssl.server.persist.duration = 86400
```

8.2.3 ドキュメントファイル出力定義

ここでは、ドキュメントファイル出力定義で定義できるプロパティと定義例について説明します。ドキュメントファイル出力定義では、CMS Light サーバが受信したビジネスメッセージのファイル出力に関する情報を定義します。

8. 定義ファイル

(1) 定義できるプロパティ

表 8-3 ドキュメントファイル出力定義に指定するプロパティ

| 項番 | プロパティ | 内容 | デフォルト値 | 必須 / 任意 |
|----|----------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|--------|---------|
| 1 | ebxml.mssl.receive.output.success.path | 取得完了ディレクトリ名を指定します。 100 バイト以内の文字列をフルパスで指定してください。 取得失敗ディレクトリ名と同一のディレクトリ名は指定できません。 | なし | 必須 |
| 2 | ebxml.mssl.receive.output.failure.path | 取得失敗ディレクトリ名を指定します。 100 バイト以内の文字列をフルパスで指定してください。 取得完了ディレクトリ名と同一のディレクトリ名は指定できません。 | なし | 必須 |

(2) 定義例

- Windows の場合

```
ebxml.mssl.receive.output.success.path = C:/Program Files/Hitachi/ebxml/mssl/receive/success
ebxml.mssl.receive.output.failure.path = C:/Program Files/Hitachi/ebxml/mssl/receive/failure
```

- UNIX の場合

```
ebxml.mssl.receive.output.success.path = /opt/ebxml/mssl/receive/success
ebxml.mssl.receive.output.failure.path = /opt/ebxml/mssl/receive/failure
```

8.2.4 通信ログ出力定義

ここでは、通信ログ出力定義で定義できるプロパティと定義例について説明します。通信ログ出力定義では、ビジネスメッセージの送受信時に出力される通信ログに関する情報を定義します。

(1) 定義できるプロパティ

表 8-4 通信ログ出力定義に指定するプロパティ

| 項番 | プロパティ | 内容 | デフォルト値 | 必須 / 任意 |
|----|----------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|---------|
| 1 | ebxml.mssl.app.message.log.level | 通信ログの出力レベルを指定します。0, 10, 20, 30, 40 のどれかを指定してください。 <ul style="list-style-type: none"> 0: 通信ログが出力されません。 10: 受信した SOAP メッセージに誤りがある場合だけ、該当する SOAP メッセージが通信ログとして出力されます。 20: 誤りがある SOAP メッセージ、および送信した SOAP Fault メッセージが通信ログとして出力されます。 30: SOAP Fault メッセージ、および受信した SOAP メッセージがすべて通信ログに出力されます。 40: 送受信した SOAP メッセージがすべて通信ログに出力されます。 | 10 | 任意 |
| 2 | ebxml.mssl.app.message.log.size | 通信ログのファイルサイズ (バイト) を指定します。4096 ~ 16777216 の整数値を指定してください。 | 1048576 | 任意 |
| 3 | ebxml.mssl.app.message.log.count | 通信ログの最大ファイル数を指定します。1 ~ 64 の整数値を指定してください。 | 10 | 任意 |
| 4 | ebxml.mssl.app.message.log.path | 通信ログの出力先ディレクトリ名を指定します。100 バイト以内の文字列をフルパスで指定してください。 | なし | 必須 |

注 ログのファイルサイズ、または最大ファイル数を変更する場合、CMS Light サーバのシステムを停止し、ログの出力先ディレクトリ下にあるディレクトリおよびファイルを、すべて別のディレクトリへ移動するか、または削除してください。

(2) 定義例

• Windows の場合

```
ebxml.mssl.app.message.log.level = 10
ebxml.mssl.app.message.log.size = 1048576
ebxml.mssl.app.message.log.count = 10
ebxml.mssl.app.message.log.path = C:/Program Files/Hitachi/ebxml/mssl/log
```

• UNIX の場合

```
ebxml.mssl.app.message.log.level = 10
ebxml.mssl.app.message.log.size = 1048576
ebxml.mssl.app.message.log.count = 10
ebxml.mssl.app.message.log.path = /opt/ebxml/mssl/log
```

8.2.5 トレースログ出力定義

ここでは、トレースログ出力定義で定義できるプロパティと定義例について説明します。トレースログ出力定義では、ビジネスメッセージの送受信時に出力されるトレースログに関する情報を定義します。

(1) 定義できるプロパティ

表 8-5 トレースログ出力定義に指定するプロパティ

| 項番 | プロパティ | 内容 | デフォルト値 | 必須 / 任意 |
|----|--------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|---------|
| 1 | ebxml.mssl.app.trace.log.level | トレースログの出力レベルを指定します。 0, 10, 20 のどれかを指定してください。 <ul style="list-style-type: none"> 0: エラーメッセージが出力されます。 10: レベル 0 での出力内容に加え、警告メッセージおよびインフォメーションメッセージが出力されます。 20: レベル 10 での出力内容に加え、内部メソッドの開始・終了を通知するインフォメーションメッセージが出力されます。 | 10 | 任意 |
| 2 | ebxml.mssl.app.trace.log.size | トレースログのファイルサイズ (バイト数) を指定します。4096 ~ 16777216 の整数値を指定してください。 | 1048576 | 任意 |
| 3 | ebxml.mssl.app.trace.log.count | トレースログの最大ファイル数を指定します。1 ~ 64 の整数値を指定してください。 | 10 | 任意 |
| 4 | ebxml.mssl.app.trace.log.path | トレースログの出力先ディレクトリ名を指定します。100 バイト以内の文字列をフルパスで指定してください。 | なし | 必須 |

注 ログのファイルサイズ、または最大ファイル数を変更する場合、CMS Light サーバのシステムを停止し、ログの出力先ディレクトリ下にあるディレクトリおよびファイルを、すべて別のディレクトリへ移動するか、または削除してください。

(2) 定義例

• Windows の場合

```
ebxml.mssl.app.trace.log.level = 10
ebxml.mssl.app.trace.log.size = 1048576
ebxml.mssl.app.trace.log.count = 10
ebxml.mssl.app.trace.log.path = C:/Program Files/Hitachi/ebxml/mssl/log
```

• UNIX の場合

```
ebxml.mssl.app.trace.log.level = 10
ebxml.mssl.app.trace.log.size = 1048576
ebxml.mssl.app.trace.log.count = 10
ebxml.mssl.app.trace.log.path = /opt/ebxml/mssl/log
```

8.2.6 エラーログ出力定義

ここでは、エラーログ出力定義で定義できるプロパティと定義例について説明します。エラーログ出力定義では、ビジネスメッセージの送受信時に出力されるエラーログに関する情報を定義します。

(1) 定義できるプロパティ

表 8-6 エラーログ出力定義に指定するプロパティ

| 項番 | プロパティ | 内容 | デフォルト値 | 必須 / 任意 |
|----|--------------------------------|----------------------------------------------------------|---------|---------|
| 1 | ebxml.mssl.app.error.log.size | エラーログのファイルサイズ(バイト数)を指定します。4096 ~ 16777216 の整数値を指定してください。 | 1048576 | 任意 |
| 2 | ebxml.mssl.app.error.log.count | エラーログの最大ファイル数を指定します。1 ~ 64 の整数値を指定してください。 | 10 | 任意 |
| 3 | ebxml.mssl.app.error.log.path | エラーログの出力先ディレクトリ名を指定します。100 バイト以内の文字列をフルパスで指定してください。 | なし | 必須 |

注 ログのファイルサイズ、または最大ファイル数を変更する場合、CMS Light サーバのシステムを停止し、ログの出力先ディレクトリ下にあるディレクトリおよびファイルを、すべて別のディレクトリへ移動するか、または削除してください。

(2) 定義例

- Windows の場合

```
ebxml.mssl.app.error.log.size = 1048576
ebxml.mssl.app.error.log.count = 10
ebxml.mssl.app.error.log.path = C:/Program Files/Hitachi/ebxml/mssl/log
```

- UNIX の場合

```
ebxml.mssl.app.error.log.size = 1048576
ebxml.mssl.app.error.log.count = 10
ebxml.mssl.app.error.log.path = /opt/ebxml/mssl/log
```

8.2.7 サイズ定義

ここでは、サイズ定義で定義できるプロパティと定義例について説明します。サイズ定義では、CMS Light サーバのデータベースサーバに格納するドキュメントの最大長を定義します。

8. 定義ファイル

(1) 定義できるプロパティ

表 8-7 サイズ定義に指定するプロパティ

| 項番 | プロパティ | 内容 | デフォルト値 | 必須 / 任意 |
|----|-------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|---------|
| 1 | ebxml.mssl.size.document.data | <p>ビジネスメッセージに添付されるドキュメントの最大長を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Windows の場合 1 ~ 46976205 (バイト) の整数値を指定してください。 • UNIX の場合 1 ~ 293601280 (バイト) の整数値を指定してください。 <p>このプロパティには、ドキュメントの最大ファイルサイズではなく、「4.2.4 テーブルの作成」で、HiRDB のテーブル (HSRSMMessageArchive) の DocumentData カラムに指定した値を指定します。DocumentData カラムに単位 (K, M, G) を含んだ形式で値を指定した場合は、次の計算式を基に計算した結果を指定してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • K : $n \times 1024$ • M : $n \times 1048576$ • G : $n \times 1073741824$ | なし | 必須 |

(2) 定義例

```
ebxml.mssl.size.document.data = 1468007
```

8.2.8 状況照会 GUI 定義

ここでは、状況照会 GUI 定義で定義できるプロパティと定義例について説明します。状況照会 GUI 定義では、状況照会 GUI を使用するために必要な情報を定義します。

(1) 定義できるプロパティ

表 8-8 状況照会 GUI 定義に指定するプロパティ

| 項番 | プロパティ | 内容 | デフォルト値 | 必須 / 任意 |
|----|-------------------------------|---------------------------------------------------|--------|---------|
| 1 | ebxml.mssl.gui.admin.logid | 状況照会 GUI のログイン ID を指定します。20 バイト以内の半角英数字で指定してください。 | なし | 必須 |
| 2 | ebxml.mssl.gui.admin.password | 状況照会 GUI のパスワードを指定します。20 バイト以内の半角英数字で指定してください。 | なし | 必須 |

| 項番 | プロパティ | 内容 | デフォルト値 | 必須 / 任意 |
|----|------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|---------|
| 3 | ebxml.mssl.gui.view.line num | ビジネスメッセージ検索画面およびビジネスメッセージ一覧画面の、[一画面の表示件数] で選択できる整数値を、コンマ区切りで列挙します。1 ~ 1000 の整数値を最大 10 個指定できます。 コンマが連続して指定された場合や、半角スペース・タブだけが指定された場合は無視されます。 | 50 | 任意 |
| 4 | ebxml.mssl.gui.trace.log.l evel | トレースログの出力レベルを指定します。0, 10, 20 のどれかを指定してください。 <ul style="list-style-type: none"> • 0: エラーメッセージが出力されます。 • 10: レベル 0 での出力内容に加え、警告メッセージおよびインフォメーションメッセージが出力されます。 • 20: レベル 10 での出力内容に加え、内部メソッドの開始・終了を通知するインフォメーションメッセージが出力されます。 | 10 | 任意 |
| 5 | ebxml.mssl.gui.trace.log. size | トレースログのファイルサイズ (バイト数) を指定します。4096 ~ 16777216 の整数値を指定してください。 | 1048576 | 任意 |
| 6 | ebxml.mssl.gui.trace.log. count | トレースログの最大ファイル数を指定します。1 ~ 64 の整数値を指定してください。 | 10 | 任意 |
| 7 | ebxml.mssl.gui.trace.log. path | トレースログの出力先ディレクトリ名を指定します。100 バイト以内の文字列をフルパスで指定してください。 | なし | 必須 |
| 8 | ebxml.mssl.gui.error.log.s ize | エラーログのファイルサイズ (バイト数) を指定します。4096 ~ 16777216 の整数値を指定してください。 | 1048576 | 任意 |
| 9 | ebxml.mssl.gui.error.log.c ount | エラーログの最大ファイル数を指定します。1 ~ 64 の整数値を指定してください。 | 10 | 任意 |
| 10 | ebxml.mssl.gui.error.log. path | エラーログの出力先ディレクトリ名を指定します。100 バイト以内の文字列をフルパスで指定してください。 | なし | 必須 |

注 ログのファイルサイズ、または最大ファイル数を変更する場合、CMS Light サーバのシステムを停止し、ログの出力先ディレクトリ下にあるディレクトリおよびファイルを、すべて別のディレクトリへ移動するか、または削除してください。

(2) 定義例

- Windows の場合

8. 定義ファイル

```
ebxml.mssl.gui.admin.loginid = admin
ebxml.mssl.gui.admin.password = pwadmin

ebxml.mssl.gui.view.linenum = 10,20,30,40,50

ebxml.mssl.gui.trace.log.level = 10
ebxml.mssl.gui.trace.log.size = 1048576
ebxml.mssl.gui.trace.log.count = 10
ebxml.mssl.gui.trace.log.path = C:/Program Files/Hitachi/ebxml/mssl/log

ebxml.mssl.gui.error.log.size = 1048576
ebxml.mssl.gui.error.log.count = 10
ebxml.mssl.gui.error.log.path = C:/Program Files/Hitachi/ebxml/mssl/log
```

• UNIX の場合

```
ebxml.mssl.gui.admin.loginid = admin
ebxml.mssl.gui.admin.password = pwadmin

ebxml.mssl.gui.view.linenum = 10,20,30,40,50

ebxml.mssl.gui.trace.log.level = 10
ebxml.mssl.gui.trace.log.size = 1048576
ebxml.mssl.gui.trace.log.count = 10
ebxml.mssl.gui.trace.log.path = /opt/ebxml/mssl/log

ebxml.mssl.gui.error.log.size = 1048576
ebxml.mssl.gui.error.log.count = 10
ebxml.mssl.gui.error.log.path = /opt/ebxml/mssl/log
```

8.2.9 コマンド定義

ここでは、コマンド定義で定義できるプロパティと定義例について説明します。コマンド定義では、コマンドを使用するために必要な情報を定義します。

(1) 定義できるプロパティ

表 8-9 コマンド定義に指定するプロパティ

| 項番 | プロパティ | 内容 | デフォルト値 | 必須 / 任意 |
|----|----------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|--------|---------|
| 1 | ebxml.mssl.cmd.db.user | データベースに接続するためのユーザー名を指定します。 「4.5.5 HiRDB のクライアント環境変数の設定」の PDUSER 設定で指定したユーザー ID を指定してください。 | なし | 必須 |
| 2 | ebxml.mssl.cmd.db.password | データベースに接続するためのパスワードを指定します。 「4.5.5 HiRDB のクライアント環境変数の設定」の PDUSER 設定で指定したパスワードを指定してください。 | なし | 必須 |

| 項番 | プロパティ | 内容 | デフォルト値 | 必須 / 任意 |
|----|--------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|---------|
| 3 | ebxml.mssl.cmd.db.url | 接続するデータベースの各種情報を、JDBC の URL 形式で指定します。 データベース接続に HiRDB Type4 JDBC Driver を使用する場合、"@HIRDBENVGRP=" に続けて、「4.5.5 HiRDB のクライアント環境変数の設定」で編集した HiRDB.ini ファイルの絶対パス名を指定します。半角スペースを含むパスを指定するときは、パス全体を "" (ダブルクォーテーション) で囲む必要があります。 | なし | 必須 |
| 4 | ebxml.mssl.cmd.db.jdbc.driver | データベース接続に使用する JDBC ドライバのクラス名を指定します。次の値を指定してください。 <ul style="list-style-type: none"> • Cosminexus DABroker Library を使用する場合 JP.co.Hitachi.soft.DBPSV_Driver.JdbcDbpsvDriver • HiRDB Type4 JDBC Driver を使用する場合 JP.co.Hitachi.soft.HiRDB.JDBC.HiRDBDriver | なし | 必須 |
| 5 | ebxml.mssl.cmd.trace.log.level | トレースログの出力レベルを指定します。0, 10, 20 のどれかを指定してください。 <ul style="list-style-type: none"> • 0: エラーメッセージが出力されます。 • 10: レベル 0 での出力内容に加え、警告メッセージおよびインフォメーションメッセージが出力されます。 • 20: レベル 10 での出力内容に加え、内部メソッドの開始・終了を通知するインフォメーションメッセージが出力されません。 | 10 | 任意 |
| 6 | ebxml.mssl.cmd.trace.log.size | トレースログのファイルサイズを指定します。4096 ~ 16777216 (バイト) の整数値を指定してください。 | 1048576 | 任意 |
| 7 | ebxml.mssl.cmd.trace.log.count | トレースログの最大ファイル数を指定します。1 ~ 64 の整数値を指定してください。 | 10 | 任意 |
| 8 | ebxml.mssl.cmd.trace.log.path | トレースログの出力先ディレクトリ名を指定します。100 バイト以内の文字列をフルパスで指定してください。 | なし | 必須 |
| 9 | ebxml.mssl.cmd.error.log.size | エラーログのファイルサイズ (バイト数) を指定します。4096 ~ 16777216 の整数値を指定してください。 | 1048576 | 任意 |
| 10 | ebxml.mssl.cmd.error.log.count | エラーログの最大ファイル数を指定します。1 ~ 64 の整数値を指定してください。 | 10 | 任意 |
| 11 | ebxml.mssl.cmd.error.log.path | エラーログの出力先ディレクトリ名を指定します。100 バイト以内の文字列をフルパスで指定してください。 | なし | 必須 |

8. 定義ファイル

注 ログのファイルサイズ,または最大ファイル数を変更する場合, CMS Light サーバのシステムを停止し, ログの出力先ディレクトリ下にあるディレクトリおよびファイルを, すべて別のディレクトリへ移動するか, または削除してください。

(2) 定義例

- Windows の場合でデータベース接続に Cosminexus DABroker Library を使用するとき

```
ebxml.mssl.cmd.db.user = hsrldb
ebxml.mssl.cmd.db.password = pwhsrldb
ebxml.mssl.cmd.db.url = jdbc:hitachi:dbplib://
DB=HIRDB,DBID=@DABENVGRP=HSRldb, ENCODELANG=MS932
ebxml.mssl.cmd.db.jdbc.driver =
JP.co.Hitachi.soft.DBPSV_Driver.JdbcDbpsvDriver

ebxml.mssl.cmd.trace.log.level = 10
ebxml.mssl.cmd.trace.log.size = 1048576
ebxml.mssl.cmd.trace.log.count = 10
ebxml.mssl.cmd.trace.log.path = C:/Program Files/Hitachi/ebxml/mssl/log

ebxml.mssl.cmd.error.log.size = 1048576
ebxml.mssl.cmd.error.log.count = 10
ebxml.mssl.cmd.error.log.path = C:/Program Files/Hitachi/ebxml/mssl/log
```

- Windows の場合でデータベース接続に HiRDB Type4 JDBC Driver を使用するとき

```
ebxml.mssl.cmd.db.user = hsrldb
ebxml.mssl.cmd.db.password = pwhsrldb
ebxml.mssl.cmd.db.url = @HIRDBENVGRP="C:/Program Files/Hitachi/ebxml/mssl/
conf/HiRDB.ini", ENCODELANG=MS932
ebxml.mssl.cmd.db.jdbc.driver = JP.co.Hitachi.soft.HiRDB.JDBC.HiRDBDriver

ebxml.mssl.cmd.trace.log.level = 10
ebxml.mssl.cmd.trace.log.size = 1048576
ebxml.mssl.cmd.trace.log.count = 10
ebxml.mssl.cmd.trace.log.path = C:/Program Files/Hitachi/ebxml/mssl/log

ebxml.mssl.cmd.error.log.size = 1048576
ebxml.mssl.cmd.error.log.count = 10
ebxml.mssl.cmd.error.log.path = C:/Program Files/Hitachi/ebxml/mssl/log
```

- UNIX の場合

```
ebxml.mssl.cmd.db.user = hsrldb
ebxml.mssl.cmd.db.password = pwhsrldb
ebxml.mssl.cmd.db.url = jdbc:hitachi:hirdb://DBID=@HIRDBENVGRP=/opt/ebxml/
mssl/conf/HiRDB.ini, ENCODELANG=MS932
ebxml.mssl.cmd.db.jdbc.driver = JP.co.Hitachi.soft.HiRDB.JDBC.HiRDBDriver

ebxml.mssl.cmd.trace.log.level = 10
ebxml.mssl.cmd.trace.log.size = 1048576
ebxml.mssl.cmd.trace.log.count = 10
ebxml.mssl.cmd.trace.log.path = /opt/ebxml/mssl/log

ebxml.mssl.cmd.error.log.size = 1048576
ebxml.mssl.cmd.error.log.count = 10
ebxml.mssl.cmd.error.log.path = /opt/ebxml/mssl/log
```

8.2.10 JP1 イベント連携定義

ここでは, JP1 イベント連携定義で定義できるプロパティと定義例について説明します。JP1 イベント連携定義では, JP1 イベント連携機能を使用するために必要な情報を定義

します。

(1) 定義できるプロパティ

表 8-10 JP1 イベント連携定義に指定するプロパティ

| 項番 | プロパティ | 内容 | デ フォ ルト 値 | 必須 / 任意 |
|----|-------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|---------------|
| 1 | ebxml.mssl.jp1event.app .PUTDOCUMENT | ビジネスメッセージ送受信時、ビジネスメッセージ受信イベントを JP1 に通知するかどうかを指定します。 true：イベントを通知します。 false：イベントを通知しません。 | false | 任意 |
| 2 | ebxml.mssl.jp1event.app .RECEIVEOUTPUT | ビジネスメッセージ送受信時、ドキュメントファイル出力イベントを JP1 に通知するかどうかを指定します。 true：イベントを通知します。 false：イベントを通知しません。 | false | 任意 |
| 3 | ebxml.mssl.jp1event.app .RECEIVEOUTPUT-ERROR | ビジネスメッセージ送受信時、ドキュメントファイル出力失敗イベントを JP1 に通知するかどうかを指定します。 true：イベントを通知します。 false：イベントを通知しません。 | false | 任意 |
| 4 | ebxml.mssl.jp1event.app .GETDOCUMENT | ビジネスメッセージ送受信時、ビジネスメッセージ送信要求イベントを JP1 に通知するかどうかを指定します。 true：イベントを通知します。 false：イベントを通知しません。 | false | 任意 |
| 5 | ebxml.mssl.jp1event.app .CONFIRMDOCUMENT | ビジネスメッセージ送受信時、ビジネスメッセージ送信通知イベントを JP1 に通知するかどうかを指定します。 true：イベントを通知します。 false：イベントを通知しません。 | false | 任意 |
| 6 | ebxml.mssl.jp1event.gui. COMPLETEMESSAGE | 状況照会 GUI 操作時、ドキュメント状態変更（強制完了）イベントを JP1 に通知するかどうかを指定します。 true：イベントを通知します。 false：イベントを通知しません。 | false | 任意 |
| 7 | ebxml.mssl.jp1event.gui. UNCOMPLETEMESSAGE | 状況照会 GUI 操作時、ドキュメント状態変更（強制引き戻し）イベントを JP1 に通知するかどうかを指定します。 true：イベントを通知します。 false：イベントを通知しません。 | false | 任意 |
| 8 | ebxml.mssl.jp1event.cmd .PUTMESSAGE | コマンド実行時、ビジネスメッセージ登録イベントを JP1 に通知するかどうかを指定します。 true：イベントを通知します。 false：イベントを通知しません。 | false | 任意 |

8. 定義ファイル

| 項番 | プロパティ | 内容 | デフォルト値 | 必須 / 任意 |
|----|---------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|---------|
| 9 | ebxml.mssl.jp1event.cmd.GETMESSAGE | コマンド実行時、ビジネスメッセージ取得イベントを JP1 に通知するかどうかを指定します。 true : イベントを通知します。 false : イベントを通知しません。 | false | 任意 |
| 10 | ebxml.mssl.jp1event.cmd.COMPLETEMESSEGE | コマンド実行時、ドキュメント状態変更（強制完了）イベントを JP1 に通知するかどうかを指定します。 true : イベントを通知します。 false : イベントを通知しません。 | false | 任意 |
| 11 | ebxml.mssl.jp1event.cmd.UNCOMPLETEMESSEGE | コマンド実行時、ドキュメント状態変更（強制引き戻し）イベントを JP1 に通知するかどうかを指定します。 true : イベントを通知します。 false : イベントを通知しません。 | false | 任意 |
| 12 | ebxml.mssl.jp1event.PU.TDOCUMENT.id | ビジネスメッセージ受信イベントのイベント ID を指定します。0 ~ 8191 または 2147450880 ~ 2147483647 の整数値を指定してください。 | 3825 | 任意 |
| 13 | ebxml.mssl.jp1event.RE.CEIVEOUTPUT.id | ドキュメントファイル出力イベントのイベント ID を指定します。0 ~ 8191 または 2147450880 ~ 2147483647 の整数値を指定してください。 | 3826 | 任意 |
| 14 | ebxml.mssl.jp1event.RE.CEIVEOUTPUT.ERROR.id | ドキュメントファイル出力失敗イベントのイベント ID を指定します。0 ~ 8191 または 2147450880 ~ 2147483647 の整数値を指定してください。 | 3827 | 任意 |
| 15 | ebxml.mssl.jp1event.GE.TDOCUMENT.id | ビジネスメッセージ送信要求イベントのイベント ID を指定します。0 ~ 8191 または 2147450880 ~ 2147483647 の整数値を指定してください。 | 3828 | 任意 |
| 16 | ebxml.mssl.jp1event.CO.NFIRMDOCUMENT.id | ビジネスメッセージ送信通知イベントのイベント ID を指定します。0 ~ 8191 または 2147450880 ~ 2147483647 の整数値を指定してください。 | 3829 | 任意 |
| 17 | ebxml.mssl.jp1event.PU.TMESSAGE.id | ビジネスメッセージ登録イベントのイベント ID を指定します。0 ~ 8191 または 2147450880 ~ 2147483647 の整数値を指定してください。 | 3830 | 任意 |
| 18 | ebxml.mssl.jp1event.GE.TMESSAGE.id | ビジネスメッセージ取得イベントのイベント ID を指定します。0 ~ 8191 または 2147450880 ~ 2147483647 の整数値を指定してください。 | 3831 | 任意 |
| 19 | ebxml.mssl.jp1event.CO.MPLETEMESSEGE.id | ドキュメント状態変更（強制完了）イベントのイベント ID を指定します。0 ~ 8191 または 2147450880 ~ 2147483647 の整数値を指定してください。 | 3832 | 任意 |

| 項番 | プロパティ | 内容 | デフォルト値 | 必須 / 任意 |
|----|-----------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|--------|---------|
| 20 | ebxml.mssl.jplevent.UNCOMPLETMESSAGE.id | ドキュメント状態変更（強制引き戻し）イベントのイベント ID を指定します。0 ~ 8191 または 2147450880 ~ 2147483647 の整数値を指定してください。 | 3833 | 任意 |

(2) 定義例

```

ebxml.mssl.jplevent.app.PUTDOCUMENT = false
ebxml.mssl.jplevent.app.RECEIVEOUTPUT = false
ebxml.mssl.jplevent.app.RECEIVEOUTPUT-ERROR = false
ebxml.mssl.jplevent.app.GETDOCUMENT = false
ebxml.mssl.jplevent.app.CONFIRMDOCUMENT = false

ebxml.mssl.jplevent.gui.COMPLETMESSAGE = false
ebxml.mssl.jplevent.gui.UNCOMPLETMESSAGE = false

ebxml.mssl.jplevent.cmd.PUTMESSAGE = false
ebxml.mssl.jplevent.cmd.GETMESSAGE = false
ebxml.mssl.jplevent.cmd.COMPLETMESSAGE = false
ebxml.mssl.jplevent.cmd.UNCOMPLETMESSAGE = false

ebxml.mssl.jplevent.PUTDOCUMENT.id = 3825
ebxml.mssl.jplevent.RECEIVEOUTPUT.id = 3826
ebxml.mssl.jplevent.RECEIVEOUTPUT-ERROR.id = 3827
ebxml.mssl.jplevent.GETDOCUMENT.id = 3828
ebxml.mssl.jplevent.CONFIRMDOCUMENT.id = 3829
ebxml.mssl.jplevent.PUTMESSAGE.id = 3830
ebxml.mssl.jplevent.GETMESSAGE.id = 3831
ebxml.mssl.jplevent.COMPLETMESSAGE.id = 3832
ebxml.mssl.jplevent.UNCOMPLETMESSAGE.id = 3833

```

8.3 取引先識別子ファイル

取引先識別子ファイルは、クライアント企業の取引先識別子を記述するファイルです。このファイルは次のときに使用します。

- HSRRegisterPartner コマンドを使用して取引先識別子をデータベースに登録するとき
- HSRRemovePartner コマンドを使用して取引先識別子をデータベースから削除するとき
- HSRStartBusiness コマンドや HSRStopBusiness コマンドを使用してクライアント企業の取引先状態を変更するとき

UNIX の場合、取引先識別子ファイルは、コマンド実行時に有効となる環境変数 LANG の文字コードと同じ文字コードで記述してください。環境変数については、「4.4 環境変数の設定」を参照してください。

ここでは、取引先識別子ファイルの形式、ファイルの格納先、および定義例について説明します。

(1) 形式

次の形式で定義してください。

<取引先識別子><改行>

- 取引先識別子には 63 バイト以内の文字列を指定してください。
取引先識別子が空文字列、または 63 バイトを超えた文字列の場合、コマンド実行時に異常終了 (4: 実行時エラー) します。
- 取引先識別子を複数登録する場合、取引先識別子ごとに改行して記述してください。
改行コードには、OS の標準のコード (Windows の場合は [CR] + [LF], UNIX の場合は [LF]) を使用してください。
- 取引先識別子の前後に半角スペース、タブを含んだ値を指定した場合、前後の半角スペース、タブはすべて削除されます。

(2) ファイルの格納先

ファイルの格納先およびファイル名称は任意です。

(3) 定義例

```
C000000000000001
C000000000000002
C000000000000003
C000000000000004
C000000000000005
C000000000000006
C000000000000007
C000000000000008
C000000000000009
C000000000000010
```

8.4 取引先 URI ファイル

取引先 URI ファイルは、クライアント企業の取引先 URI を記述するファイルです。このファイルは次のときに使用します。

- HSRSRegisterPartnerUri コマンドを使用して取引先 URI をデータベースに登録するとき
- HSRSRemovePartnerUri コマンドを使用して取引先 URI をデータベースから削除するとき

UNIX の場合、取引先 URI ファイルは、コマンド実行時に有効となる環境変数 LANG の文字コードと同じ文字コードで記述してください。環境変数については、「4.4 環境変数の設定」を参照してください。

ここでは、取引先 URI ファイルの形式、ファイルの格納先、および定義例について説明します。

(1) 形式

次の形式で定義してください。

<取引先URI><改行>

- 取引先 URI には 255 バイト以内の文字列を指定してください。
取引先 URI が空文字列、または 255 バイトを超えた文字列の場合、コマンド実行時に異常終了 (4: 実行時エラー) します。
- 取引先 URI を複数登録する場合、取引先 URI ごとに改行して記述してください。
改行コードには、OS の標準のコード (Windows の場合は [CR] + [LF], UNIX の場合は [LF]) を使用してください。
- 取引先 URI の前後に半角スペース、タブを含んだ値を指定した場合、前後の半角スペース、タブはすべて削除されます。

(2) ファイルの格納先

ファイルの格納先およびファイル名称は任意です。

(3) 定義例

```
C000000000000001.com
C000000000000002.com
C000000000000003.com
C000000000000004.com
C000000000000005.com
C000000000000006.com
C000000000000007.com
C000000000000008.com
C000000000000009.com
C000000000000010.com
```


9

コマンド

この章では、CMS Light サーバのシステムで使用するコマンドの記述形式、文法、使用例などについて説明します。

9.1 コマンド一覧

9.2 コマンドを使用する前に

9.3 コマンドの詳細

9.1 コマンド一覧

CMS Light サーバのシステムで使用するコマンドの一覧を、次に示します。

表 9-1 CMS Light サーバのコマンド一覧

| 項番 | 分類 | コマンド名 | 説明 |
|----|------------------|------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|
| 1 | ビジネスメッセージを管理する | HSRSPutMessage (ビジネスメッセージ登録) | ビジネスメッセージをデータベースに登録します。 |
| 2 | | HSRSGetMessage (ビジネスメッセージ取得) | "未取得" 状態のビジネスメッセージのうち、ドキュメント受信者識別子がサーバ識別子のビジネスメッセージを取得します。 |
| 3 | | HSRSRemoveMessage (ビジネスメッセージ削除) | "取得済み" 状態のビジネスメッセージのうち、保持期間を過ぎたビジネスメッセージを、データベースから削除します。 |
| 4 | | HSRSCompleteMessage (ドキュメント状態変更 (強制完了)) | ビジネスメッセージのドキュメント状態を "未取得" から "取得済み" に変更します。 |
| 5 | | HSRSUncompleteMessage (ドキュメント状態変更 (強制引き戻し)) | ビジネスメッセージのドキュメント状態を "取得済み" から "未取得" に変更します。 |
| 6 | クライアント企業の情報を管理する | HSRSRegisterPartner (取引先識別子登録) | 取引先識別子をデータベースに一括登録します。 |
| 7 | | HSRSRemovePartner (取引先識別子削除) | "取引停止" 状態の取引先識別子をデータベースから削除します。 |
| 8 | | HSRSStartBusiness (取引先状態変更 (取引開始)) | 取引先状態を "取引停止" から "取引中" に変更します。 |
| 9 | | HSRSStopBusiness (取引先状態変更 (取引停止)) | 取引先状態を "取引中" から "取引停止" に変更します。 |
| 10 | | HSRSRegisterPartnerUri (取引先 URI 登録) | 取引先 URI をデータベースに一括登録します。 |
| 11 | | HSRSRemovePartnerUri (取引先 URI 削除) | 取引先 URI をデータベースから削除します。 |

9.2 コマンドを使用する前に

ここでは、コマンドを使用する前に知っておく必要があることについて説明します。

9.2.1 コマンドの説明で使用する見出し

ここでは、コマンドの説明で使用する、各見出しについて説明します。

形式

コマンドの入力形式を示します。全コマンドに共通する入力形式については、「9.2.2 入力形式」を参照してください。
ユーザーが入力した形式に誤りがある場合、標準出力に Usage が表示されます。

機能

コマンドの機能について説明します。

オプション

コマンドのオプションについて説明します。

戻り値

コマンドの戻り値について説明します。CMS Light サーバのコマンドを実行すると、次に示す戻り値が返ります。

表 9-2 コマンドの戻り値

| 戻り値 | 内容 |
|-----|----------------------------------------------|
| 0 | 正常終了 |
| 1 | 警告付き正常終了 |
| 2 | 異常終了（システム定義エラー） システムの環境設定に問題があります。 |
| 3 | 異常終了（引数エラー） 指定した引数に誤りがあります。 |
| 4 | 異常終了（実行時エラー） コマンド処理中に処理を継続できないエラーが発生しました。 |

実行例

オプションを選択し、オプションの引数に具体値を入力したコマンド実行例を示します。このマニュアルでは、Windows の場合の実行例を示します。また、説明する実行例の設定値は、次のとおりに仮定しています。

- 自システムのサーバ識別子：S0000000000000000
- クライアント企業の取引先識別子：C000000000000001
- クライアント企業の取引先 URI：C000000000000001.com
- 送受信するビジネスメッセージのドキュメント識別子：
20060418063642-4227063e2a664f4299b4440e07833adf@C000000000000001.co

9. コマンド

m

- 取引先識別子ファイルの格納先：C:¥data¥id.txt
- 取引先 URI ファイルの格納先：C:¥data¥uri.txt

9.2.2 入力形式

コマンドの入力形式を次に示します。

コマンド名称 [オプション]

入力形式のうち、各項目について説明します。なお、ここではコマンドプロンプトを "\$", コマンド名称を "cmd" と表記します。

(1) コマンド名称

実行するコマンドのファイル名を指定します。

半角スペースを含むパスを指定してコマンドを実行する場合、パス全体を "" (ダブルクォーテーション) で囲む必要があります。

- 誤った指定例：\$ C:¥Program Files¥Hitachi¥ebxml¥mssl¥bin¥cmd
- 正しい指定例：\$ "C:¥Program Files¥Hitachi¥ebxml¥mssl¥bin¥cmd"

(2) オプション

実行するコマンドのオプションを指定します。一つのコマンドに対して、オプションは複数指定できます。

オプションの入力形式および指定規則を次に示します。

(a) オプションの入力形式

オプションは、 "-" で始まる文字列で、必ず引数を一つ指定します。オプションの入力形式を次に示します。

```
$ cmd -オプションフラグ<半角スペースまたはタブ>引数
```

オプションフラグ

コマンドごとに決められた半角英数字です。大文字・小文字が区別されます。

引数

オプションフラグに対する引数で、識別子やファイル名などを指定します。

(b) オプションの指定規則

オプションの指定規則を次に説明します。

- オプションの間は、半角スペースまたはタブで空けてください。
- 各オプションの定義は順不同です。ただし、オプションフラグと引数は対で指定してください。
- 同じコマンドに同じオプションを指定して、同時に実行しないでください。データ

ベースのテーブル内で処理対象の競合が発生するおそれがあります。

- Windows の場合、引数に指定する文字列に次に示すものを含むときは、文字列を "" (ダブルクォーテーション) で囲んで指定してください。
 - 半角スペース
 - *
 - ?
 - <
 - >
 - |
 - &
 - ^
- Windows の場合、引数に指定する文字列に " (ダブルクォーテーション) を含むときは、文字列を \ でエスケープして指定してください。
- UNIX の場合、引数に指定する文字列に次に示すものを含むときは、文字列を "" (ダブルクォーテーション) または " (シングルクォーテーション) で囲んで指定してください。
 - 半角スペース
 - *
 - ?
 - <
 - >
 - |
 - &
 - ;
 - (
 -)
 - '
 - ~
 - #
 - !
- UNIX の場合、引数に指定する文字列に次に示すものを含むときは、文字列を \ (バックスラッシュ) でエスケープして指定してください。
 - `
 - "
 - \
 - \$
- ファイルやディレクトリのパス名に、次に示す文字を含めないでください。
 - *
 - ?

9. コマンド

- 引数にファイル名またはディレクトリ名を指定する場合、次のことを確認してください。
 - ファイル名にはファイルを、ディレクトリ名にはディレクトリを指定したか
 - 指定したファイルまたはディレクトリが存在するか
 - ネットワークドライブ上のファイルまたはディレクトリでないか
 - コマンドを実行するユーザーに対して読み込み権限があるか
 - Windows の場合、ファイル名またはディレクトリが Windows の予約デバイス名でないか
Windows の予約デバイス名は、"AUX", "CON", "NUL", "PRN", "CLOCK\$", "COM1" ~ "COM9", および "LPT1" ~ "LPT9" です。

9.2.3 コマンド実行時の注意事項

コマンド実行時の注意事項について説明します。

(1) コマンド実行時の権限

コマンドは、Administrator 権限 (Windows の場合)、または root 権限 (UNIX の場合) のあるユーザーが実行してください。

(2) コマンド処理を中断する方法

CMS Light サーバのコマンドは、[Ctrl] + [C] を押すとコマンド処理が中断されます。

(3) 同時に実行できないコマンドの組み合わせ

次に示す組み合わせのコマンドを同時に実行すると、データベースサーバのテーブルの状態不正によってコマンドが異常終了するおそれがあります。表に示したコマンドの組み合わせで、同時にコマンドを実行しないでください。

表 9-3 同時に実行できないコマンドの組み合わせ

| 項番 | コマンド名 | 同時に実行できないコマンド | 理由 |
|----|------------------------|-----------------------|-------------------------------------------------|
| 1 | HSRSCompleteMessage | なし | - |
| 2 | HSRSGetMessage | HSRSStopBusiness | 取得処理中に取引先状態が "取引停止" になると、取引先の検証失敗でコマンドが異常終了します。 |
| 3 | HSRSPutMessage | HSRSStopBusiness | 登録処理中に取引先状態が "取引停止" になると、取引先の検証失敗でコマンドが異常終了します。 |
| 4 | HSRSRegisterPartner | なし | - |
| 5 | HSRSRegisterPartnerUri | なし | - |
| 6 | HSRSRemoveMessage | HSRSUncompleteMessage | 削除対象のビジネスメッセージの状態が変更されると、コマンドが異常終了します。 |

| 項番 | コマンド名 | 同時に実行できないコマンド | 理由 |
|----|-----------------------|-------------------|----------------------------------------|
| 7 | HSRSRemovePartner | HSRSStartBusiness | 削除対象の取引先識別子の取引先状態が変更されると、コマンドが異常終了します。 |
| 8 | HSRSRemovePartnerUri | なし | - |
| 9 | HSRSStartBusiness | HSRSRemovePartner | 項番 7 と同じ |
| 10 | HSRSStopBusiness | HSRSGetMessage | 項番 2 と同じ |
| 11 | | HSRSPutMessage | 項番 3 と同じ |
| 12 | HSRSUncompleteMessage | HSRSRemoveMessage | 状態変更対象のビジネスメッセージが削除されると、コマンドが異常終了します。 |

(凡例)

なし：同時に実行できないコマンドはありません。

-：該当しません。

9.3 コマンドの詳細

ここでは、CMS Light サーバのシステムで使用するコマンドの詳細について説明します。
コマンドの詳細は、コマンド名のアルファベット順に記載しています。

HSRSCompleteMessage (ドキュメント状態変更 (強制完了))

形式

```
HSRSCompleteMessage -mid ドキュメント識別子
                    -sid ドキュメント送信者識別子
                    -rid ドキュメント受信者識別子
```

機能

ビジネスメッセージのドキュメント状態を、"未取得"状態から"取得済み"状態に変更します。

なお、ビジネスメッセージのドキュメント状態は、状況照会 GUI から変更できます。
詳細については、「7. 状況照会 GUI」を参照してください。

オプション

-mid ドキュメント識別子

ビジネスメッセージのドキュメント識別子を指定します。このオプションは必ず指定してください。

-sid ドキュメント送信者識別子

ビジネスメッセージのドキュメント送信者識別子を指定します。このオプションは必ず指定してください。

-rid ドキュメント受信者識別子

ビジネスメッセージのドキュメント受信者識別子を指定します。このオプションは必ず指定してください。

戻り値

| 戻り値 | 内容 |
|-----|-----------------------------------------------------------------------|
| 0 | 正常終了 ドキュメント状態を正常に変更しました。 |
| 1 | 警告付き正常終了 ドキュメント状態がすでに"取得済み"でした。または、条件に合うビジネスメッセージがデータベースにありませんでした。 |

| 戻り値 | 内容 |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2 | 異常終了 (システム定義エラー) |
| 3 | 異常終了 (引数エラー) |
| 4 | <p>異常終了 (実行時エラー)</p> <p>ドキュメント状態を変更できませんでした。要因を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • データベースへの接続に失敗した。 • ビジネスメッセージの更新時、データベースアクセスエラーが発生した。 • メモリ不足など内部エラーが発生した。 <p>なお、処理の途中で実行時エラーになった場合、それまでに状態変更 successful ビジネスメッセージはロールバックされません。</p> |

実行例

CMS Light サーバのシステムがクライアント企業から受信したビジネスメッセージのドキュメント状態を、強制的に " 取得済み " 状態に変更する場合の実行例を、次に示します。

```
HSRSCompleteMessage.bat -mid
20060418063642-4227063e2a664f4299b4440e07833adf@C000000000000001.com -sid
C000000000000001 -rid S000000000000000
```

HSRSGetMessage (ビジネスメッセージ取得)

形式

```
HSRSGetMessage [-sid ドキュメント送信者識別子]
                [-mid ドキュメント識別子]
                [-sd 開始日時]
                [-ed 終了日時]
```

機能

" 未取得 " 状態のビジネスメッセージのうち、ドキュメント受信者識別子がサーバ識別子のビジネスメッセージを手動で取得します。

ビジネスメッセージの取得に成功した場合、該当ビジネスメッセージのドキュメント状態が " 取得済み " に更新されます。取得したビジネスメッセージは、取得完了ディレクトリにファイル出力されます。このとき、ドキュメント受信者識別子には、サーバ識別子が使用されます。

オプション

オプションを指定すると、指定した条件で絞り込まれた " 未取得 " 状態のビジネスメッセージを取得します。すべてのオプションを省略した場合は、取得できるすべてのビジネスメッセージを取得します。

9. コマンド

-sid ドキュメント送信者識別子

ビジネスメッセージのドキュメント送信者識別子を指定します。ここでは、ビジネスメッセージを送信したクライアント企業の取引先識別子を指定します。このオプションは省略できます。

-mid ドキュメント識別子

ビジネスメッセージのドキュメント識別子を指定します。このオプションは省略できます。

-sd 開始日時

検索したい期間の開始日時を指定します。このオプションを指定すると、開始日時に降にデータベースに登録されたビジネスメッセージを取得できます。このオプションは省略できます。

開始日時の形式は YYYYMMDDhhmmss 形式で、"YYYY" は必ず指定してください。"YYYY" 以外を省略した場合、"YYYY0101000000" が指定されます。

- YYYY : 年 (1970 ~ 2038)
- MM : 月 (01 ~ 12)
- DD : 日 (01 ~ 31)
- hh : 時 (00 ~ 23)
- mm : 分 (00 ~ 59)
- ss : 秒 (00 ~ 59)

-ed 終了日時

検索したい期間の終了日時を指定します。このオプションを指定すると、終了日時に前にデータベースに登録されたビジネスメッセージを取得できます。このオプションは省略できます。

終了日時には、開始日時よりもあとの日時を指定してください。指定形式は開始日時と同じで、"YYYY" 以外を省略した場合、"YYYY1231235959" が指定されます。

戻り値

| 戻り値 | 内容 |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 0 | 正常終了 ビジネスメッセージを取得しました。または、条件に合うビジネスメッセージがデータベースにありませんでした。 |
| 1 | 警告付き正常終了 取得対象のビジネスメッセージうち、取得に失敗したものが 있습니다。要因を次に示します。 <ul style="list-style-type: none">• 処理を継続できるデータベースアクセスエラーが発生した。• 取得対象のビジネスメッセージが、処理中に削除された。• 取得対象のビジネスメッセージのドキュメント状態が、処理中に "取得済み" に変更された。• ドキュメントのファイル出力に失敗した。 |
| 2 | 異常終了 (システム定義エラー) |
| 3 | 異常終了 (引数エラー) |

| 戻り値 | 内容 |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4 | <p>異常終了（実行時エラー） 取得対象のビジネスメッセージを全件取得する前に、処理が中断されました。要因を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • データベースへの接続に失敗した。 • ビジネスメッセージの読み込み時、データベースアクセスエラーが発生した。 • 取得対象のビジネスメッセージのドキュメント状態更新時、データベースアクセスエラーが発生した。 • メモリ不足など内部エラーが発生した。 <p>なお、処理の途中で実行時エラーになった場合、それまでに取得に成功したビジネスメッセージはロールバックされません。</p> |

実行例

受信したビジネスメッセージのうち、"未取得"状態のすべてのビジネスメッセージを取得する場合の実行例を、次に示します。

```
HSRSGetMessage.bat
```

"未取得"状態のビジネスメッセージを、送信元のクライアント企業を特定して取得する場合の実行例を、次に示します。

```
HSRSGetMessage.bat -sid C000000000000001
```

"未取得"状態のビジネスメッセージを、ドキュメント送信者識別子およびドキュメント識別子で特定して取得する場合の実行例を、次に示します。

```
HSRSGetMessage.bat -sid C000000000000001 -mid  
20060418063642-4227063e2a664f4299b4440e07833adf@C000000000000001.com
```

2006/04/01 から 2006/04/30 までの期間に受信したビジネスメッセージのうち、"未取得"状態のすべてのビジネスメッセージを取得場合の実行例を、次に示します。

```
HSRSGetMessage.bat -sd 20060401 -ed 20060430
```

HSRSPutMessage (ビジネスメッセージ登録)

形式

```
HSRSPutMessage -rid ドキュメント受信者識別子  
                -ft ドキュメント形式  
                -dt ドキュメント種別  
                [-ct ドキュメント圧縮形式]  
                {-file ドキュメントファイル名 |  
                 -dir ドキュメントディレクトリ名}  
                [-del {ON | OFF}] ]
```

機能

クライアント企業に送信するビジネスメッセージをデータベースに登録します。

引数に指定したドキュメントファイルが読み込まれ、データベースに " 未取得 " 状態のビジネスメッセージとして登録されます。このとき、ドキュメント送信者識別子にはサーバ識別子が使用されます。

ドキュメントディレクトリ (ドキュメントファイルの保存先ディレクトリ) を指定した場合は、そのディレクトリ下のすべてのドキュメントファイルが読み込まれ、ビジネスメッセージとして登録されます。ただし、サブディレクトリ下のファイルは登録されません。

オプション

-rid ドキュメント受信者識別子

ビジネスメッセージのドキュメント受信者識別子を指定します。ここでは、ビジネスメッセージ送信先のクライアント企業の取引先識別子を指定します。このオプションは必ず指定してください。

-ft ドキュメント形式

添付するドキュメントのドキュメント形式を指定します。このオプションは必ず指定してください。

指定できるドキュメント形式を次に示します。

- SecondGenEDI
- JEDICOS-XML
- JEDICOS
- J Protocol
- Mutuality defined

-dt ドキュメント種別

添付するドキュメントのドキュメント種別を指定します。このオプションは必ず指定してください。

指定できるドキュメント種別は、-ft オプションで指定したドキュメント形式ごとに異なります。指定できる組み合わせについては、「3.2.4(1) ドキュメント形式とドキュメント種別」を参照してください。

-ct ドキュメント圧縮形式

添付するドキュメントのドキュメント圧縮形式を指定します。ドキュメントを圧縮しない場合、このオプションは省略できます。

指定する内容については、「3.2.4(2) ドキュメント圧縮形式」を参照してください。

-file ドキュメントファイル名

ドキュメントファイル名をフルパスで指定します。-dir オプションが指定されてい

る場合は指定できません。-dir オプションを指定しない場合、このオプションを必ず指定してください。

-dir ドキュメントディレクトリ名

ドキュメントファイルの保存先ディレクトリ名をフルパスで指定します。-file オプションが指定されている場合は指定できません。-file オプションを指定しない場合、このオプションを必ず指定してください。

-del {ON | OFF}

ビジネスメッセージの登録後、添付したドキュメントファイルをドキュメントディレクトリから削除するかどうかを指定します。

- ON：登録後にドキュメントファイルを削除します。
- OFF：登録後、ドキュメントファイルをドキュメントディレクトリに残します。

指定を省略した場合は、"ON" が指定されます。

"ON" または "OFF" は大文字・小文字が区別されません。大文字・小文字を混在させて指定することもできます。

戻り値

| 戻り値 | 内容 |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 0 | 正常終了 ビジネスメッセージをデータベースに登録しました。 |
| 1 | 警告付き正常終了 登録対象のビジネスメッセージのうち、登録に失敗したものがありません。要因を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • 処理を継続できるデータベースアクセスエラーが発生した。 • ドキュメントファイルのサイズが 0 バイトである。 • ドキュメントファイルの BASE64 エンコーディング後、ドキュメントの最大長が、サーバ共通定義ファイルのサイズ定義 (ebxml.mssl.size.document.data プロパティ) で指定したサイズを超えた。 • -dir オプションで指定したディレクトリの下に、ファイルが存在しない。 |
| 2 | 異常終了 (システム定義エラー) |
| 3 | 異常終了 (引数エラー) |
| 4 | 異常終了 (実行時エラー) 登録対象のビジネスメッセージを全件登録する前に、処理が中断されました。要因を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • ドキュメント受信者識別子が登録されていない。 • ドキュメント受信者の取引先状態が "取引停止" 状態である。 • ドキュメントファイル読み込み時に、指定したドキュメントファイルがなかった。 • ドキュメントファイルの読み込みに失敗した。 • ドキュメントファイルの BASE64 エンコーディングに失敗した。 • データベースへの接続に失敗した。 • ビジネスメッセージの登録時、データベースアクセスエラーが発生した。 • メモリ不足など内部エラーが発生した。 <p>なお、処理の途中で実行時エラーになった場合、それまでに登録に成功したビジネスメッセージはロールバックされません。</p> |

9. コマンド

実行例

特定のドキュメント (C:¥send¥po.xml) をビジネスメッセージとしてデータベースに登録する場合の実行例を、次に示します。

```
HSRSPutMessage.bat -rid C000000000000001 -ft JEDICOS-XML -dt "Purchase Order"
-file C:¥send¥po.xml
```

ドキュメントディレクトリ (C:¥send) 下にあるすべてのドキュメントを、ビジネスメッセージとしてデータベースに登録する場合の実行例を、次に示します。

```
HSRSPutMessage.bat -rid C000000000000001 -ft JEDICOS-XML -dt "Purchase Order"
-dir C:¥send
```

HSRSRegisterPartner (取引先識別子登録)

形式

```
HSRSRegisterPartner -cf 取引先識別子ファイル名
```

機能

ユーザーが取引先識別子ファイルに記述した取引先識別子をデータベースに一括登録します。登録時、取引先状態は "取引中" で登録されます。

オプション

-cf 取引先識別子ファイル名

取引先識別子ファイルのファイル名をフルパスで指定します。このオプションは必ず指定してください。

戻り値

| 戻り値 | 内容 |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 0 | 正常終了 取引先識別子ファイルに記述されている取引先識別子を、全件データベースに登録しました。 |
| 1 | 警告付き正常終了 取引先識別子ファイルに記述されている取引先識別子のうち、データベースへの登録に失敗したものがあります。要因を次に示します。 <ul style="list-style-type: none">取引先識別子がすでにデータベースにある。取引先識別子ファイルの内容が空ファイルである。処理を継続できるデータベースアクセスエラーが発生した。 |
| 2 | 異常終了 (システム定義エラー) |
| 3 | 異常終了 (引数エラー) |

| 戻り値 | 内容 |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4 | <p>異常終了（実行時エラー）</p> <p>取引先識別子ファイルに記述されている取引先識別子を全件登録する前に、処理が中断されました。要因を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 取引先識別子ファイルの読み込みに失敗した。 • 取引先識別子ファイルに記述された取引先識別子の長さに誤りがある。 • 取引先識別子ファイル内に同一名称の取引先識別子が記述されている。 • データベースへの接続に失敗した。 • 処理を継続できないデータベースアクセスエラーが発生した。 • メモリ不足などの内部エラーが発生した。 <p>なお、処理の途中で実行時エラーになった場合、それまでに登録に成功した取引先識別子はロールバックされません。</p> |

実行例

取引先識別子ファイルに記述した取引先識別子をデータベースに登録する場合の実行例を、次に示します。

```
HSRSRegisterPartner.bat -cf C:¥data¥id.txt
```

HSRSRegisterPartnerUri（取引先 URI 登録）

形式

```
HSRSRegisterPartnerUri -cf 取引先URIファイル名
```

機能

ユーザーが取引先 URI ファイルに記述した取引先 URI をデータベースに一括登録します。

オプション

-cf 取引先 URI ファイル名

取引先 URI ファイルのファイル名をフルパスで指定します。このオプションは必ず指定してください。

戻り値

| 戻り値 | 内容 |
|-----|-------------------------------------------------------------------|
| 0 | <p>正常終了</p> <p>取引先 URI ファイルに記述されている取引先 URI を、全件データベースに登録しました。</p> |

9. コマンド

| 戻り値 | 内容 |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 警告付き正常終了 取引先 URI ファイルに記述されている取引先 URI のうち、データベースへの登録に失敗したものが 있습니다。要因を次に示します。 <ul style="list-style-type: none">• 取引先 URI がすでにデータベースにある。• 処理を継続できるデータベースアクセスエラーが発生した。• 取引先 URI ファイルが空ファイルである。 |
| 2 | 異常終了 (システム定義エラー) |
| 3 | 異常終了 (引数エラー) |
| 4 | 異常終了 (実行時エラー) 取引先 URI ファイルに記述されている取引先 URI を全件登録する前に、処理が中断されました。要因を次に示します。 <ul style="list-style-type: none">• 取引先 URI ファイルの読み込みに失敗した。• 取引先 URI ファイルに記述された取引先 URI の長さに誤りがある。• 取引先 URI ファイル内に同一名称の取引先 URI が記述されている。• データベースへの接続に失敗した。• 処理を継続できないデータベースアクセスエラーが発生した。• メモリ不足などの内部エラーが発生した。 なお、処理の途中で実行時エラーになった場合、それまでに登録に成功した取引先 URI はロールバックされません。 |

実行例

取引先 URI ファイルに記述した取引先 URI をデータベースに登録する場合の実行例を、次に示します。

```
HSRSRegisterPartnerUri.bat -cf C:¥data¥uri.txt
```

HSRSRemoveMessage (ビジネスメッセージ削除)

形式

```
HSRSRemoveMessage [-sid ドキュメント送信者識別子]  
                  [-rid ドキュメント受信者識別子]  
                  [-mid ドキュメント識別子]  
                  [-sd 開始日時]  
                  [-ed 終了日時]  
                  [-force]
```

機能

"取得済み" 状態のビジネスメッセージのうち、ビジネスメッセージ保持期間を過ぎたビジネスメッセージをデータベースから削除します。

オプション

オプションを指定すると、指定した条件で絞り込まれた "取得済み" 状態のビジネスメッ

セージを削除します。すべてのオプションを省略した場合は、削除できるすべてのビジネスメッセージを削除します。

-sid ドキュメント送信者識別子

ビジネスメッセージのドキュメント送信者識別子を指定します。このオプションは省略できます。

-rid ドキュメント受信者識別子

ビジネスメッセージのドキュメント受信者識別子を指定します。このオプションは省略できます。

-mid ドキュメント識別子

ビジネスメッセージのドキュメント識別子を指定します。このオプションは省略できます。

-sd 開始日時

検索したい期間の開始日時を指定します。このオプションを指定すると、開始日時以降にデータベースに登録されたビジネスメッセージを削除できます。このオプションは省略できます。

開始日時の形式は YYYYMMDDhhmmss 形式で、"YYYY" は必ず指定してください。"YYYY" 以外を省略した場合、"YYYY0101000000" が指定されます。

- YYYY : 年 (1970 ~ 2038)
- MM : 月 (01 ~ 12)
- DD : 日 (01 ~ 31)
- hh : 時 (00 ~ 23)
- mm : 分 (00 ~ 59)
- ss : 秒 (00 ~ 59)

-ed 終了日時

検索したい期間の終了日時を指定します。このオプションを指定すると、終了日時以前にデータベースに登録されたビジネスメッセージを削除できます。このオプションは省略できます。

終了日時には、開始日時よりもあとの日時を指定してください。指定形式は開始日時と同じで、"YYYY" 以外を省略した場合、"YYYY1231235959" が指定されます。

-force

このオプションを指定すると、"取得済み" 状態でビジネスメッセージ保持期間を過ぎたビジネスメッセージに加え、"未取得" 状態でビジネスメッセージ保持期間を過ぎたビジネスメッセージもデータベースから強制的に削除できます。このオプションは省略できます。

9. コマンド

戻り値

| 戻り値 | 内容 |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 0 | 正常終了 削除対象のビジネスメッセージを全件データベースから削除しました。または、条件に合うビジネスメッセージがありませんでした。 |
| 2 | 異常終了（システム定義エラー） |
| 3 | 異常終了（引数エラー） |
| 4 | 異常終了（実行時エラー） 削除対象のビジネスメッセージを全件削除する前に、処理が中断されました。要因を次に示します。 <ul style="list-style-type: none">• データベースへの接続に失敗した。• 処理を継続できないデータベースアクセスエラーが発生した。• メモリ不足などの内部エラーが発生した。 なお、処理の途中で実行時エラーになった場合、それまでに削除に成功したビジネスメッセージはロールバックされません。 |

注 このコマンドでは、戻り値 1 は出力されません。

実行例

"取得済み"状態のビジネスメッセージのうち、ビジネスメッセージ保持期間を過ぎたすべてのビジネスメッセージを削除する場合の実行例を、次に示します。

```
HSRSRemoveMessage.bat
```

送信元のクライアント企業を特定して、"取得済み"状態でかつビジネスメッセージ保持期間を過ぎたビジネスメッセージを削除する場合の実行例を、次に示します。

```
HSRSRemoveMessage.bat -sid C000000000000001
```

"取得済み"状態でかつビジネスメッセージ保持期間を過ぎたビジネスメッセージを、ドキュメント送信者識別子およびドキュメント識別子で特定して削除する場合の実行例を、次に示します。

```
HSRSRemoveMessage.bat -sid C000000000000001 -rid S000000000000000 -mid  
20060418063642-4227063e2a664f4299b4440e07833adf@C000000000000001.com
```

2006/04/01 から 2006/04/30 までの期間にデータベースに登録されたビジネスメッセージのうち、"取得済み"状態でかつビジネスメッセージ保持期間を過ぎたすべてのビジネスメッセージを削除場合の実行例を、次に示します。

```
HSRSRemoveMessage.bat -sd 20060401 -ed 20060430
```

HSRSRemovePartner (取引先識別子削除)

形式

HSRSRemovePartner -cf 取引先識別子ファイル名

機能

ユーザーが取引先識別子ファイルに記述した取引先識別子のうち、"取引停止"状態の取引先識別子を、データベースから削除します。

オプション

-cf 取引先識別子ファイル名

取引先識別子ファイルのファイル名をフルパスで指定します。このオプションは必ず指定してください。

戻り値

| 戻り値 | 内容 |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 0 | 正常終了 取引先識別子ファイルに記述されている取引先識別子を、全件データベースから削除しました。 |
| 1 | 警告付き正常終了 取引先識別子ファイルに記述されている取引先識別子のうち、データベースからの削除に失敗したものが 있습니다。要因を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> 取引先識別子がすでにデータベースにない。 取引先状態が"取引停止"状態でない。 処理を継続できるデータベースアクセスエラーが発生した。 取引先識別子ファイルが空ファイルである。 |
| 2 | 異常終了(システム定義エラー) |
| 3 | 異常終了(引数エラー) |
| 4 | 異常終了(実行時エラー) 取引先識別子ファイルに記述されている取引先識別子を全件削除する前に、処理が中断されました。要因を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> 取引先識別子ファイルの読み込みに失敗した。 取引先識別子ファイルに記述された取引先識別子の長さに誤りがある。 取引先識別子ファイル内に同一名称の取引先識別子が記述されている。 データベースへの接続に失敗した。 処理を継続できないデータベースアクセスエラーが発生した。 メモリ不足などの内部エラーが発生した。 <p>なお、処理の途中で実行時エラーになった場合、それまでに削除に成功した取引先識別子はロールバックされません。</p> |

実行例

取引先識別子ファイルに記述した取引先識別子をデータベースから削除する場合の実行例を、次に示します。

```
HSRSRemovePartner.bat -cf C:¥data¥id.txt
```

HSRSRemovePartnerUri (取引先 URI 削除)

形式

```
HSRSRemovePartnerUri -cf 取引先URIファイル名
```

機能

ユーザーが取引先 URI ファイルに記述した取引先 URI を、データベースから削除します。

オプション

-cf 取引先 URI ファイル名

取引先 URI ファイルのファイル名をフルパスで指定します。このオプションは必ず指定してください。

戻り値

| 戻り値 | 内容 |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 0 | 正常終了 取引先 URI ファイルに記述されている取引先 URI を、全件データベースから削除しました。 |
| 1 | 警告付き正常終了 取引先 URI ファイルに記述されている取引先 URI のうち、データベースからの削除に失敗したものが 있습니다。要因を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> 取引先 URI がすでにデータベースにない。 処理を継続できるデータベースアクセスエラーが発生した。 取引先 URI ファイルが空ファイルである。 |
| 2 | 異常終了 (システム定義エラー) |
| 3 | 異常終了 (引数エラー) |
| 4 | 異常終了 (実行時エラー) 取引先 URI ファイルに記述されている取引先 URI を全件削除する前に、処理が中断されました。要因を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> 取引先 URI ファイルの読み込みに失敗した。 取引先 URI ファイルに記述された取引先 URI の定義に誤りがある。 取引先 URI ファイル内に同一名称の取引先 URI が記述されている。 データベースへの接続に失敗した。 処理を継続できないデータベースアクセスエラーが発生した。 メモリ不足などの内部エラーが発生した。 <p>なお、処理の途中で実行時エラーになった場合、それまでに削除に成功した取引先 URI はロールバックされません。</p> |

実行例

取引先 URI ファイルに記述した取引先 URI をデータベースから削除する場合の実行例を、次に示します。

```
HSRSRemovePartnerUri.bat -cf C:¥data¥uri.txt
```

HSRSStartBusiness (取引先状態変更 (取引開始))

形式

```
HSRSStartBusiness -cf 取引先識別子ファイル名
```

機能

ユーザーが取引先識別子ファイルに記述した取引先識別子を持つクライアント企業の取引先状態を "取引停止" から "取引中" に変更します。

オプション

-cf 取引先識別子ファイル名

取引先識別子ファイルのファイル名をフルパスで指定します。このオプションは必ず指定してください。

戻り値

| 戻り値 | 内容 |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 0 | 正常終了 該当するクライアント企業の取引先状態を全件変更しました。 |
| 1 | 警告付き正常終了 取引先識別子ファイルに記述されている取引先識別子のうち、取引先状態の変更に失敗したものがあります。要因を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • 該当する取引先識別子がデータベースにない。 • 取引先状態が "取引停止" 状態でない。 • 処理を継続できるデータベースアクセスエラーが発生した。 • 取引先識別子ファイルが空ファイルである。 |
| 2 | 異常終了 (システム定義エラー) |
| 3 | 異常終了 (引数エラー) |

9. コマンド

| 戻り値 | 内容 |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4 | <p>異常終了（実行時エラー） 該当するクライアント企業の取引先状態を全件変更する前に、処理が中断されました。要因を次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none">• 取引先識別子ファイルの読み込みに失敗した。• 取引先識別子ファイルに記述された取引先識別子の長さに誤りがある。• 取引先識別子ファイル内に同一名称の取引先識別子が記述されていた。• データベースへの接続に失敗した。• 処理を継続できないデータベースアクセスエラーが発生した。• メモリ不足などの内部エラーが発生した。 <p>なお、処理の途中で実行時エラーになった場合、それまでに状態変更 successful した取引先識別子はロールバックされません。</p> |

実行例

取引先識別子ファイルに記述した取引先識別子を持つクライアント企業の取引先状態を "取引中" に変更する場合の実行例を、次に示します。

```
HSRSStartBusiness.bat -cf C:¥data¥id.txt
```

HSRSStopBusiness（取引先状態変更（取引停止））

形式

HSRSStopBusiness -cf 取引先識別子ファイル名

機能

ユーザーが取引先識別子ファイルに記述した取引先識別子を持つクライアント企業の取引先状態を "取引中" から "取引停止" に変更します。

オプション

-cf 取引先識別子ファイル名

取引先識別子ファイルのファイル名をフルパスで指定します。このオプションは必ず指定してください。

戻り値

| 戻り値 | 内容 |
|-----|----------------------------------------------|
| 0 | <p>正常終了 該当するクライアント企業の取引先状態を全件変更しました。</p> |

| 戻り値 | 内容 |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 警告付き正常終了 取引先識別子ファイルに記述されている取引先識別子のうち、取引先状態の変更に失敗したものがありません。失敗した原因を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> 取引先識別子がデータベースにない。 取引先状態が " 取引中 " 状態でない。 処理を継続できるデータベースアクセスエラーが発生した。 取引先識別子ファイルが空ファイルである。 |
| 2 | 異常終了 (システム定義エラー) |
| 3 | 異常終了 (引数エラー) |
| 4 | 異常終了 (実行時エラー) 該当するクライアント企業の取引先状態を全件変更する前に、処理が中断されました。要因を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> 取引先識別子ファイルの読み込みに失敗した。 取引先識別子ファイルに記述された取引先識別子の長さに誤りがある。 取引先識別子ファイル内に同一名称の取引先識別子が記述されている。 データベースへの接続に失敗した。 処理を継続できないデータベースアクセスエラーが発生した。 メモリ不足などの内部エラーが発生した。 <p>なお、処理の途中で実行時エラーになった場合でも、それまでに状態変更に成功した取引先識別子はロールバックされません。</p> |

実行例

取引先識別子ファイルに記述した取引先識別子を持つクライアント企業の取引先状態を " 取引停止 " に変更する場合の実行例を、次に示します。

```
HSRSStopBusiness.bat -cf C:¥data¥id.txt
```

HSRSUncompleteMessage (ドキュメント状態変更 (強制引き戻し))

形式

```
HSRSUncompleteMessage -mid ドキュメント識別子
                        -sid ドキュメント送信者識別子
                        -rid ドキュメント受信者識別子
```

機能

ビジネスメッセージのドキュメント状態を、" 取得済み " 状態から " 未取得 " 状態に変更します。

なお、ビジネスメッセージのドキュメント状態は、状況照会 GUI から変更できます。詳細については、「7. 状況照会 GUI」を参照してください。

9. コマンド

オプション

-mid ドキュメント識別子

ビジネスメッセージのドキュメント識別子を指定します。このオプションは必ず指定してください。

-sid ドキュメント送信者識別子

ビジネスメッセージのドキュメント送信者識別子を指定します。このオプションは必ず指定してください。

-rid ドキュメント受信者識別子

ビジネスメッセージのドキュメント受信者識別子を指定します。このオプションは必ず指定してください。

戻り値

| 戻り値 | 内容 |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 0 | 正常終了 ドキュメント状態を正常に変更しました。 |
| 1 | 警告付き正常終了 ドキュメント状態がすでに "未取得" でした。または、条件に合うビジネスメッセージがありませんでした。 |
| 2 | 異常終了 (システム定義エラー) |
| 3 | 異常終了 (引数エラー) |
| 4 | 異常終了 (実行時エラー) ドキュメント状態を変更できませんでした。要因を次に示します。 <ul style="list-style-type: none">データベースへの接続に失敗した。処理を継続できないデータベースアクセスエラーが発生した。メモリ不足などの内部エラーが発生した。 なお、処理の途中で実行時エラーになった場合、それまでに状態変更に成功したビジネスメッセージはロールバックされません。 |

実行例

CMS Light サーバのシステムが受信したビジネスメッセージのドキュメント状態を、強制的に "未取得" 状態に変更する場合の実行例を、次に示します。

```
HSRSUncompleteMessage.bat -mid  
20060418063642-4227063e2a664f4299b4440e07833adf@C000000000000001.com -sid  
C000000000000001 -rid S000000000000000
```

10 メッセージ

この章では、CMS Light サーバが出力するメッセージの出力先、記述形式、および記述内容について説明します。

10.1 メッセージの概要

10.2 KDSR00001 ~ KDSR09999 のメッセージ

10.3 KDSR10001 ~ KDSR19999 のメッセージ

10.4 KDSR20001 ~ KDSR22999 のメッセージ

10.5 KDSR30001 ~ KDSR32999 のメッセージ

10.1 メッセージの概要

ここでは、CMS Light サーバが出力するメッセージの出力先、メッセージの説明で使用する見出し、およびメッセージに出力されるデータベースのエラーコードについて説明します。

10.1.1 メッセージの出力先

メッセージの出力先を次に示します。

- 標準エラー出力
- 標準出力
- エラーログ
- トレースログ
- 通信ログ
- 状況照会 GUI の画面
- ダイアログ
- クライアント企業のシステムのログ（CMS Light サーバのシステムには出力されません）

出力先のうち、エラーログ、トレースログ、および通信ログの詳細については「6.2 ログファイルの採取」を参照してください。

10.1.2 メッセージの説明で使用する見出し

ここでは、メッセージの説明で使用する、各見出しについて説明します。

KDSRnnnnn-X (Y)

メッセージテキスト

可変値について説明します。

説明

メッセージが出力された要因、およびシステムの動作について説明します。

対処

ユーザーが実施する対処について説明します。

なお、対処方法の"保守員に連絡してください"とは、購入時の契約に基づいて、保守員が弊社問い合わせ窓口へ連絡することを示します。

なお、"可変値に関する説明"、"説明"および"対処"はメッセージによって記述しない場合があります。

(1) メッセージ ID の形式

メッセージ ID の形式の詳細について説明します。

KDSR

CMS Light サーバのメッセージプレフィックスで、固定値です。

nnnnn

メッセージ ID の通し番号を示します。

X

メッセージのレベルを表します。メッセージのレベルは英字 1 文字で示します。

メッセージのレベルを示す文字とその意味を次に示します。

- E
エラーレベルの障害が発生したことを通知するメッセージです。このメッセージが出力されたときは、処理を中断します。
- W
警告レベルの障害が発生したことを通知するメッセージです。メッセージが出力されたあとも処理を続行します。
- I
システムの処理を通知するメッセージです。メッセージが出力されたあとも処理を続行します。

(Y)

メッセージの出力先を表します。出力先は英字 1 文字で示します。

出力先を示す文字とその意味を次に示します。

- S：標準出力、または標準エラー出力
- E：エラーログ
- T：トレースログ
- N：通信ログ
- G：状況照会 GUI の画面
- D：ダイアログ
- C：クライアント企業のシステムのログ

10.1.3 データベースのエラーコードと HiRDB のメッセージ ID との関係

データベースアクセスエラーが発生した場合に CMS Light サーバがメッセージに出力するエラーコードと、HiRDB のメッセージ ID との関係を示します。

表 10-1 データベースのエラーコードと HiRDB のメッセージ ID との関係

| 項番 | データベースのエラーコード | HiRDB のメッセージ ID |
|----|---------------|-----------------|
| 1 | -nnn | KFPA11nnn |
| 2 | -lnnn | KFPA19nnn |
| 3 | +nnn | KFPA12nnn |

10. メッセージ

| 項番 | データベースのエラーコード | HiRDB のメッセージ ID |
|----|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4 | 0 | HiRDB のエラーではなく、Cosminexus 関連 (Cosminexus DABroker Library) のエラーです。Cosminexus のメッセージを参照してください。 |
| 5 | 上記以外 | |

注 表で示した "nnn" は、HiRDB のメッセージ ID の通し番号です。

CMS Light サーバが出力するメッセージにエラーコードが表示されている場合、エラーコードを基に、該当する HiRDB または Cosminexus のメッセージを参照してください。HiRDB のメッセージの詳細については、マニュアル「HiRDB メッセージ」を、Cosminexus のメッセージの詳細については、マニュアル「Cosminexus メッセージ」を参照してください。

10.2 KDSR00001 ~ KDSR09999 のメッセージ

KDSR00001-E (S)

{0} システムプロパティが指定されていません。

{0} : システムプロパティ名

説明

J2EE サーバ用ユーザープロパティファイルにシステムプロパティが指定されていません。

CMS Light サーバの初期化 を中断します。

注

CMS Light サーバの内部アプリケーション (ビジネスメッセージ送受信アプリケーション, 状況照会アプリケーション) およびコマンドの初期化を意味します。初期化のタイミングを次に示します。

- J2EE アプリケーションのデプロイ時
- コマンド起動時

対処

J2EE サーバ用ユーザープロパティファイルにシステムプロパティを指定してください。J2EE サーバ用ユーザープロパティファイルの編集方法については、「4.5.3(1) J2EE サーバ用ユーザープロパティファイル」を参照してください。

KDSR00002-E (S)

{0} システムプロパティの値に誤りがあります。(値 = {1})

{0} : システムプロパティ名

{1} : システムプロパティの値

説明

J2EE サーバ用ユーザープロパティファイルに指定されたシステムプロパティの値に誤りがあります。

CMS Light サーバの初期化 を中断します。

注

CMS Light サーバの内部アプリケーション (ビジネスメッセージ送受信アプリケーション, 状況照会アプリケーション) およびコマンドの初期化を意味します。初期化のタイミングを次に示します。

- J2EE アプリケーションのデプロイ時
- コマンド起動時

対処

システムプロパティに正しい値を指定してください。J2EE サーバ用ユーザープロパティファイルの編集方法については、「4.5.3(1) J2EE サーバ用ユーザープロパティファイル」を参照してください。

KDSR00003-E (S)

サーバ共通定義ファイルが存在しません。(ファイル名={0})

{0} : サーバ共通定義ファイル名

説明

サーバ共通定義ファイルがありません。

CMS Light サーバの初期化 を中断します。

注

CMS Light サーバの内部アプリケーション (ビジネスメッセージ送受信アプリケーション, 状況照会アプリケーション) およびコマンドの初期化を意味します。初期化のタイミングを次に示します。

- J2EE アプリケーションのデプロイ時
- コマンド起動時

対処

<CMS Light サーバのインストールディレクトリ>\¥conf にサーバ共通定義ファイルを格納してください。

KDSR00004-E (S)

サーバ共通定義ファイルの読み取り権限がありません。(ファイル名={0})

{0} : サーバ共通定義ファイル名

説明

サーバ共通定義ファイルの読み取り権限がありません。

CMS Light サーバの初期化 を中断します。

注

CMS Light サーバの内部アプリケーション (ビジネスメッセージ送受信アプリケーション, 状況照会アプリケーション) およびコマンドの初期化を意味します。初期化のタイミングを次に示します。

- J2EE アプリケーションのデプロイ時
- コマンド起動時

対処

サーバ共通定義ファイルのアクセス権限を見直してください。

KDSR00005-E (S)

サーバ共通定義ファイルの読み込みに失敗しました。(ファイル名={0})

{0} : サーバ共通定義ファイル名

説明

サーバ共通定義ファイルの読み込みに失敗しました。

CMS Light サーバの初期化 を中断します。

注

CMS Light サーバの内部アプリケーション（ビジネスメッセージ送受信アプリケーション，状況照会アプリケーション）およびコマンドの初期化を意味します。初期化のタイミングを次に示します。

- J2EE アプリケーションのデプロイ時
- コマンド起動時

対処

ログを採取し，保守員に連絡してください。採取するログについては，「6.2 ログファイルの採取」を参照してください。

KDSR00006-E (S)

{0} プロパティが指定されていません。

{0}：プロパティ名

説明

サーバ共通定義ファイルにプロパティが指定されていません。

CMS Light サーバの初期化 を中断します。

注

CMS Light サーバの内部アプリケーション（ビジネスメッセージ送受信アプリケーション，状況照会アプリケーション）およびコマンドの初期化を意味します。初期化のタイミングを次に示します。

- J2EE アプリケーションのデプロイ時
- コマンド起動時

対処

サーバ共通定義ファイルにプロパティを指定してください。サーバ共通定義ファイルについては，「8.2 サーバ共通定義ファイル」を参照してください。

KDSR00007-E (S)

{0} プロパティの値に誤りがあります。(値 ={1})

{0}：プロパティ名

{1}：プロパティの値

説明

サーバ共通定義ファイルに指定されたプロパティの値に誤りがあります。

CMS Light サーバの初期化 を中断します。

注

CMS Light サーバの内部アプリケーション（ビジネスメッセージ送受信アプリ

10. メッセージ

ケーション、状況照会アプリケーション)およびコマンドの初期化を意味します。初期化のタイミングを次に示します。

- J2EE アプリケーションのデプロイ時
- コマンド起動時

対処

サーバ共通定義ファイルのプロパティに正しい値を指定してください。サーバ共通定義ファイルについては、「8.2 サーバ共通定義ファイル」を参照してください。

KDSR00008-E (S)

ログの出力開始処理が失敗しました。({0},{1})

{0} : エラーメソッド名称

{1} : エラー位置・原因

説明

ログの出力開始処理が失敗しました。

CMS Light サーバの初期化 を中断します。

注

CMS Light サーバの内部アプリケーション (ビジネスメッセージ送受信アプリケーション、状況照会アプリケーション)およびコマンドの初期化を意味します。初期化のタイミングを次に示します。

- J2EE アプリケーションのデプロイ時
- コマンド起動時

対処

ログを採取し、保守員に連絡してください。採取するログについては、「6.2 ログファイルの採取」を参照してください。

KDSR00009-E (S)

ログの出力処理が失敗しました。({0},{1})

{0} : エラーメソッド名称

{1} : エラー位置・原因

説明

ログの出力処理が失敗しました。

CMS Light サーバの処理を続行します。

対処

ログを採取し、保守員に連絡してください。採取するログについては、「6.2 ログファイルの採取」を参照してください。

KDSR00010-E (S)

ログの出力終了処理が失敗しました。({0},{1})

{0} : エラーメソッド名称

{1} : エラー位置・原因

説明

ログの出力終了処理が失敗しました。
CMS Light サーバの処理を続行します。

対処

ログを採取し、保守員に連絡してください。採取するログについては、「6.2 ログファイルの採取」を参照してください。

KDSR00011-E (E , T)

JP1/Base の jevsend コマンドが起動できませんでした。

説明

JP1/Base の jevsend コマンドが起動できませんでした。

対処

JP1/Base の jevsend コマンドが格納されているディレクトリが、システムの PATH 環境変数に設定されているか、または、J2EE サーバ用セキュリティポリシーファイルの内容が正しいかを確認してください。

KDSR00012-E (E , T)

JP1/Base の jevsend コマンドでエラーが発生しました。(戻り値 ={0})

{0} : JP1/Base の jevsend コマンドの戻り値

説明

JP1/Base の jevsend コマンドが正常終了しませんでした。

対処

JP1/Base のマニュアルでコマンドの戻り値に対する対処を確認してください。

KDSR00014-E (E , T)

ドキュメントのサイズに誤りがあります。

説明

BASE64 デコーディングするドキュメントのサイズが 4 の倍数ではありません。

対処

ログを採取し、保守員に連絡してください。採取するログについては、「6.2 ログファイルの採取」を参照してください。

KDSR00015-E (E , T)

UnsupportedEncodingException が発生しました。

説明

10. メッセージ

BASE64 処理で `UnsupportedEncodingException` が発生しました。

対処

ログを採取し、保守員に連絡してください。採取するログについては、「6.2 ログファイルの採取」を参照してください。

KDSR00016-E (E , T)

ドキュメントのフォーマットに誤りがあります。

説明

BASE64 デコーディングするドキュメントの最後から 4 バイトまたは 3 バイト目に "=" が含まれています。

対処

ログを採取し、保守員に連絡してください。採取するログについては、「6.2 ログファイルの採取」を参照してください。

KDSR01001-W (S)

{0} プロパティにデフォルト値を適用しました。(値 ={1})

{0} : プロパティ名

{1} : プロパティの値

説明

サーバ共通定義ファイルに指定されたプロパティの値に誤りがあるため、デフォルト値を適用しました。

CMS Light サーバの初期化 を続行します。

注

CMS Light サーバの内部アプリケーション (ビジネスメッセージ送受信アプリケーション, 状況照会アプリケーション) およびコマンドの初期化を意味します。初期化のタイミングを次に示します。

- J2EE アプリケーションのデプロイ時
- コマンド起動時

対処

サーバ共通定義ファイルのプロパティに正しい値を指定してください。サーバ共通定義ファイルについては、「8.2 サーバ共通定義ファイル」を参照してください。

KDSR01002-W (E , T)

{0}

{0} : スタックトレース

説明

CMS Light サーバで発生した例外のスタックトレースです。

KDSR02001-I (T)

システムプロパティ情報 {0}={1}

{0} : システムプロパティ名

{1} : システムプロパティの値

説明

J2EE サーバ用ユーザープロパティファイル (usrconf.properties) に定義されたシステムプロパティの情報です。

10.3 KDSR10001 ~ KDSR19999 のメッセージ

KDSR10001-E (C)

SOAP メッセージに誤りがあります。({0})

{0} : 詳細エラーコード

詳細エラーコードとは、メッセージ ID (KDSRnnnnnn-X) の nnnnn 部分のことです。

説明

ビジネスメッセージ送受信アプリケーションが不正な SOAP メッセージを受信しました。

クライアント企業のシステムに SOAP Fault メッセージを送信します。

対処

詳細エラーコードが示すメッセージの対処方法を参照してください。

KDSR10002-E (C)

uCosminexus Message Service Server Light for ebXML で障害が発生しました。({0})

{0} : 詳細エラーコード

詳細エラーコードとは、メッセージ ID (KDSRnnnnnn-X) の nnnnn 部分のことです。

説明

ビジネスメッセージ送受信アプリケーションで障害が発生しました。

クライアント企業のシステムに SOAP Fault メッセージを送信します。

対処

詳細エラーコードが示すメッセージの対処方法を参照してください。

KDSR10003-E (S)

ビジネスメッセージ送受信アプリケーションが初期化されていません。

説明

ビジネスメッセージ送受信アプリケーションが正しく初期化されていません。

クライアント企業のシステムに SOAP Fault メッセージを送信します。

対処

ビジネスメッセージ送受信アプリケーションを起動したときに出力されるメッセージの対処方法を参照してください。

出力されるメッセージのメッセージ ID を次に示します。

- KDSR00001-E
- KDSR00002-E
- KDSR00003-E

- KDSR00004-E
- KDSR00005-E
- KDSR00006-E
- KDSR00007-E
- KDSR00008-E

KDSR10004-E (E , T)

SOAP メッセージの XML スキーマ検証に失敗しました。

説明

受信した SOAP メッセージの XML スキーマ検証に失敗しました。
クライアント企業のシステムに SOAP Fault メッセージを送信します。

対処

クライアント企業に対して、正しい SOAP メッセージを送信するよう指示してください。

KDSR10005-E (E , T)

対象外の SOAP メッセージです。

説明

ビジネスメッセージ送受信アプリケーションが対象外の SOAP メッセージを受信しました。
クライアント企業のシステムに SOAP Fault メッセージを送信します。

対処

クライアント企業に対して、正しい SOAP メッセージを送信するよう指示してください。

KDSR10006-E (E , T)

{0} 要素に値が指定されていません。

{0} : 要素名

説明

受信した SOAP メッセージの要素に値が指定されていません。クライアント企業のシステムに SOAP Fault メッセージを送信します。
メッセージに出力される要素名を、次に示します。

表 10-2 メッセージに出力される要素名 (KDSR10006-E)

| 項番 | 出力されるタイミング | 要素名 | 意味 |
|----|---------------------------------|------|---------------------|
| 1 | ビジネスメッセージ送信要求受付時・ビジネスメッセージ受信時共通 | From | 取引先 URI が指定されていません。 |

10. メッセージ

| 項番 | 出力されるタイミング | 要素名 | 意味 |
|----|------------------|----------------------|----------------------------------------|
| 2 | | To | サーバ URI が指定されていません。 |
| 3 | | MessageId | SOAP メッセージの識別子が指定されていません。 |
| 4 | | Timestamp | SOAP メッセージの作成日時が指定されていません。 |
| 5 | ビジネスメッセージ受信時 | messageId | ドキュメント識別子が指定されていません。 |
| 6 | | data | ドキュメントが指定されていません。 |
| 7 | | senderId | ドキュメント送信者識別子（取引先識別子）が指定されていません。 |
| 8 | | receiverId | ドキュメント受信者識別子（サーバ識別子）が指定されていません。 |
| 9 | | formatType | ドキュメント形式が指定されていません。 |
| 10 | | documentType | ドキュメント種別が指定されていません。 |
| 11 | | compressType | ドキュメント圧縮形式が指定されていません。 |
| 12 | | OptionalFormatType | ドキュメント種別は指定されていますが、ドキュメント形式が指定されていません。 |
| 13 | | OptionalDocumentType | ドキュメント形式は指定されていますが、ドキュメント種別は指定されていません。 |
| 14 | ビジネスメッセージ送信要求受付時 | messageId | ドキュメント識別子が指定されていません。 |
| 15 | | senderId | ドキュメント送信者識別子（サーバ識別子）が指定されていません。 |
| 16 | | receiverId | ドキュメント受信者識別子（取引先識別子）が指定されていません。 |

対処

クライアント企業に対して、正しい SOAP メッセージを送信するよう指示してください。

KDSR10007-E (E , T)

データベースアクセスエラーが発生しました。(エラーコード={0})

{0} : データベースのエラーコード

説明

ビジネスメッセージ送受信アプリケーションでデータベースアクセスエラーが発生しました。

クライアント企業のシステムに SOAP Fault メッセージを送信します。

対処

エラーコードを基に、該当する HiRDB のメッセージの対処に従ってください。エラーコードと HiRDB のメッセージ ID との関係については、「10.1.3 データベースのエラーコードと HiRDB のメッセージ ID との関係」を参照してください。

KDSR10008-E (E , T)

取引先 URI が存在しません。(取引先 URI={0})

{0} : MessageHeader 要素下の From 要素の値

説明

SOAP メッセージの SOAP ヘッダ部に指定された取引先 URI が、HiRDB のテーブル (HSRSPartnerUri) にありません。

クライアント企業のシステムに SOAP Fault メッセージを送信します。

対処

クライアント企業の情報を記述したマスターファイルで、取引先 URI の設定を確認してください。設定に誤りがある場合、設定を修正し、クライアント企業に SOAP メッセージを再度送信するよう依頼してください。マスターファイルについては、「5.5.4 マスターファイルを作成, 更新する」を参照してください。

設定が正しい場合、クライアント企業のシステムに対して、正しい SOAP メッセージを送信するよう指示してください。

KDSR10009-E (E , T)

サーバ URI が一致しません。(サーバ URI={0})

{0} : MessageHeader 要素下の To 要素の値

説明

SOAP メッセージの SOAP ヘッダ部に指定されたサーバ URI が、サーバ共通定義ファイルに指定されたサーバ URI と一致しません。

クライアント企業のシステムに SOAP Fault メッセージを送信します。

対処

サーバ共通定義ファイルのサーバ URI の設定を確認してください。設定に誤りがある場合、設定を修正し、クライアント企業のシステムに SOAP メッセージを再度送信するよう依頼してください。

設定が正しい場合、クライアント企業のシステムに対して、正しい SOAP メッセージを送信するよう指示してください。

KDSR10010-E (E , T)

{0} 要素の値に誤りがあります。(値={1})

{0} : 要素名

10. メッセージ

{1} : 要素の値

説明

受信した SOAP メッセージの要素に指定された値に誤りがあります。クライアント企業のシステムに SOAP Fault メッセージを送信します。
メッセージに出力される要素名を、次に示します。

表 10-3 メッセージに出力される要素名 (KDSR10010-E)

| 項番 | 出力されるタイミング | 要素名 | 意味 |
|----|---------------------------------|----------------------|------------------------------------|
| 1 | ビジネスメッセージ送信要求受付時・ビジネスメッセージ受信時共通 | From | 取引先 URI の長さに誤りがあります。 |
| 2 | | To | サーバ URI の長さに誤りがあります。 |
| 3 | ビジネスメッセージ受信時 | messageId | ドキュメント識別子の長さに誤りがあります。 |
| 4 | | data | ドキュメントの長さに誤りがあります。 |
| 5 | | senderId | ドキュメント送信者識別子 (取引先識別子) の長さに誤りがあります。 |
| 6 | | receiverId | ドキュメント受信者識別子 (サーバ識別子) の長さに誤りがあります。 |
| 7 | | formatType | ドキュメント形式の長さに誤りがあります。 |
| 8 | | documentType | ドキュメント種別の長さに誤りがあります。 |
| 9 | | compressType | ドキュメント圧縮形式の長さに誤りがあります。 |
| 10 | | OptionalFormatType | ドキュメント形式の長さに誤りがあります。 |
| 11 | | OptionalDocumentType | ドキュメント種別の長さに誤りがあります。 |
| 12 | ビジネスメッセージ送信要求受付時 | messageId | ドキュメント識別子の長さに誤りがあります。 |
| 13 | | senderId | ドキュメント送信者識別子 (サーバ識別子) の長さに誤りがあります。 |
| 14 | | receiverId | ドキュメント受信者識別子 (取引先識別子) の長さに誤りがあります。 |

対処

クライアント企業のシステムに対して、正しい SOAP メッセージを送信するよう指示してください。

KDSR10011-E (E , T)

取引先識別子が存在しません。(取引先識別子={0})

{0} : 取引先識別子 (PutDocument 要素下の senderId 要素, GetDocument 要素下の receiverId 要素, または ConfirmDocument 要素下の receiverId 要素の値)

説明

SOAP メッセージの SOAP ボディ部に指定された取引先識別子が, HiRDB のテーブル (HSRSPartnerInfo) にありません。

クライアント企業のシステムに SOAP Fault メッセージを送信します。

対処

クライアント企業の情報を記述したマスターファイルで, 取引先識別子の設定を確認してください。設定に誤りがある場合, 設定を修正し, クライアント企業のシステムに SOAP メッセージを再度送信するよう依頼してください。マスターファイルについては, 「5.5.4 マスターファイルを作成, 更新する」を参照してください。設定が正しい場合, クライアント企業のシステムに対して, 正しい SOAP メッセージを送信するよう指示してください。

KDSR10012-E (E , T)

取引先状態が " 取引中 " ではありません。(取引先識別子={0})

{0} : 取引先識別子 (PutDocument 要素下の senderId 要素, GetDocument 要素下の receiverId 要素, または ConfirmDocument 要素下の receiverId 要素の値)

説明

取引先識別子の取引先状態が " 取引中 " ではありません。

クライアント企業のシステムに SOAP Fault メッセージを送信します。

対処

クライアント企業の情報を記述したマスターファイルで, 取引先識別子の設定を確認してください。設定に誤りがある場合, 設定を修正し, クライアント企業のシステムに SOAP メッセージを再度送信するよう依頼してください。マスターファイルについては, 「5.5.4 マスターファイルを作成, 更新する」を参照してください。設定が正しい場合, クライアント企業のシステムに対して, 正しい SOAP メッセージを送信するよう指示してください。

KDSR10013-E (E , T)

サーバ識別子が一致しません。(サーバ識別子={0})

{0} : SOAP メッセージに指定されたサーバ識別子 (PutDocument 要素下の receiverId 要素, または ConfirmDocument 要素下の senderId 要素の値)

説明

SOAP メッセージの SOAP ボディ部に指定されたサーバ識別子が, サーバ共通定義ファイルに指定されたサーバ識別子と一致しません。

クライアント企業のシステムに SOAP Fault メッセージを送信します。

対処

サーバ共通定義ファイルのサーバ識別子の設定を確認してください。設定に誤りがある場合、設定を修正し、クライアント企業のシステムに SOAP メッセージを再度送信するよう依頼してください。

設定が正しい場合、クライアント企業のシステムに対して、正しい SOAP メッセージを送信するよう指示してください。

KDSR10014-E (E , T)

ビジネスメッセージが存在しません。(ドキュメント送信者識別子={0},ドキュメント受信者識別子={1},ドキュメント識別子={2})

{0}:ドキュメント送信者識別子

{1}:ドキュメント受信者識別子

{2}:ドキュメント識別子

説明

ビジネスメッセージがデータベースにありません。

クライアント企業のシステムに SOAP Fault メッセージを送信します。

対処

クライアント企業のシステムに対して、正しい SOAP メッセージを送信するよう指示してください。

KDSR10015-E (E , T)

ドキュメントのファイル出力に失敗しました。(ファイル名={0},ドキュメント送信者識別子={1},ドキュメント受信者識別子={2},ドキュメント識別子={3})

{0}:ドキュメントファイル名

{1}:ドキュメント送信者識別子

{2}:ドキュメント受信者識別子

{3}:ドキュメント識別子

説明

ビジネスメッセージに添付されたドキュメントのファイル出力に失敗しました。
ドキュメントのファイル出力を中断します。

対処

HSRSGetMessage コマンドを使用して、手動でファイル出力してください。

KDSR10016-E (S)

ビジネスメッセージ送受信アプリケーションの初期化に失敗しました。

説明

ビジネスメッセージ送受信アプリケーションの初期化に失敗しました。

ビジネスメッセージ送受信アプリケーションの初期化を中断します。

対処

ビジネスメッセージ送受信アプリケーションを起動したときに出力されるメッセージの対処方法を参照してください。

出力されるメッセージのメッセージ ID を次に示します。

- KDSR00001-E
- KDSR00002-E
- KDSR00003-E
- KDSR00004-E
- KDSR00005-E
- KDSR00006-E
- KDSR00007-E
- KDSR00008-E

KDSR10017-E (E , T)

SOAP 通信エラーが発生しました。({0})

{0} : SOAPException 例外のエラーメッセージ

説明

ビジネスメッセージ送受信アプリケーションで SOAP 通信エラーが発生しました。
ビジネスメッセージ送受信アプリケーションの送受信を中断します。

対処

ログを採取し、保守員に連絡してください。採取するログについては、「6.2 ログファイルの採取」を参照してください。

KDSR10018-E (E , T)

{0}

{0} : SAXParseException 例外のエラーメッセージ

説明

SOAP メッセージの XML スキーマ検証で回復できないエラーが発生しました。
クライアント企業のシステムに SOAP Fault メッセージを送信します。

対処

KDSR10004-E の対処方法を参照してください。

KDSR10019-E (E , T)

{0}

{0} : SAXParseException 例外のエラーメッセージ

説明

SOAP メッセージの XML スキーマ検証で回復できるエラーが発生しました。

10. メッセージ

クライアント企業のシステムに SOAP Fault メッセージを送信します。

対処

KDSR10004-E の対処方法を参照してください。

KDSR10020-E (E , T)

ドキュメント形式とドキュメント種別の組み合わせに誤りがあります。(ドキュメント形式={0}, ドキュメント種別={1})

{0} : ドキュメント形式

{1} : ドキュメント種別

説明

ドキュメント形式とドキュメント種別の組み合わせに誤りがあります。
クライアント企業のシステムに SOAP Fault メッセージを送信します。

対処

クライアント企業のシステムに対して、正しい SOAP メッセージを送信するよう指示してください。

ドキュメント形式とドキュメント種別の組み合わせについては、「3.2.4(1) ドキュメント形式とドキュメント種別」を参照してください。

KDSR10021-E (E , T)

データベースアクセスエラーが発生しました。(詳細メッセージ={0})

{0} : データベースのエラーメッセージ

説明

ビジネスメッセージ送受信アプリケーションで、データベースアクセスエラーが発生しました。

クライアント企業のシステムに SOAP Fault メッセージを送信します。

対処

ログを採取し、保守員に連絡してください。採取するログについては、「6.2 ログファイルの採取」を参照してください。

KDSR10022-E (E , T)

ドキュメントのファイル出力に失敗しました。(ドキュメント送信者識別子={0}, ドキュメント受信者識別子={1}, ドキュメント識別子={2}, 詳細メッセージ={3})

{0} : ドキュメント送信者識別子

{1} : ドキュメント受信者識別子

{2} : ドキュメント識別子

{3} : エラー詳細メッセージ

説明

ビジネスメッセージに添付されたドキュメントのファイル出力に失敗しました。

ドキュメントのファイル出力を中断します。

対処

HSRSGetMessage コマンドを使用して、手動でファイル出力してください。

KDSR10023-E (E , T)

ドキュメントの BASE64 デコーディングに失敗しました。(詳細メッセージ ={0})

{0} : BASE64 処理のエラーメッセージ

説明

ドキュメントの BASE64 デコーディングに失敗しました。

ドキュメントのファイル出力を中断します。

対処

詳細メッセージの対処方法を参照してください。

詳細メッセージのメッセージ ID を次に示します。

- KDSR00014-E
- KDSR00015-E
- KDSR00016-E

KDSR11001-W (E , T)

{0}

{0} : スタックトレース

説明

ビジネスメッセージ送受信アプリケーションで発生した例外のスタックトレースです。

KDSR11002-W (E , T)

受信したビジネスメッセージはすでに存在します。(ドキュメント送信者識別子 ={0}, ドキュメント受信者識別子 ={1}, ドキュメント識別子 ={2})

{0} : ドキュメント送信者識別子

{1} : ドキュメント受信者識別子

{2} : ドキュメント識別子

説明

受信したビジネスメッセージが、すでにデータベースにあります。

クライアント企業のシステムに PutDocumentResponse(false) メッセージを送信します。

KDSR11003-W (E , T)

ドキュメント状態が " 取得済み " です。(ドキュメント送信者識別子 ={0}, ドキュメント受信者識別子 ={1}, ドキュメント識別子 ={2})

10. メッセージ

{0} : ドキュメント送信者識別子

{1} : ドキュメント受信者識別子

{2} : ドキュメント識別子

説明

ビジネスメッセージのドキュメント状態が " 取得済み " です。

クライアント企業のシステムに ConfirmDocumentResponse(false) メッセージを送信します。

KDSR11004-W (E , T)

{0}

{0} : SAXParseException 例外のエラーメッセージ

説明

SOAP メッセージの XML スキーマ検証で警告が発生しました。

クライアント企業のシステムに SOAP Fault メッセージを送信します。

対処

KDSR10004-E の対処方法を参照してください。

KDSR11005-W (E , T)

ドキュメントを取得失敗ディレクトリに出力しました。(ファイル名={0}, ドキュメント送信者識別子={1}, ドキュメント受信者識別子={2}, ドキュメント識別子={3})

{0} : ドキュメントファイル名

{1} : ドキュメント送信者識別子

{2} : ドキュメント受信者識別子

{3} : ドキュメント識別子

説明

ビジネスメッセージ送受信アプリケーションがドキュメントを取得失敗ディレクトリに出力しました。

KDSR12001-I (T)

ドキュメントを取得完了ディレクトリに出力しました。(ファイル名={0}, ドキュメント送信者識別子={1}, ドキュメント受信者識別子={2}, ドキュメント識別子={3})

{0} : ドキュメントファイル名

{1} : ドキュメント送信者識別子

{2} : ドキュメント受信者識別子

{3} : ドキュメント識別子

説明

ビジネスメッセージ送受信アプリケーションがドキュメントを取得完了ディレクトリに出力しました。

KDSR12003-I (N)

{0} {1} {2}

{0} : SOAP メッセージの受信日時

{1} : 出力識別子

{2} : 受信した SOAP メッセージ

説明

ビジネスメッセージ送受信アプリケーションが受信した SOAP メッセージです。

KDSR12004-I (N)

{0} {1} {2}

{0} : SOAP メッセージの送信日時

{1} : 出力識別子

{2} : 送信する SOAP メッセージ

説明

ビジネスメッセージ送受信アプリケーションが送信した SOAP メッセージです。

KDSR12005-I (T)

{0}::{1}

{0} : クラス名

{1} : メソッド名

説明

クラスのメソッドが開始されました。

KDSR12006-I (T)

{0}::{1}

{0} : クラス名

{1} : メソッド名

説明

クラスのメソッドが終了しました。

KDSR12007-I (S , T)

ビジネスメッセージ送受信アプリケーションの初期化に成功しました。

説明

ビジネスメッセージ送受信アプリケーションの初期化に成功しました。

KDSR12008-I (T)

SOAP メッセージを受信しました。

10. メッセージ

説明

ビジネスメッセージ送受信アプリケーションが SOAP メッセージを受信しました。

KDSR12009-I (T)

SOAP メッセージを送信しました。

説明

ビジネスメッセージ送受信アプリケーションが SOAP メッセージを送信しました。

KDSR12010-I (T)

{0} 処理を開始しました。

{0} : PutDocument , GetDocument , ConfirmDocument のどれか

説明

ビジネスメッセージ送受信アプリケーションで各 SOAP メッセージの処理が開始されました。

KDSR12011-I (T)

{0} 処理を終了しました。

{0} : PutDocument , GetDocument , ConfirmDocument のどれか

説明

ビジネスメッセージ送受信アプリケーションで各 SOAP メッセージの処理が終了しました。

KDSR12012-I (T)

ドキュメントのファイル出力を開始しました。

説明

ビジネスメッセージ送受信アプリケーションでドキュメントのファイル出力が開始されました。

KDSR12013-I (T)

ドキュメントのファイル出力を終了しました。

説明

ビジネスメッセージ送受信アプリケーションでドキュメントのファイル出力が終了しました。

KDSR12014-I (T)

プロパティ情報 {0}={1}

{0} : プロパティ名

{1} : プロパティの値

説明

サーバ共通定義ファイルに定義されたプロパティの情報です。

10.4 KDSR20001 ~ KDSR22999 のメッセージ

KDSR20001-E (E , T , G)

データベースの接続に失敗しました。

説明

データベース接続に失敗しました。
処理を中断します。

対処

データベースが正常に起動しているか確認し、起動していない場合は正しく起動させてください。
データベースが正常に起動していた場合は、ログを採取し、保守員に連絡してください。採取するログについては、「6.2 ログファイルの採取」を参照してください。

KDSR20002-E (E , T , G)

データベースアクセスエラーが発生しました。(エラーコード={0})

{0}: データベースのエラーコード

説明

データベースアクセスエラーが発生しました。
処理を中断します。

対処

エラーコードを基に、該当する HiRDB のメッセージの対処に従ってください。エラーコードと HiRDB のメッセージ ID との関係については、「10.1.3 データベースのエラーコードと HiRDB のメッセージ ID との関係」を参照してください。

KDSR20003-E (E , T , G)

状況照会アプリケーションの処理中に、継続できないエラーが発生しました。(詳細メッセージ={0})

{0}: 詳細エラーメッセージ

説明

処理が継続できないエラーが発生しました。
処理を中断します。

対処

ログを採取し、保守員に連絡してください。採取するログについては、「6.2 ログファイルの採取」を参照してください。

KDSR20004-E (S)

状況照会アプリケーションの初期化に失敗しました。

説明

状況照会アプリケーションの初期化に失敗しました。
初期化処理を中断します。

対処

状況照会アプリケーションを起動したときに出力されるメッセージの対処方法を参照してください。

出力されるメッセージのメッセージ ID を次に示します。

- KDSR00001-E
- KDSR00002-E
- KDSR00003-E
- KDSR00004-E
- KDSR00005-E
- KDSR00006-E
- KDSR00007-E
- KDSR00008-E

KDSR20005-E (E , T)

{0}

{0} : スタックトレース

説明

エラー発生時の詳細情報です。

KDSR20006-E (E , T , G)

ページ遷移エラーが発生しました。

説明

不正なページ遷移が行われようとしていました。
処理を中断します。

対処

ログイン画面に戻って再度ログインしてください。

KDSR20007-E (E , T , G)

状況照会アプリケーションの内部処理で、不正なドキュメント状態が指定されました。(状態コード={0})

{0} : ドキュメント状態コード

説明

内部エラーによって、状況照会アプリケーションの内部処理中に不正なドキュメン

10. メッセージ

ト状態が指定されました。
処理を中断します。

対処

ログを採取し、保守員に連絡してください。採取するログについては、「6.2 ログファイルの採取」を参照してください。

KDSR20008-E (G)

状況照会アプリケーションの初期化に失敗しているため、状況照会 GUI を使用できません。

説明

状況照会アプリケーションの初期化に失敗しているため、状況照会アプリケーションへのアクセスがキャンセルされました。
処理を中断します。

対処

状況照会アプリケーションを起動したときに出力されるメッセージの対処方法を参照してください。
出力されるメッセージのメッセージ ID を次に示します。

- KDSR00001-E
- KDSR00002-E
- KDSR00003-E
- KDSR00004-E
- KDSR00005-E
- KDSR00006-E
- KDSR00007-E
- KDSR00008-E

KDSR20009-E (E , T , G)

状況照会アプリケーションの内部処理で、不正なソート条件が指定されました。

説明

内部エラーによって、不正なソート条件が指定されました。

対処

ログを採取し、保守員に連絡してください。採取するログについては、「6.2 ログファイルの採取」を参照してください。

KDSR20010-E (E , T , G)

状況照会アプリケーションの内部処理で、不正な一画面の表示件数が指定されました。

説明

内部エラーによって、一画面の表示件数に不正な値が指定されました。

対処

ログを採取し、保守員に連絡してください。採取するログについては、「6.2 ログファイルの採取」を参照してください。

KDSR21001-W (E , T , G)

ログイン認証に失敗しました。ログイン ID・パスワードを確認して、再度ログインを実行してください。

説明

ログイン ID またはパスワードに誤りがあるため、ログイン認証に失敗しました。

対処

ログイン ID とパスワードを再確認して、再度ログインしてください。

KDSR21002-W (E , T , G)

セッションがタイムアウトしたか、またはセッションが無効です。ログインページから再度ログインしてください。

説明

セッションが無効な状態でページにアクセスしました。考えられる要因は次のとおりです。

- セッションタイムアウトです。
- ログインしないで、ほかのページへアクセスしようとしてしました。

対処

再度ログインしてください。

KDSR21003-W (E , T , G)

該当するビジネスメッセージは、すでに指定されたドキュメント状態に遷移しています。

説明

対象のビジネスメッセージのドキュメント状態を更新しようとしたますが、すでに指定された状態になっています。

対処

ビジネスメッセージのドキュメント状態を再確認してください。

KDSR21004-W (E , T , G)

該当するビジネスメッセージは存在しません。

説明

対象のビジネスメッセージはすでにありません。

対処

ビジネスメッセージがあるか再確認してください。

KDSR21005-W (E , T , D)

ログイン ID の形式に誤りがあります。

説明

入力されたログイン ID の形式に誤りがあります。

対処

正しい形式で再入力してください。

KDSR21006-W (E , T , D)

パスワードの形式に誤りがあります。

説明

入力されたパスワードの形式に誤りがあります。

対処

正しい形式で再入力してください。

KDSR21007-W (E , T , D)

ドキュメント送信者識別子の形式に誤りがあります。

説明

入力されたドキュメント送信者識別子の形式に誤りがあります。

対処

正しい形式で再入力してください。

KDSR21008-W (E , T , D)

ドキュメント受信者識別子の形式に誤りがあります。

説明

入力されたドキュメント受信者識別子の形式に誤りがあります。

対処

正しい形式で再入力してください。

KDSR21009-W (E , T , D)

ドキュメント識別子の形式に誤りがあります。

説明

入力されたドキュメント識別子の形式に誤りがあります。

対処

正しい形式で再入力してください。

KDSR21010-W (E , T , D)

ドキュメント形式の形式に誤りがあります。

説明

入力されたドキュメント形式の形式に誤りがあります。

対処

正しい形式で再入力してください。

KDSR21011-W (E , T , D)

ドキュメント種別の形式に誤りがあります。

説明

入力されたドキュメント種別の形式に誤りがあります。

対処

正しい形式で再入力してください。

KDSR21012-W (E , T , D)

ドキュメント圧縮形式の形式に誤りがあります。

説明

入力されたドキュメント圧縮形式の形式に誤りがあります。

対処

正しい形式で再入力してください。

KDSR21013-W (E , T , D)

登録日時の形式に誤りがあります。

説明

入力された登録日時の形式に誤りがあります。

対処

正しい形式で再入力してください。

KDSR21014-W (E , T , D)

取得日時の形式に誤りがあります。

説明

入力された取得日時の形式に誤りがあります。

対処

正しい形式で再入力してください。

KDSR21015-W (E , T , D)

ページ番号に誤りがあります。

説明

入力されたページ番号に誤りがあります。

10. メッセージ

対処

正しい形式で再入力してください。

KDSR21016-W (D)

ログイン ID を入力してください。

説明

ログイン ID が入力されていません。

対処

ログイン ID を入力してください。

KDSR21017-W (D)

パスワードを入力してください。

説明

パスワードが入力されていません。

対処

パスワードを入力してください。

KDSR21018-W (E , T , D)

ドキュメント状態が指定されていません。

説明

検索条件として、ドキュメント状態が一つも指定されていません。

対処

検索条件として、ドキュメント状態を一つ以上指定してください。

KDSR21019-W (E , T)

内部パラメーター値 {0}={1}

{0} : 内部パラメーター名

{1} : 内部パラメーター値

説明

エラー発生時の詳細情報です。エラーの原因となった、内部パラメーターの値を表示します。

KDSR22001-I (T)

状況照会アプリケーションにログインしました。(セッション ID={0})

{0} : HTTP 接続時に J2EE サーバから割り当てられたセッション ID

説明

状況照会アプリケーションにログインしました。

KDSR22002-I (T)

状況照会アプリケーションからログアウトしました。(セッション ID={0})
{0} : HTTP 接続時に J2EE サーバから割り当てられたセッション ID

説明

状況照会アプリケーションからログアウトしました。

KDSR22003-I (G)

対象となるビジネスメッセージが存在しません。

説明

検索条件に合うビジネスメッセージが 1 件もありませんでした。

KDSR22004-I (T)

ログイン認証処理を開始します。

説明

ログイン認証の処理が開始するときのトレース情報です。

KDSR22005-I (T)

ログイン認証処理を終了します。

説明

ログイン認証の処理が終了するときのトレース情報です。

KDSR22006-I (T)

ビジネスメッセージの検索処理を開始します。

説明

ビジネスメッセージ検索の処理が開始するときのトレース情報です。

KDSR22007-I (T)

ビジネスメッセージの検索処理を終了します。

説明

ビジネスメッセージ検索の処理が終了するときのトレース情報です。

KDSR22008-I (T)

ビジネスメッセージ一覧ファイルのダウンロード処理を開始します。

説明

ビジネスメッセージ一覧の CSV ファイルダウンロード処理が開始するときのトレース情報です。

KDSR22009-I (T)

ビジネスメッセージ一覧ファイルのダウンロード処理を終了します。

説明

ビジネスメッセージ一覧の CSV ファイルダウンロード処理が終了するときのトレース情報です。

KDSR22010-I (T)

ビジネスメッセージのドキュメント状態変更処理を開始します。

説明

ドキュメント状態の変更処理が開始するときのトレース情報です。

KDSR22011-I (T)

ビジネスメッセージのドキュメント状態変更処理を終了します。

説明

ドキュメント状態の変更処理が終了するときのトレース情報です。

KDSR22012-I (T)

ドキュメント状態を変更したビジネスメッセージの最新情報を再取得します。(ドキュメント送信者識別子={0}, ドキュメント受信者識別子={1}, ドキュメント識別子={2})

{0} : ドキュメント送信者識別子

{1} : ドキュメント受信者識別子

{2} : ドキュメント識別子

説明

ビジネスメッセージ情報を再取得するときのトレース情報です。

KDSR22013-I (T)

ビジネスメッセージ一覧ファイルをダウンロードします。(ファイル名={0})

{0} : ビジネスメッセージ一覧ファイル名

説明

ビジネスメッセージ一覧ファイルを CSV ファイルとしてダウンロードするときのファイル名です。

KDSR22014-I (T)

メソッドを開始します。({0}::{1})

{0} : クラス名

{1} : メソッド名

説明

内部メソッドを開始するときのトレース情報です。

KDSR22015-I (T)

メソッドを終了します。({0}::{1})

{0} : クラス名

{1} : メソッド名

説明

内部メソッドを終了するときのトレース情報です。

KDSR22016-I (S , T)

状況照会アプリケーションの初期化に成功しました。

説明

状況照会アプリケーションの初期化に成功しました。

KDSR22017-I (T)

プロパティ情報 {0}={1}

{0} : プロパティ名

{1} : プロパティの値

説明

サーバ共通定義ファイルに定義されたプロパティの情報です。

KDSR22018-I (T)

ページ生成処理を開始します。({0})

{0} : JSP ファイル名

説明

JSP がページ生成処理を開始するときのトレース情報です。

KDSR22019-I (T)

ページ生成処理を終了します。({0})

{0} : JSP ファイル名

説明

JSP がページ生成処理を終了するときのトレース情報です。

10.5 KDSR30001 ~ KDSR32999 のメッセージ

KDSR30001-E (S)

{0} コマンドの初期化に失敗しました。

{0} : コマンド名

説明

コマンドの初期化に失敗しました。
コマンドの処理を中断します。

対処

コマンドを起動したときに出力されるメッセージの対処方法を参照してください。
出力されるメッセージのメッセージ ID を次に示します。

- KDSR00001-E
- KDSR00002-E
- KDSR00003-E
- KDSR00004-E
- KDSR00005-E
- KDSR00006-E
- KDSR00007-E
- KDSR00008-E

KDSR30002-E (S , E , T)

指定必須のコマンド引数が指定されていません。(コマンド引数={0})

{0} : コマンド引数

説明

コマンドのコマンドラインに必要なオプションが指定されていません。
コマンドの処理を中断します。

対処

正しい形式でコマンドを再実行してください。コマンドの入力形式については、
「9.2.2 入力形式」を参照してください。

KDSR30003-E (S , E , T)

不正なコマンド引数が指定されました。(コマンド引数={0})

{0} : コマンド引数

説明

コマンドのコマンドラインに不正なオプションが指定されました。
コマンドの処理を中断します。

対処

正しい形式でコマンドを再実行してください。コマンドの入力形式については、「9.2.2 入力形式」を参照してください。

KDSR30004-E (S, E, T)

コマンド引数が重複して指定されています。(コマンド引数={0})

{0} : コマンド引数

説明

コマンドのコマンドラインに同一のオプションが重複して指定されました。
コマンドの処理を中断します。

対処

正しい形式でコマンドを再実行してください。コマンドの入力形式については、「9.2.2 入力形式」を参照してください。

KDSR30005-E (S, E, T)

コマンドの処理中に、継続できないエラーが発生しました。(詳細メッセージ={0})

{0} : 詳細エラーメッセージ

説明

コマンドの処理中に、継続できないエラーが発生しました。
コマンドの処理を中断します。

対処

ログを採取し、保守員に連絡してください。採取するログについては、「6.2 ログファイルの採取」を参照してください。

KDSR30006-E (S, E, T)

データベースアクセスエラーが発生しました。(エラーコード={0})

{0} : データベースのエラーコード

説明

コマンドでデータベースアクセスエラーが発生しました。
コマンドの処理を中断します。

対処

- Windows の場合

エラーコードを基に、該当する HiRDB のメッセージの対処に従ってください。
エラーコードと HiRDB のメッセージ ID との関係については、「10.1.3 データベースのエラーコードと HiRDB のメッセージ ID との関係」を参照してください。
- UNIX の場合

サーバ共通定義ファイルのプロパティ "ebxml.mssl.cmd.db.jdbc.driver" に正しい

値が指定されているかを確認してください。または、エラーコードを基に、該当する HiRDB のメッセージの対処に従ってください。エラーコードと HiRDB のメッセージ ID との関係については、「10.1.3 データベースのエラーコードと HiRDB のメッセージ ID との関係」を参照してください。

KDSR30007-E (S , E , T)

取引先識別子ファイル名に誤りがあります。(ファイル名={0})

{0} : 取引先識別子ファイル名

説明

取引先識別子ファイル名に Windows の予約デバイス名が含まれています。または、取引先識別子ファイルの属性がファイルではありません。コマンドの処理を中断します。

対処

オプションに指定した取引先識別子ファイル名を見直して、コマンドを再実行してください。

KDSR30008-E (S , E , T)

取引先識別子ファイルが存在しません。(ファイル名={0})

{0} : 取引先識別子ファイル名

説明

取引先識別子ファイルがありません。コマンドの処理を中断します。

対処

オプションに指定した取引先識別子ファイル名を見直して、コマンドを再実行してください。

KDSR30009-E (S , E , T)

取引先識別子ファイルの読み取り権限がありません。(ファイル名={0})

{0} : 取引先識別子ファイル名

説明

取引先識別子ファイルの読み取り権限がありません。コマンドの処理を中断します。

対処

取引先識別子ファイルのアクセス権限を見直し、コマンドを再実行してください。

KDSR30010-E (S , E , T)

取引先識別子ファイルの読み込みに失敗しました。(ファイル名={0})

{0} : 取引先識別子ファイル名

説明

取引先識別子ファイルの読み込みに失敗しました。
コマンドの処理を中断します。

対処

ログを採取し、保守員に連絡してください。採取するログについては、「6.2 ログファイルの採取」を参照してください。

KDSR30011-E (S , E , T)

取引先識別子に誤りがあります。(ファイル名={0}, 行番号={1}, 取引先識別子={2})

{0}: 取引先識別子ファイル名

{1}: 行番号

{2}: 取引先識別子

説明

取引先識別子ファイルに定義された取引先識別子に誤りがあります。
コマンドの処理を中断します。

対処

取引先識別子ファイルの内容を見直して、コマンドを再実行してください。

KDSR30012-E (S , E , T)

取引先識別子が重複して定義されています。(ファイル名={0}, 行番号={1}, 取引先識別子={2})

{0}: 取引先識別子ファイル名

{1}: 行番号 (重複して定義した行の行番号)

{2}: 取引先識別子

説明

取引先識別子ファイルに同一の取引先識別子が重複して定義されました。
コマンドの処理を中断します。

対処

取引先識別子ファイルの内容を見直して、コマンドを再実行してください。

KDSR30013-E (S , E , T)

取引先 URI ファイル名に誤りがあります。(ファイル名={0})

{0}: 取引先 URI ファイル名

説明

取引先 URI ファイル名に Windows の予約デバイス名が含まれています。または、
取引先 URI ファイルの属性がファイルではありません。
コマンドの処理を中断します。

対処

コマンド引数に指定した取引先 URI ファイル名を見直して、コマンドを再実行して

ください。

KDSR30014-E (S , E , T)

取引先 URI ファイルが存在しません。(ファイル名 ={0})

{0} : 取引先 URI ファイル名

説明

取引先 URI ファイル名がありません。
コマンドの処理を中断します。

対処

コマンド引数に指定した取引先 URI ファイル名を見直して、コマンドを再実行してください。

KDSR30015-E (S , E , T)

取引先 URI ファイルの読み取り権限がありません。(ファイル名 ={0})

{0} : 取引先 URI ファイル名

説明

取引先 URI ファイルの読み取り権限がありません。
コマンドの処理を中断します。

対処

取引先 URI ファイルのアクセス権限を見直し、コマンドを再実行してください。

KDSR30016-E (S , E , T)

取引先 URI ファイルの読み込みに失敗しました。(ファイル名 ={0})

{0} : 取引先 URI ファイル名

説明

取引先 URI ファイルの読み込みに失敗しました。
コマンドの処理を中断します。

対処

ログを採取し、保守員に連絡してください。採取するログについては、「6.2 ログファイルの採取」を参照してください。

KDSR30017-E (S , E , T)

取引先 URI に誤りがあります。(ファイル名 ={0}, 行番号 ={1}, 取引先 URI={2})

{0} : 取引先 URI ファイル名

{1} : 行番号

{2} : 取引先 URI

説明

取引先 URI ファイルに定義された取引先 URI に誤りがあります。
コマンドの処理を中断します。

対処

取引先 URI ファイルの内容を見直して、コマンドを再実行してください。

KDSR30018-E (S , E , T)

取引先 URI が重複して定義されています。(ファイル名={0}, 行番号={1}, 取引先 URI={2})

{0}: 取引先 URI ファイル名

{1}: 行番号 (重複して定義した行の行番号)

{2}: 取引先 URI

説明

取引先 URI ファイルに同一の取引先 URI が重複して定義されました。
コマンドの処理を中断します。

対処

取引先 URI ファイルの内容を見直して、コマンドを再実行してください。

KDSR30019-E (S , E , T)

ドキュメント送信者識別子に誤りがあります。(引数指定値={0})

{0}: 引数指定値

説明

コマンドラインで指定されたドキュメント送信者識別子が不正な形式です。
コマンドの処理を中断します。

対処

引数を正しい形式に修正して、コマンドを再実行してください。

KDSR30020-E (S , E , T)

ドキュメント受信者識別子に誤りがあります。(引数指定値={0})

{0}: 引数指定値

説明

コマンドラインで指定されたドキュメント受信者識別子が不正な形式です。
コマンドの処理を中断します。

対処

引数を正しい形式に修正して、コマンドを再実行してください。

KDSR30021-E (S , E , T)

ドキュメント識別子に誤りがあります。(引数指定値={0})

{0}: 引数指定値

10. メッセージ

説明

コマンドラインで指定されたドキュメント識別子が不正な形式です。
コマンドの処理を中断します。

対処

引数を正しい形式に修正して、コマンドを再実行してください。

KDSR30022-E (S , E , T)

ドキュメント形式に誤りがあります。(引数指定値={0})

{0} : 引数指定値

説明

コマンドラインで指定されたドキュメント形式が不正な形式です。
コマンドの処理を中断します。

対処

引数を正しい形式に修正して、コマンドを再実行してください。

KDSR30023-E (S , E , T)

ドキュメント種別に誤りがあります。(引数指定値={0})

{0} : 引数指定値

説明

コマンドラインで指定されたドキュメント種別が不正な形式です。
コマンドの処理を中断します。

対処

引数を正しい形式に修正して、コマンドを再実行してください。

KDSR30024-E (S , E , T)

ドキュメント圧縮形式に誤りがあります。(引数指定値={0})

{0} : 引数指定値

説明

コマンドラインで指定されたドキュメント圧縮形式が不正な形式です。
コマンドの処理を中断します。

対処

引数を正しい形式に修正して、コマンドを再実行してください。

KDSR30025-E (S , E , T)

開始日時に誤りがあります。(引数指定値={0})

{0} : 引数指定値

説明

コマンドラインで指定された開始日時が不正な形式です。

コマンドの処理を中断します。

対処

引数を正しい形式に修正して、コマンドを再実行してください。

KDSR30026-E (S , E , T)

終了日時に誤りがあります。(引数指定値={0})

{0} : 引数指定値

説明

コマンドラインで指定された終了日時が不正な形式です。
コマンドの処理を中断します。

対処

引数を正しい形式に修正して、コマンドを再実行してください。

KDSR30027-E (S , E , T)

HSRSPutMessage コマンドには、-file オプションか -dir オプションのどちらか一つを指定してください。

説明

HSRSPutMessage コマンドに対して、-file オプションと -dir オプションを同時に指定したか、またはどちらも指定していませんでした。
コマンドの処理を中断します。

対処

引数の形式を確認し、どちらか一つを指定するよう修正して、コマンドを再実行してください。

KDSR30028-E (S , E , T)

-del オプションには、"ON" または "OFF" を指定してください。

説明

-del オプションに不正な値が指定されました。
コマンドの処理を中断します。

対処

引数を正しい形式に修正して、コマンドを再実行してください。

KDSR30029-E (S , E , T)

該当するドキュメントファイルは存在しません。(ファイル名={0})

{0} : ドキュメントファイル名

説明

-file オプションで指定されたドキュメントファイルがありませんでした。
コマンドの処理を中断します。

対処

ファイルがあるか、または引数に誤りがないかを確認して、コマンドを再実行してください。

KDSR30030-E (S, E, T)

-file オプションには、ファイルを指定してください。(ファイル名={0})

{0} : -file オプションでドキュメントファイル名として指定された名称

説明

-file オプションでディレクトリ名が指定されました。
コマンドの処理を中断します。

対処

ドキュメントファイル名を指定するか、または -dir オプションを指定して、コマンドを再実行してください。

KDSR30031-E (S, E, T)

該当するドキュメントファイルには読み取り権限がありません。(ファイル名={0})

{0} : ドキュメントファイル名

説明

-file オプションで指定されたドキュメントファイルに、読み取り権限がありません。
コマンドの処理を中断します。

対処

ドキュメントファイルのアクセス権限を見直し、コマンドを再実行してください。

KDSR30032-E (S, E, T)

指定されたドキュメントファイルは処理できない名称です。(ファイル名={0})

{0} : ドキュメントファイル名

説明

-file オプションで指定されたドキュメントファイル名に Windows の予約デバイス名が含まれているため、正常な処理ができないおそれがあります。
コマンドの処理を中断します。

対処

ドキュメントファイル名を見直して、コマンドを再実行してください。

KDSR30033-E (S, E, T)

該当するドキュメントディレクトリは存在しません。(ディレクトリ名={0})

{0} : ドキュメントディレクトリ名

説明

-dir オプションで指定されたドキュメントディレクトリがありませんでした。

コマンドの処理を中断します。

対処

ドキュメントディレクトリがあるか、または引数に誤りがないかを確認して、コマンドを再実行してください。

KDSR30034-E (S , E , T)

-dir オプションには、ディレクトリを指定してください。(ディレクトリ名={0})

{0}: -dir オプションでドキュメントディレクトリ名として指定された名称

説明

-dir オプションでファイル名が指定されました。

コマンドの処理を中断します。

対処

ドキュメントディレクトリ名を指定するか、または -file オプションを指定して、コマンドを再実行してください。

KDSR30035-E (S , E , T)

該当するドキュメントディレクトリには読み取り権限がありません。(ディレクトリ名={0})

{0}: ドキュメントディレクトリ名

説明

-dir オプションで指定されたドキュメントディレクトリに、読み取り権限がありません。

コマンドの処理を中断します。

対処

ドキュメントディレクトリのアクセス権限を見直し、コマンドを再実行してください。

KDSR30036-E (S , E , T)

指定されたドキュメントディレクトリは処理できない名称です。(ディレクトリ名={0})

{0}: ドキュメントディレクトリ名

説明

-dir オプションで指定されたドキュメントディレクトリ名に Windows の予約デバイス名が含まれているため、正常な処理ができないおそれがあります。

コマンドの処理を中断します。

対処

ドキュメントディレクトリ名を見直して、コマンドを再実行してください。

KDSR30037-E (S , E , T)

ドキュメントファイルの読み込みに失敗しました。

10. メッセージ

説明

ドキュメントファイルの読み込みに失敗しました。
コマンドの処理を中断します。

対処

エラーログおよびトレースログに出力されているエラーの詳細情報を参照し、失敗の原因を取り除いたあと、コマンドを再実行してください。

KDSR30038-E (S , E , T)

ドキュメントの BASE64 エンコーディングに失敗しました。(詳細メッセージ={0})

{0}: BASE64 処理のエラーメッセージ

説明

ドキュメントの BASE64 エンコーディングに失敗しました。
コマンドの処理を中断します。

対処

詳細メッセージの対処方法を参照してください。
詳細メッセージのメッセージ ID を次に示します。

- KDSR00015-E

KDSR30040-E (S , E , T)

ビジネスメッセージの登録に失敗しました。(ファイル名={0})

{0}: ドキュメントファイル名

説明

継続できない要因によって、ビジネスメッセージの登録に失敗しました。
コマンドの処理を中断します。

対処

エラーログおよびトレースログに出力されているエラーの詳細情報を参照し、失敗の原因を取り除いたあと、コマンドを再実行してください。

KDSR30041-E (S , E , T)

ビジネスメッセージの取得に失敗しました。(ドキュメント送信者識別子={0}, ドキュメント受信者識別子={1}, ドキュメント識別子={2})

{0}: ドキュメント送信者識別子

{1}: ドキュメント受信者識別子

{2}: ドキュメント識別子

説明

継続できない要因によって、ビジネスメッセージの取得に失敗しました。
コマンドの処理を中断します。

対処

エラーログおよびトレースログに出力されているエラーの詳細情報を参照し、失敗の原因を取り除いたあと、コマンドを再実行してください。

KDSR30042-E (S , E , T)

ビジネスメッセージの削除に失敗しました。

説明

継続できない要因によって、ビジネスメッセージの削除に失敗しました。
コマンドの処理を中断します。

対処

エラーログおよびトレースログに出力されているエラーの詳細情報を参照し、失敗の原因を取り除いたあと、コマンドを再実行してください。

KDSR30043-E (S , E , T)

ビジネスメッセージのドキュメント状態変更失敗しました。(ドキュメント送信者識別子={0},
ドキュメント受信者識別子={1},ドキュメント識別子={2})

{0}:ドキュメント送信者識別子

{1}:ドキュメント受信者識別子

{2}:ドキュメント識別子

説明

継続できない要因によって、ビジネスメッセージのドキュメント状態変更失敗しました。
コマンドの処理を中断します。

対処

エラーログおよびトレースログに出力されているエラーの詳細情報を参照し、失敗の原因を取り除いたあと、コマンドを再実行してください。

KDSR30044-E (S , E , T)

コマンド実行中に障害が発生しました。({0})

{0}:詳細エラーメッセージ

説明

コマンド実行中に例外が発生しました。
コマンドの処理を中断します。

対処

ログを採取し、保守員に連絡してください。採取するログについては、「6.2 ログファイルの採取」を参照してください。

KDSR30045-E (S , E , T)

指定された受信者は存在しません。(ドキュメント受信者識別子={0})

10. メッセージ

{0} : ドキュメント受信者識別子

説明

指定されたドキュメント受信者識別子は HiRDB のテーブル (HSRSPartnerInfo) がないため、ビジネスメッセージを送信できません。
コマンドの処理を終了します。

対処

クライアント企業の情報を記述したマスターファイルで、取引先識別子を確認してください。マスターファイルについては、「5.5.4 マスターファイルを作成、更新する」を参照してください。

KDSR30046-E (S , E , T)

指定された受信者の取引先状態はすでに " 取引停止 " です。(ドキュメント受信者識別子={0})

{0} : ドキュメント受信者識別子

説明

指定されたクライアント企業はすでに " 取引停止 " 状態になっているため、ビジネスメッセージを送信できません。
コマンドの処理を終了します。

対処

クライアント企業の情報を記述したマスターファイルで、取引先識別子および取引先状態を確認してください。マスターファイルについては、「5.5.4 マスターファイルを作成、更新する」を参照してください。

KDSR30047-E (S , E , T)

ドキュメント形式とドキュメント種別の組み合わせに誤りがあります。(ドキュメント形式={0}, ドキュメント種別={1})

{0} : ドキュメント形式

{1} : ドキュメント種別

説明

ドキュメント形式とドキュメント種別の組み合わせに誤りがあります。
コマンドの処理を中断します。

対処

ドキュメント形式とドキュメント種別の組み合わせが正しいか確認してください。
ドキュメント形式とドキュメント種別の組み合わせについては、「3.2.4(1) ドキュメント形式とドキュメント種別」を参照してください。

KDSR30048-E (S , E , T)

ドキュメントの BASE64 デコーディングに失敗しました。(詳細メッセージ={0})

{0} : BASE64 処理のエラーメッセージ

説明

ドキュメントの BASE64 デコーディングに失敗しました。
コマンドの処理を中断します。

対処

詳細メッセージの対処方法を参照してください。
詳細メッセージのメッセージ ID を次に示します。

- KDSR00014-E
- KDSR00015-E
- KDSR00016-E

KDSR31001-W (E , T)

{0}

{0} : スタックトレース

説明

コマンドで発生した例外のスタックトレースです。

KDSR31002-W (S , E , T)

取引先識別子がすでに存在します。(取引先識別子={0})

{0} : 取引先識別子

説明

取引先識別子がデータベースにあります。
該当する取引先識別子を無視して、コマンドの処理を続行します。

対処

取引先識別子ファイルを見直して、コマンドを再実行してください。

KDSR31003-W (S , E , T)

該当する取引先識別子が存在しません。(取引先識別子={0})

{0} : 取引先識別子

説明

取引先識別子がデータベースにありません。
該当する取引先識別子を無視して、コマンドの処理を続行します。

対処

取引先識別子ファイルを見直して、コマンドを再実行してください。

KDSR31004-W (S , E , T)

取引先状態がすでに "取引中" です。(取引先識別子={0})

{0} : 取引先識別子

説明

10. メッセージ

取引先識別子の取引先状態が " 取引中 " です。
該当する取引先識別子を無視して、コマンドの処理を続行します。

対処

取引先識別子ファイルを見直して、コマンドを再実行してください。

KDSR31005-W (S , E , T)

取引先状態がすでに " 取引停止 " です。(取引先識別子 ={0})

{0} : 取引先識別子

説明

取引先識別子の取引先状態が " 取引停止 " です。
該当する取引先識別子を無視して、コマンドの処理を続行します。

対処

取引先識別子ファイルを見直して、コマンドを再実行してください。

KDSR31006-W (S , E , T)

取引先 URI がすでに存在します。(取引先 URI={0})

{0} : 取引先 URI

説明

取引先 URI がデータベースにあります。
該当する取引先 URI を無視して、コマンドの処理を続行します。

対処

取引先 URI ファイルを見直して、コマンドを再実行してください。

KDSR31007-W (S , E , T)

該当する取引先 URI が存在しません。(取引先 URI={0})

{0} : 取引先 URI

説明

取引先 URI がデータベースにありません。
該当する取引先 URI を無視して、コマンドの処理を続行します。

対処

取引先 URI ファイルを見直して、コマンドを再実行してください。

KDSR31008-W (S , E , T)

シグナルを受信したため、処理を中断します。

説明

コマンド実行中に [Ctrl] + [C] が押されました。
コマンドの処理を中断します。

対処

必要に応じてコマンドを再実行してください。

KDSR31009-W (S , E , T)

指定されたドキュメントファイルは0バイトです。(ファイル名={0})

{0} : ドキュメントファイル名

説明

ドキュメントファイルを処理しようとしたますが、ファイルが0バイトであるため処理できません。

まだ処理していないドキュメントファイルがある場合は、処理を続けます。

対処

ドキュメントファイルの内容を確認してください。

KDSR31010-W (S , E , T)

ドキュメントディレクトリの下にファイルが存在しません。

説明

指定されたドキュメントディレクトリの下にドキュメントファイルが1件もありません。

コマンドの処理を終了します。

対処

ドキュメントディレクトリの下にドキュメントファイルを格納して、コマンドを再実行してください。

KDSR31011-W (S , E , T)

ビジネスメッセージが登録できませんでした。(ファイル名={0})

{0} : ドキュメントファイル名

説明

ビジネスメッセージの登録に失敗しました。

まだ登録していないビジネスメッセージがある場合は、処理を続けます。

対処

エラーログおよびトレースログに出力されているエラーの詳細情報を参照し、失敗の原因を取り除いたあと、コマンドを再実行してください。

KDSR31012-W (S , E , T)

ビジネスメッセージが取得できませんでした。(ドキュメント送信者識別子={0}, ドキュメント受信者識別子={1}, ドキュメント識別子={2})

{0} : ドキュメント送信者識別子

{1} : ドキュメント受信者識別子

10. メッセージ

{2} : ドキュメント識別子

説明

ビジネスメッセージの取得に失敗しました。
まだ取得していないビジネスメッセージがある場合は、処理を継続します。

対処

エラーログおよびトレースログに出力されているエラーの詳細情報を参照し、失敗の原因を取り除いたあと、コマンドを再実行してください。

KDSR31013-W (S , E , T)

ビジネスメッセージのドキュメント状態はすでに " 未取得 " です。(ドキュメント送信者識別子={0}, ドキュメント受信者識別子={1}, ドキュメント識別子={2})

{0} : ドキュメント送信者識別子

{1} : ドキュメント受信者識別子

{2} : ドキュメント識別子

説明

ビジネスメッセージはすでに " 未取得 " 状態です。
コマンドの処理を終了します。

対処

ビジネスメッセージのドキュメント状態を確認してください。

KDSR31014-W (S , E , T)

ビジネスメッセージのドキュメント状態はすでに " 取得済み " です。(ドキュメント送信者識別子={0}, ドキュメント受信者識別子={1}, ドキュメント識別子={2})

{0} : ドキュメント送信者識別子

{1} : ドキュメント受信者識別子

{2} : ドキュメント識別子

説明

ビジネスメッセージはすでに " 取得済み " 状態です。
コマンドの処理を終了します。

対処

ビジネスメッセージのドキュメント状態を確認してください。

KDSR31015-W (S , E , T)

ビジネスメッセージのドキュメントを取得できませんでした。(ドキュメント送信者識別子={0}, ドキュメント受信者識別子={1}, ドキュメント識別子={2})

{0} : ドキュメント送信者識別子

{1} : ドキュメント受信者識別子

{2} : ドキュメント識別子

説明

データベースアクセスエラーが発生しました。
まだ取得していないビジネスメッセージがある場合は、処理を続けます。

対処

エラーログおよびトレースログに出力されているエラーの詳細情報を参照し、失敗の原因を取り除いたあと、コマンドを再実行してください。

KDSR31016-W (S , E , T)

該当するビジネスメッセージは存在しません。(ドキュメント送信者識別子={0},ドキュメント受信者識別子={1},ドキュメント識別子={2})

- {0} : ドキュメント送信者識別子
- {1} : ドキュメント受信者識別子
- {2} : ドキュメント識別子

説明

指定したビジネスメッセージは、データベースにありませんでした。
コマンドの処理を終了します。

対処

対象ビジネスメッセージがあるか確認してください。

KDSR31017-W (S , E , T)

ビジネスメッセージのドキュメント状態を変更できませんでした。(ドキュメント送信者識別子={0},ドキュメント受信者識別子={1},ドキュメント識別子={2})

- {0} : ドキュメント送信者識別子
- {1} : ドキュメント受信者識別子
- {2} : ドキュメント識別子

説明

ビジネスメッセージのドキュメント状態変更に失敗しました。
まだ処理できるビジネスメッセージがある場合は、処理を続けます。

対処

エラーログおよびトレースログに出力されているエラーの詳細情報を参照し、失敗の原因を取り除いたあと、コマンドを再実行してください。

KDSR31018-W (S , E , T)

ドキュメントファイルを出力できませんでした。(ファイル名={0},ドキュメント送信者識別子={1},ドキュメント受信者識別子={2},ドキュメント識別子={3})

- {0} : ドキュメントファイル名
- {1} : ドキュメント送信者識別子
- {2} : ドキュメント受信者識別子
- {3} : ドキュメント識別子

10. メッセージ

説明

ドキュメントファイルの出力に失敗しました。
まだ取得していないビジネスメッセージがある場合は、処理を継続します。

対処

エラーログおよびトレースログに出力されているエラーの詳細情報を参照し、失敗の原因を取り除いたあと、コマンドを再実行してください。

KDSR31019-W (S , E , T)

取引先識別子ファイルが空です。(ファイル名={0})

{0} : 取引先識別子ファイル名

説明

取引先識別子ファイルの内容が空です。
コマンドを警告付き正常終了します。

対処

取引先識別子ファイルを見直して、コマンドを再実行してください。

KDSR31020-W (S , E , T)

取引先 URI ファイルが空です。(ファイル名={0})

{0} : 取引先 URI ファイル名

説明

取引先 URI ファイルの内容が空です。
コマンドを警告付き正常終了します。

対処

取引先 URI ファイルを見直して、コマンドを再実行してください。

KDSR31021-W (S , E , T)

ドキュメントファイルを取得完了ディレクトリに出力できないため、取得失敗ディレクトリに出力します。

説明

ドキュメントファイルを取得完了ディレクトリに出力しようとしたますが、ファイルの出力に失敗したため、取得失敗ディレクトリへ出力します。
まだ取得していないビジネスメッセージがある場合は、処理を継続します。

対処

取得完了ディレクトリにファイルを出力できるようにしたあと、コマンドを再実行してください。

KDSR31022-W (S , E , T)

登録時のドキュメントの長さが、サーバ共通定義ファイルに指定したドキュメントの最大長を超えています。(ファイル名={0})

{0} : ドキュメントファイル名

説明

BASE64 エンコーディングしたあとのドキュメントの長さが、サーバ共通定義ファイルで設定したドキュメントの最大長を超えています。ビジネスメッセージをデータベースに登録できません。

まだ登録していないビジネスメッセージがある場合は、処理を続けます。

対処

ドキュメントファイルを見直して、コマンドを再実行してください。

KDSR32001-I (T)

{0}::{1}

{0} : クラス名

{1} : メソッド名

説明

クラスのメソッドが開始されました。

KDSR32002-I (T)

{0}::{1}

{0} : クラス名

{1} : メソッド名

説明

クラスのメソッドが終了しました。

KDSR32003-I (S , T)

{0} コマンドの処理を開始しました。

{0} : コマンド名

説明

コマンドの処理が開始されました。

KDSR32004-I (S , T)

{0} コマンドの処理が正常終了しました。

{0} : コマンド名

説明

コマンドの処理が正常終了しました。

KDSR32005-I (S , T)

{0} コマンドの処理が警告付き正常終了しました。

{0} : コマンド名

説明

コマンドの処理が警告付き正常終了しました。

KDSR32006-I (S , T)

{0} コマンドの処理が異常終了 (システム定義不正) しました。

{0} : コマンド名

説明

コマンドの処理が異常終了 (システム定義不正) しました。

KDSR32007-I (S , T)

{0} コマンドの処理が異常終了 (引数不正) しました。

{0} : コマンド名

説明

コマンドの処理が異常終了 (引数不正) しました。

KDSR32008-I (S , T)

{0} コマンドの処理が異常終了 (実行時エラー) しました。

{0} : コマンド名

説明

コマンドの処理が異常終了 (実行時エラー) しました。

KDSR32009-I (S , T)

コマンド引数情報 {0}

{0} : コマンド引数

説明

コマンドのオプションにユーザーが指定した引数です。

KDSR32010-I (T)

取引先識別子の登録に成功しました。 (取引先識別子 ={0})

{0} : 取引先識別子

説明

取引先識別子の登録に成功しました。

KDSR32011-I (T)

取引先識別子の登録に失敗しました。(取引先識別子={0})

{0} : 取引先識別子

説明

取引先識別子の登録に失敗しました。

KDSR32012-I (T)

取引先識別子の削除に成功しました。(取引先識別子={0})

{0} : 取引先識別子

説明

取引先識別子の削除に成功しました。

KDSR32013-I (T)

取引先識別子の削除に失敗しました。(取引先識別子={0})

{0} : 取引先識別子

説明

取引先識別子の削除に失敗しました。

KDSR32014-I (T)

取引先状態の変更に成功しました。(取引先識別子={0})

{0} : 取引先識別子

説明

取引先状態の変更に成功しました。

KDSR32015-I (T)

取引先状態の変更に失敗しました。(取引先識別子={0})

{0} : 取引先識別子

説明

取引先状態の変更に失敗しました。

KDSR32016-I (T)

取引先 URI の登録に成功しました。(取引先 URI={0})

{0} : 取引先 URI

説明

取引先 URI の登録に成功しました。

KDSR32017-I (T)

取引先 URI の登録に失敗しました。(取引先 URI={0})

{0} : 取引先 URI

説明

取引先 URI の登録に失敗しました。

KDSR32018-I (T)

取引先 URI の削除に成功しました。(取引先 URI={0})

{0} : 取引先 URI

説明

取引先 URI の削除に成功しました。

KDSR32019-I (T)

取引先 URI の削除に失敗しました。(取引先 URI={0})

{0} : 取引先 URI

説明

取引先 URI の削除に失敗しました。

KDSR32020-I (S)

Usage:HSRSRegisterPartner -cf 取引先識別子ファイル名

説明

HSRSRegisterPartner コマンドの Usage メッセージです。

KDSR32021-I (S)

Usage:HSRSRemovePartner -cf 取引先識別子ファイル名

説明

HSRSRemovePartner コマンドの Usage メッセージです。

KDSR32022-I (S)

Usage:HSRSStartBusiness -cf 取引先識別子ファイル名

説明

HSRSStartBusiness コマンドの Usage メッセージです。

KDSR32023-I (S)

Usage:HSRSStopBusiness -cf 取引先識別子ファイル名

説明

HSRSStopBusiness コマンドの Usage メッセージです。

KDSR32024-I (S)

Usage:HSRSRegisterPartnerUri -cf 取引先 URI ファイル名

説明

HSRSRegisterPartnerUri コマンドの Usage メッセージです。

KDSR32025-I (S)

Usage:HSRSRemovePartnerUri -cf 取引先 URI ファイル名

説明

HSRSRemovePartnerUri コマンドの Usage メッセージです。

KDSR32026-I (S)

Usage:HSRSPutMessage -rid ドキュメント受信者識別子 -ft ドキュメント形式 -dt ドキュメント種別 [-ct ドキュメント圧縮形式] {-file ドキュメントファイル名 | -dir ドキュメントディレクトリ名} [-del {ON | OFF}]

説明

HSRSPutMessage コマンドの Usage メッセージです。

KDSR32027-I (S)

Usage:HSRSGetMessage [-sid ドキュメント送信者識別子] [-mid ドキュメント識別子] [-sd 開始日時] [-ed 終了日時]

説明

HSRSGetMessage コマンドの Usage メッセージです。

KDSR32028-I (S)

Usage:HSRSRemoveMessage [-sid ドキュメント送信者識別子] [-rid ドキュメント受信者識別子] [-mid ドキュメント識別子] [-sd 開始日時] [-ed 終了日時] [-force]

説明

HSRSRemoveMessage コマンドの Usage メッセージです。

KDSR32029-I (S)

Usage:HSRSCompleteMessage -mid ドキュメント識別子 -sid ドキュメント送信者識別子 -rid ドキュメント受信者識別子

説明

HSRSCompleteMessage コマンドの Usage メッセージです。

KDSR32030-I (S)

Usage:HSRSUncompleteMessage -mid ドキュメント識別子 -sid ドキュメント送信者識別子 -rid
ドキュメント受信者識別子

説明

HSRSUncompleteMessage コマンドの Usage メッセージです。

KDSR32031-I (S , T)

ビジネスメッセージの登録に成功しました。(ファイル名={0}, ドキュメント送信者識別子={1},
ドキュメント受信者識別子={2}, ドキュメント識別子={3})

{0}: ドキュメントファイル名

{1}: ドキュメント送信者識別子

{2}: ドキュメント受信者識別子

{3}: ドキュメント識別子

説明

ビジネスメッセージの登録に成功しました。

KDSR32032-I (S , T)

ビジネスメッセージの取得に成功しました。(ドキュメント送信者識別子={0}, ドキュメント受
信者識別子={1}, ドキュメント識別子={2})

{0}: ドキュメント送信者識別子

{1}: ドキュメント受信者識別子

{2}: ドキュメント識別子

説明

ビジネスメッセージの取得に成功しました。

KDSR32033-I (S , T)

ドキュメントファイルを削除できませんでした。(ファイル名={0})

{0}: ドキュメントファイル名

説明

ビジネスメッセージ送信処理に成功したあと、ドキュメントファイルを削除しよう
としましたが削除できませんでした。

KDSR32034-I (S , T)

取得できるビジネスメッセージが存在しません。

説明

取得できるビジネスメッセージが、データベースにありません。

KDSR32035-I (S , T)

ビジネスメッセージの削除に成功しました。(削除したビジネスメッセージの件数={0})

{0}: 削除したビジネスメッセージの件数

説明

ビジネスメッセージの削除に成功しました。

KDSR32036-I (S , T)

ビジネスメッセージのドキュメント状態変更に成功しました。(ドキュメント送信者識別子={0},
ドキュメント受信者識別子={1}, ドキュメント識別子={2})

{0}: ドキュメント送信者識別子

{1}: ドキュメント受信者識別子

{2}: ドキュメント識別子

説明

ビジネスメッセージのドキュメント状態変更に成功しました。

KDSR32037-I (T)

ドキュメントファイルを取得完了ディレクトリに出力します。(ファイル名={0})

{0}: ドキュメントファイル名

説明

ドキュメントファイルを取得完了ディレクトリに出力します。

KDSR32038-I (T)

ドキュメントファイルを取得失敗ディレクトリに出力します。(ファイル名={0})

{0}: ドキュメントファイル名

説明

ドキュメントファイルを取得失敗ディレクトリに出力します。

KDSR32039-I (T)

プロパティ情報 {0}={1}

{0}: プロパティ名

{1}: プロパティの値

説明

サーバ共通定義ファイルに定義されたプロパティの情報です。

KDSR32040-I (S , T)

削除できるビジネスメッセージが存在しません。

説明

10. メッセージ

削除できるビジネスメッセージが、データベースにありません。

付録

付録 A ビジネスメッセージのファイル出力形式

付録 B CSV ファイルのダウンロード形式

付録 C JP1 イベント連携

付録 D 用語解説

付録 A ビジネスメッセージのファイル出力形式

ここでは CMS Light サーバがビジネスメッセージ受信時に出力するドキュメントファイルの出力形式について説明します。

出力されたドキュメントファイルは、業務システムと連携させるなど運用に合わせて利用してください。

付録 A.1 ドキュメントファイルの出力先

ドキュメントファイルの出力先は、サーバ共通定義ファイルのドキュメントファイル出力定義で設定します。CMS Light サーバがビジネスメッセージの受信処理に成功した場合の出力先と、受信処理に失敗した場合の出力先の両方を設定してください。

サーバ共通定義ファイルの詳細については、「8.2 サーバ共通定義ファイル」を参照してください。

付録 A.2 ドキュメントファイルの名称

出力されるドキュメントファイルの名称は、CMS Light サーバによって次の規則に従って割り当てられます。ドキュメントファイルに拡張子はありません。

<受信日時>_<ドキュメント形式>_<ドキュメント種別>_<カウンタ>

- <受信日時>
YYYYMMDDhhmmss 形式です。各記号の意味を次に示します。
 - YYYY：年
 - MM：月
 - DD：日
 - hh：時
 - mm：分
 - ss：秒
- <ドキュメント形式>
ビジネスメッセージのドキュメント形式です。先頭から 20 文字を超えた部分は省略されます。
- <ドキュメント種別>
ビジネスメッセージのドキュメント種別です。先頭から 20 文字を超えた部分は省略されます。
- <カウンタ>
CMS Light サーバによって割り当てられる固有の番号です。

CMS Light サーバはドキュメントファイルの名称を割り当てるとき、各項目に次の値が

含まれる場合は "_" に置換します。

- 制御文字
- ファイル名に使用できない文字 (「¥」、「/」、「:」、「*」、「?」、「"」、「<」、「>」、「|」)
- Windows の予約デバイス名 (Windows の場合)

付録 B CSV ファイルのダウンロード形式

状況照会 GUI でのビジネスメッセージの検索結果を、CSV ファイルとしてダウンロードできます。例えば、データベースのスナップショットを取得し、バックエンドの業務システムで送受信されたビジネスメッセージの統計情報を管理したい場合に利用してください。

CSV ファイルは、状況照会 GUI のビジネスメッセージ一覧画面でダウンロードします。状況照会 GUI の画面操作については、「7. 状況照会 GUI」を参照してください。

付録 B.1 CSV ファイルの出力先

CSV ファイルの出力先を次に示します。

<出力先のディレクトリ>¥<出力日時>_MessageList.csv

- <出力先のディレクトリ>
出力先のディレクトリは任意です。ダウンロードするときに、ファイルの出力先を指定できます。
- <出力日時>
YYYYMMDDhhmmss 形式です。各記号の意味を次に示します。
 - YYYY：年
 - MM：月
 - DD：日
 - hh：時
 - mm：分
 - ss：秒

付録 B.2 CSV ファイルに出力される項目

状況照会 GUI のビジネスメッセージ一覧画面で参照できる項目が出力されます。このとき、一画面で参照できる情報だけではなく、全ページ分の情報が同じファイルに出力されます。なお、CSV ファイルで使用される文字コードは Windows-31J、改行コードは [CR]+[LF] です。

出力される各項目の出力形式を次に示します。

表 B-1 CSV ファイルに出力される項目と出力形式

| 項番 | 出力される項目 | 出力形式 |
|----|--------------|------------------|
| 1 | ドキュメント送信者識別子 | "<ドキュメント送信者識別子>" |

| 項番 | 出力される項目 | 出力形式 |
|----|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2 | ドキュメント受信者識別子 | "< ドキュメント受信者識別子 >" |
| 3 | ドキュメント識別子 | "< ドキュメント識別子 >" |
| 4 | ドキュメント形式 | "< ドキュメント形式 >" |
| 5 | ドキュメント種別 | "< ドキュメント種別 >" |
| 6 | ドキュメント圧縮形式 | "< ドキュメント圧縮形式 >" |
| 7 | ドキュメント状態 | 次のどちらかが出力されます。 <ul style="list-style-type: none"> • "未取得" • "取得済み" |
| 8 | 登録日時 | "YYYY/MM/DD hh:mm:ss" |
| 9 | 取得日時 | "YYYY/MM/DD hh:mm:ss" |

注 各記号の意味を次に示します。

- YYYY : 年
- MM : 月
- DD : 日
- hh : 時
- mm : 分
- ss : 秒

付録 B.3 CSV ファイルの出力例

CSV ファイルの出力例を次に示します。

付録B CSV ファイルのダウンロード形式

```
"C0000000000000001", "S0000000000000000", "20060418063642-4227063e2a664f4299b4440e07833adf@C000000000000001.com", "JEDICOS-XML", "Purchase Order", "", "取得済み", "2006/04/18 18:36:42", "2006/04/18 18:36:42"
"C0000000000000001", "S0000000000000000", "20060418063641-3b63fd70583a4752a6b2549356b36360@C000000000000001.com", "JEDICOS-XML", "Purchase Order", "", "取得済み", "2006/04/18 18:36:41", "2006/04/18 18:36:41"
"C0000000000000001", "S0000000000000000", "20060418063640-2eb74eff6dab4a02958b29083004a536@C000000000000001.com", "JEDICOS-XML", "Purchase Order", "", "取得済み", "2006/04/18 18:36:40", "2006/04/18 18:36:40"
"C0000000000000001", "S0000000000000000", "20060418063639-a74e5b07d8ae4febb39cef163a739b93@C000000000000001.com", "JEDICOS-XML", "Purchase Order", "", "取得済み", "2006/04/18 18:36:39", "2006/04/18 18:36:39"
"C0000000000000001", "S0000000000000000", "20060418063638-543e29267cb64e8ca62fd4216716ee33@C000000000000001.com", "JEDICOS-XML", "Purchase Order", "", "取得済み", "2006/04/18 18:36:38", "2006/04/18 18:36:38"
"C0000000000000001", "S0000000000000000", "20060418063637-f204e40783a342a6b63a236f2132598e@C000000000000001.com", "JEDICOS-XML", "Purchase Order", "", "取得済み", "2006/04/18 18:36:37", "2006/04/18 18:36:37"
"C0000000000000001", "S0000000000000000", "20060418063636-3e79481a35de4bae9ca8c489803bd021@C000000000000001.com", "JEDICOS-XML", "Purchase Order", "", "取得済み", "2006/04/18 18:36:36", "2006/04/18 18:36:36"
"C0000000000000001", "S0000000000000000", "20060418063635-db812d11a6bc40179768a6f1e5c6526b@C000000000000001.com", "JEDICOS-XML", "Purchase Order", "", "取得済み", "2006/04/18 18:36:35", "2006/04/18 18:36:35"
"C0000000000000001", "S0000000000000000", "20060418063634-6323131f5dd448df98e3c069599def18@C000000000000001.com", "JEDICOS-XML", "Purchase Order", "", "取得済み", "2006/04/18 18:36:35", "2006/04/18 18:36:35"
"C0000000000000001", "S0000000000000000", "20060418063631-61aada26d38c49f98d4e19abeb12ffc3@C000000000000001.com", "JEDICOS-XML", "Purchase Order", "", "取得済み", "2006/04/18 18:36:32", "2006/04/18 18:36:33"
```

付録 C JP1 イベント連携

システムの管理・運用に JP1 を使用する場合、CMS Light サーバは JP1 に、送受信したビジネスメッセージの情報を JP1 イベントとして通知します。JP1 イベント連携機能を使用すると、送受信したビジネスメッセージの情報を即時に確認できます。

JP1 を使用したシステムの管理・運用の詳細については、JP1 のマニュアルを参照してください。

付録 C.1 イベントの発行契機

CMS Light サーバが発行するイベントの発行契機を次に示します。

表 C-1 イベントの発行契機

| 項番 | イベント名称 | イベント発行契機 |
|----|----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | ビジネスメッセージ受信イベント | クライアント企業のシステムからビジネスメッセージを受信したときに発行されます。 |
| 2 | ドキュメントファイル出力イベント | クライアント企業のシステムからビジネスメッセージを受信したあと、ドキュメントファイルを出力したときに発行されます。 |
| 3 | ドキュメントファイル出力失敗イベント | クライアント企業のシステムからビジネスメッセージを受信したあと、ドキュメントファイルの出力が失敗したときに発行されます。 |
| 4 | ビジネスメッセージ送信要求イベント | クライアント企業のシステムからビジネスメッセージの送信要求を受け付けたときに発行されます。 |
| 5 | ビジネスメッセージ送信通知イベント | クライアント企業のシステムからビジネスメッセージの送信通知を受け付けたときに発行されます。 |
| 6 | ビジネスメッセージ登録イベント | HSRSPutMessage コマンドを実行し、クライアント企業のシステムに送信するビジネスメッセージをデータベースに登録したときに発行されます。 |
| 7 | ビジネスメッセージ取得イベント | HSRSGetMessage コマンドを実行し、クライアント企業から受信したビジネスメッセージのうち、"未取得" 状態のビジネスメッセージをデータベースから手動で取得したときに発行されます。 |
| 8 | ドキュメント状態変更（強制完了）イベント | HSRSCompleteMessage コマンドを実行し、データベースにあるビジネスメッセージのドキュメント状態を、"未取得" 状態から "取得済み" 状態に変更したときに発行されます。 |
| 9 | | 状況照会 GUI のビジネスメッセージ詳細画面で、データベースにあるビジネスメッセージのドキュメント状態を、"未取得" 状態から "取得済み" 状態に変更したときに発行されます。 |

| 項番 | イベント名称 | イベント発行契機 |
|----|------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 10 | ドキュメント状態変更(強制引き戻し)イベント | HSRSUncompleteMessage コマンドを実行し、データベースにあるビジネスメッセージのドキュメント状態を、"取得済み"状態から"未取得"状態に変更したときに発行されます。 |
| 11 | | 状況照会 GUI のビジネスメッセージ詳細画面で、データベースにあるビジネスメッセージのドキュメント状態を、"取得済み"状態から"未取得"状態に変更したときに発行されます。 |

付録 C.2 ビジネスメッセージ受信イベントの詳細

CMS Light サーバが発行するビジネスメッセージ受信イベントの詳細を次に示します。

表 C-2 ビジネスメッセージ受信イベントの詳細

| 項番 | 属性の種類 | 項目 | 属性名 | 通知内容 |
|----|------------------|-----------|------------------|-------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 基本属性 | イベント ID | - | 00000EF1 (ebxml.mssl.jp1event.PUTDOCUMENT.id プロパティに設定した値の 16 進数表記) |
| 2 | | メッセージ | - | ビジネスメッセージの受信 (PutDocument) を処理しました。 |
| 3 | 拡張属性 (共通情報) | 重大度 | SEVERITY | Information |
| 4 | | ユーザ名 | USER_NAME | サーバ識別子 |
| 5 | | プロダクト名 | PRODUCT_NAME | /HITACHI/COSMINEXUS/EBXML/MSSL |
| 6 | | オブジェクトタイプ | OBJECT_TYPE | JOB |
| 7 | | オブジェクト名 | OBJECT_NAME | PUTDOCUMENT |
| 8 | | 登録名タイプ | ROOT_OBJECT_TYPE | JOB |
| 9 | | 登録名 | ROOT_OBJECT_NAME | PUTDOCUMENT |
| 10 | | オブジェクト ID | OBJECT_ID | PUTDOCUMENT |
| 11 | | 事象種別 | OCCURRENCE | END |
| 12 | | 開始時刻 | START_TIME | 処理の開始時刻 (UTC 1970-01-01 00:00:00 からの秒数) |
| 13 | | 終了時刻 | END_TIME | 処理の終了時刻 (UTC 1970-01-01 00:00:00 からの秒数) |
| 14 | | 終了コード | RESULT_CODE | 0 |

| 項番 | 属性の種類別 | 項目 | 属性名 | 通知内容 |
|----|----------------|--------------|-----|------------------------------------------------------------------|
| 15 | 拡張属性 (固有情報) | 処理結果 | RS0 | 処理結果 true：ビジネスメッセージをデータベースに格納した場合 false：ビジネスメッセージを重複受信した場合 |
| 16 | | ドキュメント識別子 | IF0 | ビジネスメッセージのドキュメント識別子 |
| 17 | | ドキュメント送信者識別子 | IF1 | ビジネスメッセージのドキュメント送信者識別子 |
| 18 | | ドキュメント受信者識別子 | IF2 | ビジネスメッセージのドキュメント受信者識別子 |
| 19 | | ドキュメント形式 | IF3 | ビジネスメッセージのドキュメント形式 |
| 20 | | ドキュメント種別 | IF4 | ビジネスメッセージのドキュメント種別 |
| 21 | | ドキュメント圧縮形式 | IF5 | ビジネスメッセージのドキュメント圧縮形式 |

(凡例) - : なし

付録 C.3 ドキュメントファイル出力イベントの詳細

CMS Light サーバが発行するドキュメントファイル出力イベントの詳細を次に示します。

表 C-3 ドキュメントファイル出力イベントの詳細

| 項番 | 属性の種類別 | 項目 | 属性名 | 通知内容 |
|----|--------|---------|-----|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 基本属性 | イベント ID | - | 00000EF2 (ebxml.mssl.jp1event.RECEIVEO UTPUT.id プロパティに設定した値 の 16 進数表記) |
| 2 | | メッセージ | - | ドキュメントをファイル出力しました。 |

| 項番 | 属性の種類別 | 項目 | 属性名 | 通知内容 | |
|----|------------------|----------------|----------------------|--------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 3 | 拡張属性 (共通情報) | 重大度 | SEVERITY | Information | |
| 4 | | ユーザ名 | USER_NAME | サーバ識別子 | |
| 5 | | プロダクト名 | PRODUCT_NAME | /HITACHI/COSMINEXUS/ EBXML/MSSL | |
| 6 | | オブジェクト タイプ | OBJECT_TYPE | JOB | |
| 7 | | オブジェクト 名 | OBJECT_NAME | RECEIVEOUTPUT | |
| 8 | | 登録名タイプ | ROOT_OBJECT_ TYPE | JOB | |
| 9 | | 登録名 | ROOT_OBJECT_ NAME | RECEIVEOUTPUT | |
| 10 | | オブジェクト ID | OBJECT_ID | RECEIVEOUTPUT | |
| 11 | | 事象種別 | OCCURRENCE | END | |
| 12 | | 開始時刻 | START_TIME | 処理の開始時刻 (UTC 1970-01-01 00:00:00 からの秒数) | |
| 13 | | 終了時刻 | END_TIME | 処理の終了時刻 (UTC 1970-01-01 00:00:00 からの秒数) | |
| 14 | | 終了コード | RESULT_CODE | 0 | |
| 15 | | 拡張属性 (固有情報) | 処理結果 | RS0 | 処理結果 success : 取得完了ディレクトリにド キュメントファイルを出力した場合 failure : 取得失敗ディレクトリにド キュメントファイルを出力した場合 |
| 16 | | | ドキュメント ファイル名 | FL0 | ドキュメントファイル名 |
| 17 | ドキュメント 識別子 | | IF0 | ビジネスメッセージのドキュメント 識別子 | |
| 18 | ドキュメント 送信者識別子 | | IF1 | ビジネスメッセージのドキュメント 送信者識別子 | |
| 19 | ドキュメント 受信者識別子 | | IF2 | ビジネスメッセージのドキュメント 受信者識別子 | |
| 20 | ドキュメント 形式 | | IF3 | ビジネスメッセージのドキュメント 形式 | |
| 21 | ドキュメント 種別 | | IF4 | ビジネスメッセージのドキュメント 種別 | |
| 22 | ドキュメント 圧縮形式 | | IF5 | ビジネスメッセージのドキュメント 圧縮形式 | |

(凡例) - : なし

付録 C.4 ドキュメントファイル出力失敗イベントの詳細

CMS Light サーバが発行するドキュメントファイル出力失敗イベントの詳細を次に示します。

表 C-4 ドキュメントファイル出力失敗イベントの詳細

| 項番 | 属性の種類 | 項目 | 属性名 | 通知内容 |
|----|------------------|---------------|----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 基本属性 | イベント ID | - | 00000EF3 (ebxml.mssl.jp1event.RECEIVED UTPUT-ERROR.id プロパティに設 定した値の 16 進数表記) |
| 2 | | メッセージ | - | ドキュメントのファイル出力に失敗 しました。 |
| 3 | 拡張属性 (共通情報) | 重大度 | SEVERITY | Error |
| 4 | | ユーザ名 | USER_NAME | サーバ識別子 |
| 5 | | プロダクト名 | PRODUCT_NAME | /HITACHI/COSMINEXUS/ EBXML/MSSL |
| 6 | | オブジェクト タイプ | OBJECT_TYPE | JOB |
| 7 | | オブジェクト 名 | OBJECT_NAME | RECEIVEOUTPUT-ERROR |
| 8 | | 登録名タイプ | ROOT_OBJECT_ TYPE | JOB |
| 9 | | 登録名 | ROOT_OBJECT_ NAME | RECEIVEOUTPUT-ERROR |
| 10 | | オブジェクト ID | OBJECT_ID | RECEIVEOUTPUT-ERROR |
| 11 | | 事象種別 | OCCURRENCE | END |
| 12 | | 開始時刻 | START_TIME | 処理の開始時刻 (UTC 1970-01-01 00:00:00 からの秒数) |
| 13 | | 終了時刻 | END_TIME | 処理の終了時刻 (UTC 1970-01-01 00:00:00 からの秒数) |
| 14 | 終了コード | RESULT_CODE | -1 | |

| 項番 | 属性の種類別 | 項目 | 属性名 | 通知内容 |
|----|----------------|------------------|-----|----------------------------|
| 15 | 拡張属性 (固有情報) | ドキュメント 識別子 | IF0 | ビジネスメッセージのドキュメント 識別子 |
| 16 | | ドキュメント 送信者識別子 | IF1 | ビジネスメッセージのドキュメント 送信者識別子 |
| 17 | | ドキュメント 受信者識別子 | IF2 | ビジネスメッセージのドキュメント 受信者識別子 |
| 18 | | ドキュメント 形式 | IF3 | ビジネスメッセージのドキュメント 形式 |
| 19 | | ドキュメント 種別 | IF4 | ビジネスメッセージのドキュメント 種別 |
| 20 | | ドキュメント 圧縮形式 | IF5 | ビジネスメッセージのドキュメント 圧縮形式 |

(凡例) - : なし

付録 C.5 ビジネスメッセージ送信要求イベントの詳細

CMS Light サーバが発行するビジネスメッセージ送信要求イベントの詳細を次に示します。

表 C-5 ビジネスメッセージ送信要求イベントの詳細

| 項番 | 属性の種類別 | 項目 | 属性名 | 通知内容 |
|----|--------|---------|-----|-----------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 基本属性 | イベント ID | - | 00000EF4 (ebxml.mssl.jp1event.GETDOCUMENT.id プロパティに設定した値 の 16 進数表記) |
| 2 | | メッセージ | - | ビジネスメッセージの送信要求 (GetDocument) を処理しました。 |

| 項番 | 属性の種類別 | 項目 | 属性名 | 通知内容 |
|----|----------------|---------------|----------------------|--------------------------------------------|
| 3 | 拡張属性 (共通情報) | 重大度 | SEVERITY | Information |
| 4 | | ユーザ名 | USER_NAME | サーバ識別子 |
| 5 | | プロダクト名 | PRODUCT_NAME | /HITACHI/COSMINEXUS/ EBXML/MSSL |
| 6 | | オブジェクト タイプ | OBJECT_TYPE | JOB |
| 7 | | オブジェクト 名 | OBJECT_NAME | GETDOCUMENT |
| 8 | | 登録名タイプ | ROOT_OBJECT_ TYPE | JOB |
| 9 | | 登録名 | ROOT_OBJECT_ NAME | GETDOCUMENT |
| 10 | | オブジェクト ID | OBJECT_ID | GETDOCUMENT |
| 11 | | 事象種別 | OCCURRENCE | END |
| 12 | | 開始時刻 | START_TIME | 処理の開始時刻 (UTC 1970-01-01 00:00:00 からの秒数) |
| 13 | | 終了時刻 | END_TIME | 処理の終了時刻 (UTC 1970-01-01 00:00:00 からの秒数) |
| 14 | | 終了コード | RESULT_CODE | 0 |

| 項番 | 属性の種類別 | 項目 | 属性名 | 通知内容 |
|----|----------------|------------------|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| 15 | 拡張属性 (固有情報) | 処理結果 | RS0 | 処理結果 true : データベース内に送信できる ビジネスメッセージがある場合 false : データベース内に送信できる ビジネスメッセージがない場合 |
| 16 | | ドキュメント 識別子 | IF0 | ビジネスメッセージのドキュメント 識別子 処理結果が false の場合、空文字列 が設定されます。 |
| 17 | | ドキュメント 送信者識別子 | IF1 | ビジネスメッセージのドキュメント 送信者識別子 処理結果が false の場合、空文字列 が設定されます。 |
| 18 | | ドキュメント 受信者識別子 | IF2 | ビジネスメッセージのドキュメント 受信者識別子 |
| 19 | | ドキュメント 形式 | IF3 | ビジネスメッセージのドキュメント 形式 処理結果が false の場合、空文字列 が設定されます。 |
| 20 | | ドキュメント 種別 | IF4 | ビジネスメッセージのドキュメント 種別 処理結果が false の場合、空文字列 が設定されます。 |
| 21 | | ドキュメント 圧縮形式 | IF5 | ビジネスメッセージのドキュメント 圧縮形式 処理結果が false の場合、空文字列 が設定されます。 |

(凡例) - : なし

付録 C.6 ビジネスメッセージ送信通知イベントの詳細

CMS Light サーバが発行するビジネスメッセージ送信通知イベントの詳細を次に示します。

表 C-6 ビジネスメッセージ送信通知イベントの詳細

| 項番 | 属性の種類別 | 項目 | 属性名 | 通知内容 |
|----|--------|---------|-----|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 基本属性 | イベント ID | - | 00000EF5 (ebxml.mssl.jp1event.CONFIRM DOCUMENT.id プロパティに設定 した値の 16 進数表記) |
| 2 | | メッセージ | - | ビジネスメッセージの送信通知 (ConfirmDocument) を処理しまし た。 |

| 項番 | 属性の種類別 | 項目 | 属性名 | 通知内容 | |
|----|------------------|----------------|----------------------|--------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 3 | 拡張属性 (共通情報) | 重大度 | SEVERITY | Information | |
| 4 | | ユーザ名 | USER_NAME | サーバ識別子 | |
| 5 | | プロダクト名 | PRODUCT_NAME | /HITACHI/COSMINEXUS/ EBXML/MSSL | |
| 6 | | オブジェクト タイプ | OBJECT_TYPE | JOB | |
| 7 | | オブジェクト 名 | OBJECT_NAME | CONFIRMDOCUMENT | |
| 8 | | 登録名タイプ | ROOT_OBJECT_ TYPE | JOB | |
| 9 | | 登録名 | ROOT_OBJECT_ NAME | CONFIRMDOCUMENT | |
| 10 | | オブジェクト ID | OBJECT_ID | CONFIRMDOCUMENT | |
| 11 | | 事象種別 | OCCURRENCE | END | |
| 12 | | 開始時刻 | START_TIME | 処理の開始時刻 (UTC 1970-01-01 00:00:00 からの秒数) | |
| 13 | | 終了時刻 | END_TIME | 処理の終了時刻 (UTC 1970-01-01 00:00:00 からの秒数) | |
| 14 | | 終了コード | RESULT_CODE | 0 | |
| 15 | | 拡張属性 (固有情報) | 処理結果 | RS0 | 処理結果 true : ビジネスメッセージのドキュ メント状態を, "未取得" 状態から " 取得済み" 状態に変更した場合 false : ビジネスメッセージのドキュ メント状態がすでに "取得済み" 状 態の場合 |
| 16 | | | ドキュメント 識別子 | IF0 | ビジネスメッセージのドキュメント 識別子 |
| 17 | ドキュメント 送信者識別子 | | IF1 | ビジネスメッセージのドキュメント 送信者識別子 | |
| 18 | ドキュメント 受信者識別子 | | IF5 | ビジネスメッセージのドキュメント 受信者識別子 | |

(凡例) - : なし

付録 C.7 ビジネスメッセージ登録イベントの詳細

CMS Light サーバが発行するビジネスメッセージ登録イベントの詳細を次に示します。

表 C-7 ビジネスメッセージ登録イベントの詳細

| 項番 | 属性の種類別 | 項目 | 属性名 | 通知内容 |
|----|------------------|------------------|----------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 基本属性 | イベント ID | - | 00000EF6 (ebxml.mssl.jp1event.PUTMESS AGE.id プロパティに設定した値の 16 進数表記) |
| 2 | | メッセージ | - | ビジネスメッセージを登録しまし た。 |
| 3 | 拡張属性 (共通情報) | 重大度 | SEVERITY | Information |
| 4 | | ユーザ名 | USER_NAME | サーバ識別子 |
| 5 | | プロダクト名 | PRODUCT_NAM E | /HITACHI/COSMINEXUS/ EBXML/MSSL |
| 6 | | オブジェクト タイプ | OBJECT_TYPE | JOB |
| 7 | | オブジェクト 名 | OBJECT_NAME | PUTMESSAGE |
| 8 | | 登録名タイプ | ROOT_OBJECT_ TYPE | JOB |
| 9 | | 登録名 | ROOT_OBJECT_ NAME | PUTMESSAGE |
| 10 | | オブジェクト ID | OBJECT_ID | PUTMESSAGE |
| 11 | | 事象種別 | OCCURRENCE | END |
| 12 | | 開始時刻 | START_TIME | 処理の開始時刻 (UTC 1970-01-01 00:00:00 からの秒数) |
| 13 | 終了時刻 | END_TIME | 処理の終了時刻 (UTC 1970-01-01 00:00:00 からの秒数) | |
| 14 | 終了コード | RESULT_CODE | 0 | |
| 15 | 拡張属性 (固有情報) | ドキュメント ファイル名 | FL0 | ドキュメントファイル名 |
| 16 | | ドキュメント 識別子 | IF0 | ビジネスメッセージのドキュメント 識別子 |
| 17 | | ドキュメント 送信者識別子 | IF1 | ビジネスメッセージのドキュメント 送信者識別子 |
| 18 | | ドキュメント 受信者識別子 | IF2 | ビジネスメッセージのドキュメント 受信者識別子 |
| 19 | | ドキュメント 形式 | IF3 | ビジネスメッセージのドキュメント 形式 |
| 20 | | ドキュメント 種別 | IF4 | ビジネスメッセージのドキュメント 種別 |
| 21 | | ドキュメント 圧縮形式 | IF5 | ビジネスメッセージのドキュメント 圧縮形式 |

(凡例) - : なし

付録 C.8 ビジネスメッセージ取得イベントの詳細

CMS Light サーバが発行するビジネスメッセージ取得イベントの詳細を次に示します。

表 C-8 ビジネスメッセージ取得イベントの詳細

| 項番 | 属性の種類別 | 項目 | 属性名 | 通知内容 |
|----|------------------|---------------|----------------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 基本属性 | イベント ID | - | 00000EF7 (ebxml.mssl.jp1event.GETMESS AGE.id プロパティに設定した値の 16 進数表記) |
| 2 | | メッセージ | - | ビジネスメッセージを取得しまし た。 |
| 3 | 拡張属性 (共通情報) | 重大度 | SEVERITY | Information |
| 4 | | ユーザ名 | USER_NAME | サーバ識別子 |
| 5 | | プロダクト名 | PRODUCT_NAM E | /HITACHI/COSMINEXUS/ EBXML/MSSL |
| 6 | | オブジェクト タイプ | OBJECT_TYPE | JOB |
| 7 | | オブジェクト 名 | OBJECT_NAME | GETMESSAGE |
| 8 | | 登録名タイプ | ROOT_OBJECT_ TYPE | JOB |
| 9 | | 登録名 | ROOT_OBJECT_ NAME | GETMESSAGE |
| 10 | | オブジェクト ID | OBJECT_ID | GETMESSAGE |
| 11 | | 事象種別 | OCCURRENCE | END |
| 12 | | 開始時刻 | START_TIME | 処理の開始時刻 (UTC 1970-01-01 00:00:00 からの秒数) |
| 13 | | 終了時刻 | END_TIME | 処理の終了時刻 (UTC 1970-01-01 00:00:00 からの秒数) |
| 14 | | 終了コード | RESULT_CODE | 0 |

| 項番 | 属性の種類別 | 項目 | 属性名 | 通知内容 |
|----|----------------|------------------|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 15 | 拡張属性 (固有情報) | 処理結果 | RS0 | 処理結果 success：取得完了ディレクトリにドキュメントファイルを出力した場合 failure：取得失敗ディレクトリにドキュメントファイルを出力した場合 |
| 16 | | ドキュメント ファイル名 | FL0 | ドキュメントファイル名 処理結果が success の場合、取得完了ディレクトリのドキュメントファイル名が設定されます。 処理結果が failure の場合、取得失敗ディレクトリのドキュメントファイル名が設定されます。 |
| 17 | | ドキュメント 識別子 | IF0 | ビジネスメッセージのドキュメント 識別子 |
| 18 | | ドキュメント 送信者識別子 | IF1 | ビジネスメッセージのドキュメント 送信者識別子 |
| 19 | | ドキュメント 受信者識別子 | IF2 | ビジネスメッセージのドキュメント 受信者識別子 |
| 20 | | ドキュメント 形式 | IF3 | ビジネスメッセージのドキュメント 形式 |
| 21 | | ドキュメント 種別 | IF4 | ビジネスメッセージのドキュメント 種別 |
| 22 | | ドキュメント 圧縮形式 | IF5 | ビジネスメッセージのドキュメント 圧縮形式 |

(凡例) - : なし

付録 C.9 ドキュメント状態変更 (強制完了) イベントの詳細

CMS Light サーバが発行するドキュメント状態変更 (強制完了) イベントの詳細を次に示します。

表 C-9 ドキュメント状態変更 (強制完了) イベントの詳細

| 項番 | 属性の種類別 | 項目 | 属性名 | 通知内容 |
|----|--------|---------|-----|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 基本属性 | イベント ID | - | 00000EF8 (ebxml.mssl.jp1event.COMPLET EMESSAGE.id プロパティに設定し た値の 16 進数表記) |
| 2 | | メッセージ | - | ドキュメント状態を変更 (強制完 了) しました。 |

| 項番 | 属性の種類 | 項目 | 属性名 | 通知内容 | |
|----|------------------|----------------|----------------------|--------------------------------------------|----------------------------|
| 3 | 拡張属性 (共通情報) | 重大度 | SEVERITY | Information | |
| 4 | | ユーザ名 | USER_NAME | サーバ識別子 | |
| 5 | | プロダクト名 | PRODUCT_NAME | /HITACHI/COSMINEXUS/ EBXML/MSSL | |
| 6 | | オブジェクト タイプ | OBJECT_TYPE | JOB | |
| 7 | | オブジェクト 名 | OBJECT_NAME | COMPLETEMESAGE | |
| 8 | | 登録名タイプ | ROOT_OBJECT_ TYPE | JOB | |
| 9 | | 登録名 | ROOT_OBJECT_ NAME | COMPLETEMESAGE | |
| 10 | | オブジェクト ID | OBJECT_ID | COMPLETEMESAGE | |
| 11 | | 事象種別 | OCCURRENCE | END | |
| 12 | | 開始時刻 | START_TIME | 処理の開始時刻 (UTC 1970-01-01 00:00:00 からの秒数) | |
| 13 | | 終了時刻 | END_TIME | 処理の終了時刻 (UTC 1970-01-01 00:00:00 からの秒数) | |
| 14 | | 終了コード | RESULT_CODE | 0 | |
| 15 | | 拡張属性 (固有情報) | ドキュメント 識別子 | IF0 | ビジネスメッセージのドキュメント 識別子 |
| 16 | | | ドキュメント 送信者識別子 | IF1 | ビジネスメッセージのドキュメント 送信者識別子 |
| 17 | ドキュメント 受信者識別子 | | IF2 | ビジネスメッセージのドキュメント 受信者識別子 | |

(凡例) - : なし

付録 C.10 ドキュメント状態変更 (強制引き戻し) イベントの詳細

CMS Light サーバが発行するドキュメント状態変更 (強制引き戻し) イベントの詳細を次に示します。

表 C-10 ドキュメント状態変更（強制引き戻し）イベントの詳細

| 項番 | 属性の種類別 | 項目 | 属性名 | 通知内容 |
|----|------------------|------------------|---------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 基本属性 | イベント ID | - | 00000EF9 (ebxml.mssl.jp1event.UNCOMPL ETEMESSAGE.id プロパティに設 定した値の 16 進数表記) |
| 2 | | メッセージ | - | ドキュメント状態を変更（強制引き 戻し）しました。 |
| 3 | 拡張属性 (共通情報) | 重大度 | SEVERITY | Information |
| 4 | | ユーザ名 | USER_NAME | サーバ識別子 |
| 5 | | プロダクト名 | PRODUCT_NAME | /HITACHI/COSMINEXUS/ EBXML/MSSL |
| 6 | | オブジェクト タイプ | OBJECT_TYPE | JOB |
| 7 | | オブジェクト 名 | OBJECT_NAME | UNCOMPLETEMESSEGE |
| 8 | | 登録名タイプ | ROOT_OBJECT_ TYPE | JOB |
| 9 | | 登録名 | ROOT_OBJECT_ NAME | UNCOMPLETEMESSEGE |
| 10 | | オブジェクト ID | OBJECT_ID | UNCOMPLETEMESSEGE |
| 11 | | 事象種別 | OCCURRENCE | END |
| 12 | | 開始時刻 | START_TIME | 処理の開始時刻（ UTC 1970-01-01 00:00:00 からの秒数 ） |
| 13 | 終了時刻 | END_TIME | 処理の終了時刻（ UTC 1970-01-01 00:00:00 からの秒数 ） | |
| 14 | 終了コード | RESULT_CODE | 0 | |
| 15 | 拡張属性 (固有情報) | ドキュメント 識別子 | IF0 | ビジネスメッセージのドキュメント 識別子 |
| 16 | | ドキュメント 送信者識別子 | IF1 | ビジネスメッセージのドキュメント 送信者識別子 |
| 17 | | ドキュメント 受信者識別子 | IF2 | ビジネスメッセージのドキュメント 受信者識別子 |

(凡例) - : なし

付録 D 用語解説

(英字)

C-S-C 型メッセージ交換手順

C-S 型メッセージ交換手順を組み合わせて、クライアント企業間でビジネスメッセージを送受信する場合のメッセージ交換手順です。

ビジネスメッセージを送信する企業が C-S 型メッセージ交換手順でサーバを運用していて、別企業が C-S 型メッセージ交換手順でサーバにアクセスするようなモデルで使用されます。

C-S-S 型メッセージ交換手順

S-S 型メッセージ交換手順と C-S 型メッセージ交換手順とを組み合わせる場合のメッセージ交換手順です。

S-S 型メッセージ交換手順でのサーバを大手小売企業（サーバ企業）が代行して、クライアント企業からは C-S 型メッセージ交換手順でサーバにアクセスするようなモデルで使用されます。

C-S 型メッセージ交換手順

財団法人流通システム開発センターが開発するクライアント・サーバ間のメッセージ交換手順です。流通業界での EDI の標準規格である JEDICOS-XML で制定されています。

大手小売企業（サーバ企業）が提供するプル型サーバにクライアント企業が接続して、データのアップロード、ダウンロードをするようなモデルで使用されます。

HTTP ベーシック認証

ユーザー ID およびパスワードを平文で送信して認証させる、HTTP プロトコルでの最も簡易な認証方式です。

INBOX

クライアント企業と送受信したビジネスメッセージ、および SOAP メッセージの属性が記録されているデータベースです。なお、C-S 型メッセージ交換手順では INBOX はデータベースと限定しないで、単にビジネスメッセージや SOAP メッセージの属性の記録先を示す用語として使用されています。

JEDICOS-XML

財団法人流通システム開発センターが制定した XML-EDI 標準です。国内の流通業界向けの EDI 標準である JEDICOS をベースに、国際標準である UN/EDIFACT に準拠して、かつ日本独自の商習慣に対応するように制定されています。

S-S 型メッセージ交換手順

財団法人流通システム開発センターが開発するサーバ・サーバ間のメッセージ交換手順です。プッシュ型サーバとプッシュ型サーバの間で常時接続して自動的にデータ通信をします。

サーバ企業同士が接続して、大規模な取引をするようなモデルで使用されます。

SOAP Fault メッセージ

SOAP メッセージの処理中に発生したエラーを記述するための SOAP メッセージです。

SOAP エンベロープ

SOAP メッセージの要素です。メッセージのいちばん外側の要素で、SOAP ヘッダと SOAP ボディという子要素を持ちます。

SOAP ヘッダ

SOAP メッセージの要素です。SOAP ヘッダでは、メッセージ処理のあて先の指定、およびメッセージ処理が必須かどうかを指定します。

SOAP ボディ

SOAP メッセージの要素です。SOAP ボディに送信するメッセージの内容を記述します。

SOAP メッセージ

SOAP プロトコルでオブジェクト間の送受信に使用するメッセージです。SOAP メッセージは、SOAP エンベロープ、SOAP ヘッダ、および SOAP ボディという要素で構成されます。

uCosminexus Message Service Server Light for ebXML (CMS Light サーバ)

uCosminexus Message Service Server Light for ebXML (CMS Light サーバ) は、C-S 型メッセージ交換手順に準拠した電子商取引をするために、サーバ企業が導入する製品です。ビジネスメッセージの送受信、ビジネスメッセージの管理、クライアント企業の情報管理などの機能を提供します。

UTF-8

Unicode の文字を表現する文字エンコーディングの一つです。8bit 単位の情報の組み合わせで文字を表記します。

(ア行)

暗号化通信

証明書および公開鍵暗号技術に基づいて、通信を暗号化してデータを送信する技術です。暗号化通信の認証方法には、サーバ認証とクライアント認証があります。

(サ行)

状況照会 GUI

状況照会アプリケーションが提供する、Web 画面インターフェースです。

状況照会アプリケーション

CMS Light サーバが提供する、状況照会を実行する J2EE アプリケーションです。

(タ行)

ドキュメント

ビジネスメッセージに添付される、取引データです。ユーザーは添付したいドキュメント形式を選

択できます。

ドキュメント状態

ビジネスメッセージの状態です。ビジネスメッセージの状態には "未取得" および "取得済み" があります。

取引先状態

取引先の状態です。取引先の状態には "取引中" および "取引停止" があります。

(八行)

ビジネスメッセージ

CMS Light サーバがクライアント企業のシステムと送受信する SOAP 形式のメッセージのことです。C-S 型メッセージ交換手順では、業務に必要なドキュメントをビジネスメッセージの添付ファイルとして送受信します。

ビジネスメッセージ送受信アプリケーション

CMS Light サーバが提供するビジネスメッセージの送受信を実行する J2EE アプリケーションです。

ビジネスメッセージ保持期間

CMS Light サーバでビジネスメッセージが保持される期間です。データの重複受信を防止するために、サーバ企業は受信データを一定期間保持しておくことが義務づけられています。

プッシュ型サーバ

サーバ側を起点としたデータ送信を行うサーバです。送信データが作成された時点で複数のシステムにデータ送信できます。

プル型サーバ

クライアント側を起点としたデータ送信を行うサーバです。クライアントからサーバへ接続することで処理が開始されます。クライアントは、定期的にサーバへアクセスして、データを取得する必要があります。

索引

C

C-S-C 型メッセージ交換手順〔用語解説〕 233
C-S-S 型メッセージ交換手順〔用語解説〕 233
C-S 型メッセージ交換手順〔用語解説〕 233
C-S 型メッセージ交換手順に準拠した電子商取引の概要 2
C-S 型メッセージ交換手順の特長 3
CMS Light サーバ 2
CMS Light サーバのエンドポイント 16
CMS Light サーバの環境設定 26
CMS Light サーバの機能 5
CMS Light サーバのシステムの識別子・URI 15
CMS Light サーバの目的 4
CMS Light サーバのログ 83
Cosminexus DABroker Library の環境設定 42
criticalList.cfg〔uCosminexus Application Server〕 41
CSV ファイルダウンロード 94
CSV ファイルに出力される項目 216
CSV ファイルの出力先 216
CSV ファイルの出力例 217
CSV ファイルのダウンロード形式 216

D

DABroker 動作環境設定 42
DB Connector の環境設定 46

E

ebxml.mssl.app.error.log.count 115
ebxml.mssl.app.error.log.path 115
ebxml.mssl.app.error.log.size 115
ebxml.mssl.app.message.log.count 113
ebxml.mssl.app.message.log.level 113
ebxml.mssl.app.message.log.path 113
ebxml.mssl.app.message.log.size 113

ebxml.mssl.app.trace.log.count 114
ebxml.mssl.app.trace.log.level 114
ebxml.mssl.app.trace.log.path 114
ebxml.mssl.app.trace.log.size 114
ebxml.mssl.cmd.db.jdbc.driver 119
ebxml.mssl.cmd.db.password 118
ebxml.mssl.cmd.db.url 119
ebxml.mssl.cmd.db.user 118
ebxml.mssl.cmd.error.log.count 119
ebxml.mssl.cmd.error.log.path 119
ebxml.mssl.cmd.error.log.size 119
ebxml.mssl.cmd.trace.log.count 119
ebxml.mssl.cmd.trace.log.level 119
ebxml.mssl.cmd.trace.log.path 119
ebxml.mssl.cmd.trace.log.size 119
ebxml.mssl.gui.admin.loginid 116
ebxml.mssl.gui.admin.password 116
ebxml.mssl.gui.error.log.count 117
ebxml.mssl.gui.error.log.path 117
ebxml.mssl.gui.error.log.size 117
ebxml.mssl.gui.trace.log.count 117
ebxml.mssl.gui.trace.log.level 117
ebxml.mssl.gui.trace.log.path 117
ebxml.mssl.gui.trace.log.size 117
ebxml.mssl.gui.view.linenum 117
ebxml.mssl.jp1event.app.CONFIRMDOCUMENT 121
ebxml.mssl.jp1event.app.GETDOCUMENT 121
ebxml.mssl.jp1event.app.PUTDOCUMENT 121
ebxml.mssl.jp1event.app.RECEIVEOUTPUT 121
ebxml.mssl.jp1event.app.RECEIVEOUTPUT-ERROR 121
ebxml.mssl.jp1event.cmd.COMPLETEMESAGE 122
ebxml.mssl.jp1event.cmd.GETMESSAGE 122
ebxml.mssl.jp1event.cmd.PUTMESSAGE 121

ebxml.mssl.jp1event.cmd.UNCOMPLETE
 MESSAGE 122
 ebxml.mssl.jp1event.COMPLETEMESSAG
 E.id 122
 ebxml.mssl.jp1event.CONFIRMDOCUME
 NT.id 122
 ebxml.mssl.jp1event.GETDOCUMENT.id
 122
 ebxml.mssl.jp1event.GETMESSAGE.id
 122
 ebxml.mssl.jp1event.gui.COMPLETEMES
 SAGE 121
 ebxml.mssl.jp1event.gui.UNCOMPLETEM
 ESSAGE 121
 ebxml.mssl.jp1event.PUTDOCUMENT.id
 122
 ebxml.mssl.jp1event.PUTMESSAGE.id
 122
 ebxml.mssl.jp1event.RECEIVEOUTPUT-
 ERROR.id 122
 ebxml.mssl.jp1event.RECEIVEOUTPUT.id
 122
 ebxml.mssl.jp1event.UNCOMPLETEMESS
 AGE.id 123
 ebxml.mssl.receive.output.failure.path 112
 ebxml.mssl.receive.output.success.path 112
 ebxml.mssl.server.id 111
 ebxml.mssl.server.persist.duration 111
 ebxml.mssl.server.uri 111
 ebxml.mssl.size.document.data 116

H

HiRDB の環境設定 23
 HiRDB のクライアント環境変数の設定 42
 HiRDB のログ 84
 Hitachi Web Server の環境設定 36
 Hitachi Web Server 用定義ファイル 36
 Hitachi Web Server 用リダイレクタ動作定義
 ファイル 37
 HSRSSapp.ear〔ビジネスメッセージ送受信
 アプリケーション〕59
 HSRSCompleteMessage〔コマンド〕134
 HSRSGetMessage〔コマンド〕135

HSRSSgui.ear〔状況照会アプリケーション〕
 59
 HSRSPutMessage〔コマンド〕137
 HSRSRegisterPartner〔コマンド〕140
 HSRSRegisterPartnerUri〔コマンド〕141
 HSRSRemoveMessage〔コマンド〕142
 HSRSRemovePartner〔コマンド〕145
 HSRSRemovePartnerUri〔コマンド〕146
 HSRSSStartBusiness〔コマンド〕147
 HSRSSStopBusiness〔コマンド〕148
 HSRSUncompleteMessage〔コマンド〕149
 httpsd.conf〔Hitachi Web Server〕36
 HTTP ベーシック認証〔用語解説〕233

I

INBOX 2
 INBOX〔用語解説〕233

J

J2EE アプリケーションのデブロイ 58
 J2EE サーバの起動 45
 J2EE サーバのセットアップ 38
 J2EE サーバの停止 62
 J2EE サーバ用オプション定義ファイル 39
 J2EE サーバ用セキュリティポリシーファイ
 ル 41
 J2EE サーバ用ユーザープロパティファイル
 39
 JEDICOS〔ドキュメント形式〕17
 JEDICOS-XML〔ドキュメント形式〕17
 JEDICOS-XML〔用語解説〕233
 J Protocol〔ドキュメント形式〕17

M

mod_jk.conf〔Hitachi Web Server〕37
 Mutuality defined〔ドキュメント形式〕18

S

S-S 型メッセージ交換手順〔用語解説〕233
 SecondGenEDI〔ドキュメント形式〕17

server.policy [uCosminexus Application Server] 41
 SOAP Fault メッセージ [用語解説] 233
 SOAP エンベロープ [用語解説] 234
 SOAP 通信基盤の動作モード設定 45
 SOAP ヘッダ [用語解説] 234
 SOAP ボディ [用語解説] 234
 SOAP メッセージ [用語解説] 234

U

uCosminexus Application Server の環境設定 35
 uCosminexus Application Server の定義ファイルの編集 38
 uCosminexus Application Server のログ 84
 uCosminexus Message Service Server Light for ebXML(CMS Light サーバ) [用語解説] 234
 UNIX のシステムログ 84
 URL [状況照会 GUI] 96
 usrconf.cfg [uCosminexus Application Server] 39
 usrconf.properties [uCosminexus Application Server] 39
 UTF-8 [用語解説] 234

W

Windows イベントログ 84

あ

暗号化通信 [用語解説] 234

い

インストールディレクトリ 26

う

運用の流れ 66

え

エラーログ 83

エラーログ出力定義 [サーバ共通定義ファイル] 115
 エンドポイント 16

お

オプション 130
 主な障害と対処 87

か

環境変数の設定 33
 関連ソフトウェア 10

き

起動と終了 68

く

クライアント企業 2
 クライアント企業から送受信に関する障害連絡があった場合 89
 クライアント企業に通知する項目 15
 クライアント企業のシステムの識別子・URI 15
 クライアント企業の情報の管理 [ユーザーの操作] 75
 クライアント企業の情報の保存 [システムの処理] 8
 クライアント企業の情報を削除する 77
 クライアント企業の情報を登録する 76
 クライアント企業の取引先状態を変更する 77

け

形式 [コマンド] 130
 形式 [サーバ共通定義ファイル] 109
 形式 [取引先 URI ファイル] 125
 形式 [取引先識別子ファイル] 124
 検索 [ビジネスメッセージ] 98

こ

交換するドキュメントの最大長 14

構築の概要 22
 コマンド 66
 コマンド一覧 128
 コマンド実行時の権限 132
 コマンド実行時の注意事項 132
 コマンド処理を中断する方法 132
 コマンド定義〔サーバ共通定義ファイル〕
 118
 コマンドの詳細 134
 コマンドの説明で使用する見出し 129
 コマンド名称 130
 コマンドを使用する前に 129

さ

サーバ URI 15
 サーバ企業 2
 サーバ共通定義ファイル 109
 サーバ共通定義ファイルの概要 109
 サーバ共通定義ファイルの作成 29
 サーバ共通定義ファイルの設定例 29
 サーバ識別子 15
 サーバ定義〔サーバ共通定義ファイル〕 111
 サイズ定義〔サーバ共通定義ファイル〕 115
 削除〔クライアント企業の情報〕 77
 削除〔ビジネスメッセージ〕 72
 削除対象でないビジネスメッセージの削除方法 73
 削除対象となるビジネスメッセージ 72

し

システム構成例 12
 システムに必要なサーバ 11
 システムの起動 68
 システムの識別子・URI 15
 システムの終了 68
 受信の流れ〔システムの処理〕 6
 取得完了ディレクトリ 6
 取得失敗ディレクトリ 90
 障害が発生したときの手順 82
 状況照会 GUI 66
 状況照会 GUI〔用語解説〕 234

状況照会 GUI 定義〔サーバ共通定義ファイル〕 116
 状況照会 GUI でできること 94
 状況照会アプリケーション 59
 状況照会アプリケーション〔用語解説〕 234

せ

セキュリティ通信 8
 セキュリティ通信の設定 19
 前提ソフトウェア 10
 前提ソフトウェアのログ 84

そ

送受信処理が完了したビジネスメッセージを
 削除する 72
 送信の流れ〔システムの処理〕 7
 ソフトウェア条件 10

つ

通信ログ 83
 通信ログ出力定義〔サーバ共通定義ファイル〕 112

て

定義する項目〔サーバ共通定義ファイル〕
 110
 定義ファイル一覧 108
 定義例〔エラーログ出力定義〕 115
 定義例〔コマンド定義〕 120
 定義例〔サーバ定義〕 111
 定義例〔サイズ定義〕 116
 定義例〔状況照会 GUI 定義〕 117
 定義例〔通信ログ出力定義〕 113
 定義例〔ドキュメントファイル出力定義〕
 112
 定義例〔取引先 URI ファイル〕 125
 定義例〔取引先識別子ファイル〕 124
 定義例〔トレースログ出力定義〕 114
 ディレクトリ構成 26
 データベースサーバの容量の見積もり 14
 データベース接続数の計算 23

データベースとマスターファイルとの間で不整合が発生した場合 79
 データベースに蓄積されるビジネスメッセージの最大数 14
 データベースのエラーコードと HiRDB のメッセージ ID との関係 153
 テーブルの作成 25

と

同時に実行できないコマンドの組み合わせ 132
 同時に送受信するビジネスメッセージの最大数 14
 登録〔クライアント企業の情報〕 76
 登録〔ビジネスメッセージ〕 70
 ドキュメント〔用語解説〕 234
 ドキュメント圧縮形式 18
 ドキュメント形式とドキュメント種別 17
 ドキュメント状態 71
 ドキュメント状態〔用語解説〕 235
 ドキュメント状態変更(強制完了)〔コマンド〕 134
 ドキュメント状態変更(強制引き戻し)〔コマンド〕 149
 ドキュメントの最大ファイルサイズ 19
 ドキュメントファイル出力定義〔サーバ共通定義ファイル〕 111
 ドキュメントファイルの出力先 214
 ドキュメントファイルの名称 214
 取引先 URI 15
 取引先 URI 削除〔コマンド〕 146
 取引先 URI 登録〔コマンド〕 141
 取引先 URI ファイル 125
 取引先識別子 15
 取引先識別子削除〔コマンド〕 145
 取引先識別子登録〔コマンド〕 140
 取引先識別子ファイル 124
 取引先状態 75
 取引先状態〔用語解説〕 235
 取引先状態変更(取引開始)〔コマンド〕 147
 取引先状態変更(取引停止)〔コマンド〕 148
 取引するクライアント企業の数 14
 取引の開始 77

取引の停止 78
 トレースログ 83
 トレースログ出力定義〔サーバ共通定義ファイル〕 114

ひ

ビジネスメッセージ〔用語解説〕 235
 ビジネスメッセージ一覧画面〔状況照会 GUI〕 102
 ビジネスメッセージ検索画面〔状況照会 GUI〕 98
 ビジネスメッセージ削除〔コマンド〕 142
 ビジネスメッセージ取得〔コマンド〕 135
 ビジネスメッセージ詳細画面〔状況照会 GUI〕 105
 ビジネスメッセージ送受信アプリケーション 59
 ビジネスメッセージ送受信アプリケーション〔用語解説〕 235
 ビジネスメッセージ登録〔コマンド〕 137
 ビジネスメッセージとは 5
 ビジネスメッセージに添付するドキュメントの交換形式 16
 ビジネスメッセージの管理〔システムの処理〕 7
 ビジネスメッセージの検索〔ユーザーの操作〕 94
 ビジネスメッセージの削除〔ユーザーの操作〕 72
 ビジネスメッセージの受信〔システムの処理〕 5
 ビジネスメッセージの受信結果を確認する 74
 ビジネスメッセージの受信処理に失敗した場合 90
 ビジネスメッセージの送信〔システムの処理〕 6
 ビジネスメッセージの送信結果を確認する 73
 ビジネスメッセージの登録〔ユーザーの操作〕 70
 ビジネスメッセージのドキュメント状態変更〔ユーザーの操作〕 94

ビジネスメッセージのファイル出力形式 214
ビジネスメッセージの保守〔ユーザーの操作〕 71
ビジネスメッセージ保持期間 16
ビジネスメッセージ保持期間〔用語解説〕 235

ふ

ファイルの格納先〔サーバ共通定義ファイル〕 109
ファイルの格納先〔取引先 URI ファイル〕 125
ファイルの格納先〔取引先識別子ファイル〕 124
プッシュ型サーバ〔用語解説〕 235
プル型サーバ 2
プル型サーバ〔用語解説〕 235
プロパティ〔エラーログ出力定義〕 115
プロパティ〔コマンド定義〕 118
プロパティ〔サーバ定義〕 111
プロパティ〔サイズ定義〕 116
プロパティ〔状況照会 GUI 定義〕 116
プロパティ〔通信ログ出力定義〕 113
プロパティ〔ドキュメントファイル出力定義〕 112
プロパティ〔トレースログ出力定義〕 114

へ

変更〔ドキュメント状態〕 73
変更〔取引先状態〕 77

ほ

保護区リストファイル 41

ま

マスターファイルを作成, 更新する 78

め

メッセージ ID の形式 152
メッセージの概要 152
メッセージの出力先 152

メッセージの説明で使用する見出し 152

ゆ

ユーザー用 RD エリアの生成 23

れ

レコード件数の計算 23

ろ

ログアウト〔状況照会 GUI〕 96
ログイン〔状況照会 GUI〕 96
ログイン画面 96
ログの出力形式 84
ログファイルの採取 83
ログファイルの種類 83

ソフトウェアマニュアルのサービス ご案内

1. マニュアル情報ホームページ

ソフトウェアマニュアルの情報をインターネットで公開しています。

URL <http://www.hitachi.co.jp/soft/manual/>

ホームページのメニューは次のとおりです。

| | |
|-------------|---------------------------------------------------|
| マニュアル一覧 | 日立コンピュータ製品マニュアルを製品カテゴリ、マニュアル名称、資料番号のいずれかから検索できます。 |
| CD-ROMマニュアル | 日立ソフトウェアマニュアルと製品群別CD-ROMマニュアルの仕様について記載しています。 |
| マニュアルのご購入 | マニュアルご購入時のお申し込み方法を記載しています。 |
| オンラインマニュアル | 一部製品のマニュアルをインターネットで公開しています。 |
| サポートサービス | ソフトウェアサポートサービスお客様向けページでのマニュアル公開サービスを記載しています。 |
| ご意見・お問い合わせ | マニュアルに関するご意見、ご要望をお寄せください。 |

2. インターネットでのマニュアル公開

2種類のマニュアル公開サービスを実施しています。

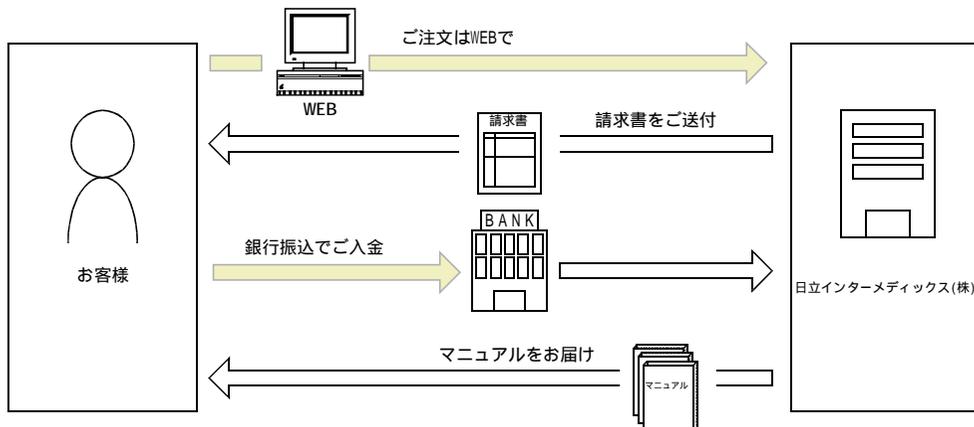
(1) マニュアル情報ホームページ「オンラインマニュアル」での公開

製品をよりご理解いただくためのご参考として、一部製品のマニュアルを公開しています。

(2) ソフトウェアサポートサービスお客様向けページでのマニュアル公開

ソフトウェアサポートサービスご契約のお客様向けにマニュアルを公開しています。公開しているマニュアルの一覧、本サービスの対象となる契約の種別などはマニュアル情報ホームページの「サポートサービス」をご参照ください。

3. マニュアルのご注文



マニュアル情報ホームページの「マニュアルのご購入」にアクセスし、お申し込み方法をご確認のうえWEBからご注文ください。ご注文先は日立インターメディアックス(株)となります。

ご注文いただいたマニュアルについて請求書をお送りします。

請求書の金額を指定銀行へ振り込んでください。

入金確認後7日以内にお届けします。在庫切れの場合は、納期を別途ご案内いたします。